

# 日本国内の地域活性化につながる JICAボランティアの事例調査

## ファイナルレポート

平成 26 年 2 月  
(2014 年)

独立行政法人 国際協力機構 中国国際センター  
株式会社 オリエンタルコンサルタンツ

## はじめに

本報告書は、株式会社オリエンタルコンサルタンツが、独立行政法人国際協力機構（JICA）中国国際センターより委託を受けて実施した「日本国内の地域活性化につながる JICA ボランティアの事例調査」の結果を取りまとめたものである。

近年、JICA ボランティア経験者の国内還元については盛んに議論がされており、その一つの方向性として、国内地域活性化への活用についても、国際開発学会等での議論が過去に行われてきた。しかしながら、これまでの議論がどちらかと言えば、一部の事例をベースに行われてきたことに対し、本調査研究においては、中国地方を中心とした一部の地域、そして、コミュニティ開発（旧村落開発普及員）、青少年活動、環境教育という一部の職種のみを対象にしているとはいえ、一定数の JICA ボランティアの途上国での活動とそこから得られた経験と知見をレビューすることを通じて、過去に議論されてきた JICA ボランティアの国内活性化につながる経験や知見について一定の裏付けができたと言える。

本報告書では、はじめに調査概要について述べた後、2章において、国内地域活性化の背景、行政による施策、中国地方における事例をレビューし、地域活性化に当たっての課題を最後にまとめている。3章では、対象3職種の JICA ボランティアの概要について述べた後に、現地での活動とそこから得た経験、知見についてまとめ、最後に、ボランティア自身が活動を通じて身につけた姿勢やスキルについてまとめた。4章は、2章と3章をマッチングさせるべく、国内地域活性化の課題に JICA ボランティアの知見がどのように当てはまるかについてまとめている。また、合わせて JICA ボランティア経験者の国内地域活性化での活躍の可能性についても考察している。最後に5章では、本調査研究の成果と今後への課題についてまとめた。

本調査研究の過程においては、JICA ボランティア経験者へのアンケート調査や中国地方をはじめとする地方自治体関係者、地域活性化活動実践者の方々へのインタビュー調査を実施した。これらの調査で得られた貴重な情報は本報告書を執筆に当たって不可欠のものであった。調査協力者の方々にはこの場を借りて御礼申し上げたい。そして、本調査研究の発表会においては、JICA ボランティア事業の関係者の方々、佐藤寛氏（アジア経済研究所研究企画長）、辰己加寿子氏（福岡大学経済学部教授）から貴重なコメントをいただいた。これらのコメントは本報告書をまとめるに当たって貴重なものであった。改めて御礼申し上げたい。

なお、本報告書に記載された見解は、本研究チームによる分析結果並びに提言であり、JICA 中国国際センターの立場を反映するものではないことを付記する。

## 目次

### はじめに

<b>第 1 章</b>	<b>本調査の概要</b> .....	<b>1</b>
1.1	調査の背景・目的.....	1
1.1.1	調査の背景.....	1
1.1.2	調査の目的.....	2
1.2	調査対象.....	2
1.2.1	対象地域.....	2
1.2.2	調査対象.....	2
1.3	調査の方法.....	3
1.3.1	日本における地域活性化に関する調査.....	5
1.3.2	JICA ボランティアに関する調査.....	6
1.3.3	調査実施体制.....	7
1.4	調査の限界.....	7
<b>第 2 章</b>	<b>日本における地域活性化（中国地方を中心に）</b> .....	<b>9</b>
2.1	日本における地域活性化の定義と必要性.....	9
2.1.1	地域活性化の定義.....	9
2.1.2	地域活性化の背景.....	9
2.1.3	国内の地域が抱える課題.....	10
2.1.4	中国地方における特色.....	11
2.2	日本における地域活性化に関する施策.....	11
2.2.1	総務省.....	11
2.2.2	農林水産省.....	13
2.2.3	国土交通省.....	14
2.2.4	文部科学省.....	15
2.2.5	地方自治体.....	16
2.3	日本における地域活性化の特徴.....	16
2.3.1	社会生活環境整備型.....	17
2.3.2	地域産業振興型.....	18
2.3.3	イベント型.....	18
2.3.4	地域交流型.....	18
2.3.5	地域活動の新たな動向.....	18
2.4	中国地方における地域活性化の特徴と取り組み.....	19
2.4.1	中国地方の特徴.....	19
2.4.2	中国地方の地域活性化の特徴.....	20
2.4.3	中国地方における地域活性化の取り組み事例.....	21
2.5	国内における地域活性化の課題.....	25

<b>第3章</b>	<b>JICA ボランティアの実績（コミュニティ開発を中心に）</b>	<b>29</b>
3.1	JICA ボランティアについて	29
3.1.1	対象3職種について	29
3.1.2	JICA ボランティアの歴史	30
3.1.3	派遣目的	30
3.1.4	対象3職種の職種別活動概要	30
3.1.5	JICA ボランティアの派遣実績と傾向	31
3.2	調査対象地域における JICA ボランティア	32
3.2.1	派遣実績	32
3.2.2	類型と特徴（職種別、年代、男女別、参加時身分）	33
3.2.3	派遣中の活動	34
3.3	JOCV 活動から得られたコミュニティ開発に関わる経験・知見	36
3.3.1	途上国での JOCV の行動	36
3.4	JOCV としてボランティア活動を通して得られる力	41
3.4.1	JOCV 報告書レビュー	41
3.4.2	アンケート結果	42
3.4.3	インタビュー結果	46
<b>第4章</b>	<b>地域活性化に活用可能な JICA ボランティアの経験・知見</b>	<b>47</b>
4.1	国内地域活性化の課題と JICA ボランティアの知見	47
4.1.1	過去の議論	47
4.1.2	国内地域活性化のチャレンジに対する JOCV の経験・知見	48
4.2	地域活性化活動で求められる能力と JICA ボランティアへの期待	50
4.2.1	日本と開発途上国の相違点・類似点	50
4.2.2	総務省が期待する地域開発人材	51
4.2.3	農林水産省が期待する地域開発人材	51
4.2.4	中国地方（自治体、民間）が期待する地域開発人材	52
4.2.5	JICA ボランティアに対する行政（中央政府・地方自治体）の期待等	58
4.3	国内地方活性化への JICA ボランティア経験者活用の可能性	61
4.3.1	帰国後の隊員の活動	61
4.3.2	セクター別に見る国内地域活性化と JICA ボランティアの活動事例	64
4.3.3	日本の地域活動に JOCV 経験者が活かされる可能性	66
4.4	JICA ボランティアによる地域活性化活動の優良事例	68
<b>第5章</b>	<b>まとめ</b>	<b>71</b>
5.1	本調査の成果	71
5.1.1	本調査の意義	71
5.1.2	本調査による発見	71
5.2	今後の課題	72
5.2.1	今後派遣される JOCV へのインプリケーション	72
5.2.2	今後の調査研究課題	75

## 添付資料

- 添付資料 1：参考文献リスト
- 添付資料 2：面談者リスト
- 添付資料 3：地域活性化の優良事例集リスト
- 添付資料 4：地域活性化の優良事例カルテ
- 添付資料 5：地方自治体における地域活性化への取り組み
- 添付資料 6：コミュニティ開発に関わる JOCV が途上国で得た経験・知見
- 添付資料 7：日本の地域活性化に役立つ JOCV の経験・知見
- 添付資料 8：JICA ボランティア経験者へのアンケート

## 図表目次

図 1.1	作業フローチャート.....	4
図 1.2	調査手順.....	4
図 2.1	地域の 3 つの空洞化とその要因.....	10
図 2.2	中国地域における産業生産額の比較.....	20
図 2.3	中国地方の地域活性化事例分類（平成 20～22 年度）.....	20
図 2.4	地域活性化に向けての困難.....	26
図 3.1	調査対象 3 職種.....	29
図 3.2	地域別帰国 JOCV 数割合（2013 年 8 月 31 日時点）.....	32
図 3.3	JOCV の赴任地での活動について（複数回答）.....	35
図 3.4	地域活性化の分類フォームにマッチする対象地域出身 JOCV の活動実績.....	36
図 3.5	活動の成果について.....	41
図 3.6	現地語の習得程度.....	43
図 3.7	JOCV の経験から身につけたとの回答が 80%以上の項目.....	44
図 3.8	JOCV の経験から身につけたとの回答が 60%以上、70%未満の項目.....	45
図 3.9	JOCV の経験から身につけたとの回答が 60%未満の項目.....	45
図 4.1	地域活動への関心.....	62
図 4.2	JOCV の経験が日本への関心を高めたか.....	62
図 4.3	JOCV の経験を活かして今後日本の地域活性化に取り組みたいか.....	63
図 4.4	JOCV の経験は国内の地域活動に携わるきっかけとなったか.....	64
表 1-1	中国地方・九州地方現地調査.....	5
表 1-2	調査チームメンバー.....	7
表 2-1	平成 23 年度の過疎債実績額.....	12
表 2-2	地域おこし協力隊の設置状況.....	12
表 2-3	中国地方における地域おこし協力隊の実績（平成 24 年度）.....	13
表 2-4	中国地方における食と地域の交流促進対策交付金の活動分野別実績.....	14
表 2-5	地域活性化分野の類型.....	17
表 2-6	中国地方における中山間地域の人口と高齢化率.....	19
表 3-1	3 職種の隊員に求められる能力、経験、知識等.....	31

表 3-2	JOCV 総数 (2013 年 8 月 31 日時点)	32
表 3-3	JOCV 職種別派遣実績 (2013 年 8 月 31 日時点)	32
表 3-4	JOCV 中国四国九州地方県別派遣実績 (2013 年 8 月 31 日時点)	33
表 3-5	中国四国九州地方の JOCV 職種別派遣実績 (2003 年派遣~2013 年秋季帰国)	33
表 3-6	職種別男女数	33
表 3-7	職種別参加時身分	34
表 3-8	アンケート回答者年齢分布	34
表 3-9	JOCV 活動の切り口	37
表 3-10	エンパワメントに繋がった行動事例	37
表 3-11	ソーシャル・キャピタルの強化に繋がった行動事例	38
表 3-12	参加型・合意形成に繋がった行動事例	38
表 3-13	持続性 (自立発展性) を促した行動事例	39
表 3-14	関係者との信頼醸成に繋がった行動事例	39
表 3-15	JOCV の途上国での行動	40
表 3-16	ボランティア活動を通して得られる力(報告書レビューより)	42
表 3-17	JOCV 経験を通じて身につけたこと (インタビュー結果より)	46
表 4-1	過去の議論における教訓・知見	48
表 4-2	地元の人が主体的に取り組む	48
表 4-3	地元にあるものを活かす	49
表 4-4	グループ間、組織間、世代間をつなげる	49
表 4-5	外部リソースの活用	49
表 4-6	外部者として地元住民と信頼構築	49
表 4-7	国内地域活性化の視点と JOCV の知見・経験	50
表 4-8	日本と開発途上国の地方地域の特徴と共通点	51
表 4-9	総務省が期待する地域開発人材	51
表 4-10	中国地方における調査対象自治体	52
表 4-11	中国地方における自治体以外の調査対象	52
表 4-12	地域おこし人材に求められる姿勢	53
表 4-13	地域おこしに求められるスキル	54
表 4-14	海外経験者への印象	54
表 4-15	期待される移住者像	55
表 4-16	外部人材の登用・移住について	55
表 4-17	外部人材の印象	56
表 4-18	外部人材が受け入れられやすい環境、外部人材の資質等	56
表 4-19	外部人材についてその他コメント	57
表 4-20	地域おこし協力隊募集の背景	57
表 4-21	JOCV 経験者のイメージ<姿勢>	59
表 4-22	JOCV 経験者のイメージ<スキル>	59
表 4-23	JOCV 経験者のイメージ<その他>	59
表 4-24	自治体からのコメント、あるいは期待されていたと考える内容	60

表 4-25	表敬時に自治体から JOCV に伝えていること .....	61
表 4-26	派遣中、派遣後の自治体と JOCV との関わり .....	61
表 4-27	就職のマッチング .....	61
表 4-28	帰国後のボランティアとしての地域活動状況（複数回答） .....	63
表 4-29	帰国後の就業状況 .....	63
表 4-30	帰国後職業としての地域活動従事状況.....	64
表 4-31	地域活動に関わる就職先 .....	64
表 4-32	コミュニティ開発関連の JICA ボランティアの活動事例 .....	65
表 4-33	JOCV の経験が国内の活動で活かされているか.....	66
表 4-34	日本の地域活動で JOCV の経験が活かされている理由.....	66
表 4-35	日本と開発途上国の地域活動の類似点・共通点.....	67
表 4-36	JICA ボランティアによる地域活性化活動の優良事例.....	69
表 5-1	JOCV 活動に役立った日本の知識.....	73
表 5-2	JOCV 派遣前の研修で学んで役立った事項.....	73
表 5-3	派遣前に知っておきたかった事項.....	74

## 第1章 本調査の概要

### 1.1 調査の背景・目的

#### 1.1.1 調査の背景

JICA では、日本国内で行われてきた地域開発の取り組みを国際協力に活かすことに関する調査・研究が、「地域おこしの経験を世界に（2003）」を一例とするように行われてきた。実際に、「道の駅」や大分県発祥の「一村一品運動」に代表されるように、その知見を開発途上国の支援に活かすことで、数多くの成功事例を作ってきた。他方、開発途上国での成功事例から日本国内の地域活性化に活用できる知見に関する調査・分析については、あまり検討されてこなかった。

JICA 中国国際センター（以下、JICA 中国）が管轄する中国地方 5 県では、他の日本の地方と同様に、少子高齢化や過疎化、農業の後継者不足などの課題を抱えており<sup>1</sup>、各地域の地方自治体や市民組織が地域活性化の取り組みを行っている。そのような中で、海外において、地域開発に関わる分野で活動してきた同地方出身の JICA ボランティア経験者は、途上国における活動経験から、日本国内の地域が抱える課題にも活用可能な知見を有する可能性があるとともに、帰国後にこれらの地域の課題に取り組むアクターとなる可能性を秘めている。

JICA ボランティアは、一定の期間日本から離れて海外で過ごすことで外の世界を知っている。そこから翻って日本について知る者も多い。特に JOCV のコミュニティ開発隊員は「外部者」としてコミュニティの活性化に携わった経験を有することから、他者に働きかけるバイタリティがあり、「外部者」として地域住民と協調して働く能力や経験を持ち合わせている者が多い。また開発途上国の村落での限られた資源を再発見し、地域住民にその有効活用や解決策を導く参加型のアプローチを経験している者もいる。そのような彼らの経験・知見は国内地域活性化のヒントになる可能性があるとともに、彼らが日本に戻った時、地域の長所・短所を見極める客観的な視点を持ち、コミュニティに新しい風をもたらす可能性を有している。内向きになりがちな日本の地方地域が、地域の独自性の発見や「外部者」の視点で自らを見直すことが地域活性化には必要であり、JOCV 経験者から得られる知見は多いと考えられる。

---

<sup>1</sup>日本の過疎地域は人口減少や高齢化の進行によって、全国の 64,954 の集落のうち、454 (0.7%) の集落が 10 年以内に消滅し、2,342 (3.6%) の集落がいずれ消滅する可能性があり、その数は中国地方が合計 527 と四国地方に次いで最も多いという調査結果がある。(総務省地域力創造グループ過疎対策室「過疎地域等における集落の状況に関する現状把握調査」、2011 年)



以上の背景から、本調査「日本国内の地域活性化につながる JICA ボランティアの事例調査」は実施された。

### 1.1.2 調査の目的

本調査の目的は、「①JICA ボランティア事業のこれまでの事例を調査し、日本国内の地域活性化へ資する知見の蓄積」と、「②今後派遣される JICA ボランティアが事前に把握しておくべき知見等を取り纏める」ことである。そのために、具体的には以下の作業を行った。

- 日本の地域活性化の課題、事例（中国地方を中心に）の取り纏め
- コミュニティ開発（旧称：村落開発普及員）、青少年活動、環境教育の青年海外協力隊員（JOCV<sup>2</sup>: Japan Overseas Cooperation Volunteers）（中国及び四国、九州地方出身者を中心）活動の取り纏めと知見の抽出
- 帰国後に日本の地域活性化等に取り組んでいる JICA ボランティア経験者の事例（中国地方、四国地方、九州地方）の収集
- JICA ボランティア事業等から得た知見と国内地域活性化の課題のマッチング
- 今後派遣される JICA ボランティアが事前に把握しておくべき知見等の取り纏め

## 1.2 調査対象

### 1.2.1 対象地域

地域活性化事例のとりまとめについては、鳥取県、島根県、岡山県、広島県、山口県からなる中国地方を対象地域とし、特筆すべき優良事例は他地域の例もとりあげた。JICA ボランティアの調査については、中国地方出身者のみでは十分なサンプル数が得られなかったため、四国、九州地方出身者も調査対象に加えた。

### 1.2.2 調査対象

#### (1) 日本国内における地域活性化

地域活性化の課題や事例については、中国地方管内で地域活性化に取り組んでいる地方自治体及び関係者並びにその事例を調査対象とした。九州地方は中国地方と比較して簡易な現地調査とし、JICA 九州の推薦により、熊本県芦北町を調査対象とした。また、中国地方出身の JICA ボランティア経験者が地域おこし協力隊として活動している、長野県北安曇郡小谷村でも追加的に現地調査を行った。

---

<sup>2</sup> 本レポートでは、青年海外協力隊及び青年海外協力隊員を JOCV とする。

## (2) JICA ボランティア

JICA ボランティア経験者に対する調査は、2003 年から現在まで「コミュニティ開発（旧村落開発普及員）」と「青少年活動」、「環境教育」の 3 職種の JOCV（短期派遣を除く）として派遣された中国、四国、九州地方出身者とした<sup>3</sup>。

JICA ボランティアは、年齢と活動対象（日系社会か否か）によって「青年海外協力隊（JOCV）」、「シニア海外ボランティア」、「日系社会青年ボランティア」、「日系社会シニア・ボランティア」と 4 種類に分かれている。本調査で主な対象となるコミュニティ開発（旧村落開発普及員）の主要な活動者は JOCV である。ただし、日本国内の地域活性化に活用可能な経験を「コミュニティ開発隊員」同様に有している可能性のある他の分野の JOCV（「青少年活動隊員」と「環境教育隊員」等）についても調査の対象とした。なお、短期派遣 JOCV は、派遣先の活動に継続的に関わっていないことから調査対象外とした。

なお、出身県の定義については、JICA が把握している JOCV の最新の居住地（そのほとんどが帰国直後の居住地と JICA は認識している）が中国及び四国並びに九州地方であることを基準にしている。現時点で派遣中の JOCV は報告書が得られず情報がないため調査対象から除外している<sup>4</sup>。

## 1.3 調査の方法







本調査は図 1.1 に示す作業フローにより、2013 年 7 月下旬から 2014 年 2 月下旬の間に実施され、図 1.2 に示す調査手順で調査を実施した。ただし、調査は試行錯誤しながら進められたことから、必ずしも手順通りに進んだわけではなく、一進一退しながら実施された。

---

<sup>3</sup> 個人情報保護の関連で、報告書を参照できるのは 2003 年以降に派遣された JOCV のみであるため。

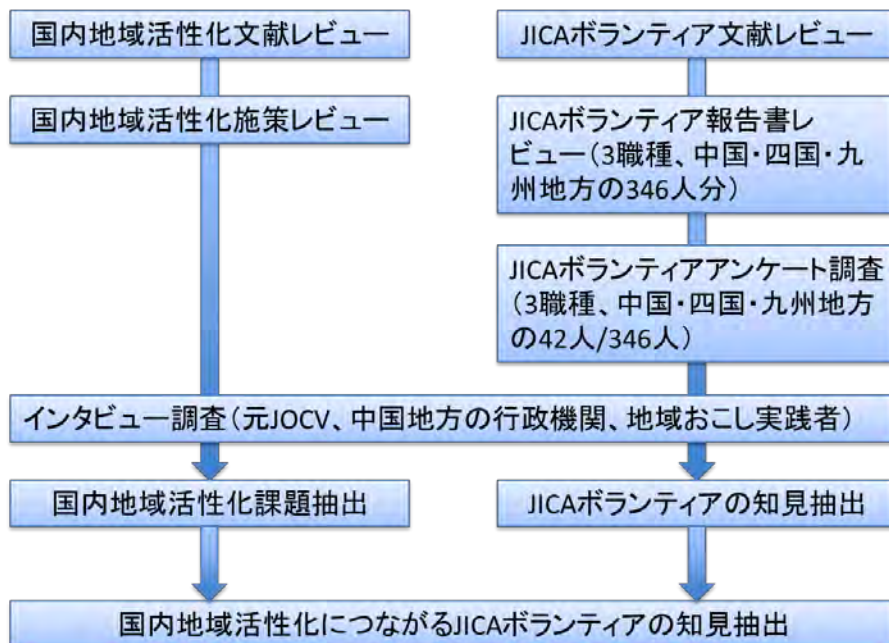
<sup>4</sup> 派遣中隊員（3 年目で、既に報告書が提出されている）1 名を調査対象に含める。

---

年月	2013年7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	
作業項目	[1] 調査項目詳細検討 [2] インセプションレポートの作成・協議	[3] 既存情報収集・整理 [4] 一次情報収集・整理	[5] 情報分析と知見の抽出			[6] 成・協議 ドラフト・ファイナルレポートの作	[7] 中間報告会	[8] 最終報告会	[9] ファイナルレポートの作成・提出
打合せ等		 キックオフ会議				 中間報告会	 最終報告会		
報告書等	 インセプションレポート					 ドラフト・ファイナルレポート		 ファイナルレポート	

出典：調査団作成

図 1.1 作業フローチャート



出典：調査団作成

図 1.2 調査手順

### 1.3.1 日本における地域活性化に関する調査

地域活性化に関わる既存文献のレビューを行うとともに、中国地方における地域活性化の事例を収集し、分野別に分類した。事例の収集先としては、地域活性化センター、地域活性施策を行っている自治体、地域おこし協力隊による活動等、地域振興や過疎対策（移住促進）といった観点も含めてレビューした。

文献調査や JICA 中国等より入手した情報から抽出した優良事例について、地方自治体へのインタビュー調査を行った。調査に当たっては、分野や県のバランスが取れるように配慮し、以下の項目について調査を行った。

- ・地域活性化において直面する課題
- ・地域活性化活動成功のキーポイント
- ・中核となった組織の性格
- ・活動の中心となった人物の取り組み
- ・活動の中心人物として求められる人物像と有するスキル・経験
- ・JICA ボランティアに関しての認知度と JICA ボランティアに期待する知見

地域活性化活動には様々な形態があるが、大きく分けて行政主導型と民間主導型があり、そのどちらも、元からその地域にいる人々のみで活動しているケースと、外部者を活用しているケースがある。偏りを最小限に留めるため、事前情報に基づき中国地方の各県から上記3カテゴリーに分類して調査対象地域を抽出した。九州地方に関しては、積極的に JICA ボランティアに職員を現職派遣している熊本県芦北町をサンプルとして調査した。また、中国地方出身の元 JOCV が地域活性化活動を行っている長野県小谷村の事例についてもサンプルとして調査した。

表 1-1 中国地方・九州地方現地調査

	JICA ボランティア経験者が活躍している地域	地域おこし協力隊等、JICA ボランティア経験者以外の「外部者」が地域おこしで活躍している地域	地域おこしが積極的に展開されている地域
広島県	廿日市市吉和地域	山県郡安芸太田町	世羅郡世羅町(6次産業)
岡山県	新庄村	美作市梶並地区、新庄村	真庭市(バイオマスタウン) <sup>5</sup>
鳥取県	鳥取市	八頭町、倉吉市	智頭町(テーマ型住民自治組織)
島根県	海士町	雲南市	海士町
山口県	周防大島	周防大島	—
熊本県	芦北町	—	芦北町 <sup>6</sup>
長野県	北安曇郡小谷村	北安曇郡小谷村	—

出典：調査団作成

JICA ボランティア経験者が海外のボランティア活動で体験しているのは、「外部者」が地域に入り込んで何かをすることである。JICA ボランティア経験者が日本の地域活性化の場面で

<sup>5</sup> ヒアリングの結果、行政主導というより民間の取り組みを行政が積極的に支援する形であることがわかった。

<sup>6</sup> 同上

どのような位置づけになるかと考えた場合に、海外経験者というのはたとえ地元に戻ったとしてもある意味「外部者」の視点をもつ人材であることから、「外部者」が地域に入って活動している地域おこし協力隊等と共通する要素があると考えられる。このことから、外部者が地域おこしの現場で活躍している地域を重要な調査対象ととらえた。

また、行政主導等で地域おこしを実施している例については、どのような形で活性化につながっているのか、影の立役者はどのような人なのか、「外部者」の視点は必要なのか、そして地域活性化のために必要な人材の要件は何かといった視点から調査対象にした。

### 1.3.2 JICA ボランティアに関する調査

#### (1) 現地活動報告書のレビュー

コミュニティ開発隊員（旧村落開発普及員）に加えて、地域活性化に関連した活動を行っている環境教育隊員と青少年活動隊員の現地活動報告書のレビューを行った。1回の派遣に係る「ボランティア活動報告書」は、個人差があるもののおよそ2～5回の報告書が提出されている。本調査では、活動計画と活動結果を確認する目的から、調査対象のJOCVが作成した報告書のうち、基本的には、計画が記されている第1号および活動の最終報告書となる第4号乃至第5号を調査対象とした。第4号乃至第5号が入手できない場合は、可能な範囲で別の号を参照した。中国地方出身者（115名）、四国地方出身者（52名）及び九州地方出身者（179名）の全件を対象としてレビューを行った。

#### (2) アンケート調査

上記同様、2003年以降に派遣され帰国したJOCVの中国地方出身者（115名）、四国地方出身者（52名）及び九州地方出身者（179名）のうち、JICA経由等で連絡がとれ、かつ調査協力を同意を得られたJOCV経験者を対象にアンケート調査を実施した。回収率は中国地方出身者22.6%（26名）、四国地方出身者11.5%（6名）、九州地方出身者5.6%（10名）であった。アンケートではJOCVとしての現地活動、活動で身につけた技量・力、自身の変化、国内の地域活動の参加状況等について質問した。アンケート票及び集計を添付資料4に記す。

#### (3) インタビュー調査

主にJICA中国からの推薦に基づいて、中国5県と九州1県（熊本）にて元JOCVに対するインタビュー調査を行った。そしてアンケート調査から得られた情報により、長野県小谷村で現在地域活性化活動に携わっている元JOCV（中国地方出身）に対してもインタビュー調査を行った。また、外部者として実際に地域に入って活動を行っている「地域おこし協力隊」に対しても、補完的にインタビュー調査を行った。

#### (4) 地方自治体へのインタビュー調査

地方自治体へは、地域活性化の取り組み内容や地域活性化における課題、また地域活性化の舞台でどのような人材がどのような働きをするかを期待しているか、等についてインタビュー調査を行った。

### 1.3.3 調査実施体制

本調査は以下のメンバーにより実施された。

表 1-2 調査チームメンバー

担当	氏名
総括/企画設計 1/分析 1	関口 正也
副総括/企画設計 2/分析 2	平井 奈美
調査・分析 1/地域活性化	大西 康弘
調査・分析 2/JICA ボランティア	吉見 千恵
調査・分析 3/情報整理 1	鈴木 麻衣
調査・分析 4/情報整理 2	小川 哲平

出典：調査団作成

調査はメンバーが情報収集、整理、分析を行い、JICA 中国国際センターとも情報共有、意見交換を行いながら実施した。また、有識者・関係者を招いての検討会（2013年8月5日）、中間発表会（2013年12月26日）、最終発表会（2014年1月31日）を実施した。

## 1.4 調査の限界

本調査を行うにあたり、以下の制約・限界があった。

### (1) 調査対象 JICA ボランティア経験者の職種

今回の調査対象は、非技術系と言われるコミュニティ開発と青少年活動、環境教育の3職種が対象であった。技術系の職種（農林水産業や医療等）を調査した場合、異なる調査結果が出る可能性がある。

### (2) JICA ボランティアの活動報告書

2003年に成立施行された個人情報保護法のため、同法施行以前の JICA ボランティア経験者本人から公開同意が取られていない現地活動報告書は本調査のレビューに含まれていない。現地活動報告書公開に関して同意が得られている、2003年以降の JICA ボランティア経験者とその報告書が調査対象となっている。対象3職種に関わる中国、四国、九州地方出身者の活動報告書（346人分）をレビュー対象としたが、時間的な制約から重要と考えられる1号と5号報告書のみをレビューとなっており、すべての活動報告を検証してはいない。また、それらの報告書の構成は活動からの知見を記載するようなものではなく、また記載内容は個人差がある。これらのことから、活動報告書から得られる JICA ボランティアの知見は限定的であり、調査団による解釈的な抽出が必要となった。

### (3) JICA ボランティア経験者対象アンケート調査

2003年以降に調査対象地域出身の対象3職種の JICA ボランティア経験者346名のうち JICA が連絡先を把握している元隊員のみをアンケート実施対象とせざるをえなかった。アンケート回収率は12.1%（中国：22.6%、四国：11.5%、九州：5.6%）であり、特定されている対象者へのアンケート調査の回収率としては高いとはいえなかった。

#### (4) JICA ボランティア経験者へのインタビュー調査

本調査ではコミュニティ開発、青少年活動、環境教育の3職種を対象としたが、コンタクトが取れた JOCV 経験者が少ないことに加え、実際に帰国後に地域活性化活動に従事しているこれらの職種経験のある元隊員を特定することは容易ではなかった。このため、元 JOCV による地域活性化の優良事例を調査するに際しては、当該3職種に限定せず、他の職種であっても優良と思われる中国地方での事例については、インタビュー調査を実施した。

## 第2章 日本における地域活性化（中国地方を中心に）

---

### 2.1 日本における地域活性化の定義と必要性

#### 2.1.1 地域活性化の定義

日本における地域活性化とは、本調査で対象とした地域の活性化事例について着眼すると、地域の問題を克服するために、地域社会の維持発展を目指し、地域における人々の暮らしを基礎においた取り組みと、捉えることができる<sup>7</sup>。一方で、「地域活性化」という言葉に対しては、明確な行政による定義や学術的な定義が存在しているわけではないものの、実際に「地域活性化」という語が使用されている場面を見ると、「国土形成計画（全国計画）」（2008年7月4日閣議決定）においては、地域活性化という言葉が、産業の振興、雇用の創出、定住人口の増加、地域間交流の拡大、地縁型コミュニティの再生など、多様な意味で使用されている。

#### 2.1.2 地域活性化の背景

従来の日本の地域開発は、「国主導」、「固定目標」、「大規模プロジェクト中心」、「住民参加の度合いの少なさ」という特徴を持ち、経済的側面を中心とする傾向にあった<sup>8</sup>。大都市圏から地方への工場誘致などが中心であったが、一方で都市と地方の格差は拡大し続けた。日本の経済が停滞し始めた 1990 年代ごろから、従来の国主導の経済的な地域開発の考えから、地域資源を活かした地域活性化が着目されるようになった。この頃から「地域活性化」という用語は、大都市圏以外の地域での「まちづくり」「むらおこし」のような新たな発展の方向として使用されるようになった。地域活性化の特徴は、地域の問題を克服するため、地域社会の維持発展を目指し、地域における人々の暮らしを基礎において活性化を考え、地域に即した資源を重視した活性化戦略をとることが多い。地域活性化の担い手も、国中心から、地方自治体、地域住民、地域コミュニティなどに移り、地域の人々の社会的つながりである「ソーシャル・キャピタル（社会関係資本）」が地域活性化の成功の鍵を握っている、ということが最近では強く認識されるに至っている<sup>9</sup>。

---

<sup>7</sup> 新川達郎（2002）「地域活性化政策に関する市町村計画行政の課題と展望」、同志社大学総合政策科学研究科

<sup>8</sup> 金子彰（2003）「発展途上国における地域開発のガイドラインの提案に関する研究（その1）」、国際地域学研究第6号

<sup>9</sup> 内閣府経済社会総合研究所編（2005）「コミュニティ機能再生とソーシャル・キャピタルに関する研究調査報告書」

---

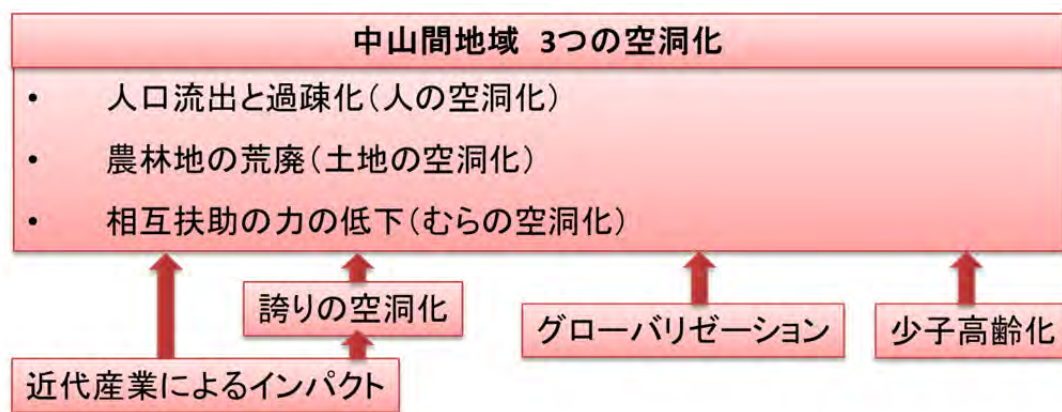


### 2.1.3 国内の地域が抱える課題

前述の通り、日本は戦後、著しい経済成長を遂げてきたものの、その過程で都市と地方との格差の拡大や地方の過疎化や限界集落化など多くの課題を抱えてきた。国内の地域が抱える課題について以下では「3つの空洞化<sup>10</sup>」という視点から整理する。

中国地方を含む国内の多くの中山間地域においては、日本の高度成長の過程で3つの空洞化が起こった。一つは、高度成長期の産業を支える人材が都市部で必要になったことから、村落部の人口が都市に流入し都市が過密化する一方で、中山間地域における過疎化が進んだことに見られる「人の空洞化」である。人の空洞化は、それまで地域の農林業を担ってきた人材が外に流出することを意味することであり、それは耕作放棄地の発生など、二つ目の「土地の空洞化」をもたらした。そして、人材の流出や農林地の荒廃は、それまでのむら社会の相互扶助の力の低下に必然的につながり、三つ目の「むらの空洞化」となった。これら中山間地域の3つの空洞化は集落の存亡にかかわる問題となっている。実際に限界に達した集落は、数日に一つという速度で姿を消しつつある。

このような空洞化が起こった要因としては、地域や国全体の産業構造の変化、経済のグローバル化、人々の暮らしの変化、少子化等が挙げられるが、その根底には、近代化の過程の中で地域の人々が「田舎は遅れているもの」、「田舎で生活することの意義を見出せない」等、自らの生き方や生活を否定的に捉える「誇りの空洞化」<sup>11</sup>と呼べる内的な要因もあったと考えられる。



出典： 「地域再生のフロンティア」を基に調査団作成

図 2.1 地域の3つの空洞化とその要因

以上のように、国内の地域が抱える課題には、産業構造など外的環境の変化によりもたらされたものと、そのような中において、人々の内面的な変化からもたらされたものの両面がある。

<sup>10</sup> 小田切徳美・藤山浩編著（2013）「地域再生のフロンティア」

<sup>11</sup> 小田切徳美（2009）「農山村再生『限界集落』問題を越えて」

なお、グローバル化が進む世界の中、少子高齢化が進む人口減少社会である日本においては、これらの国内の地域が抱える問題は、地方だけの問題ではなく、遠からぬ将来には都市や都市近郊地域でも考えなければならない課題であるということも、この問題の重大性ということから付言しておく。

#### 2.1.4 中国地方における特色

本調査の対象地域である中国地方についても、前述の3つの空洞化の議論は当てはまる。むしろ、中国地方はこの3つの空洞化が他の地域に先駆けて発生した地域であるともいえる。それは、中国地方の地理的環境にもよると考えられる<sup>12</sup>。中国地方は中山間地と言えども比較的平坦な地形と温暖な気候から、古くから小規模な集落が分散していた。小さな集落でも農林業を基軸として、古くはたたら製鉄など農業以外の営みも有し、零細農業をベースとする多業型経済であった。そして、地方都市とのアクセスは地形的にも他の地域（東北や甲信越等）に比べても容易であった。しかし、このような一見、条件の良い土地であることが、逆に中国地方における3つの空洞化を進める要因となった。それは、産業の近代化のインパクトを受けやすかったということである。都市へのアクセスの良さは人口流出を加速させた。中国地方の特色は、他の地域が出稼ぎで首都圏まで働きに出るといっては対照的に、産業のある近郊の地方都市に一家で移住するという構造であり、大きく見れば中国地方には残っている傾向にあるが、地方の担い手が大量流出することから3つの空洞化は加速しやすいということも言える。

他方で、早くから3つの空洞化が起こった地域だからこそ、後述する地域活性化への取り組みについても、先行事例が数多く存在する地域であるという特色も有している。

### 2.2 日本における地域活性化に関する施策

日本国内の地域が抱える3つの空洞化に代表される課題に対して、どのような対策が取られているのか、行政の施策を中心にレビューする。

日本における地域活性化の施策としては内閣官房、内閣府、総務省、文部科学省、厚生労働省、農林水産省、経済産業省、国土交通省、環境省といった各府省庁により多様なものが定められている。以下では総務省、農林水産省、国土交通省、文部科学省（文化庁）および地方自治体の施策とその成果について述べる。

#### 2.2.1 総務省

最近の傾向として、ハードよりもソフト重視の方針を打ち出している。平成22年8月に発刊された「地域創造に関する有識者会議 最終とりまとめ」<sup>13</sup>では地域力について1) 地域力には地域資源や人的要素、社会的要素、経済的要素など多様な要素・内容が含まれている。地域を活性化させる要因としては、究極的には人材力の要素が大きいのではないかと、2) 自らの地域の魅力、資源に気づき、それを磨いていけるよう、地域資源の発掘、再生、創造に人材力を結

---

<sup>12</sup> 小田切徳美・藤山浩編著（2013）

<sup>13</sup> 総務省（2010）（[http://www.soumu.go.jp/menu\\_news/s-news/02gyosei/09\\_02000004.html](http://www.soumu.go.jp/menu_news/s-news/02gyosei/09_02000004.html)）

集していくことが重要、という2つの大きな枠組みを示している。具体的な政策として、過疎債と地域おこし協力隊が挙げられる。

## (1) 過疎債

1970年に最初の特措法ができ、その後主に10年ごとの時限立法として現在も続いている。これまでに80兆円が費やされた。以前はハード事業が対象だったが、自治体等の声を受け、2010年以降ソフト事業にも使えるようになった。たとえば地域医療の確保のための医師確保、生活交通の確保のためのコミュニティバスの運行、集落の維持・活性化などの住民の安心・安全な暮らしの確保といったものが対象となる。産業振興の観点からは6次産業化事業<sup>14</sup>なども対象とされる。過疎債ソフト事業分の活用率は平成22年度(57.5%)より上昇し、約63.5%となった。これにより過疎債未活用市町村の割合が大きく減少した。

過疎対策事業の総事業費が約312億円減少する中で、過疎債の利用は増加傾向にある。平成22年度と比べると、過疎債の活用額はハード事業、ソフト事業の両方が伸びており取組が浸透しつつあることがうかがえる。

表 2-1 平成 23 年度の過疎債実績額

区分	過疎債の実績額
ハード事業	約 72 億円 (H22 年度比 約 1.8 倍)
ソフト事業	約 1,521 億円 (H22 年度比 約 1.1 倍)

出典：総務省ホームページ

## (2) 地域おこし協力隊

地方自治体が都市住民を受け入れ委嘱するシステムで、地域おこし活動の支援や農林漁業の応援、住民の生活支援など「地域協力活動」に従事してもらい、あわせてその定住・定着を図りながら、地域の活性化に貢献しようとするものである。財政支援(特別交付税)は隊員1人につき400万円上限(=報酬等(上限200万円)+活動費(上限200万円))で、隊員の「活動」に要する経費、隊員の「定住」「起業」「就農」等の支援に要する経費が計上される。期間は概ね1年以上最長3年で、3年を超える場合は特別交付税による支援は受けられないが活動継続は可能とされている。平成21年度に制度化されており、これまでの全国における隊員の設置状況は表2.2の通りである。

表 2-2 地域おこし協力隊の設置状況

年度	隊員数	実施自治体数	うち都道府県数	うち市町村数
平成 21 年度	89	31	1	30
平成 22 年度	257	90	2	88
平成 23 年度	413	147	3	144
平成 24 年度	617	207	3	204

出典：総務省ホームページ

<sup>14</sup> 6次産業とは、農業や水産業などの第一次産業が食品加工・流通販売にも業務展開している経営形態を表し、このような1次産業の経営の多角化を6次産業化と呼ぶ。農業経済学者の今村奈良臣が提唱した造語。

平成 24 年度特別交付税ベースで、隊員数は 617 名、活用自治体は 207 自治体（3 府県・204 市町村）である。

H23 年度任期終了隊員数 100 人に総務省がアンケートをとったところ、任期終了後の進路として、定住 67%、非定住 23%、未定 10%、定住者の進路は、起業 5 名、就業 28 名、就農 30 名、未定その他 4 名であった<sup>15</sup>。

平成 24 年度交付金ベースの、中国地方の地域おこし協力隊の実績は以下の通り。

表 2-3 中国地方における地域おこし協力隊の実績（平成 24 年度）

県	市町村	隊員数	元 JOCV の数	県	市町村	隊員数	元 JOCV の数
鳥取県	八頭町	2		岡山県	高梁市	3	
	智頭町	4			瀬戸内市	5	
	若桜町	1			美作市	8	
島根県	雲南市	2			奈義町	1	
	飯南町	9	1		西栗倉村	2	
	川本町	2			広島県	三原市	1
	美郷町	13	1	三次市		3	
	邑南町	6		庄原市		2	
	津和野町	7		安芸太田町		3	
	古賀町	1		神石高原町		2	
	海士町	4		山口県	山口市	3	
	知夫村	3			周南市	2	
	隠岐の島町	2			周防大島町	1	

出典：総務省ホームページ。元 JOCV の数は、協力隊事務局からの情報に基づく

## 2.2.2 農林水産省

地域活性化に対する農林水産省の取り組みの代表的なものに、「食と地域の交流促進対策交付金」と「農山漁村活性化プロジェクト支援交付金」などが挙げられる。

### (1) 食と地域の交流促進対策交付金

地域活性化に向けて、集落ぐるみの都市農村交流や地域づくりの取り組みを直接支援する交付金である。たとえば子供の宿泊・体験活動による交流、グリーンツーリズムなどの観光との連携による交流、コミュニティバスのしくみづくりと試行などの生活条件の確保、「田舎で働き隊」と名付けた都市人材の活用、などの活動が対象となる。事業実施主体は集落で、事業が承認されれば 1 地区 1 年あたり上限 220 万円が支給される（平成 24 年度）。中国四国地方の実績は平成 23 年度で 65 件、平成 24 年度で 13 件であった。内訳は以下のとおりである。

<sup>15</sup> 農林水産省ウェブサイトによる ([http://www.maff.go.jp/j/kasseika/k\\_project/](http://www.maff.go.jp/j/kasseika/k_project/))

表 2-4 中国地方における食と地域の交流促進対策交付金の活動分野別実績

活動分野	平成 23 年度	平成 24 年度
1 子供交流	5	0
2 グリーンツーリズム	17	3
3 定住	2	2
4 都市人材	18	2
5 農村環境	5	1
6 集落型産地振興	5	0
7 都市農業の振興	0	0
8 医療	1	0
9 生活条件	2	3
10 地域提案	10	2
合計	65	13

出典：農林省「平成 23 年度食と地域の交流促進対策交付金事業実施主体評価一覧」を基に調査団作成

## (2) 農山漁村活性化プロジェクト支援交付金

都道府県または市町村が地域の自主性と創意工夫により、定住者や滞在者の増加などを通じた農山漁村の活性化を図る計画を作成し、国がその実現に必要な施設整備を中心とした総合的取組を交付金により支援するものである。平成 25 年度の場合、交付率は事業内容により 1/2～1/3 であり、総事業費のうち 10 億円までを交付対象事業費とする。

交付金活用の優良事例として、農林水産省のホームページ<sup>16)</sup>には以下の地域の事例が紹介されている。

- 千葉県鋸南町 保田漁港の取組み。交付金によって魚食普及食堂「ばんや」を建設し、第 1 次産業と第 3 次産業を合わせた海業を行う。水揚げでロットがまとまらなると販売できない水産物を、調理して提供した結果、資源の無駄がなくなり、付加価値を付けたので価格の低下を抑えられている。漁業の安定経営、雇用創出に貢献。
- 鳥取県若桜町。人口 4,300 人、高齢化率 36%。若桜鉄道と併設する形で都市農山漁村交流会館「桜ん坊」を建設。加工物の販売、田舎料理試食会、観光案内の設置などを行い。平成 19 年度には観光客数が前年度よりも 3 万人増え、17 万人となった。

### 2.2.3 国土交通省

地域活性化に対する国土交通省の主な取り組みとしては、「官民連携による地域活性化のための基盤整備推進支援事業」が挙げられる。

この事業では、地域活性化のための基盤整備推進支援事業として、地方公共団体が行う社会基盤整備について、民間の投資や活動と一体的に行うことを推進するための計画策定経費を支援している。平成 25 年度予算額は 4 億 5,700 万円である。内容は 1) 民間の設備投資等と一体的に行うことにより、優れた効果の発言や効率性が期待できる国土交通省所管の基盤整備事業（道路、海岸、河川、港湾、都市公園、鉄道、空港等の公共土木施設）の事業化に向けた必要

<sup>16)</sup> [http://www.maff.go.jp/j/kasseika/k\\_project/](http://www.maff.go.jp/j/kasseika/k_project/)

な検討経費（例：基礎データ収集、需要予測、概略設計等）、2）地域の防災力向上を図るため、公共土木施設に再生可能エネルギーを導入して電力を確保する等の検討を行う場合のその検討経費（例：必要電力量把握、設備の設置を伴う実証実験等）の2つである。平成24年度の1）の例としては広島県臨海部の魅力向上創出に係る基盤整備調査として、広島港及び厳島港の効率的な機能の調査、既存栈橋のクルージングに係る機能強化の調査等が支援され、2）の例としては岐阜県内の防災拠点における再生可能エネルギー実証試験として、太陽光発電施設を設置し、電力を情報交流館等へ供給する実験を行い、その実行可能性や問題点などを検証作業が支援された。

## 2.2.4 文部科学省

地域活性化に対する文部科学省の取り組みの代表的なものに、「文化財建造物等を活用した地域活性化事業」と「文化遺産を活かした地域活性化事業」などが挙げられる。

### (1) 文化財建造物等を活用した地域活性化事業

「文化遺産地域活性化推進事業実施計画書」に基づき行われる史跡、名勝、天然記念物（以下「史跡等」という）や埋蔵文化財などの地域の中核となる「たから」を活かした地域の振興・活性化を図るため、「公開活用」や「安心・安全」の要素を総合的に組み合わせた魅力ある地域づくりが支援されている。史跡等の管理を行うべきものとして指定された管理団体及び地方公共団体その他の法人が支援の対象となり、以下のような事業が対象となる。

- ・ 史跡等の総合的な公開活用のための整備に係る事業
- ・ 埋蔵文化財の公開及び整理・収蔵等を行なうために必要な設備整備に係る事業
- ・ 史跡等及び埋蔵文化財の普及・啓発に係る事業

### (2) 文化遺産を活かした地域活性化事業

地域の多様で豊かな文化遺産を活用した伝統行事・伝統芸能の公開、後継者養成、古典に親しむ活動への支援や、子どもたちが親とともに地域の伝統文化に触れる体験事業など、特色ある総合的な取組を支援することで、文化振興とともに地域活性化を推進することが目的となっている。地方公共団体が策定する事業計画に基づく取組を実施する実行委員会等が支援の対象となり、以下のような事業が対象となる。

- ・ 情報発信、人材育成事業（ホームページ作成、パンフレット作成等）
- ・ 普及啓発事業（シンポジウム開催、芸能鑑賞会開催等）
- ・ 継承事業（伝統行事・伝統芸能等の後継者育成等）
- ・ 記録作成、調査研究事業（映像記録等の製作、域内文化財の悉皆調査等）
- ・ 伝統文化親子体験教室（地域に伝わる伝統芸能、伝統行事などを子ども達が親とともに体験できる教室）等

## 2.2.5 地方自治体

地域活性化活動にかかる都道府県と市町村の役割について述べた上で、地方自体対が主体となって実施する地域活性化に関わる事業として「道の駅」の整備について記載する。

### (1) 都道府県と市町村との地域活性化活動に係る位置づけ

地方自治体は、中央省庁が位置づけた施策・予算を執行する立場として地域活性化の活動に関わっている。都道府県では、直接的に地域住民や組織が行う地域活性化の活動に関与する機会は少ないが、市町村を横断する取り組みの推進や、市町村の実施する施策の都道府県単位でのとりまとめ、フォローアップを行う立場を担っている。市町村では各種施策の実施者として直接的に住民サービスを行う立場から地域活性化の活動を推進する立場を担う。

平成 11 年以降進められた「平成の大合併」以降、合併した市町村においては所管する行政区画が広範となっている。このため地域でできることは行政から地域に委譲するなどの取組が進められている。このことが地域住民側の自主的な活動に向けた意識を醸成するというケースと、地域活動にかかる意識醸成がうまく行かず地域活動が滞ってしまうケースを生んでいる。

### (2) 個別の施策

地方自治体が国土交通省との協働のもと、取り組みの主体となって実施している施策の具体例として「道の駅」の設置があげられる。「道の駅」は「道路利用者への安全で快適な道路交際環境の提供」と「地域振興への寄与」とが設置目的となっており、休憩機能（24 時間、無料で利用できる駐車場・トイレ）、情報発信機能（道路情報、地域の観光情報、緊急医療情報などを提供）、地域連携機能（文化共用施設、観光レクリエーション施設などの地域振興施設）などの機能を有するものである。

「道の駅」の設置は市町村またはそれに代わりうる公的な団体が行うこととなっており、市町村長からの登録申請により、国土交通省が登録を行うことになっている。整備の方法としては道路管理者と市町村長等で整備する「一体型」と市町村で全て整備を行う「単独型」の 2 種類がある。

## 2.3 日本における地域活性化の特徴

地域活性化には、経済活動の発展のような経済的側面と社会システムの充実などの社会的側面があり、いずれも地域で発現している課題を克服するための行動である。具体的な活動としては、農林業再生、産業育成、観光、教育・文化・スポーツ振興、移住定住促進、地域防災、歴史的景観の保全などがある。地域活性化の分類は調査の趣旨によって様々に存在するが、一般財団法人地域活性化センターの分野分類を参考として分類すると、下表の通り 10 分類となる。

表 2-5 地域活性化分野の類型

分野	関連施策の例(国内)
1. 住民参画・NPO・ボランティア	住民参画、NPO・ボランティア、協働のまちづくり、コミュニティ等
2. 産業振興	地場産品発掘・ブランド化、商店街活性化、地域産業育成、コミュニティビジネス支援、起業・就業促進等
3. 農山漁村振興	移住・定住促進、都市との交流、担い手の育成・確保等
4. 観光振興	観光客誘致、イベント、観光資源掘り起こし等
5. 環境	自然保護・活用、新エネ導入、省エネ促進、リサイクル等
6. 基盤整備	ICT・情報化、交通、まちなみ・景観等
7. 健康福祉	地域医療、健康づくり、子育て支援、障がい者支援等
8. 防犯・防災	地域防災、安全安心のまちづくり等
9. 教育・文化・スポーツ	青少年育成、地域文化振興、スポーツ振興
10. その他	—

出典： (財) 地域活性化センター 平成 22 年度地域政策の動向調査を基に調査団作成

このような地域活動は、どれ一つとして全く同じ形態・活動内容のものはないが、その技術・経験の特徴を把握するために、活動内容に即して類型化することが有効である。その試みとして「地域づくり読本」( (財) 地域活性化センター、1998 年) では、地域おこし活動を以下の 4 類型化している。

- (1) 社会生活環境整備型
- (2) 地域産業振興型
- (3) イベント型
- (4) 地域交流型

本調査では、調査対象の JICA ボランティアの職種が、セクター横断的な活動を行う傾向にあるコミュニティ開発や青少年活動を含むことから、日本における地域活性化とのマッチングを考えるに当たっては、セクター別の分類だけでなく、上述の 4 類型のように活動内容に着目した分類を行うことも有意義と言える。「地域おこしの経験を世界へ 途上国に適用可能な地域活動」(国際協力事業団 国際協力総合研修所、2003 年) によると各類型について以下の通り特徴をまとめている。

### 2.3.1 社会生活環境整備型

この活動は医療、教育、インフラなど地域住民の生活に関わる諸条件を整備し、住み良い地域をつくることに主眼をおく。この類型は、医療・福祉、少子化・高齢化対策、地域交通、景観保全、環境保護、循環型社会の形成にむけた活動が含まれる。これらは、我が国が抱えている課題であり、「身の回り」の問題をとりあげたローカルな取り組みであるものの、汎用性が高く、成功例はさまざまな地域での活動に示唆を与える。また、日常生活に直結する身近な問題をテーマとしていることから、地域の女性、高齢者などの役割が高く、また、NPO や NGO の活動が活発な分野である。このタイプの活動は、当初は、開発への意義、見直し、生活改善への要求で地域住民がまとまった活動が多かったが、近年、より創造的な活動へと昇華するケースが多くみられる。たとえば、貴重な自然を保全するための活動(和歌山県の天神崎ナショナルトラストなど)、自然と人間活動のバランスをみんなで考える活動、まちづくりを推進する活動など 21 世紀型の市民参加・文化・交流を目的としたものに展開しており、今後の途上国



における地域活動のリソース、その利用法・アイデアとして大いに参考となるものと考えられる。

### 2.3.2 地域産業振興型

我が国では、これまでに地域の活性化のために、官民を上げてさまざまに試行錯誤してきた。とりわけ、江戸時代以降、諸藩によって積極的に推進された地元資源を利用した産業振興によって、各地に独特な産業が形成された。これらは、現在でも地域の産業として、地域経済の中核を占めるものもある一方、衰退を余儀なくされているものもあり、それら地域に賦存した技術や製品に新たな付加価値をつける方向で振興し、それによって地元での就業機会を拡大し、所得水準を高めるような地域活動が盛んに行われている。すなわち、地元の経済的な豊かさの追求が主眼となる地域活動である。産業振興の方策は、地域によって異なるものの、企業誘致的なものから地元の地域資源、たとえば、農業、漁業、林業、伝統工芸、観光に関わる資源、を再評価し、それに交流、観光の要素を付け加えることによって付加価値や市場性を高めるような活動が中心となりつつある。このような活動の源は、地域に賦存してきた伝統技術や農産物である。その技術や資源の集積に現代的な価値を付けることによって地域産業活性化型の地域活動が成立している。このような技術は全国各地にいわゆる「地場産業」として継承されてきたものの中にもリソースとなりうるものが数多く存在する。

### 2.3.3 イベント型

スポーツ、まつり等イベントを開催するのみならず、地域の活性化、地域の問題に市民参加、交流等の活動をとおして、当事者とそのほかの人々が共有することによって取り組んでいく活動である。その概念は、参加と問題意識の共有である。参加者は、地域に貢献することを通じ自己実現を図り、活動をとおして人々が問題意識を共有し、新たな発展の契機・土台が形成される。とくに、このイベント型地域活動は、地域の独特の自然を利用した観光振興として多くの例がある。

### 2.3.4 地域交流型

他地域との交流活動を通じて自らの地域の価値を再評価するとともに、地域に違った価値を持ち込むことによって、地域の活性化を図るものである。ハード事業では交流施設や文化施設の設置、ソフト事業では子供の交流などが含まれ、文化などを媒介にした参加型の交流を行う地域活動である。活動によって直接的な経済的または生活環境上の便益は多くは期待できないものの、活動に関与する地域に活動者の自己実現的な価値観に応える活動であり、社会的な活性化に資する活動である。

### 2.3.5 地域活動の新たな動向

近年の地域活性化に係る活動は、「産業育成」、「観光開発」、「環境保護」等の活動を対象としていたような活動に加え、近年国内において取組が課題となっている「IT・情報化」、「少子・高齢化」、「住民参加・NPO・ボランティア」等に係る地域活動の取り組みが多くなっている。

近年の地域おこし活動の傾向として、地域の住民が関心をもつさまざまな対象へと活動内容が広がってきており、また一方では、参加型の地域活動、交流活動が増加しつつある。

## 2.4 中国地方における地域活性化の特徴と取り組み

ここでは中国地方における地理的、社会的動態的な特徴について触れた上で、中国地方における地域活性化の特徴について述べる。

### 2.4.1 中国地方の特徴

本調査で主な対象となる中国地方は、日本の地方地域の特徴を多く持ち合わせている。中国地方は面積の約 74%を山地部が占めるが、比較的なだらかな地形であることから、中山間地域にも多くの集落が分布しているという特徴がある。中山間地域とは、一般的には平地の周辺部から山間地に至る、まとまった平坦な耕地の少ない地域とされ、この地理的不利のため農業の生産条件が不利な地域である。前述の通り、中国地方の中山間地は、他地域と比べ地形的条件が良いとは言われていることもあり、居住人口割合が二割強と全国平均の倍近くの高い割合を示している。また、高齢化率も 31%と高い割合を占めている。

前述の3つの空洞化がいち早く起こった中国地方の中山間地域は、少子高齢化や過疎による人口減少の進みが早く、医療や福祉の水準が低くなり教育の機会が減るなどといった数多くの問題を抱えている<sup>17</sup>。若者が都市へ出ていく中で、地方地域は非熟練労働者として開発途上国から外国人労働者を受け入れるなど労働力の国際化が起こっているところもある。

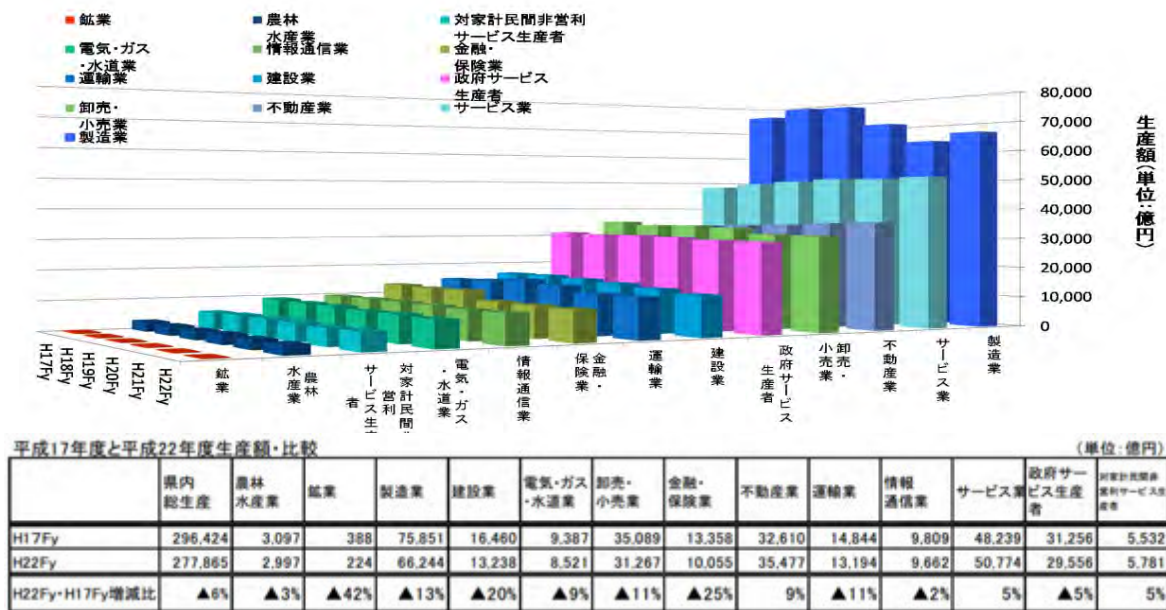
表 2-6 中国地方における中山間地域の人口と高齢化率

		人口 (千人)	65 歳以上	高齢化率
中国地方	中山間	1,683 (22%)	519 (27%)	31%
	都市平地	5,896 (78%)	1,393 (73%)	24%
全国平均	中山間	16,932 (13%)	4,917 (17%)	29%
	都市平地	110,126 (87%)	23,898 (83%)	22%

出典：平成 22 年国勢調査を基に調査団作成

産業構造全般についてみると製造業が主要産業として大きな割合を占めるが、平成 22 年度には平成 17 年度から約 13%低下している。これに対してサービス業は増加傾向にある。

<sup>17</sup> 未来ビジョン中国 21 策定委員会「未来ビジョン中国 21 ”2009 年” ～中国地方における社会資本整備方針～」、2009 年



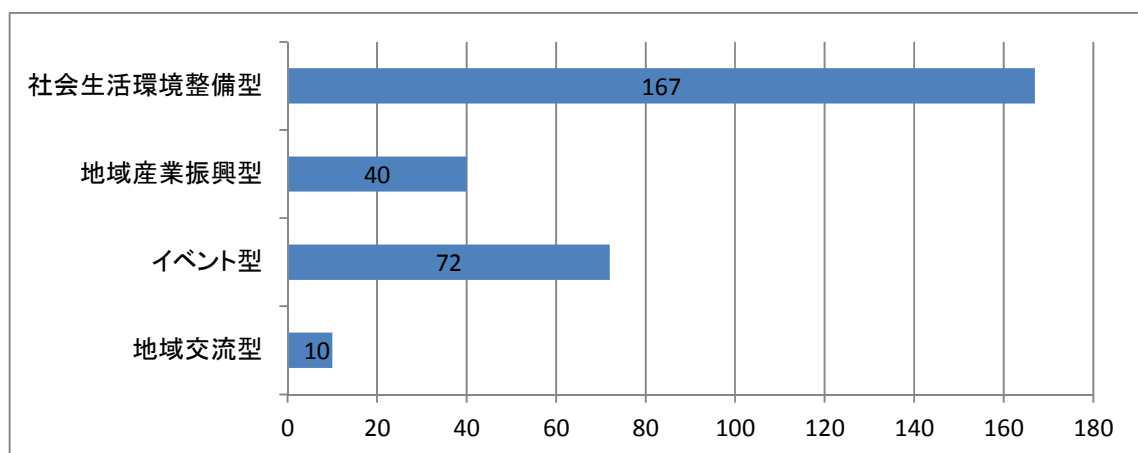
出典：平成25年 中国地域経済の現状 中国経産局

図 2.2 中国地域における産業生産額の比較

### 2.4.2 中国地方の地域活性化の特徴

地域活性化センターでは、平成20年度から22年度の3年間に亘る全国の地域活性化施策について、データベースを整備しており、5,089件が登録されている。中国地方の事例は289件であり、前項で整理した4つの類型からは、医療、教育、インフラなど地域住民の生活に関わる諸条件を整備し、住み良い地域をつくることに主眼をおく「社会生活環境整備型」の比率が高い（複数分野を包含する施策もあるため、合計数は289件を超える）。

本調査による中国地方各県へのヒアリング結果から、各県とも、特に中山間地域における過疎化対策を重視しており、U・Iターンによる常住人口の増加や、生活環境の整備が重点的に行なわれていることが中国地方の地域活性化の特徴と考えられる。



出典：（財）地域活性化センターのデータベースを基に調査団作成

図 2.3 中国地方の地域活性化事例分類（平成20～22年度）

### 2.4.3 中国地方における地域活性化の取り組み事例

先に述べた3つの空洞化が他地域に先駆けて起こった中国地域は、地域活性化の取り組みもかねてから行われてきた。その中でも、中国山地の特色を活かした地域活性化の可能性を示す代表的な取り組みは、6次産業化等の多業型経済の再生、観光等の都市との近接性を活かしたもの、そして再生可能エネルギー等を使った循環型社会の構築に関わるものが挙げられる<sup>18</sup>。

以下では、中国地方における地域活性化の取り組み事例として、本調査で実際に現地調査を行った「バイオマス資源を活用した地域活性化事例（岡山県真庭市）」、「住民自治を基本とした地域活性化事例（鳥取県智頭町）」、「6次産業化を活用した地域活性化事例（広島県世羅町）」、「Iターン者を積極活用した地域活性化事例（島根県海士町）」について紹介する。なお、この他の取り組み事例を含め詳細については、添付資料4「地域活性化の優良事例カルテ」にまとめた。

#### (1) バイオマス資源を活用した地域活性化の事例

取組み地域	岡山県真庭市
類型	社会生活環境循環型
地域概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2005年に9町が合併して真庭市が誕生。面積828平方キロ、岡山県の11.6%を占める。北部は山、南部は高原地帯。</li> <li>・観光資源：湯原温泉、神庭の滝他、蒜山高原、勝山町並み保存地区、年間観光客数約400万人を超える（平成22年以降）。</li> <li>・人口49,362人、世帯数17,862（2013年9月1日現在）、（2005年は54,150人、17,344世帯）、65歳以上の人口比32.2%（平成23年時点）全国の中山間地域同様過疎化高齢化が進み、地域機能の維持すら困難な地域もある。</li> </ul>
地域課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・約20年前、過疎化や高齢化が進む中、高速道路の開通により人口流出や産業衰退に拍車をかけることが予想されており産業振興などが求められていた。</li> </ul>
地域づくりの取組み内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・産業衰退等を恐れた地元の若手有志が集まり「21世紀の真庭塾」（現在はNPO法人）が発足した。「ゼロミッション協会」「まちなみ部会」等の勉強会が始まった。「勉強会」を幾度と無く実施し、省庁・自治体の幹部・シンクタンク・金融機関など様々な立場の方を招聘。</li> <li>・昔からの産業の中心である林業を中心に産業振興を考えこの考え方がバイオマスの活用につながった。</li> <li>・未利用材、間伐材、製材端材などをチップ化して発電するバイオマス発電を平成27年開始予定。地域のものを地域で循環させ、地域内で資金調達をしている。</li> </ul>
成果および教訓	<ul style="list-style-type: none"> <li>・バイオマスの活用を通じて、林業・木材産業の振興、エネルギー自給率の向上、雇用の拡大、地域観光振興など様々な効果を創出。大学や専門学校、企業など他の組織とのネットワークを形成。</li> <li>・平成18年から真庭観光連盟がバイオマスツアーを開催。バイオマスを観光資源としても活用している。年間参加者数が2,500人を超えている。</li> <li>・外部人材の意見やネットワークを活用しつつ、地域産業である木材を活用し、地域の課題解決を図っている。</li> </ul>
参照 URL	<a href="http://www.city.maniwa.lg.jp/html/biomass/">http://www.city.maniwa.lg.jp/html/biomass/</a>

<sup>18</sup>小田切徳美・藤山浩編著（2013）

## (2) 住民自治のしくみを活用した地域活性化事例

取組み地域	鳥取県智頭町
類型	社会生活環境整備型
地域概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・鳥取県の東南部、岡山県に接する県境に位置する。1,000m級の中国山脈の山々に囲まれた中山間地域で、複雑に入り組んだ谷々に 89 の集落が点在する。</li> <li>・総面積の 93%がスギをはじめとする山林で、吉野・北山と並ぶ歴史ある林業地として有名。</li> <li>・毎年自然減で人口が毎年 100 人減少。2011 年には人口 8,130 人、高齢化率 34.8%となった。</li> </ul>
地域課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高度成長期以降の著しく人口が流出、林業不況などにより集落の共同体機能の低下。住民自治の場として集落を再生させることが望まれていた。</li> </ul>
地域づくりの取組み内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1997 年度から「日本ゼロ分のイチ村おこし運動」に取り組む。これは、最小コミュニティ単位である「集落」ごとに、集落ビジョンを描きそれを実現しようとする、住民主導によるボトムアップの運動である（知恵やお金を出すのは住民であり、行政は脇役としてのサポートにとどまる）。</li> <li>・平成 20 年には、集落振興協議会を拡充する組織として、小学校区を単位とする「地区振興協議会」を設置。さらに同年には、こうした地縁型住民自治組織では解決できない課題に取り組む「智頭町百人委員会」を設置して、住民提案に基づく地域課題の解決を実践している。</li> <li>・従来の地縁型住民自治組織から、テーマ型住民自治組織への展開ととらえることができる。</li> <li>・豊かな森林を活かして、森のようちえん「まるたんぼう」の開園（2009 年）、森林セラピー基地の認定、日本で最も美しい村連合加盟（2010 年）等、地盤沈下の続く「農」と「林」にあえて光を当てた施策を展開し、癒しの町として、都会のストレス社会から「疎開」できる町を目指した取り組みを着々と進めている。</li> </ul> <p>※ゼロイチ運動は「0 から 1、つまり、無から有への第一歩こそ村おこしの精神」との理念から名付けられた。「村の誇り（宝）の創造」を目的とし、地域経営（生活や地域文化の再評価を行い、村の付加価値をつける）、交流（村の誇りをつくるために、意図的に外の社会と交流を行う）、住民自治（自分たちが主役になって、自らの第一歩によって村を起こす）という 3 本の柱から成り立つ。</p>
成果および教訓	<ul style="list-style-type: none"> <li>・活動を通じて地酒やみそ、そばの生産からホームページ開設や、旧来の住民自治組織が担っていた伝統行事の見直しなど多岐にわたる成果を上げている。</li> <li>・取組みが仕組み化されることにより、持続的な取組がとれている。</li> </ul>
参照 URL	<a href="http://cms.sanin.jp/p/chizu/kikaku/mezasu/zeroichi/">http://cms.sanin.jp/p/chizu/kikaku/mezasu/zeroichi/</a>

## (3) 6次産業化を活用した地域活性化事例

取組み地域	広島県世羅町
類型	地域産業振興型
地域概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・世羅町は、広島県中央部に位置し、古くから米作を中心とした水田農業が栄えた中山間地域である。標高 350～400m にある世羅台地一帯は世羅高原と呼ばれている。</li> <li>・平成 16 年に、世羅郡旧世羅町、甲山町、世羅西町の新設合併により、現在の世羅町が誕生した。</li> <li>・人口は、17,690 人（H25/6/1）昭和 35 年以降から減少傾向にある。高齢化率は、平成 22 年国勢調査では約 36.0%と、広島県平均値約 23.9%を大きく上回る。</li> </ul>
地域課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・農業経営の不安定、加工品の売り場不足、直売所での商品不足や観光農園の不振といった農業を取り巻く諸課題への対応が必要とされた。</li> </ul>
地域づくりの取組み内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生産者同士が連携し世羅高原 6 次産業ネットワークを設立。個々の観光農園や直販農園では集客力が弱いため、地域で連携した 6 次産業化で求心力を高めた。</li> <li>・加入者のネットワークで各種イベントの開催、新商品開発、直売所での販売、都市と農村の交流を図ることにより地域活性化を実践。</li> <li>・販売の拠点として平成 18 年 4 月に世羅町が開設した地元産品を取り扱う施設「夢高原市場」の施設運営を事業協同組合「協同組合法人夢高原市場」を設立し手がけている。</li> <li>・今後、滞在型施設を増やし、新たなグリーンツーリズムへの展開で町全体の農村公園化を目指している。</li> </ul>
成果および教訓	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現在 68 団体、約 1400 名が加入している。活動の成果として 6 次産業関連施設の入込客数・売上高の増加といった経済的効果に加え、農業従事者自身による農作物を活用した加工品の開発や販売への取組みの促進、6 次産業化に取組む企業等の設立といった効果が表れている。</li> </ul>
参照 URL	<a href="http://www.serakougen.net/">http://www.serakougen.net/</a>

#### (4) Iターン者を積極活用した地域活性化事例

取組み地域	島根県海士町
類型	地域交流型
地域概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・島根半島の沖合約60kmに位置する隠岐諸島の中の一つである面積 33.46 km<sup>2</sup>、周囲 89.1kmの中ノ島に位置する。島全体を町域とした1島1町のまちである。</li> <li>・人口約2,400人でピーク時の3分の1にまで減少。高齢化率は39%で、10年ほど前までは「超過疎化・超少子高齢化・超財政悪化」の町であった。</li> <li>・戦後、離島振興法などを活用して公共事業で生計を立ててきたが、平成の財政難のなかで、国の合併要請を断り自立の道を選ぶ。平成16年から現町長が先頭に立って大改革を開始し、「自立・挑戦・交流」を掲げて地域づくりに積極的に取り組んでいる。</li> </ul>
地域課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人口の減少、高齢化などにより過疎化、少子高齢化、財政悪化が進行。財政の建て直しが求められた。</li> </ul>
地域づくりの取組み内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・行財政改革に行政と住民が一丸となって取り組み、島に息づく地域資源と島外の若き人材の潜在能力を巧みに掛け合わせて新商品・新産業・新規雇用の創出を図っている。</li> <li>・島の食文化を商品化した「島じゃ常識！サザエカレー」、海士の漁師の食卓を都会にそのまま届ける「CASシステム」、流通の仕組みを変えた「隠岐海士のいわがき・春香はるか」、独自ブランドを確立した「島生まれ、島育ち、『隠岐牛』」、海士のモノづくりの原点を呼び覚ます「海士乃塩」。これら産業振興の成果として、島外からの移住・定住を加速度的に増加させている。</li> <li>・また、定住だけを目的とせず全国に海士町ファンを増やすことを目指している。</li> </ul>
成果および教訓	<ul style="list-style-type: none"> <li>・UIターンは、H16-H24までで246世帯、361名。定住率約6割（島根の他の地域はIターン定住率3割）。</li> <li>・「島まるごとブランド化」を掲げ、試行錯誤のなかから様々な新商品を開発し、新たな雇用を生み出している。</li> <li>・これらの循環が更なる移住・定住者の増加につながる好循環を生み出すことに成功している。</li> </ul>
参照 URL	<a href="http://www.town.ama.shimane.jp/">http://www.town.ama.shimane.jp/</a>

以下に、地域活性化の取り組み事例について幅広く紹介する観点から、中国地方には見られない、取り組みをモデル化し、全国への展開を派生させた事例として「温泉資源を活かしたまちづくりの取組み」について以下に参考として紹介する。

## (参考) 温泉資源を活かしたまちづくりの取り組み

取組み地域	大分県別府市
類型	イベント型
地域概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大分県の東海岸のほぼ中央に位置する大分県第二の都市。</li> <li>・人口 12 万 3,384 人（2012 年）。</li> <li>・2,511 の源泉をもつ別府八湯（別府、浜脇、観海寺、堀田、明礬、鉄輪、柴石、亀川）と呼ばれる温泉群が点在。</li> <li>・毎分 8 万 7,576 リットル（2009 年）の湧出量は日本最大。</li> <li>・ここ 10 年間の観光入込客数は微減。2010 年度は年間約 370 万人が宿泊。</li> </ul>
地域課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・バブル崩壊後以降、団体客が激減し、衰退していた温泉地の再生が求められた。</li> </ul>
地域づくりの取組み内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・オンパクは「別府八湯温泉泊覧会」の略称で、地域の魅力の発掘と発信、地域の人材の育成、地域資源を活用した多彩な集客交流サービスの創出等を目的とする地域活性化の取り組み。初回は平成 13 年。</li> <li>・オンパクは、別府の文化、自然、日常の食と組み合わせたウェルネスといったテーマを織り込んだ活動になっている。</li> <li>・約 1 か月の期間中に 100 を超える多彩な体験プログラムが実施される（例：「まちあるき」、「芸者によるお座敷遊び」、「秘湯への探検ツアー」など）。</li> <li>・取組みの主体は、平成 16 年に設立された、NPO 法人ハットウ・オンパク。</li> <li>・事務局が集客、プロモーション、プログラムの品質管理、ファンクラブの管理などを担っているため、プログラムを提供する人（「パートナー」と呼ばれる）は、プログラムの企画と提供に専念できるようになっている。</li> <li>・「パートナー」のモチベーションを維持しながら、地域の資源を活かしたコミュニティ・ビジネスなどの創設を目指す。</li> </ul>
成果および教訓	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一月の開催期間の間に約 3,000 名を超える参加者が集まるほか、住民参加のみならず、200 を超える地域内の事業者が参加しており、幅広いステークホルダーを巻き込んだ地域活性化の手法としても注目されている。</li> <li>・その後、地域の住民が共に地域を盛り上げ客を呼ぶという、オンパクの地域づくりの手法は他地域へも展開されている。</li> </ul>

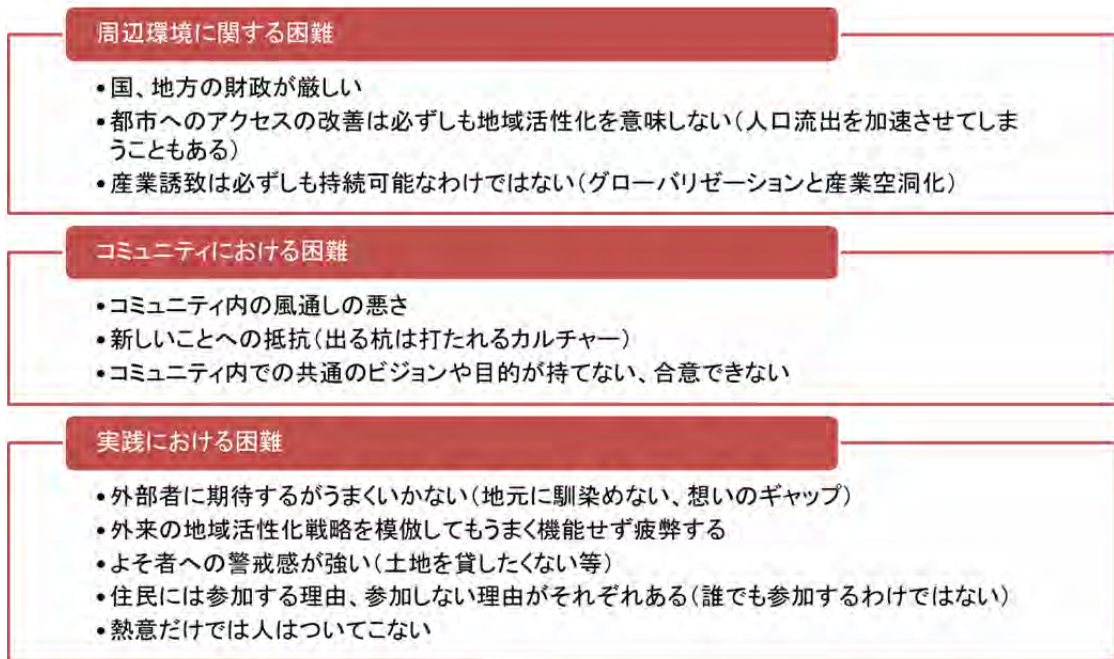
## 2.5 国内における地域活性化の課題

以上、国内における地域活性化の施策と取り組みについてレビューした。これらの文献レビューに加え、本調査においては、地域活性化に取り組む地方自治体に対して、地域活性化の課題や求められる人材に関わるインタビュー調査を実施した。インタビュー結果については添付資料 5 「地方自治体における地域活性化への取り組み」に詳細を整理したものを示す。

以下では、既存文献<sup>19</sup>やインタビュー結果から得られた地域活性化に向けての困難について自治体やコミュニティの努力だけでは解決が難しい「周辺環境に関する困難」、コミュニティにおける共助を進める上での難しさである「コミュニティにおける困難」、そして、地域活性化の実践において人々が直面する難しさである「実践における困難」に分類してまとめた。

<sup>19</sup> 小田切徳美・藤山浩編（2013）、小田切徳美編（2013a）「農山村再生に挑む」、藻谷浩介（2013）「里山資本主義」





出典： 既存文献及び地方自治体へのインタビュー結果を基に調査団作成

図 2.4 地域活性化に向けての困難

これらの困難を克服し、地域活性化を実践していくためにはどのような視点が必要になるのか。既存文献での議論<sup>20</sup>や本調査の自治体職員へのインタビュー結果から以下の視点が重要であると考えられる。

(1) 住民は危機意識を持っているか、「茹でガエル」になっていないか

この視点は今回のインタビュー調査において多くの自治体職員や地域活性化を行う実践者から聞かれた意見である。地域活性化が社会で話題になって久しいが、実際の地域おこしの現場では、少なくない住民が現在の生活を変えたくないと感じており、何かしら新しいことを伴う地域活性化のための活動を行うことに積極的ではないという声があった。日本の過疎地域においては、ある程度の補助金等の公助があり、自治体も住民も自分の将来や次世代のことに危機感を持つというよりは、現状に甘んじており、気づいてみたら限界集落化しているという「茹でガエル」状態にある集落も少なからずある。今回の調査で、いくつかの地域活性化現場の調査を行ったが、地域の将来像について強い「危機感」をもつと、地域で新しいことを積極的に取り入れたり、消極的な住民に対して積極的な住民がより働きかけを強めたりする、ということが分かった。また「危機感」をもつと、外部および内部から働きかけや動き等に対して、地域にとって何が必要で何がいらぬのか、自らの地域を見つめ直し取捨選択するクライテリアがはっきりしてきて、地域全体が動き出すようになるということも分かった。地域活性化が成功するか否か、住民や自治体職員の危機意識の高さが一つの重要な要素と言える。

<sup>20</sup> 同上

**(2) 地域おこしのアイデアや行動は内発的なものであるか**

地域おこしは企業誘致、観光客誘致、一村一品や近年のご当地グルメやゆるキャラなど全国的に行われているものが数多くある。しかし、ただ単に外来の地域活性化戦略を模倣するだけでは、成功する保証はなく、うまくいかない場合は逆に、参加者の時間とやる気を疲弊してしまうということも指摘されている<sup>21</sup>。外来のもので模倣することが良い場合もあるが、地域活性化の主体となる地域住民の内発的なものがなくてはその地域の魅力を伝えることは難しいと言える。

**(3) ニーズとアクションのマッチングはできているか**

地域活性化のニーズは地域によって様々である。他の地域で成功した事例をそのまま適用することはできない。しかし、過去の地域活性化の施策では、十分に地域の実情を分析することなく外来の手法（アクション）を適用した結果、成果が出なかったという問題も指摘されている<sup>22</sup>。外来の地域活性化戦略や手法を使うにせよ、その地域のニーズを分析し、マッチングさせることが重要と言える。

**(4) 地元にもともとあるものを活かしているか**

地域おこしとは何か新しいことをすれば良いというわけではない。真庭市の地元の森林資源を活かしたバイオマスの取り組みや、海士町のさぎエカレー等のように、もともと地元にある資源や手法を発見し、視点を変えて活かしていくことも重要である。

**(5) 活動を支えるソーシャル・キャピタルは存在するか**

地域活性化活動には個人の自助努力、行政の公助に加え、地域社会の共助が欠かせない。コミュニティレベルで活動を支えるような組織、相互扶助のシステムやつながり、いわゆるソーシャル・キャピタルが対象地域に存在するか否かは活動を行う上で重要な要素となる。もともと存在する集落ごとの地域共同体の活用や、目的に応じて新たに組織化することは、智頭町における取組にもみられる。

**(6) 異なるグループ間での連携の素地はあるか**

外来のものを取り入れるにせよ、地元にもともとあるものを活用するにせよ、新しい活動を行う場合、これまでにないグループ間での連携がカギを握る場合がある。異なる世代間、男女、異なる業種、行政と市民社会といったステークホルダー間に連携のための素地（場、しくみ、制度）があるか否かは重要な要素と言える。

例えば世羅町では、生産者と行政だけでなく町の商工会との連携が図られた結果、地元野菜を地元の飲食店で扱うようになり、地産地消に加えて、飲食店を通じて地域産物のアピールにもなり、また飲食店における消費者単価の上昇にもつながった。

<sup>21</sup> 小田切徳美編（2013a）

<sup>22</sup> 同上

**(7) 目標に向かって、役割を決め、それぞれの役割を果たしているか**

地域活性化活動を行う際に、共通の目標を持って、参加者・関係者がそれぞれの役割を果たしていくことが重要である。特に前述のような異なるグループ間で連携して活動を行うような場合は、目標設定及び目的の共有、活動のモニタリング等が重要となる。

**(8) ファシリテーター役はいるか**

地域活性化において、地元の人々が主体的にその地域の良さを発見し、それを活かした地域活性化をしていくことが重要だとしても、誰がファシリテーターとなるのかということが現場においては課題となる。地元の良さを再発見するという意味では、外の視点は欠かせない。この点は、多くの自治体関係者も指摘していた。その意味で、「外部者」や一度地元から離れて外の世界を体験してきた人はその候補者となる可能性を秘めている。

**(9) 「外部者」はコミュニティと信頼を築けているか**

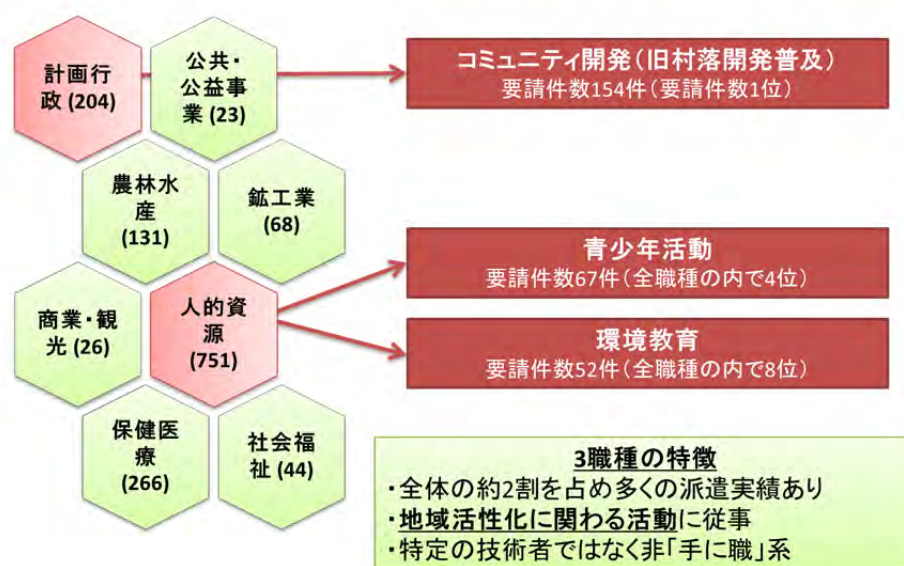
前述のように地域活性化に取り組む多くの自治体関係者は「外部者」の視点を求めている一方で、「外部者」がコミュニティと信頼を築けていないという問題も同時に指摘している。近年、地域おこし協力隊などのスキームで入ってくる人が、地元の人々と信頼や協力関係を築けず離任してしまうという例が散見される。うまくいかない要因として自治体関係者が指摘するのは、「外部者」の思いが強すぎて地元の人々のしたいことと乖離してしまっているケースである。地元の人々の声を聴いて、聞き役に徹することで地元のことを理解し、歩調を合わせるという姿勢が信頼構築には必要だという意見が多く聞かれた。

## 第3章 JICA ボランティアの実績（コミュニティ開発を中心に）

### 3.1 JICA ボランティアについて

#### 3.1.1 対象3職種について

本調査では、地域活性化に関わる分野の JICA ボランティアの職種として、コミュニティ開発（旧村落開発普及員）<sup>23</sup>、青少年活動、環境教育の3職種を対象とした。



出典：JICA 青年海外協力隊平成 25 年度秋募集 (<http://jocv-info.jica.go.jp/jv/index.php?m=BList>) を基に調査団作成

図 3.1 調査対象3職種

これらの3職種は、途上国における活動が地域活性化に関わるものであることに加え、要請件数ベースで見た場合、全体の約2割を占める規模であり、特にコミュニティ開発については、要請件数第1位であり、全体の約1割を占める。

規模的な特殊性に加えて、もう一つの特异性は、これらの職種は、農林業や医療関係のようにいわゆる「手に職」系の職種ではなく、特別なスキルや職務経験がなくても応募可能な「非・手に職」系の職種であるという点である。

<sup>23</sup> 平成 24 年度秋募集から職種名が変更になった。

よって、本調査において、後に述べる JOCV の現地活動からの知見については、比較的多くの事例が得られる職種ではあるものの、その活動は、農業等の特定の専門技術を用いた結果として得られたものではなく、多岐に亘る活動から得られたものである。ただし、それは、本調査の目的が国内地域活性化につながる JICA ボランティアの事例という意味では、2 章における国内地域活性化の課題や 4 章で述べる国内地域活性化の課題と JICA ボランティアの知見のマッチングという意味では、親和性が高い職種であると言える。

### 3.1.2 JICA ボランティアの歴史

JICA ボランティアは 1965 年に国の事業として発足した。当時の海外技術協力事業団に日本青年海外協力隊事務局が設置された。その後、1974 年（昭和 49 年）8 月に、日本政府の国際協力の実施機関として国際協力事業団（Japan International Cooperation Agency: JICA（現、国際協力機構））が発足し、その重要な事業のひとつとして受け継がれ、名称も青年海外協力隊となり、今日に至る。

ラオスへの初派遣から始まった青年海外協力隊事業は、発足以来、約 48 年間で 88 カ国（アジア、アフリカ、中東、中南米、大洋州、東欧）に及び、延べ人数 38,300 名（2013 年（平成 25 年）7 月 31 日現在）以上の隊員の派遣実績を有する。

### 3.1.3 派遣目的

開発途上国に派遣され一定の期間現地の人々と共に働き暮らす JICA ボランティアは、草の根レベルでの「開発途上国の経済や社会の発展・復興へ貢献すること」、「友好親善・相互理解を深めること」、また日本に帰国後に「ボランティアの経験を社会に還元すること」が求められている<sup>24</sup>。

ただし、注意しなくてはならないことは、もともと JICA ボランティアの目的は、途上国でのボランティア活動を通じた青年育成という意味合いが強かったことである。帰国後の社会還元について語られるようになったのは近年のことであり、JICA にせよ、派遣された JICA ボランティアにせよ、特に以前に派遣された隊員については、国内地域活性化という観点を必ずしも有していたわけではないことが推察される。

### 3.1.4 対象 3 職種の職種別活動概要

JOCV の職種は 190 種程度あるが、本調査で対象となる職種はコミュニティ開発（旧村落開発普及員）、青少年活動、環境教育の 3 職種である。コミュニティ開発隊員の活動は他の職種に比べると活動が多様で定義が難しい。コミュニティ開発隊員の活動目的は、「対象とする地域の住民の生活向上や社会改善に寄与すること」とされているが、JOCV は派遣地域において自ら住民の問題やニーズを把握し、住民たちを巻き込んで合意形成を得ながら参加型の開発を進めていくことが求められるため、活動はその地域の特徴や問題によって多様である。活動分野もまた、農林水産、公衆衛生、保健、教育、社会福祉、環境、観光など多岐にわたる。

---

<sup>24</sup> JICA ボランティア事業 (<http://www.jica.go.jp/volunteer/outline/activity/>)

コミュニティ開発隊員の活動場所は主に村落地域のコミュニティであるが、都市のコミュニティが対象になることもある。「コミュニティ」は地域性、共同性、つながりと信頼感などの「社会的相互関係」の要素を持った集団とされる<sup>25</sup>。

青少年活動は「青少年の健全な育成を促すこと」を目的としている。教育の機会が不十分であったり、教育の内容が充実していない途上国で、「青少年の創造性や豊かな感性を育み、青少年に将来の夢を与えるような活動を行うこと」が求められているが、具体的な活動は配属される国・地域によって多様である。環境教育は、大きく分けて国立公園や緑化などの活動と、廃棄物関連の活動の場がある。派遣地域のニーズに沿って住民や子供たちへの環境啓発活動や、教員への環境教育トレーニング、環境キャンペーンの企画、住民の組織作りや運営管理などの活動を実施することが求められている。

JICA ホームページより纏めた、本調査対象の3職種隊員が持っていると思われる能力、経験、知識等を下表に示す。記載されている全ての能力等が求められているわけではない。コミュニティ開発隊員に求められる能力、経験、知識について多く記載されていたが、それはコミュニティ開発の活動が多岐にわたっているためだと思われる。現地で隊員に求められる姿勢についても言及されており、辛抱強さ、柔軟性、協調性、積極性等が述べられていた。

表 3-1 3職種の隊員に求められる能力、経験、知識等

職種	能力、経験、知識等
コミュニティ開発	【能力】ファシリテーション能力、コミュニケーション能力、企画・運営力、会計管理能力、コンピュータ操作能力、参加型調査手法、市場調査能力、業務調整能力 【経験】まちの活性化・地域おこし、ワークショップやイベントの企画・運営、フィールド調査、ニーズ調査、組織・団体における運営や業務調整 【知識】開発学、社会学、経済学、経営学、文化人類学、農業経済学、農業、PRA、PLA などの参加型手法 【資格】各種ファシリテーション関連資格、普及指導員(旧改良普及員)
青少年活動	【能力】コミュニケーション能力、企画・運営能力、調整力 【知識】教育分野
環境教育	【能力】ファシリテーション能力 【経験】環境に関連した活動 【知識】環境分野

出典： JICA ホームページの情報を基に調査団作成

### 3.1.5 JICA ボランティアの派遣実績と傾向

1965年に開始された JOCV は、2013年8月31日時点では合計 36,571人が派遣され帰国している（派遣中を除く）。現在までにコミュニティ開発（旧村落開発普及員）として派遣され帰国済の JOCV 合計は 2,332人、青少年活動隊員では 945人、環境教育隊員は 408人であり、3職種を合計すると全体の 10%を占める。

<sup>25</sup> 佐藤寛「住民組織化をなぜ問題にするのか」、佐藤寛編「援助と住民組織化」アジア経済研究所、2004年

表 3-2 JOCV 総数 (2013 年 8 月 31 日時点)

性別	派遣中	帰国済	累積
男性	714	20,199	20,916
女性	1,027	16,372	17,399
総数	1,744	36,571	38,315

出典： JICA ホームページの情報を基に調査団作成

表 3-3 JOCV 職種別派遣実績 (2013 年 8 月 31 日時点)

職種	派遣中	帰国	累積
コミュニティ開発 (旧村落開発普及員)	265	2,332	2,597
青少年活動	118	945	1,063
環境教育	87	408	495
合計	470	3,685	4,155

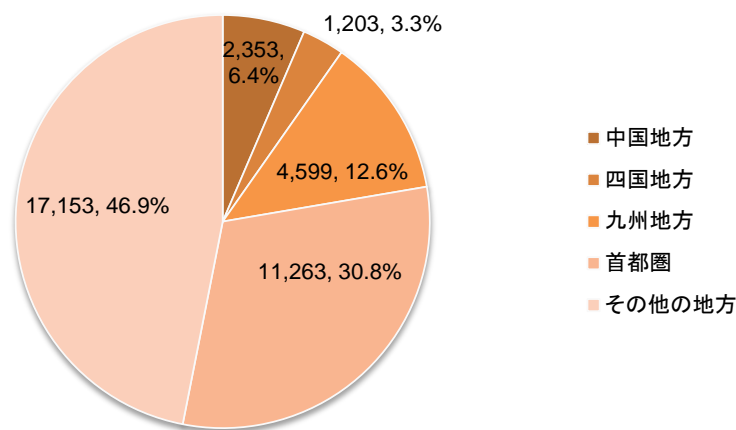
出典： JICA ホームページの情報を基に調査団作成

### 3.2 調査対象地域における JICA ボランティア

#### 3.2.1 派遣実績

今回の調査対象として中国地方出身者だけではサンプル数として十分でないと判断されたことから、四国・九州出身者も調査対象として加えることとした。中国地方出身者及び四国・九州出身者で既に帰国済の JOCV 数は合計 8,155 人、帰国済み全 JOCV 数の 22.3%にあたる。本調査の対象である、2003 年以降に派遣され現在までに帰国した JOCV で、コミュニティ開発(旧村落開発普及員)・青少年活動・環境教育に従事した JOCV 数は、中国地方出身では 115 人、四国地方出身では 52 人、九州地方出身者は 179 人の合計 346 人であった。

これらの内訳を図 3.2 に示す。



出典： JICA ホームページの情報を基に調査団作成

図 3.2 地域別帰国 JOCV 数割合 (2013 年 8 月 31 日時点)

表 3-4 JOCV 中国四国九州地方県別派遣実績 (2013 年 8 月 31 日時点)

県	派遣中	帰国	累積
鳥取	10	238	248
島根	17	300	317
岡山	25	531	556
広島	35	814	849
山口	25	470	495
<b>中国地方合計</b>	<b>112</b>	<b>2,353</b>	<b>2,465</b>
徳島	13	227	240
香川	10	268	278
愛媛	39	495	534
高知	9	213	222
<b>四国地方合計</b>	<b>71</b>	<b>1,203</b>	<b>1,274</b>
福岡	76	1,613	1,689
佐賀	11	269	280
長崎	31	511	542
熊本	26	637	663
大分	18	439	457
宮城	21	432	453
鹿児島	29	698	727
<b>九州地方合計</b>	<b>212</b>	<b>4,599</b>	<b>4,811</b>
<b>中国四国九州地方合計</b>	<b>395</b>	<b>8,155</b>	<b>8,550</b>

出典： JICA ホームページの情報を基に調査団作成

表 3-5 中国四国九州地方<sup>26</sup>の JOCV 職種別派遣実績 (2003 年派遣~2013 年秋季帰国)

職種	中国 5 県帰国済 JOCV 数	四国 4 県帰国済 JOCV 数	九州 7 県帰国済 JOCV 数
コミュニティ開発 (旧村落開発普及員)	70	28	101
青少年活動	30	16	52
環境教育	15	8*	26
合計	115	52	179

\*派遣中だが活動 3 年目で資料が揃っている者 1 名を含む

出典： JICA リストの情報を基に調査団作成

### 3.2.2 類型と特徴 (職種別、年代、男女別、参加時身分)

中国・四国・九州地方出身者でコミュニティ開発、青少年活動、環境教育隊員として派遣された本調査対象の JOCV 経験者 346 名に対し実施したアンケートの回答者は 42 名 (回収率 12.1%) であった。アンケート回答者の職種と性別、年齢、参加時身分の傾向を下表に示す。職種別男女数は全体的に男性の方が多かったが、大きな差異はなかった。

表 3-6 職種別男女数

職種	男性	女性	合計
コミュニティ開発(旧村落開発普及員)	14	12	26
青少年活動	5	2	7
環境教育	5	4	9
合計	24	18	42

出典： アンケート結果より調査団作成

<sup>26</sup>出身県の定義については、JICA が把握している JOCV の最新の居住地 (そのほとんどが帰国直後の居住地と JICA は認識している) が中国及び四国地方であることを基準にしている。



職種別参加時身分を表 3.7 に示す。無回答の者もいたが、現職参加はアンケート回答者の 17% であり、各職種共に退職参加者が多数であった。

表 3-7 職種別参加時身分

職種	退職参加	現職参加	無回答	合計
コミュニティ開発(旧村落開発普及員)	20	1	5	26
青少年活動	5	1	1	7
環境教育	6	2	1	9
合計	31	4	7	42

出典： アンケート結果より調査団作成

JOCV の対象年齢は 20 歳から 39 歳であるが、本調査のアンケート対象者は 2003 年以降に派遣された者であるため、アンケート回答者は 25 歳から 34 歳が 8 割以上を占めた。

表 3-8 アンケート回答者年齢分布

アンケート回答者年代	人数
25-29	11
30-34	21
35-39	2
40-44	2
無回答	6
合計	42

出典： アンケート結果より調査団作成

### 3.2.3 派遣中の活動

#### (1) コミュニティ開発

コミュニティ開発の配属先には、村役場の農村開発課・地域計画課や社会福祉・保健関係の事務所など、行政業務全般を取り扱ったり、農村・農民支援や女性支援を実施したりする機関などが挙げられる。派遣先でのコミュニティ開発の活動は、派遣される機関や場所によって多様である。活動の具体例としては、役場の農村開発課や地域計画課のような場に派遣された隊員は、野菜栽培などの農業支援、生産や品質管理指導、販路拡大のための顧客開拓、また現状調査や村落会議のファシリテーション、住民集会開催や利害関係者間の調整・会議開催などの活動を実施していた。社会福祉・保健関係事務所に派遣された隊員の具体的な活動例としては、生活改善の提案や講義、識字教育の教材開発や教員指導、授業の実施、栄養改善のための料理教室、衛生改善啓発、清掃活動、女性グループ訪問や商品開発支援などであった。また、ひとりの隊員が、例えば農業支援と同時に保健衛生支援や教育支援、日本文化紹介など複数の活動を実施する事例も多かった。

#### (2) 青少年活動

青少年活動の配属先としては青年職業訓練所、役場の教育課や青少年課、公立校、コミュニティ・スクール、芸術学校、児童文化館、教育福祉関係の NGO などがあった。青少年活動の具体例には、識字教室開催、エイズ予防啓発、ストリートチルドレン支援、学校での衛生啓発活動、スポーツ教室、課外活動としてワークショップやセミナーの企画運営開催、スポーツリク

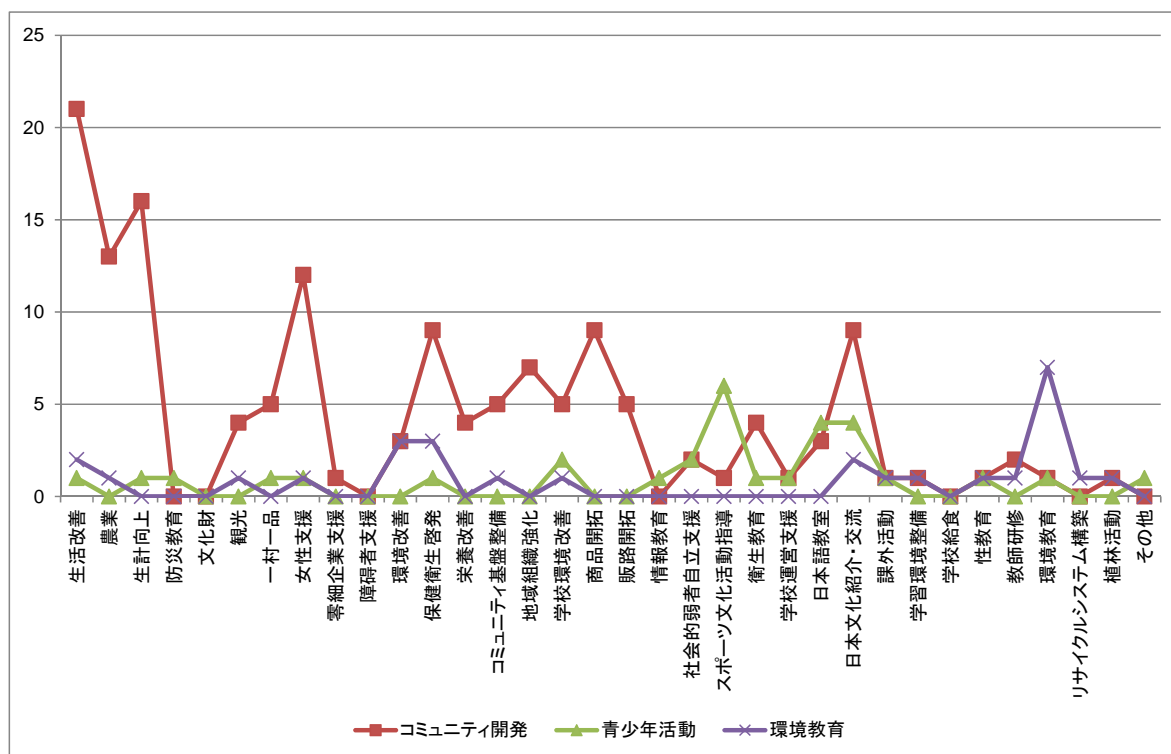
リエーションの実施などがあつた。学校関連での活動であることから、日本語教室や日本文化紹介のイベント開催などの活動も多かった。

### (3) 環境教育

環境教育の配属先は役場の環境衛生課や保健課、コミュニティ開発課、母子保健施設、環境関係の NGO など各種公衆衛生サービスを扱う機関などであつた。環境教育の具体的な活動例としては、学校を巡回しての環境関連授業の実施、ポイ捨て予防啓蒙活動、環境に関連するイベントの企画運営実施、ゴミ分別工場の立上、ごみ減量の普及活動、分別回収システム作り、コンポスト普及活動などであつた。

### (4) 職種別の赴任地での活動内容

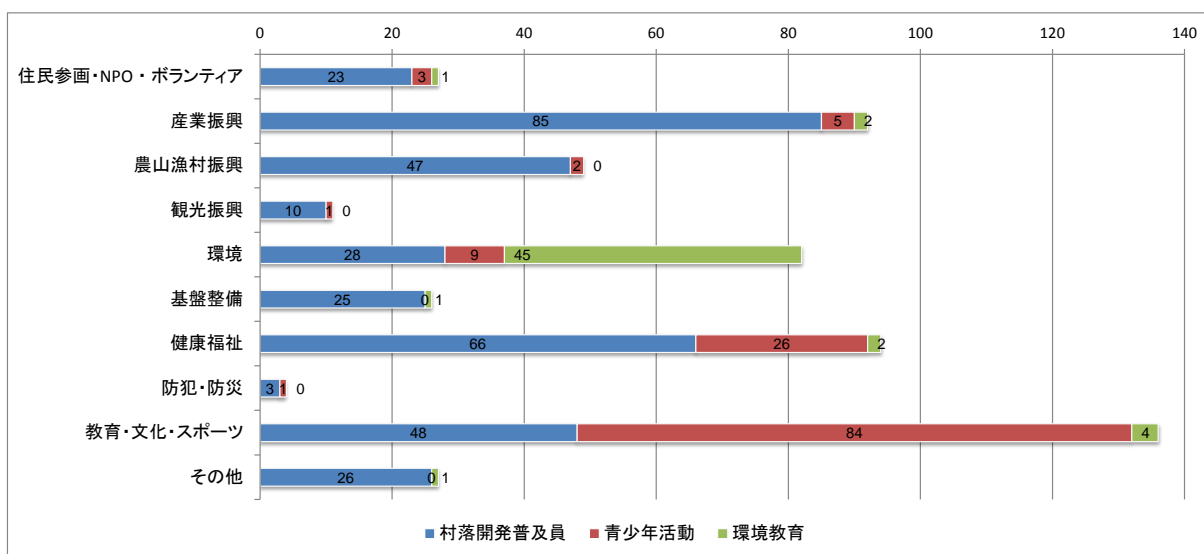
下図には複数回答によるアンケート結果より、現地での活動内容を職種別に示す。コミュニティ開発は生活改善、生計向上、女性支援、保健衛生啓発、商品開発、日本文化紹介・交流に関わる活動が多かつた。観光や一村一品、栄養改善、コミュニティ基盤整備、地域組織強化、学校環境改善、販路開拓、衛生教育などの活動も多く、それ以外の活動も多岐に渡って実施されていた。青少年活動では、スポーツ文化活動指導、日本語教室、日本文化紹介・交流が多く実施され、他にも生活改善、生計向上、防災教育、保健衛生啓発、学校環境改善、情報教育、社会的弱者自立支援、衛生教育、学校運営支援、課外活動、性教育、環境教育などの活動も実施されていた。環境教育は、環境教育活動が中心であるが、それだけでなく生活改善、環境改善、保健衛生啓発、日本文化紹介・交流などの活動も実施されていた。



出典： アンケート結果より調査団作成

図 3.3 JOCV の赴任地での活動について (複数回答)

現地活動報告書より中国・四国・九州地方出身 JOCV 経験者の実際の活動を、第 2 章で示した「地域活性化の分類フレーム」に当てはめたものが図 3.4 である。セクター別では、コミュニティ開発隊員の活動をみると、産業振興に関連する活動が最も多く、次に健康福祉、農山漁村振興、教育・文化・スポーツが多い。青少年活動と環境教育は、コミュニティ開発的な要素はあるが、活動の分類としては一つの分野に集中する傾向にあり、前者は教育・文化・スポーツと健康福祉、後者は環境が主である。他方、コミュニティ開発隊員の活動は多岐に渡っていることから、地域活性化の多様なニーズに応えることのできる可能性が伺える。特に「産業振興」、「農山漁村振興」分野の地域活性化にその経験が活かされる可能性が高いと期待できる。



出典： JICA リストの情報を基に調査団作成

図 3.4 地域活性化の分類フォームにマッチする対象地域出身 JOCV の活動実績

### 3.3 JOCV 活動から得られたコミュニティ開発に関わる経験・知見

#### 3.3.1 途上国での JOCV の行動

対象 3 職種の JOCV は途上国をフィールドとしてコミュニティ開発に関わる活動に従事している。その立場は、「外部者」であり、その活動は「期限付き（原則 2 年間）」である。この特性を踏まえた上で、以下に JOCV の途上国でのコミュニティ開発に活動から得られた知見、経験について述べる。

##### (1) 活動報告書レビュー結果

途上国で対象 3 職種の JOCV が実践した「行動」とその「効果、気づき」について以下に述べる。活動報告書から、行動とその効果や気づきについて抜粋できるものをリスト化し、効果や気づきについて、地域活性化における重要な視点として、「エンパワメント」、「ソーシャル・キャピタル」、「参加型・合意形成」、「持続性(自立発展性)」という切り口で分類した。

表 3-9 JOCV 活動の切り口

カテゴリ	説明
エンパワメント	共に考え、現地の人々の主体性を発揮させること。自身が選択をし、それを行動と結果につなげるために、個人やグループの能力を向上させる過程 <sup>27</sup> 。
ソーシャル・キャピタル	個人や異なるグループを繋げること。社会で協調行動を可能にする規範とネットワーク。社会的交流の質や量を形作る制度、人間関係、習慣を含む <sup>28</sup> 。
参加型・合意形成	人々が計画過程から主体的に関わること、意思決定・実践において主導権を持つこと <sup>29</sup>
持続性(自立発展性)	現地の人々の主体性を尊重すること。プロジェクトが終わっても活動や効果が継続すること。

出典：調査団作成

また、活動報告書の中では、具体的な効果に繋がる前の段階で、外部者として地元の人と関係を構築するための様々な行動・工夫・働きかけについて多くの記載があった。これらは、JOCV 当人らの気づきと行動変容をもたらした経験であるが、その後の彼らの従事する地域活性化活動の基礎ともなっている重要なものであるため、「関係者との信頼醸成」という切り口で追加することとした。

活動報告書をレビューした結果から抽出されたこれら行動事例については、添付資料 6「コミュニティ開発に関わる JOCV が途上国で得た経験・知見」としてまとめた。また、その中から、各カテゴリについて代表的なものを以下に示す。

表 3-10 エンパワメントに繋がった行動事例

分類	行動	効果・気づき
プラスの効果	受益者の多くは、彼らのおかれている状況に慣れてしまい、変化を求めず、受身的で、諦めている人が多かった。その中でも積極的に向上心の強い人を支援するために、受益者が来なくても諦めることなく定期的にミーティングをしてコミュニケーションを図った。	一部の人の変化を見て、周りの人が真似をするようになり、プロジェクトが良い方向に進んだ。
	水道プロジェクトで、住民は市役所に「水道プロジェクトをしてほしい」と訴えていただけで、なぜ水道が必要なのか、どういう問題があるのか、水道があれば何が解決されるのか、といった内容を伝えていなかった。JOCV 隊員が住民と共に基礎調査、問題分析、目的分析を行った。	住民は、以前は具体的にどんな問題があるのか、どうしたいのかという明確な意識はなかったが、共に作業をしていく中で、自分たちが抱えている問題に気づき、外部からの助言が必要だが少しずつそれに対処する術を身に付けていった。プロジェクト実現に向けて何をすればいいのか考えることができるようになった。
	子供たちに責任感を持たせるために、子供たちの中から会長、副会長などの係を決め、リーダーたちに任せる仕事を増やした。	態度が悪かった子供が、重役を担ったことで、態度が良くなった。

出典：調査団作成

27 世界銀行

<http://web.worldbank.org/WBSITE/EXTERNAL/TOPICS/EXTPOVERTY/EXTEMPowerment/0,,contentMDK:20245753~pagePK:210058~piPK:210062~theSitePK:486411,00.html>

28 世界銀行

<http://web.worldbank.org/WBSITE/EXTERNAL/TOPICS/EXTSOCIALDEVELOPMENT/EXTTSOCIALCAPITAL/0,,contentMDK:20185164~menuPK:418217~pagePK:148956~piPK:216618~theSitePK:401015,00.html>
29 <http://www.jacses.org/sdap/bps/bps09.html>

表 3-11 ソーシャル・キャピタルの強化に繋がった行動事例

分類	行動	効果・気づき
プラスの効果	エコツーリズム立上げのため、配属先と農家、市役所の三者でツーリズムに関する会議を重ねた。	農家と市役所の観光課につながりができた。また、会議で活発な意見交換が得られ、ツーリズムに興味のある農家が各自工夫を凝らすようになった。
	人々が新しく移り住んだ移転サイトで子ども会を立ち上げ、定期的に子どもたちを集めて活動を実施した。	継続したことで、子供たちが率先して組織を纏める様子が見られるようになり、さらに保護者達が子供たちの活動を通して親同士の交流が生まれ、住民間の連帯構築とコミュニティへの帰属意識形成へとつながった。
	女性グループへの巡回を通して、やる気はあるが問題に遭遇した際に解決するための情報が少ないことを感じた。そこで複数の女性グループを紹介しあって情報交換をできるようにし、石鹸づくりを通して町で女性グループの支援をしている NGO と繋げた。	地域で毎月 1 回開かれる市に、女性グループが共同で出店するようになった。また他のグループの真似をして広告を取り入れた。
マイナスの効果、あるいは目的が達せられなかったもの、その他	隊員連絡所での販売会を 2 年続けた。	自分の達成感はあるが、住民の日本人に対する依存心が高まった気がする。
	学校と契約し、軽食と飲み物を販売した。同時期に A 型肝炎が流行り、学校はお菓子販売グループを糾弾した。お菓子が肝炎の原因になっている可能性は限りなく低く、自分は学校側と喧嘩した。すると学校に通う子供たちから「もうこれ以上もめないで欲しい」と言われ、渋々学校の主張に折れることになった。	外国人ボランティアが声高に不正を訴えると、長く村で暮らしていくグループメンバーの首を絞めることになる。

出典： 調査団作成

表 3-12 参加型・合意形成に繋がった行動事例

分類	行動	効果・気づき
プラスの効果	体育授業への教員の参加が、態度・行動ともに少なかった。原因は自らの授業の進め方にあると気づき、体育の授業内容について教員に事前説明をし、教員が自然に授業に参加する役割を設け、なおかつ教員が主となり授業を薦めるような方法へ変えた。	教員の授業への参画度が格段に上がり、態度が生生きとし、体操方法に関する質問が出るようになった。準備体操を一緒にすることで学ぼうという姿勢もできた。
マイナスの効果、あるいは目的が達せられなかったもの、その他	カウンターパートと十分な意思疎通をしておらず、講習会に対する認識や目的が不十分なまま講習会を実施した。	配属先に「ボランティアが勝手にやっている講習会」という印象を与えた。

出典： 調査団作成

表 3-13 持続性（自立発展性）を促した行動事例

分類	行動	効果・気づき
プラスの効果	最初はコンポストなどの普及数のみに焦点を当てていた。途中で、自分がいなくなったら終わってしまう活動ではいけないと気づき、コンポストなどに興味を持つ大学生に常に同行してもらい知識を深めてもらった。	後半は学生が直接農家と運用の話ができるようになり、JOCV はそばで聞いているだけになった。JOCV 帰国後も大学生は積極的に普及活動を続けていきたいと言っていた。
	JOCV 隊員が、現地活動員にデモンストレーションを行ったうえで、彼らが直接村人に語りかける役割を担ってもらった。	現地活動員が人前で話すときの「技法」や「自信」を習得させるとともに、彼らに対する村人の「信頼」を高めて今後の活動の持続性を高めた。

出典：調査団作成

表 3-14 関係者との信頼醸成に繋がった行動事例

分類	行動	効果・気づき
プラスの効果	多くの受益者にはボランティアという概念がないため、JOCV 隊員の行動に対して「何でそこまでするの？何か裏にあるのではないか？」と感じる人も多く、自分のビジョンや活動目的とそのためのプロセス、自分がどういう人間であるかを日常的に理解してもらった。	ボランティアをしていくうえで信頼関係が鍵であり、信頼関係構築によって受益者がついてくるようになった。
マイナスの効果、あるいは目的が達せられなかったもの、その他	村の成り立ちや置かれた環境により、グループ（村）によって活動に参加している人々の動機が、他の村への対抗意識（見栄？）であったり、グループ責任者への義理であったり、現金収入の向上そのものであったり、様々であることを任期後半に理解した。	この点を踏まえて会議の開催方法、参加者へのインセンティブの示し方、活動目標の設定等で、もっと住民と突っ込んだ話し合いを行い、工夫することができていれば、参加者の熱意と成果をより高められたと感じる。

出典：調査団作成

報告書に記載されている数の面からは、エンパワメントに繋がった行動についての記載が圧倒的に多く、その次に持続性やソーシャル・キャピタルに繋がった行動が同じくらいである<sup>30</sup>。また、それぞれのカテゴリーで類似の行動も多数存在する。複数の類似事例があるものをまとめ、多い順に並べると以下の通りとなる<sup>31</sup>。

<sup>30</sup> ただし、報告書には当然ながら全ての行動が記載されている訳ではなく、行動とその結果、という因果関係で記載するフォーマットにはなっていないため、あくまで調査団がその因果関係を読みとれたものだけを抜粋している。また、上記のカテゴリー分けは明確に線引きできるものではなく、例えば異なるグループを紹介することによって、商品の改善が進み利益増大に繋がった、という場合はソーシャル・キャピタルとエンパワメントの両方に通じるものである。このような場合は成果としてより大きいと判断される方に分類している。

<sup>31</sup> リストから数えることも可能だが、脚注 30 と同様の理由で現場の状況を十分に反映するとは限らないため、数は記載しない。

表 3-15 JOCV の途上国での行動

カテゴリー	行動要約
エンパワメント	定期的・継続的に働きかける 役割を与える 実際に見てもらう・体験してもらう 成功体験をしてもらう、他の人の成功体験を知ってもらう 地域の人との身近にあるものを活用する ステージ(発表の場、活躍の場)を準備する 情報を効果的に提供する、問題や課題を具体的に理解してもらう キーパーソンを発掘し、活用する 定期的に振り返りをする、振り返りを働き掛ける 書面化する
ソーシャル・キャピタル	関係団体に働き掛ける 異なるグループが定期的・継続的に会う場を設ける 外部リソースを活用する
参加型・合意形成 <sup>32</sup>	視覚化する(データで示す) 初期段階から関係者を巻き込む 活動の規模を適正にとどめる
持続性(自立発展性)	地域の人々の技術向上をはかる、地域人材を活用する 外部者が黒子になる グループなどを外部からの資金援助がない状態に置く
関係者との信頼関係醸成	戸別訪問をする 自分や自分の活動をきちんと説明する 地域の人と一緒に行動する 積極的・定期的なコミュニケーションを行う

出典：調査団作成

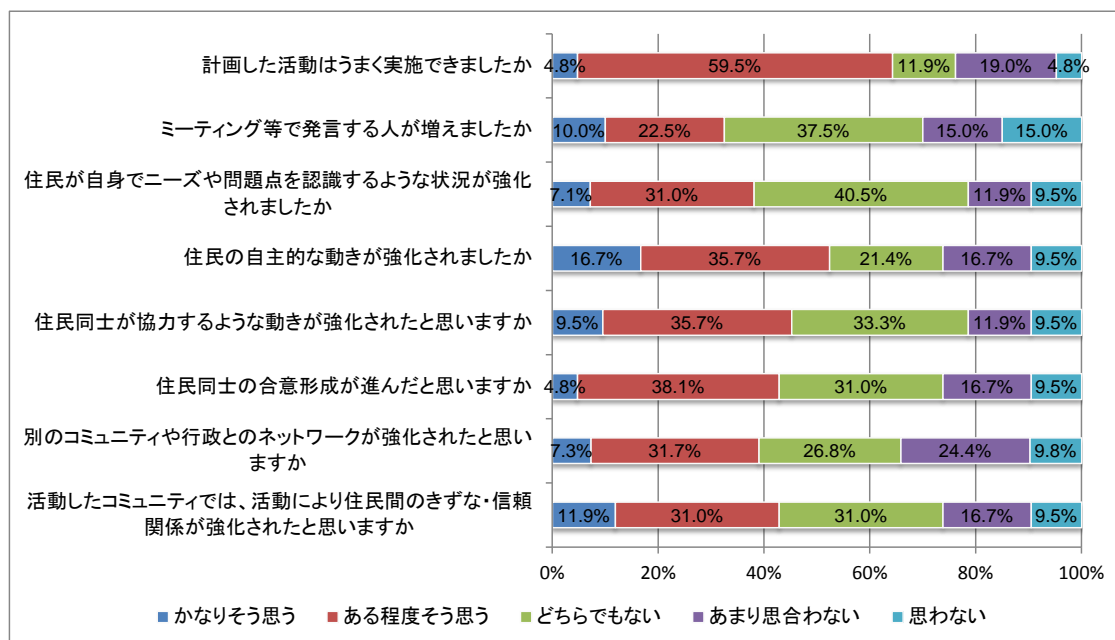
ほぼ全ての行動が、特殊な技術を要するものではない。抽出された上記の行動事例を基に現場に入ってからの一連の流れを想定してみると、まず現場を理解し、関係者や住民と良好な関係を築き、正しい情報を集め、その後各自の成果に向けて、関係者をできるだけ初期段階から巻き込み、キーパーソンを味方につけ、対象グループのモチベーションを下げないようあらゆる仕掛けをしながら、少しずつ活動を積み上げて行く、という様子が伺える。地域の問題や課題を発見し解決の道筋を見つけることは、一定の技術や能力を要することもあるが、そういった場面以外の、より日常的な振る舞いや活動の中で築いていくものも多く、つまり、上記の表は技術的なことよりも人格的なことの大切さという点で、多くの示唆を与えていると言える。

## (2) アンケート調査結果から抽出される JOCV 活動の成果

活動の成果についてのアンケート結果を図 3.5 に示す。「計画した活動がうまく実施できたか」に「かなりそう思う」者は多くないが、「ある程度そう思う」者は6割近くに上り活動の成果にそれなりに自信を持っている者が多いといえる。「住民の自主的な動きが強化されたか」の質問に、「かなりそう思う・ある程度そう思う」と回答した者も5割を超えた。「住民間の絆・信頼関係が強化された」「住民同士の合意形成が進んだ」、「住民同士が協力するような動きが強化された」、「住民が自身でニーズや問題点を認識するような状況が強化された」の質問に対して「かなりそう思う・ある程度そう思う」との回答者も比較的多く、住民間の協働能力の強化がなされている傾向があると言える。一方で、「別のコミュニティや行政とのネットワ

<sup>32</sup> 全て1件ずつ

ークが強化された」と「ミーティング等で発言する人が増えた」と思う回答者は多くない。住民間の協働能力が強化されつつあると感じる一方で、適切なファシリテーションがなければミーティング等での発言者や合意形成は一部の者に偏っている可能性がある。また住民同士では改善されていても、JOCV 経験者の活動が組織間の協働能力を十分に強化するには至っていない可能性がある。



出典：アンケート結果より調査団作成

図 3.5 活動の成果について

### 3.4 JOCV としてボランティア活動を通して得られる力

#### 3.4.1 JOCV 報告書レビュー

2003 年以降に派遣された、中国・四国地方出身の、コミュニティ開発、環境教育、青少年活動の職種だった JOCV 報告書をレビューした。現地でのボランティア活動の結果得られた技量や知見について、大きく「姿勢」と「スキル」に分け、さらに前者については能動的なものや受動的なもの、後者については個人完結的なものや周囲を巻き込むものに分けた<sup>33</sup>。集約結果は以下の通りである。

<sup>33</sup> 姿勢とスキルに分けることは、玉沖(2012)を参考にした。両者を明確に分けることは難しいが、本調査では、姿勢については「心構え」「活動を通して貫く構え」「態度」「精神力」、スキルについては「習得までにある程度の経験や実践が必要な物」としている。



表 3-16 ボランティア活動を通して得られる力(報告書レビューより)

カテゴリー1	カテゴリー2	身に付けた技量・知見
姿勢	能動	現場で考え現場で行動する力
	受動	自分のやり方をそのまま持ち込まない、現地の人にとって気持ちの良いやり方を尊重する。JOCVができるのは、もう少しこうした方がいいのでは、という視点を伝えること、という認識。
		粘り強さ
		現状を理解しようと努め、人の意見を聞く能力
		自分は黒子あるいはサポート役であり、主役は住民であるということ、重要なのは住民をやる気にさせること、という認識。
	「違い」を受け入れる姿勢	
スキル	個人完結型	現状を把握し課題を抽出・設定する技量。それに沿ったアクションプランを立て、実行に移す能力。
		使える資金を探す能力
		現地の言葉
	周囲を巻き込む型	外国人の立場で現地の人とコミュニケーションをとる力
		価値観が違う社会に入り、信頼関係を築こうと努力する力
		状況を改善するためにアイデアを募ったり絞ったりする行動力
		CPや周囲の人と協同する。協力者を見つける。自分一人が頑張っても持続性には繋がらない。有力人物を見極めて、素通りしないように気を付ける能力。

出典： アンケート結果より調査団作成

途上国で身に付けた姿勢については、能動的なものよりも受動的なものの方が記載が多かった。特に、「まず人の話を聞く」、「自分は黒子に徹する」、という事柄については多数散見された。

ボランティア活動から身につけた能動的な姿勢としては「現場で考え行動する力」が挙げられた。受動的姿勢では「相手のやり方を尊重すること、粘り強さ、相手意見を聞くこと、違いを受入れること」が挙げられた。

スキルについては、個人完結型のもの、現地の言葉や地域の問題や課題を正しく見極めるなど、身につけるにはある程度の期間や経験を要するが、周囲を巻き込む型は、キーパーソンを素通りしない、など、要素としては「姿勢」にも繋がるものもある。

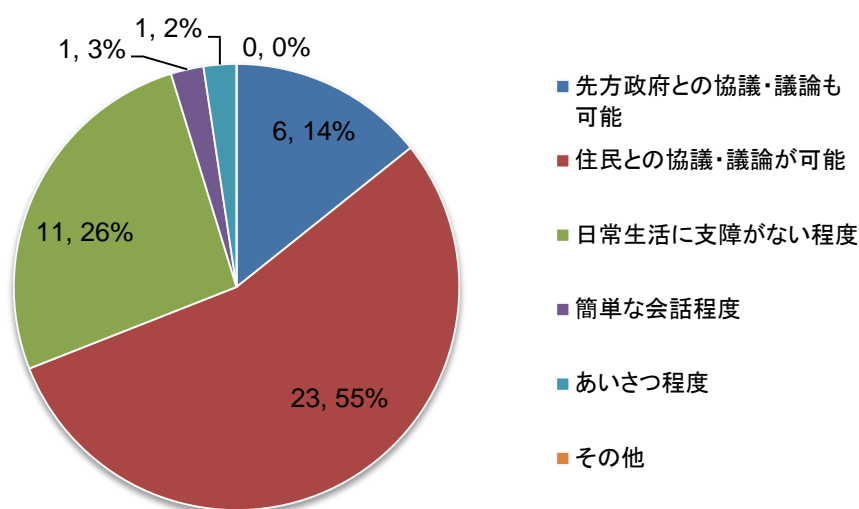
身につけた個人完結型スキルには、現状把握、計画・運営力、資金調達力、外国語運用能力が挙げられた。周囲を巻き込むスキルとして、外部者としてコミュニケーションをとる力、価値観が違う社会で他者と信頼関係構築する力、有力な協力者を見つけて共に行動する能力などが挙げられた。ただしこれは3職種を対象とした調査結果であり、他の職種については追加調査が必要である。

### 3.4.2 アンケート結果

#### (1) 現地語

現地語の習得は、報告書レビューからも JOCV 経験者がボランティア活動から習得したものとして挙げられているが、アンケートではその習得程度を質問した。自己評価であるが、「先方政府との協議・議論も可能」及び「住民との協議・議論が可能」とした者が回答者全体の8割

を超えた。「簡単な会話程度」と「あいさつ程度」と答えた者はそれぞれ1名しかおらず、JOCV 経験者は比較的高い現地語運用能力を習得しているといえる。

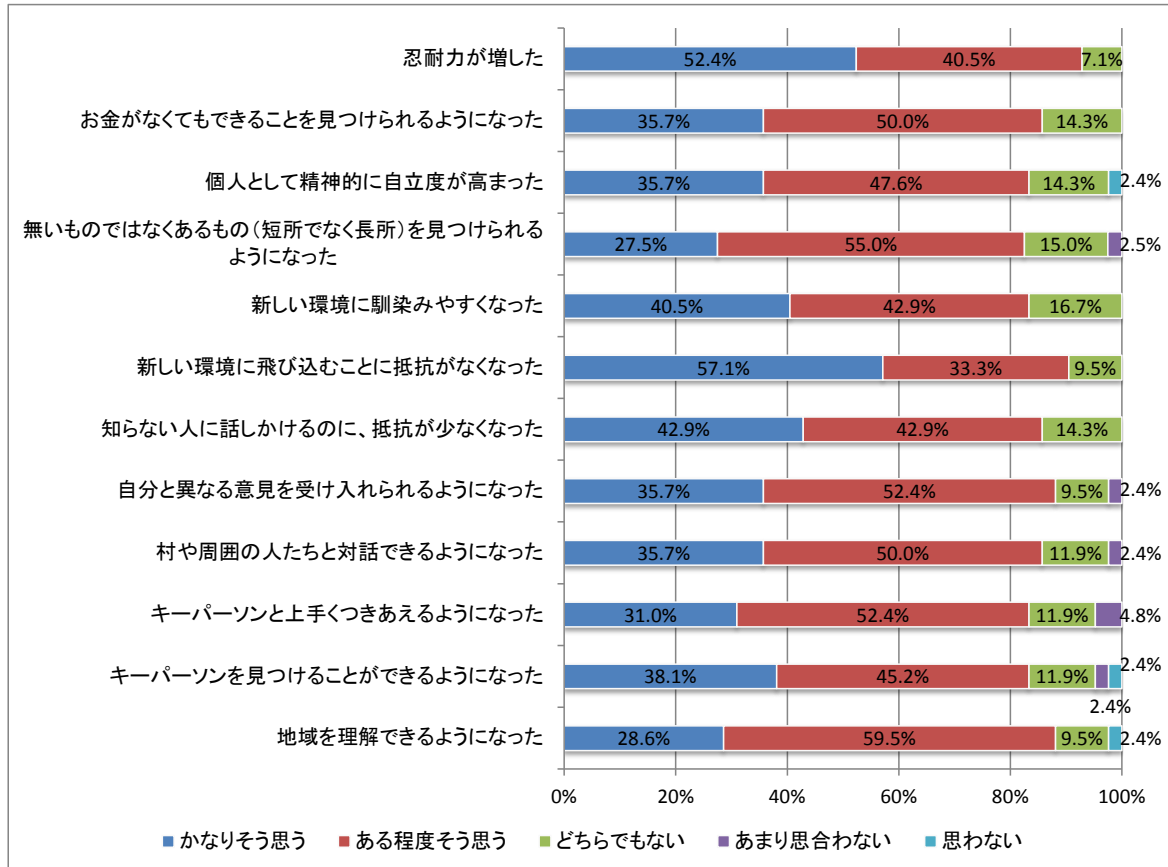


出典： アンケート結果より調査団作成

図 3.6 現地語の習得程度

## (2) 技量・能力

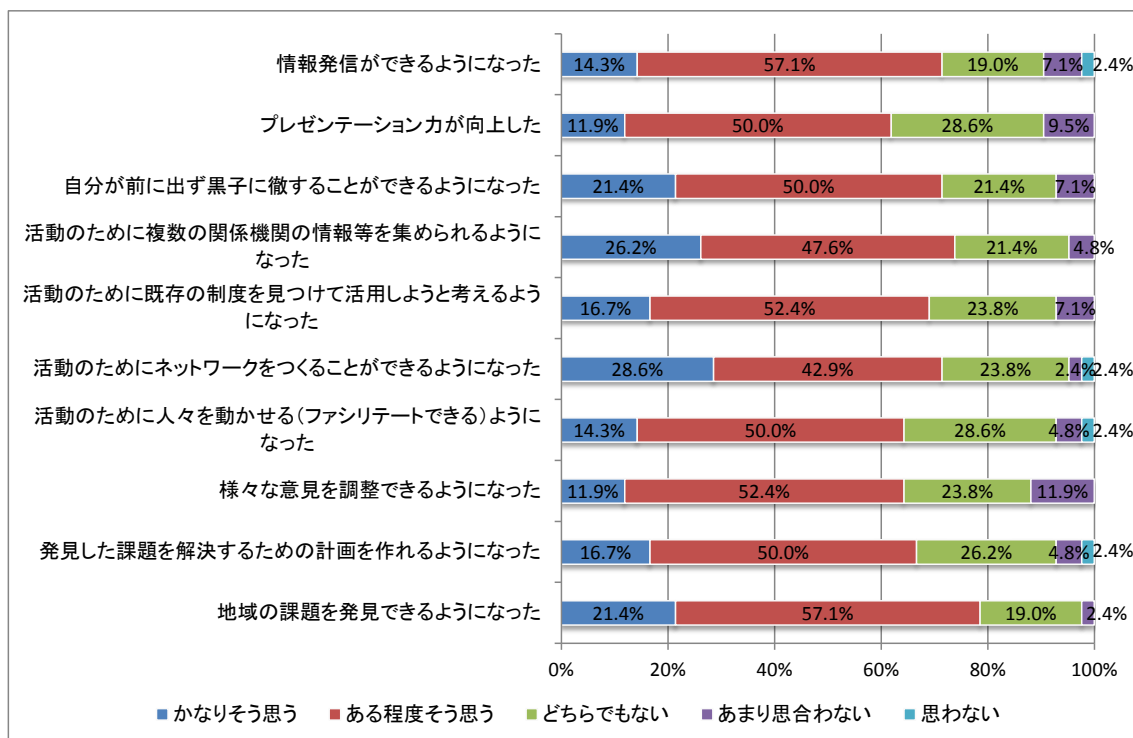
JOCV 経験者であるアンケート回答者が、海外でのボランティア活動より習得したと思う技量・能力についての質問に「かなりそう思う・ある程度そう思う」との回答者が8割を超えた項目を図3.7に示す。習得したとの回答者が多かった項目は、技術的なものよりも、異質な他者との付き合い方や対話能力、新しい環境への順応力・適応力などとなっている。記述回答にも「厳しいことを言われてもくじけなくなった」と答えた者もいた。JOCV 経験者個人の精神的な成長を実感している者が多かった。



出典： アンケート結果より調査団作成

図 3.7 JOCV の経験から身につけたとの回答が 80%以上の項目

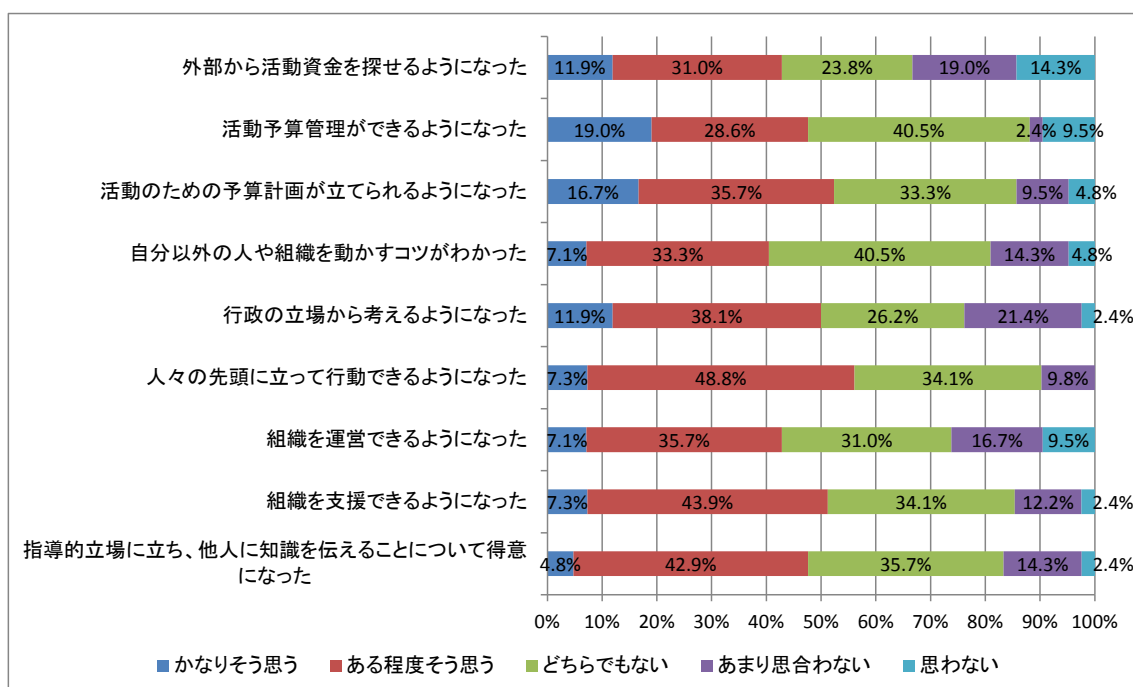
JOCV の経験から身につけたと「かなりそう思う・ある程度そう思う」の回答が 6 割、7 割台であり、「どちらでもない」の回答が 2 割前後であった項目を図 3.8 に示す。問題解決の計画や、意見調整、ネットワーク構築など地域の活動に関わる能力・スキルに係る項目が中心であった。



出典： アンケート結果より調査団作成

図 3.8 JOCV の経験から身につけたとの回答が 60%以上、80%未満の項目

一方、JOCV の活動経験から身につけたとの回答が比較的少なかった項目は、組織に働きかける技術、人を率いる能力、行政や予算計画管理に係るものであった。



出典： アンケート結果より調査団作成

図 3.9 JOCV の経験から身につけたとの回答が 60%未満の項目

### 3.4.3 インタビュー結果

JOCV で身に付けた力について、インタビューの結果は以下の通りである。アンケートの質問項目には生活の不便さについて問うものはなかったが、ヒアリングではその点についての発言があった。それ以外についてはほぼアンケートの質問項目と類似している。

表 3-17 JOCV 経験を通じて身につけたこと（インタビュー結果より）

カテゴリー1	カテゴリー2	身に付けた技量・知見
姿勢	能動	元々引っ込み思案な性格だったが、JOCV に行ってから積極的になった。新しいことにチャレンジできるようになった。
	受動	自分が当たり前と考えることを壊されることを、受け入れる度量を身に付けた。
		赴任地の同僚のプライドを傷つけるという失敗をし、そこから謙虚な気持ちを持つことを学んだ。 その地域や人に合わせるという技量が身についた。
スキル	自己完結	プライベートがない状況に耐えられるようになった。 不便なところでも苦にならずに生活できるようになった。 問題解決思考になった。
		「ないものはない」と開き直り、必要なものをどう埋め合わせるかという発想ができるようになった。
		周囲巻き込み

出典：インタビュー調査結果より調査団作成

## 第4章 地域活性化に活用可能な JICA ボランティアの経験・知見

---

### 4.1 国内地域活性化の課題と JICA ボランティアの知見

本章では、3章において整理した JICA ボランティアによる途上国での活動から得られた経験・知見が、2章における国内地域活性化の課題にどのように対応可能なかを整理するとともに、JOCV 経験者の国内地域活性化への活用の可能性についても整理する。

#### 4.1.1 過去の議論

##### (1) 主な先行事例

JICA ボランティアの経験を国内地域活性化に活かすという議題は本調査が初めての取り組みではなく、過去にも議論があった。代表的なものとしては、国際開発学会「日本の地域振興と国際協力」部会が 2009 年 5 月に主催した「地域づくり X 青年海外協力隊～開発途上国から日本の地域へ～シンポジウム」、青年海外協力協会 (JOCA) が 2009 年に実施した「日本社会の課題解決における海外ボランティア活動の有効性の検証」、そして、JICA 自身の取り組みとしては、2010 年の国際協力トークイベント「青年海外協力隊という選択」や近年の「日本も元気にする青年海外協力隊 (世界を元気にした人は、日本も元気にできる)」というキャッチコピーによる一連の広報活動が挙げられる。

##### (2) 視点と特徴

これまでの議論では、JOCV 経験者という人材を国内地域活性化に活かさないかという視点で、JOCV が現地の活動から学んできたことに注目するとともに、帰国後に実際に、国内地域活性化の現場で活動する JOCV 経験者に焦点を当てたものが多かった。すなわち、不特定多数の JOCV 経験者を網羅的に調べて教訓や知見の抽出をするというよりは、いくつかの個別の優良事例から教訓や知見を抽出し、国内地域活性化への JOCV 経験者の活用の可能性について議論するというものが主流であったと言える。

##### (3) 過去の議論から抽出された教訓・知見

前述の先行事例での議論から JOCV 経験者が途上国での活動から得た教訓・知見として、国内地域活性化にも活かせる可能性がある旨と指摘されているものとして、以下を挙げることができる。

表 4-1 過去の議論における教訓・知見

過去の議論から抽出された教訓・知見	国内地域活性化につながる切り口
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 住民の主体性を引き出す</li> <li>・ 黒子に徹する</li> </ul>	地元の人が主体的に取り組む
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 地域の資源や知恵を活かす、地域の素晴らしさや重要性を伝える</li> </ul>	地元にあるものを活かす
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 周囲を巻き込みネットワークを作る</li> </ul>	グループ間、組織間、世代間をつなげる
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「外部者」の視点</li> </ul>	外部リソースの活用
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ まず話を聴く</li> </ul>	外部者として地元住民と信頼構築

出典：先行事例及び活動報告書レビューより調査団作成

これらの教訓・知見については、本調査における JOCV 経験者の活動報告書レビューやアンケート調査、インタビュー調査の結果からも同様な教訓、知見が抽出されており、過去の議論の成果が、本調査による一定規模の定量的な調査からも裏付けられたということがいえる。

#### 4.1.2 国内地域活性化のチャレンジに対する JOCV の経験・知見

過去の議論を踏まえて、3章で見えてきた JOCV の途上国での行動から、日本の地域活性化に資する可能性のある経験・知見について、以下に論じる。ここでは、国内地域活性化につながる JICA ボランティアによる知見・経験を表 4.1 に示した切り口で整理する。すなわち、「地元の人が主体的に取り組む」、「地元にあるものを活かす」、「グループ間、組織間、世代間をつなげる」、「外部リソースの活用」、「外部者として地元住民と信頼構築」という切り口である。

これらの切り口で活動報告書レビューから抽出された JOCV 経験者の知見・経験を「添付資料 7 日本の地域活性化に役立つ JOCV の経験・知見」としてまとめた。また、その中から、各切り口について代表的なものを以下に示す。

表 4-2 地元の人が主体的に取り組む

確認件数	知見・経験
複数	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 外部者が黒子に徹すると、地元の人主体性が促される。</li> <li>・ 地元の人材を活かすと、活動が継続する。</li> <li>・ 定期的に活動の振り返りをする事で、質が向上する。</li> <li>・ 自分たちの村の情報が数値化されると、住民の意識向上に繋がる。</li> <li>・ 自分以外に誰もいないという状況になると、責任感が芽生える。</li> <li>・ 何度も繰り返し言い続けることで、意識変化が多少生まれた。</li> <li>・ 利益を出すことによって、やる気が継続する。</li> <li>・ 成功例を見て、それまでやる気のなかった人が真似をするようになった。</li> </ul>
1件ずつ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 何でも言い合える環境では、一人で思いつかないアイデアがでる。</li> <li>・ 問題を大枠でなく具体的に与えることによって、取り組みがより明らかになり主体的な意識も芽生える。</li> <li>・ 成果が目に見やすくと、達成感につながる。</li> <li>・ 役割を与えられると、責任感が生まれる。</li> <li>・ 問題の分析力を身に付けることによって、住民が役所に主張できるようになる。</li> <li>・ お金をかけなくても質を改善できる余地はあり、さらに続けられるというメリットがある。</li> <li>・ 何かを伝えるときには、地元の人から地元の言葉を使って伝えてもらった方が効果的</li> </ul>

出典：活動報告書レビューより調査団作成

表 4-3 地元にあるものを活かす

確認件数	知見・経験
1 件ずつ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域で容易に入手できる素材があれば、自主的に管理しようとする意識が生まれ実施に結びつく。</li> <li>・観光客を受け入れようとする、環境に目覚めたり、村の特産について考えるようになる。</li> <li>・観光客がくると自分たちの地域を意識するようになる。</li> <li>・多忙な状況を理解しないまま、新たな活動を促すのは難しい。</li> <li>・簡単な作業はハードルが低く取り組まれやすい。</li> </ul>

出典：活動報告書レビューより調査団作成

表 4-4 グループ間、組織間、世代間をつなげる

確認件数	知見・経験
1 件ずつ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・やる気のあるグループの交流を促進することにより、主体的に学ぶ姿勢が引き出された。</li> <li>・目的のために民間と役所が会する場を設けることにより、活発な意見交換に発展し、民間の自助努力がさらに促進された。</li> <li>・2つの対立するグループに、頻繁に会うように働きかけたところ、自主的な行き来に繋がった。</li> <li>・キーパーソンを仲介にしたら、その人が持っているネットワークともつながり活動が広がった。</li> <li>・他の成功例を知ることで、自分たちのグループの改善につながる。</li> </ul>

出典：活動報告書レビューより調査団作成

表 4-5 外部リソースの活用

確認件数	知見・経験
複数	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ワークショップ等参加型で地元の人が自ら気づきを得る手法を導入した。</li> </ul>
1 件ずつ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・外部リソースを活用することにより、大きな規模の活動になった。</li> <li>・外部団体との横の関係を作った。</li> <li>・正しい知識を持った人からのアドバイスを活かすことで、正しい行動がとれる。</li> </ul>

出典：活動報告書レビューより調査団作成

表 4-6 外部者として地元住民と信頼構築

確認件数	知見・経験
複数	<ul style="list-style-type: none"> <li>・戸別訪問することにより、信頼と情報を得られる。</li> <li>・相手を理解しようと努めると、よい関係が築ける。</li> <li>・キーパーソンに味方になってもらうと、効果がやすい。</li> <li>・地元の人と一緒に行動することで、信頼を得られる。</li> </ul>
1 件ずつ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・交流が生まれると、興味をもってもらえる。</li> <li>・状況を理解しないと、必要のない物を提供してしまう。</li> <li>・目線を同じ高さにしたら、仲間として受け入れられる。</li> <li>・意見交換や、サポートする姿勢を示すことで、信頼を得る。</li> </ul>

出典：活動報告書レビューより調査団作成

JOCV の経験・知見で一番多く得られたのは、「地元の人が主体的に取り組む」ために必要な行動についてである。この中で特に「外部者が黒子に徹すること」「地元の人材を活かすこと」「定期的に振り返ること」「情報を数値化すること（意識喚起されやすい形で情報を提供すること）」などは、報告書に多数記載され、後述する地方自治体が地域活性化に期待する人材の要件を考えると、日本の地域活性化にも有効な手段といえる。また、外部者が地域活性化に携わる場合には、「外部者として地元住民との信頼構築」の中で複数の事例があった「戸別訪問」「まずは相手を理解すること」「キーパーソンに味方になってもらうこと」などは、国を問わず、「外部者」がコミュニティ活動に従事するに際して、その入り口において基本となる知見と言える。



他方、「地元にあるものを活かす」という知見については、過去の議論で指摘されてきたほどには本調査からは優良な事例を多数発掘することは叶わなかった。これは、地元にある農産物などの資源を活かすということは、農林水産等の専門技術がある場合は、発見がしやすいという側面があるが、対象3職種の場合、コミュニティ活動での外部者としてのファシリテーションという意味では強みがあるが、具体的なモノづくりレベルの活動となると強いわけではないことが推察される。実際に、JOCV 経験者に対するアンケート調査結果からも、派遣前に特定の技術を知っていたら、もっと地元の資源を活用した活動ができたかもしれないという意見は少なからずあった。

以上のように外部者として途上国でコミュニティ開発活動をしてきた JOCV の経験・知見を整理すると、2章で述べた国内地域活性化の課題に関わる視点と下表のように対応している。

表 4-7 国内地域活性化の視点と JOCV の知見・経験

JOCV の知見・経験	国内地域活性化の課題に関わる視点
地元の人が主体的に取り組む	・住民は危機意識を持っているか、「茹で蛙」になっていないか。 ・地域おこしのアイデアや行動は内発的なものであるか。
地元にある物を活かす	・ニーズとアクションのマッチングはできているか。 ・地元にもともとあるものを活かしているのか。
グループ間、組織間、世代間を繋げる	・活動を支えるソーシャル・キャピタルは存在するか。 ・異なるグループ間での連携の素地はあるか。 ・目標に向かって、役割を決め、それぞれの役割を果たしているか。
外部リソースの活用	・ファシリテーター役はいるか（「外部者」は候補者か）。
外部者として、住民との信頼構築	・「外部者」はコミュニティと信頼を築けているか。

出典：調査団作成

このことから、本調査で抽出された JICA ボランティアの経験・知見については、「外部者」が国内地域活性化に従事する際に有用であると言える。ただし、農産加工品の開発や観光商品の開発など、特殊技術を使った地域活性化に関わる経験・知見というよりは、より基本的なところでの、地域における内発的発展を手助けするためのヒントになるものと考えられる。

## 4.2 地域活性化活動で求められる能力と JICA ボランティアへの期待

以上、国内地域活性化につながる JICA ボランティアの経験・知見について整理してきたが、ここからは実際に、日本国内の地域活性化で自治体等が求めている活動従事者の能力について、インタビュー調査の結果も踏まえてレビューし、JICA ボランティア経験者への期待について整理する。

### 4.2.1 日本と開発途上国の相違点・類似点

本調査では、コミュニティ開発隊員の開発途上国での活動事例から日本国内の地域活性化へ資する知見を調査するが、対象となる地域の相違点と共通点を認識して進める必要がある。日本の地域活性化の主要な対象となっている「地方地域」と、開発途上国におけるコミュニティ開発隊員の主な活動対象地域である「村落地域」ではそれぞれ表 4-8 のような特徴がある。

表 4-8 日本と開発途上国の地方地域の特徴と共通点

日本の地方地域の特徴	途上国の村落地域の特徴	共通点
過疎(人口減少) 少子高齢化	統治能力・行政能力不足 社会基盤・社会サービス未整備 教育等での大きい男女格差	地理的不利 財政不足 必要な人材の都市への流出 限られた就業機会

出典：調査団作成

行政が機能していないことやインフラが絶対的に不足していることなど、途上国独特の制約要因もあるが、日本の地方地域と開発途上国の村落地域の共通点（地理的不利、財政不足、都市への人口流出、限られた就業機会等）が挙げられる。ただし発現している問題が同じ、若しくは似ている場合でも、その原因は多様であることもあり得るため、実際にマッチングを検討する際には、それぞれの地域の実態を十分に把握する必要がある。

#### 4.2.2 総務省が期待する地域開発人材

総務省は、地域活性化のためには人材力活性化が重要な柱の一つと位置づけている。平成 23 年 3 月発刊の「人材力活性化プログラム」（人材力活性化研究会）によると、総務省が考える必要な人材は以下の通りである。

表 4-9 総務省が期待する地域開発人材

必要な人材	説明
1. 多様な個々の人材	地域に暮らす 1 人 1 人がそれぞれに役割を得て、やりがいを感じながら活動する。
2. リーダーの役割を果たす 様々な人材	「地域をよくしたい」という情熱と信念を持った人材、地域住民の様々な意見を引き出し、まとめあげることができる人材。
3. リーダーを支える人材	能力・世代などが多種・多様な、主体的に行動できる人材、水平性・公平性を保ち、意見を言いあぐねている人をサポートできる人材。

出典：人材活性化研究会 「人材活性化プログラム」平成 23 年 3 月

また人材活性化に向けた 3 つの柱として、1) 個々の人材力の育成強化 2) 人材力の相互交流とネットワークの強化 3) 人材を補完するための外部人材活用に対する支援、を挙げており、本調査に大きく関係する「地域おこし協力隊」は、3)に該当する。外部人材活用については「外部者」は受け入れがたいと考える地域もあるが、総務省は「外部者」だからこそ地域で当たり前だと思っているものを新鮮な目で見ることができ、これまでになかった住民同士のつながりを作ることができる、という面からその活用に力を注いでいる。外部人材活用が成功するためには、外部人材を受け入れる側は準備とフォローを十分行うこと、外部人材側はその地域固有の習慣や人間関係を大切にしながら、地域の人々とコミュニケーションをとり活動を進めていくこと、が必要と提起している。

#### 4.2.3 農林水産省が期待する地域開発人材

農林水産省のホームページでは、地域活性化のために必要な人材についてのまとまった記載はない。紹介されているのは、「地域活性化に関する人材情報（都道府県順）」という表で、氏

名、所属、概要（専門分野や経歴）などがリスト化されており、支援できる分野がカテゴリーわけされている。カテゴリーには、①地域活性化伝道師、②地域人材ネット、③観光カリスマ、④グリーンツーリズム人材データベース、⑤ふるさと子供交流アドバイザー、⑥バイオマスタウンアドバイザー、があることから、農林水産省はこうした分野を地域活性化の糸口としていと推察される。

#### 4.2.4 中国地方（自治体、民間）が期待する地域開発人材

本調査の対象地域のうち、中国地方の自治体及び地域おこし関係者に対してインタビューを実施した<sup>34</sup>。その結果は以下の通りである。

##### (1) インタビュー対象

本調査でインタビューを行った対象者を、自治体とそれ以外に分けて表 4.10 及び表 4.11 に示す。

表 4-10 中国地方における調査対象自治体

	県	部署
1	広島県	広島県 地域政策局 過疎地域振興課
2	〃	世羅郡世羅町 役場産業観光課未来創造支援係
3	〃	廿日市市 地域づくりグループ
4	〃	山県郡安芸太田町 地域づくり課
5	岡山県	岡山県 県民生活部国際化国際交流貢献班
6	〃	真庭市 市役所 総合政策局 総合政策課、バイオマス政策課
7	〃	美作市 市役所 企画振興部協働企画課
8	鳥取県	鳥取県 鳥取未来づくり推進局鳥取力創造課、 地域振興部とっとり暮らし支援課、文化観光局交流推進課
9	〃	智頭町役場 企画課 商工観光室
10	島根県	島根県 地域振興部しまね暮らし推進課、島根県環境生活部文化国際課
11	〃	雲南市 政策企画部地域振興課
12	〃	海士町 産業創出課、総務課
13	山口県	周防大島町 総務部政策企画課

注) 各自治体で複数人と面談したケースも、1と数える  
出典：調査団作成

表 4-11 中国地方における自治体以外の調査対象

県	対象者数	うち地域おこし 協力隊	うち 元 JOCV
広島県	6	3	1
岡山県	2	1	1
鳥取県	2	1	1
島根県	6	2	1
山口県	3	0	0
合計	19	8	4

出典：調査団作成

<sup>34</sup> 中国地方に加えて、九州地方の熊本県芦北町における調査を実施した。九州での調査は、包括的に各県で現地調査を実施した中国地方のものとは異なりあくまでもサンプル的な調査であるため、集計結果には含めていない。

**(2) 地域おこしに係る姿勢・スキルについて**

インタビュー結果を集計し、地域おこしに必要な能力については、大きく「姿勢」「スキル」の2つにわけた。また、「海外経験者」についても頻繁に言及があったため、JOCVに深く関わることもあり別建てとした。それ以外で有用と思われるものについて「その他」に組み入れた。

インタビュー結果の整理に当たっては、以下の3カテゴリーとして整理した

- ・「地域おこしに関わるもの」: 活動を行う側の視点から、外部者・内部者を問わず、「地域おこし」に係る姿勢・スキルについて
- ・「外部人材・I ターン」: 外部人材を受け入れる側の視点(地元行政や住民)から、外部人材や移住に対するコメント・見方等について
- ・「地域おこし協力隊」: 地域おこし協力隊に特化するもの

**1) 求められる人材の姿勢**

地域おこしに関わる人材が持つべき姿勢と考えられているものの中で一番多いのは「自分のしたいことと、地域で求められていることのバランスをとる」という内容であった。それ以外を能動性(自分で動く、明確なビジョン、他)と受容性(粘り強さ、黒子になる、他)に分けると、能動性が13、受容性が19となり、後者の方が多かった。

表 4-12 地域おこし人材に求められる姿勢

内容	自治体	自治体以外	合計	分類
自分のしたいことと、地域で求められていることのバランスをとる	2	4	6	
自分で動く	2	2	4	能
粘り強さ	3	1	4	受
人の話を聞く	1	3	4	受
親和性、順応性	1	2	3	受
地域を好きであること	1	2	3	能
熱意、想い	2	1	3	能
黒子になる	1	1	2	受
自分の問題意識を控えめに	2		2	受
言いたいことがあってもすぐに言わない	1		1	受
折れない心		1	1	受
協調性	1		1	受
計画通りにいかないことを受け止める	1		1	受
前向き	1		1	能
明確なビジョン		1	1	能
リーダーシップ	1		1	能
合計			38	

注) 各自治体・それ以外で複数回答があった場合はそれぞれを数えた  
出典: インタビュー結果より調査団作成

## 2) 求められる人材のスキル

地域おこしのために求められる人材のスキルについては、下表の上位2つ、すなわち調整力とコミュニケーション力を合わせると11となり、全数23のうちほぼ半分を占めることから、最も重要な能力であることがわかる。

表 4-13 地域おこしに求められるスキル

内容	自治体	自治体以外	合計
調整力	2	5	7
コミュニケーション力	1	3	4
地域の人の気持ちをひきだす、まとめる	1	2	3
バイタリティ	1	1	2
広報		1	1
パソコン		1	1
人ときちんと接する		1	1
味方を作る		1	1
所得向上を目指すなら、発想力、経営力	1		1
コーディネーターなら、企画力、想像力、繋げる力	1		1
起業するなら1から自分で立ち上げる自信、計画力、リスク管理能力		1	1
合計			23

出典：インタビュー結果より調査団作成

## 3) 海外経験者について

海外経験者が地域活性化に関わること、またIターンとして移住することについては、受け入れる地域側は概して肯定的であった。

表 4-14 海外経験者への印象

カテゴリー	内容	自治体	自治体以外	合計
海外経験者に対するイメージ・印象	新鮮な視点を持っている	1		1
	コミュニケーション力高く、問題意識高い	1		1
	視野が広い	1		1
	地方に入る心構えがある		1	1
自らの海外経験を通じて得たもの	(自らの海外経験を通じ)遅くなった、日本の価値の再発見できる、物事に動じなくなった		1	1
合計				5

出典：インタビュー結果より調査団作成

## 4) その他（望まれる属性）

移住してきた場合に受け入れられやすい、あるいは期待される移住者像として、若者、丈夫な人、女性などの意見があった。

表 4-15 期待される移住者像

内容	自治体	自治体以外	合計
若者	2	2	4
可愛がられる	1		1
元気な定年退職者	1		1
健康で体力がある	1		1
女性	1		1
若い女性		1	1
若い農業者		1	1
合計			10

出典： インタビュー結果より調査団作成

いずれの地域でも近い傾向のインタビュー回答がえられたが、これらの期待される移住者像とはすなわち、地域住民が受け入れやすいタイプの人、高齢化が進む地域で実際の働き手になる人、また、地域の活気を生み出す子供を産み育てる（＝定住）人々が求められている。

### (3) 外部人材、I-ターンについて

#### 1) 外部人材の移住、登用について

JOCV が地域おこしのために地域に入っていくことは、そのほとんどの場合、外部者として赴くことになる。そのため外部人材の活用について自治体は積極的か否か、また地域の人々は外部人材に対してどのように感じているのかについて、以下の通り考察する。

まず、外部人材登用やIターン者の移住については、自治体としては圧倒的に積極的であった。消極的な意見は「今まで外部人材を必要と考えたことはない、隣町で別地域から来た NPO が活動しているが、地元との折り合いが良くないと聞いている」の1件のみであった。

表 4-16 外部人材の登用・移住について

取り組み姿勢	自治体
積極的	10
消極的	1
どちらでもない、その他	2

出典： インタビュー結果より調査団作成

#### 2) 外部人材への印象

外部人材にはいろいろな定義がありえるが、「外からの視点を有する人材」とし、ここでは自発的に他地域から入ってきた人（Iターン）、一旦地元を出て生活し戻ってきた人（Uターン）、結婚を機に配偶者に同行して移住してきた人や祖父母の住む場所に移住してきた人等（Rターン<sup>35</sup>含む）等を含むこととする。

外部人材の印象は、概ね肯定的であり、総務省の「『外部者』であるからからこそ地域で当たり前と思っている物を新鮮な目で見ることができると」という考えに通じる。また、活発に地域活動を行っているのは外部人材であることが多い、という意見もあった。

<sup>35</sup> 先祖の出身地である等ルーツのある土地に帰ってくること

表 4-17 外部人材の印象

コメント	自治体	自治体以外	合計
地域活動が活発な人は外部経験がある人（Iターン、Uターン、結婚などを機に移住他）が多い	3		3
地域を客観的にとらえる	1		1
地域で当たり前のことに価値を見出す		1	1
新しいことを提案できる		1	1
Uターン者に比べてIターン者の方がアイデア豊富	1		1
Iターン者を活用したら、Iターン者の出身地域と繋がる機会ができる	1		1
合計			8

出典： インタビュー結果より調査団作成

### 3) 外部人材が地域に受け入れられやすい環境、受け入れられやすい外部人材の資質

受入地域の人口規模が小さいあるいは減少している地域については、「受け入れられやすい」と「そうでない」という両面の意見があった。

表 4-18 外部人材が受け入れられやすい環境、外部人材の資質等

コメント	自治体	自治体以外	合計
人口が少ない、あるいは減少し、状況が厳しい地域である	2		2
人口規模小さいと「外部者」への抵抗が大きい	1		1
地域おこし協力隊枠で入ると、受け入れられやすい	1		1
着任時に周囲に挨拶をする	1		1
協調性がある人 <sup>*1</sup>	1		1
女性 <sup>*2</sup>		1	1
合計			7

\*1「求められる人材の姿勢」の節にも「協調性」があるが、これは積極的に地域おこしに係る人材についてのコメントであったためそちらに入れた。他方こちらは「地域から受け入れられやすい外部人材」についてのコメントであったため、こちらの表に入れている。

\*2 同上

出典： インタビュー結果より調査団作成

また、正式なインタビュー結果として得られたわけではないが、調査団が様々な立場の人々にインタビュー調査を進める中で見てきたのは、地域で受け入れやすい外部人材の最たるものは、その土地の人（特に名士）と親族関係にある人ということである。地域では、2章で述べたが「知らない人に家・土地を貸したくない」という意見に代表されるように、知らない人間に対する警戒心が高い傾向があるが、元から信用のある人の親戚であることで信用が担保され、地域住民の「知らない人間」に対する警戒心や障壁が緩まると推察される。本件調査では、こういった人物の場合は、起業の際に周囲の協力を得やすい状況にあるケースが見られた。

### 4) その他

その他、主に単独のコメントではあるが、地域おこしの面から有用と思われるコメントを示しておく。外部から来る人物に対する地元住民の反応は肯定的・否定的の両方がある。

表 4-19 外部人材についてその他コメント

	内容	自治体	自治体以外	合計
地元の人との関係 (積極的)	交流することで良い効果が生まれる	1		1
	Iターンは新しい風、Uターンは後継者		1	1
(消極的)	疎外感を感じている地元の人もある		1	1
	Iターン者がUターンや地元の人よりも優遇されている		1	1
	表面上は排他的でないが、行き違いがあると戸を閉める		1	1
(その他)	警戒されることもあるが、外部人材は必要ということは地元の人も理解している		1	1
	地元の人への外部者への目は冷静		1	1
外部人材への期待	経済的に自活できる人			0
	長く住んでほしい	1		1
	リーダーシップ		1	1
	その土地を好きなこと、それを発信すること		1	1
	地域に溶け込むこと		1	1
移住者の傾向	東日本からの移住が増加している	1		1
	お金よりも場所と人で決める	1		1
合計				13

出典： インタビュー結果より調査団作成

## (4) 地域おこし協力隊について

地域おこし協力隊制度を利用することで、各自治体はある程度自分たちが必要とする人材を能動的に配置することができる。実際に中国全5県で地域おこし協力隊が活動している。募集に至った具体的な背景・理由については、市町村様々であった<sup>36</sup>。活動のパターンとしては、地域おこし協力隊に対して、1) 行政側が具体的な役割を与えている、2) 隊員の自由裁量に任せる・あるいは決まっていない、に二分できる。

表 4-20 地域おこし協力隊募集の背景

パターン	募集背景
1	移住者同士や移住者と町民のつながりが弱く、定住に結びつかない事例が散見されたことから、定住者の横のつながりを強化する情報発信の必要があったため、事務局を構え、地域おこし協力隊を募集した。
1	町が地区に活性化マスタープラン作成を呼びかけ、作成された地区に地域おこし協力隊を導入した。外部支援と内部からの押上げを合わせる、という趣旨で外部人材を登用。
1	地元の人が集まり棚田再生を試み、そこに(その支援として)協力隊を入れた。
1	地域の課題を調査するために協力隊を入れた。地域住民に行政が尋ねても課題を引き出しにくいから。
2	他に地域おこしへの牽引力がなかったので協力隊を入れた(活動内容は自由裁量に任せる部分が多い)。
2	市から地区に提案されて実際に人員が配置された。地区側は活動について特にアイデアはなかった。

出典： インタビュー結果より調査団作成

## (5) まとめ

以上から、地域おこしに必要な能力については以下のように要約できる。

<sup>36</sup> 制度の内容や課題、あるいは地域おこし協力隊の活動内容の詳細については本調査の目的ではないのでここでは示さない。



まず、個人の技能よりも「周囲としっかり関わる」能力がより重要である。サンプル数は少ないが、自治体・民間関係者の両者ともに、スキルよりも姿勢に関する言及が多かった（姿勢 38、スキル 23）<sup>37</sup>。求められる姿勢については、積極性と受容性のバランスを取ることであるが、どちらかという受容性の方に重きが置かれていると言える。また、スキルについても「調整力」「コミュニケーション力」が回答のほぼ 5 割を占め、個人で完結する特殊な技能というよりも、周囲の人としっかり関わっていく能力が重視されている。

外部人材については積極的に受け入れが推奨・実施されている。地域には外部人材の登用に対して反発する人もいるが、多くの自治体において、活用の濃度・方法は様々であるが（助言をもらう、定住促進など）、いずれにしても外部人材を取り込もうとしている。

海外経験者に対しても肯定的であり、海外経験によって培われたであろう視点の広さや精神的な逞しさなど、地域おこしに有用な素地を持っていると判断されている。

また、自治体によって状況は異なり、さらに時期・時点によって、来てほしいと考える外部人材像は異なる。特殊技能が必要なケースもあれば、なくても歓迎されるケースもある。例えば、農家レストランを始めるための調理師を探しているケースでは、調理師免許を有する特殊技能者を必要とし、前者に相当する。一方、「このままでは何も起こらないので、外部人材に来てもらって何か新しいことを始めてほしい」というケースでは特殊な技能は必要とされず、むしろ地域に対する興味や意欲のある人材が必要とされる後者のケースとなる。

#### 4.2.5 JICA ボランティアに対する行政（中央政府・地方自治体）の期待等

##### (1) 中央：総務省

総務省は、地域活性化に必要な具体的な人材は地域ごとに異なり、人材の活用については各市町村が主体性を持って行うもの、と考えている。地域おこし協力隊の募集についても、地域の課題や必要な人材について吟味し募集をかける主体は市町村であり中央は関与しない。JOCV については、例えばある市町村が海外経験者を希望するのであれば、JOCV はその要件を満たすかもしれない、との意見であった<sup>38</sup>。

##### (2) 中国地方：広島、岡山、島根、鳥取、山口

JOCV に対する中国地方の関係者の期待等については、4.2.4 (2)と同様の対象者へのインタビュー結果に基づくものと、アンケート結果に基づくものがある。

##### 1) JOCV に対する印象・イメージ

インタビュー対象者が JOCV に対して持つ印象・イメージについて、回答を 4.2.4 と同様に、姿勢、スキル、その他 に分類した。

---

<sup>37</sup> ヒアリングを実際に行ったコンサルタントも会話を通してその印象を強く持ったので、それと一致する結果となっている。

<sup>38</sup> 総務省地域創造グループ人材力活性化・連携交流室へのインタビュー

表 4-21 JOCV 経験者のイメージ&lt;姿勢&gt;

印象・イメージ	自治体	自治体以外	合計
遅しい	3		3
意欲ある	2		2
好奇心強い	1	1	2
想いは様々	1		1
問題意識を持っている	1		1
臨機応変	1		1
志が高い		1	1
想いが強い（情熱がある）		1	1
お客さん扱いを望む（注）	1		1
合計			13

注：地域おこし協力隊として入ってきたが2ヶ月で辞職した事例

出典： インタビュー結果より調査団作成

表 4-22 JOCV 経験者のイメージ&lt;スキル&gt;

印象・イメージ	自治体	自治体以外	合計
コミュニケーション能力が高い	2		2
語学堪能	1	1	2
新しい発想がある	1		1
順応力が高い	1		1
地域おこし協力隊と似ている	1		1
合計			7

出典： インタビュー結果より調査団作成

表 4-23 JOCV 経験者のイメージ&lt;その他&gt;

	印象・イメージ	自治体	自治体以外	合計
肯定的	地域活性化に役に立つのではないか		3	3
	行政で役立つかもしれない	2		2
	好印象	2		2
	頼りになる		1	1
	大変なところで素晴らしい経験をしてきた		1	1
肯否なし	良く知らない、わからない	3		3
	海外志向	1		1
	若い	1		1
	出発前は不安、帰国後満足感	1		1
	人それぞれ		1	1
合計				16

出典： インタビュー結果より調査団作成

まず姿勢については、「遅しい」「意欲ある」「好奇心強い」など、忍耐力と積極的なイメージが強い。スキルについては語学以外では「コミュニケーション能力が高い」、「新しい発想（ができる）」「順応力が高い」というコメントがあり、新しい場所で人とのかかわりを持つ力、というイメージと言えるかも知れない。その他では少し漠然としているが、「地域活性化に役立つのではないか」「行政の立場で役立つのではないか」という意見が多く、「よく知らない、わからない」も複数回答があった。

注意しておきたいのは、日本の中山間地域では、JOCV とその活動について、名前以外何も知られていないことが往々にしてあるということである。インタビュー対象者によっては JOCV 経験者と会ったこともなく、JOCV に対するイメージそのものがない人もいる。例えば、「言

葉も通じない海外へ行くとは勇気がある、余程やる気にあふれているのだろう。自分にはできないし、想像もできない。」といった意見も聞かれたことから、上記のイメージは必ずしも実存の JOCV 経験者のイメージではなく、「単身で海外に行く若者」（＝少し普通ではない人）というレベルのものも含まれていることには注意する必要がある。

## 2) JOCV の活用度

JOCV は JICA 国際センターを通じて出身県に挨拶・表敬に行くことが通例となっている。挨拶・表敬は義務ではなく、中国地方の場合は中国国際センターが県や市と連絡をとり、自治体側は知事、副知事、市長などが応対し、その場に JOCV 関連の部署の担当者が同席するのが通常のようなものである。自治体側はそうした機会を通じて JOCV と接することになるが、アンケート・ヒアリング結果ともに、出身県が積極的に JOCV を活用している様子は伺えなかった。なお、ヒアリングのサンプル数が他の節に比べて少ないのは、自治体のヒアリング対象者の多くが JOCV の担当ではなかったことに起因している。

自治体が、地域活性化人材となるかもしれない JOCV に対してとっているアプローチについて以下に述べる。JOCV は通例、派遣前後に居住している自治体に表敬に赴く。その際に自治体から発せられている期待やメッセージについて、アンケートとヒアリングの結果を以下にまとめた。

### アンケート結果

「地元の自治体や支援団体から何か『こういうことを期待する』というようなコメントがありましたか」という質問に対して、「あった」は 10、「なかった」は 20 であった。具体的なコメントと期待されていたと考えられる内容を以下に示す。

表 4-24 自治体からのコメント、あるいは期待されていたと考える内容

内容
JOCV の活動以外にも世界を感じ、帰国後に日本に還元・共有すること
日本の地域で活躍すること
日本または地域での国際協力及び環境保全に活かしてほしい

出典： アンケート結果より調査団作成

### インタビュー結果

ヒアリングでは自治体の JOCV へのアプローチについて、少し掘り下げて具体的な内容を聞き取ることができた。結果は以下の通りである。

表 4-25 表敬時に自治体から JOCV に伝えていること

内容	自治体	自治体以外
派遣前の挨拶は、JICA 中国から連絡が来て副知事が対応する。健康で活躍するよう激励している。県側から連絡することはない、戻って来てからの要望などは言及していない。	1	
頑張ってきてください、県の広報をお願いします、ということ伝えている。	1	
JOCV 派遣前後は市に報告に行った。地域のために戻って来てほしい、というメッセージは、帰国後報告時に言及があった。		1 (元 JOCV)

出典：インタビュー結果より調査団作成

表 4-26 派遣中、派遣後の自治体と JOCV との関わり

内容	自治体	自治体以外
JOCV には県の大使を委嘱する。広報は義務ではない。個人的に堅調にレポートを提出する JOCV もおり、そこに県の宣伝をしたことが時々書かれてある。	1	
県の国際協力大使として任命。県政便りを年 2 回、イベントのチラシ、県情報のある新聞の送付をしている。	1	
義務付けはしていないが JOCV からレポートが時々届く。県の HP に掲載する。	1	
帰国後の活用はフォローしていない。	1	

出典：インタビュー結果より調査団作成

表 4-27 就職のマッチング

内容	自治体	自治体以外
地域振興活動と JOCV 帰国隊員のマッチングは行っていない。	1	
海外でやってきたことと、県が求めていることがマッチングするのは疑問。JOCV は海外志向が強い。	1	
帰任者のスキルについてデータベースがあると、仕事とマッチングできるかも（実際にはない）。	1	
同期の JOCV を見ていると、帰国後の進路が決まらない人が多い。JICA の進路カウンセラーは、求人情報は提供するが十分な支援をしてくれるわけではない。		1 (元 JOCV)
協力隊を育てる会、JOCV 就職カウンセラーなどが存在するが、彼らは情報は持っているがマッチングが不十分。		1 (元 JOCV)

出典：インタビュー結果より調査団作成

サンプル数が非常に少ないためこれらから読み取れることは限られているが、傾向としては、1) 地域おこしという側面から、自治体の帰国した JOCV へのアプローチは必ずしも積極的とは言えない、2) 同様に JOCV 関係機関（JICA 中国、JOCA 他）からも、JOCV の国内での地域活性化での活用や就業のマッチングについて、積極さが観察できないように見える。前節の JOCV への印象やイメージは比較的好ましく、地域おこし人材として期待されてもよいはずだが、実際の活用の動きは、今回のヒアリング結果からは見られない。

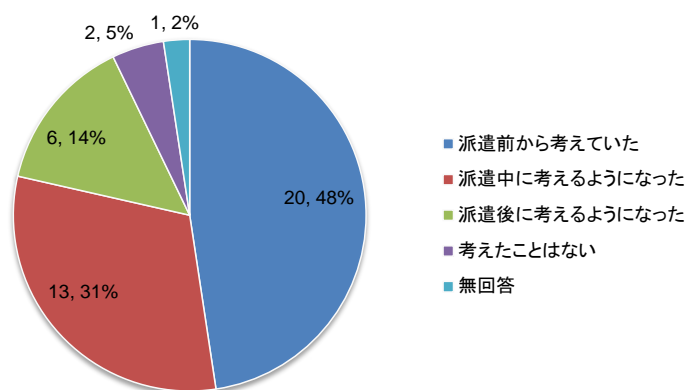
## 4.3 国内地方活性化への JICA ボランティア経験者活用の可能性

### 4.3.1 帰国後の隊員の活動

#### (1) 帰国後の国内地域での活動

派遣前から日本の地域に関わる活動に関心があったとアンケートに回答した者は下図に示すように全体の 48%であった。JOCV となる者は海外志向であると言われることが多いが、海外だけでなく国内へも関心が高い者が多いと言える。他方、残りの 45%が JOCV 派遣中及び派遣後に日本の地域に関わる活動を行うことを考えたと回答している。JOCV 経験が、海外志向で

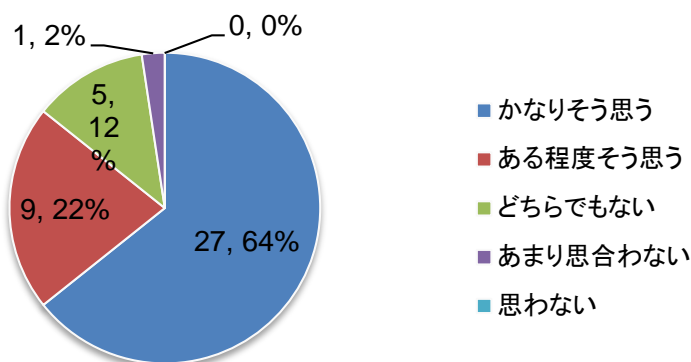
あった者を日本国内の地域にも目を向けさせた可能性が高い。派遣前・中・後を合わせるとアンケート回答者 42 名のうち 9 割以上の者が JOCV 帰国後に日本の地域に関わる活動を行うことを考えたとの結果となった。調査対象職種の JOCV 経験者は海外のみならず国内の地域活動にも関心を持つ者が多いと言える。



出典： アンケート結果より調査団作成

図 4.1 地域活動への関心

聞き取り調査でも JOCV として海外に派遣されてから地域おこしや田舎暮らしに関心が芽生えたと答えた者がいた。アンケート結果からは海外でのボランティアの経験から日本について知りたいと考えるようになった者が 8 割を超えており、JOCV の経験が日本に対しての関心を高め、更に日本での地域活動にも関心を向けるきっかけとなっていることが窺える。



出典： アンケート結果より調査団作成

図 4.2 JOCV の経験が日本への関心を高めたか

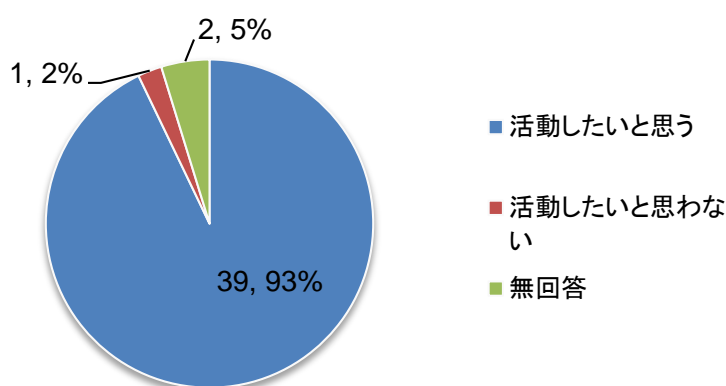
アンケートに回答した JOCV 経験者のうち、帰国後実際にボランティア等として地域活動に参加した者は 8 割を超え、下表に示す地域での活動を実施していた。地域活動に携わっていない者は、帰国後の仕事の関係で時間が取れないという回答が複数あった。時間的制約がなければ、JOCV 経験者は地域活動を活発に実施するアクターとなり得る。

表 4-28 帰国後のボランティアとしての地域活動状況（複数回答）

帰国後、国内地域に関わる活動を行っていますか	
地域の国際交流などの活動	16
学校などでの出前講座での講演協力	23
地域でのボランティア活動	16
その他の地域活動	7
地域での活動はしていない	8

出典： アンケート結果より調査団作成

今後も JOCV の経験を活かして、日本の地域活性化に取り組む機会があればそのような場で活動したいと考えるアンケート回答者は9割を超えた（図 4.3）。海外への関心が高かった JOCV も、海外経験を経て日本に帰国した後は、日本での地域活動への関心も高まっているとこの結果からも言える。



出典： アンケート結果より調査団作成

図 4.3 JOCV の経験を活かして今後日本の地域活性化に取り組みたいか

## (2) 帰国後の就業状況

アンケート結果による JOCV 帰国後の就業状況を下表に示す。帰国後、会社員及び団体職員並びに公務員となる者が多い。その他の回答として、地域おこし協力隊になった者、JOCA で地域活動専門員となった者もいた。

表 4-29 帰国後の就業状況

帰国後（現在）の就業・活動状況について教えてください	
会社員	11
団体職員	4
公務員	6
自営業	3
教職員	2
パート・アルバイト	4
学生	5
無職・休職中	0
就職活動中	2
専業主婦・主夫	1
その他	4
合計	42

出典： アンケート結果より調査団作成

アンケートの回答者 42 人のうち、帰国後職業として地域活動に従事していると回答した者は約 4 割であった。従事していると答えた者の職業を表 4.31 に示す

表 4-30 帰国後職業としての地域活動従事状況

帰国後、国内で地域に関わる活動を職業として従事されていますか	
従事している	16
従事していない	24
無回答	2
合計	42

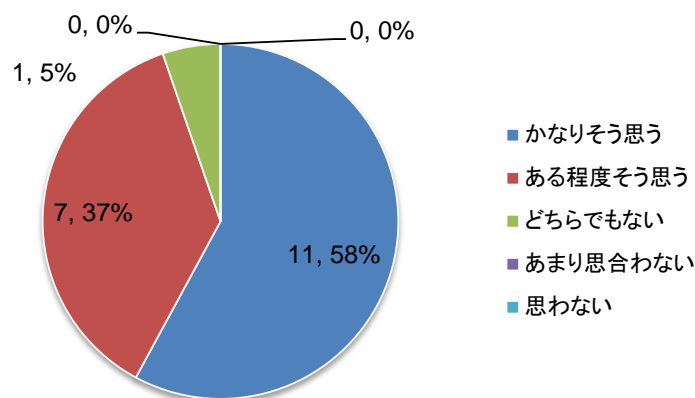
出典： アンケート結果より調査団作成

表 4-31 地域活動に関わる就職先

職業としてどのような活動に従事されていますか
・JOCV の国際協力推進員 (3)
・学校教員 (2)
・農協
・ホテル勤務
・東北震災支援
・県職員
・市役所勤務
・地方公務員の土木技術者
・過疎地の問題解決につながる活動に従事
・地域での伝統文化保存事業に従事
・まちづくり事業に従事
・地域おこし協力隊

出典： アンケート結果より調査団作成

帰国後国内の地域に関わる活動を職業とした者の全員が、JOCV の経験がきっかけとなったと回答した。JOCV の経験は、JOCV 経験者を国内活動に駆り立てる強い動機となっていることがこの結果からも裏付けられる。



出典： アンケート結果より調査団作成

図 4.4 JOCV の経験は国内の地域活動に携わるきっかけとなったか

#### 4.3.2 セクター別に見る国内地域活性化と JICA ボランティアの活動事例

本調査の対象となっている、コミュニティ開発、青少年活動、環境教育の隊員の具体的な活動事例について、一般財団法人地域活性化センターの分野分類表に対応させて、以下に示す。

表 4-32 コミュニティ開発関連の JICA ボランティアの活動事例

日本国内		JICA ボランティア活動内容		
分野	関連施策の例	コミュニティ開発	青少年活動	環境教育
1. 住民参画・NPO・ボランティア	住民参画、NPO・ボランティア、協働のまちづくり、コミュニティ等	住民組織強化、コミュニティ形成支援、社会調査活動支援、都市難民の自立支援、PCM 講義、住民議会広報、再定住地住民支援、水管理組織、生計向上、		
2. 産業振興	地場産品発掘・ブランド化、商店街活性化、地域産業育成、コミュニティビジネス支援、起業・就業促進等	直売所、販売ルート開拓、マイクロファイナンス、民芸品づくり、会計管理、オフィスマネージメント、手工芸教室強化、草木染織物、食品加工、農産物加工、アグリビジネス、一村一品		
3. 農山漁村振興	移住・定住促進、都市との交流、担い手の育成・確保等	農業・漁業・林業、食品加工、農産物加工、アグリビジネス、農業研修、土壌改善、共同菜園、苗木生産、害虫対策、堆肥、有機栽培、野菜栽培、ミミズ養殖		
4. 観光振興	観光客誘致、イベント、観光資源掘り起こし等	文化財・観光、ホームステイ事業		
5. 環境	自然保護・活用、新エネ導入、省エネ促進、リサイクル等	環境改善		環境教育、清掃、コンポスト作成、リサイクルシステム構築
6. 基盤整備	ICT・情報化、交通、まちなみ・景観等	コミュニティインフラ整備、井戸修理、公共施設改善、水道設置、ネット普及		
7. 健康福祉	地域医療、健康づくり等	女性地位向上、子育て支援、障がい者支援、マラリア撲滅、衛生知識普及、栄養調理実習、抱っこ紐紹介、保健啓発、ワクチンプログラム	衛生教育	
8. 防犯・防災	地域防災、安全安心のまちづくり等	洪水被害対策、防災教育		
9. 教育・文化・スポーツ	青少年育成、地域文化振興、スポーツ振興		学習環境整備、図書整備、子供会活動、子供の運動教室、夏季講習、チルドレンズホーム、開発教育、学校菜園、音楽、情操教育、社会的弱者支援、日本文化紹介、日本語教室、性教育、教師研修	
10. その他	—	生活改善、かまど導入、家計簿普及、練炭普及		

出典： JICA 資料の情報を基に弊社作成



以上のことから、3 職種については、日本の地域活性化活動にあてはまるものと言える。3 章で述べたのと同様に、青少年活動と環境教育については、活動分野は1 から2 種類の分類に絞られる一方、コミュニティ開発は多岐にわたり、7 種類の分類にまたがる。

### 4.3.3 日本の地域活動に JOCV 経験者が活かされる可能性

以下では帰国後地域活動に携わったことがある JOCV が、途上国での経験を活かしている点、途上国と日本の地域での活動の共通点について考察する。

アンケート回答によると、帰国後実際に国内の地域活動に携わっている JOCV について、3 章で見たように、ボランティア等として地域活動に参加したことがある者は8 割を超え、また職業として地域活動に従事している者は約4 割で、うち約9 割が JOCV の経験が国内の活動で活かされていると回答している。

表 4-33 JOCV の経験が国内の活動で活かされているか

回答	人数
かなりそう思う	13
ある程度そう思う	6
どちらでもない	1
あまり思わない	0
思わない	0

出典： アンケート結果より調査団作成

コメント欄に記載された意見は、集約すると、途上国で新しい地域に入って活動する時の手順や姿勢を学び、それを日本の地域に行く時にも活かしている、言葉や文化が違う場所に入っていく、そこで人間関係の構築から始め、活動の計画を立てて実践していく、と言える。

表 4-34 日本の地域活動で JOCV の経験が活かされている理由

カテゴリー	内容
姿勢	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自ら主体的に活動することの重要性を学んだから</li> <li>・計画的に筋道を立てて実践する必要性を心得たから</li> <li>・人の話を最後まで聞くことができるようになったから</li> <li>・言われたことをこなすだけでなく、自ら問題点を探し改善するという考え方が身についたから</li> </ul>
スキル	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新しい地域、文化、人と向き合うなかで生じる課題への対処能力は日本でも活用できるから</li> <li>・国、言葉、文化は違っても、多数の人と関わった海外の活動は、どこに行っても活用できるから</li> <li>・異文化への適応、人間関係構築、調査・活動の企画・遂行などのプロセスや考え方は、日本の地域活動でそのまま活かせるため</li> <li>・地域に入り込んで住民と共に課題や潜在資源を発掘し、解決策や企画案を作り上げていくことは、国内での地域の活動だけでなくビジネスの根本でもあるため</li> </ul>
その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>・JOCV の経験から日本の課題に興味を持ったから</li> <li>・地域や内容が違うというだけで、すべきことの中身は同じだと思うから</li> <li>・国際理解教育などの実践で活かされている</li> </ul>

出典： アンケート結果より調査団作成

また、途上国と日本の地方地域では当然相違点が多いが、類似点・共通点もある。アンケート及びヒアリング結果より、帰国後日本の地域活動に職業として従事している JOCV 経験者が考

える類似点・共通点は、以下の通りである。集約すると、話を聞く、地域の人と一緒に考える、対人関係を良好に保つ、地域の資源を見つける、活動計画を立てて実行する等である。

表 4-35 日本と開発途上国の地域活動の類似点・共通点

カテゴリ	内容
必要な姿勢	<ul style="list-style-type: none"> <li>・とにかく話を聞くこと。</li> <li>・問題点を地域の人と考え、答えを出していくこと。</li> <li>・「郷に入っては郷に従え」これはどこにいても大事なことであると思う。</li> <li>・あるものをどう活かすかという視点の大切さ。</li> <li>・その地域の人が考えている以上に、持っているもの残っているもの、資源や財産があること。</li> <li>・支援という一方通行の考え方ではなく、協力という相互的な考え方で活動する必要性があること、また自立的で自発的、多くの住民を巻き込んだ形にしないと継続は難しいと思われること。</li> <li>・その地域の文化や特徴に即した活動内容や実行過程が求められること。</li> <li>・資金が得られなくとも、基本的に人々の理解を得れば、活動は改良を加えながら続けられる。</li> <li>・根本的な生活環境が違えど、対人関係を築く事で問題解決の糸口が見つかる。</li> <li>・ことばや文化の違いはあるが、住民に対する基本的なアプローチ方法は同じだと感じる。</li> <li>・してくれる人がいると思われたら、(地元の人々が)主体的にはやろうとしない。あくまでも(地元の)本人に主導権を握ってもらうことが大事であること。</li> <li>・どんな活動の土台にも、良好な人間関係を築くということ。</li> </ul>
必要なスキル	<ul style="list-style-type: none"> <li>・計画的に実施すること。</li> <li>・活動内容を自分で組み立て、自分で地域に入っていく必要がある。</li> <li>・問題点を探りだし、限られた資源の中で解決の方法を見つける。</li> </ul>
土地柄	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本であろうと、海外であろうと、その地域独自の習慣、時間に対する感覚を持っていること。</li> <li>・いずれも政府、政策に頼り、特に田舎では「自分が何かをしよう」という人は少ない。</li> <li>・人がいない、お金がない、異なるグループ間の連携が難しいこと。</li> <li>・小さい村だからこそ、上層部(政府や世界の潮流)で決まったことの影響を受けやすい。</li> </ul>

出典： インタビュー及びアンケート結果より調査団作成

以上の考察から、本調査の調査対象職種のように特殊技能を持たない JOCV も、地域活性化に役立つ可能性があると言える。地域活性化は、地域によって必要とされる人物像が異なり、あるいは同じ地域でも時期によって来てもらいたいと考える人材は異なることがある。特殊な技能が望まれる場合もあれば、正しい姿勢・やる気・熱意などがあれば歓迎されるケースもある。正しい姿勢とはつまり、「外部者」として地域に入っていく際に望まれる、「調整力」「コミュニケーション力」「地域の人を気持ちを引き出す」「粘り強さ」「人の話を聞く」などで、これらは多くの JOCV が途上国経験で身に付けたとされる能力「現地の人をやり方を尊重する」「粘り強さ」「人の意見を聞く」「黒子になる」「コミュニケーション力」などとほぼ一致する。本調査の対象になっている、コミュニティ開発、青少年活動、環境教育の隊員は、特殊な技能が必要とされない職種ではあるが、正しい姿勢さえ身に付けていれば十分に地域活性化には貢献できるだろう。

リーダーを支える人材として、JOCV が活躍できる可能性がある。総務省は地域活性化に必要な人材として 1) 多様な個々の人材、2) リーダーの役割を果たす人材、3) リーダーを支える人材、を挙げており、うち 3) については、「能力・世代などが多種・多様な、主体的に行動できる人材、水平性・公平性を保ち、意見を言いあぐねている人をサポートできる人材」と説明し

<sup>39</sup>、外部人材の活用を説いている。報告書レビュー、アンケート調査等の結果、帰国後の JOCV の多くが「コミュニケーション」、「人の話を聞く」という能力を身に付けていることがわかった。このことから外部者として入る JOCV は 3) になる可能性があると言える。

JOCV は外部の目を持つ者として、地域活性化に役立つ可能性がある。中国地方の地域活性化のためには、常に歓迎されるわけではないが、概して外部人材が必要とされ、行政もその導入に積極的に取り組んでいる。外部人材に期待されているものは、「地域を客観的にとらえる」「地域で当たり前のことに価値を見出す」「新しいことを提案できる」などで、JOCV 経験者が有する「地域住民が気付いていない資源や財産があることに気づく力」や「あるけれども繋がっていないものを繋げる視点」に類似している。

その他に JOCV の特徴的な点として、帰国後の JOCV に対するイメージが、実際に JOCV が身に付けた能力と少し異なる点が挙げられる。前者はより積極的、能動的なものが強く、後者はそれらも有してはいるものの、受容性の色も大いにある。逆に言うと、実際の JOCV は積極性や能動性と、順応性や受容性の両方を身に付ける傾向が見られるものの、他者からは積極性や能動性のイメージがより強い。地域活性化に必要とされる能力のうち、受容性や順応性は非常に重視されており、多くの JOCV はそれを身に付けている、すなわち地域活性化人材として可能性を秘めている、と言えるものの、他者の目にはその側面のイメージが薄く、十分に「人材」として見られていないのかもしれない。

冒頭で記したとおり、日本の地域と途上国では状況は同じではない。発現している問題が似ている場合でも、その原因は多様であることもあり得るため、実際にマッチングを検討する際には、それぞれの地域の実態を十分に把握する必要がある。

#### 4.4 JICA ボランティアによる地域活性化活動の優良事例

以下に今回の調査において確認された優良事例を紹介する。ただし、4 事例中 2 事例については、いずれも今回の調査の主たる対象となった三職種を務めた JOCV ではない。コミュニティ開発隊員で地域活動に従事している例は、長野県で地域おこし協力隊になっている事例、東北にて東日本大震災の復興関連の活動をしている事例、また東北にて地域おこしをしている事例などがあることがアンケート調査を通じて把握され、長野県の事例については下記事例に含めた。

---

<sup>39</sup> 人材力活性化研究会「人材力活性化プログラム」、総務省、2011 年 3 月

表 4-36 JICA ボランティアによる地域活性化活動の優良事例

吉富 有美 【地域交流型】	活動地：広島県廿日市市吉和地区	現職：地域おこし協力隊
	派遣国：フィジー	職種：環境衛生 派遣年次：2009-2011 年
<p>活動動機・背景：</p> <p>フィジーの小さい町で環境ロゴ募集などをする際に様々な住民が協力してくれて、「地域が動いている」という実感が得られた。それが面白くて「日本で地域おこしの仕事がしたい」と考えた。帰国後に、地元である廿日市市に統合された吉和地区での地域おこし協力隊募集を知り、応募した。</p>		
<p>活動内容：</p> <p>ニュースレター「吉和もりだより」発行、空き家バンク、お散歩ギャラリー（年1回）。お散歩ギャラリーは吉富さんの発案で、吉和全域で自宅を開放し、趣味の絵や工芸品を展示し、地域内外からの人々がマップに基づいてそれぞれを訪問する、というものである。2013年の場合には10月6、7日の2日間の日程で開催され、700人あまりの村に、2,000人の訪問者があった。実行委員会は若い女性を中心に、それまで若者が主体的に企画・運営する地元のイベントがなかったこともあり、自分たちも地域のためにできることができたことと喜ばれている。</p>		
光島 宏美 【社会生活環境整備型】	活動地：岡山県新庄村	現職：作業療法士
	派遣国：マレーシア	職種：作業療法士 派遣年次：2003~2005 年
<p>活動動機・背景：</p> <p>帰国後は、高齢になっても家で暮らす支えとなる地域リハビリテーションに携わることを希望していたが、復帰した都市の職場でのリハビリに違和感を持ち、医療の届いていない小さい地域を探していた。マレーシア派遣前に勤務していた施設の繋がりで、新庄村に移住。新庄村は作業療法士がおらず、村に雇ってもらうために自分から売り込んだ。JOCVの経験によって、人間として大切にしなければならないことを考えるようになった。日本で暮らすなら海外で気づいた思いを実行できる場所で生きようと思った。</p>		
<p>活動内容：</p> <p>新庄村の社会福祉協議会に就職し、作業療法士として村の福祉事業に携わる。現在は育児休業中のため、個人的な活動として、老人が集まる「いきいきサロン」での体操と、ママカフェで産後体操を実施。パートナーが関わる NGO の有機農業に関する活動の支援をしており、その活動の一環で受け入れた海外からの研修生と村の人々との国際交流を取り持つなどの活動をしている。今後、高齢者を主に対象としたリハビリ旅行を実施したいと考えている。</p>		

山田 祐子 【社会生活環境整備型】	活動地： 島根県海士町	現職： 島前高校教諭 (元地域おこし協力隊)
	派遣国：パラグアイ 職種：家政	派遣年次：2007-2009年
活動動機・背景： 協力隊を経験し、地域おこしや田舎に住むことに関心が芽生えた。海士町が募集していた地域おこし協力隊が家庭科教員と地域おこしを同時にできる仕事であることを知り、また海士町に知り合いがいたことから、応募した。地域おこし協力隊の期限後も、希望して高校教諭として残っている。		
活動内容： 地元の人の積極的な支援を得て、高校で様々な新しい課外活動を行っている。また外からの視点を持ち、地域では当たり前で見逃されてしまう貴重な文化や経験を発見し、できるだけ残せるような取組をしている。例えば鶏をさばく授業を提案した時も、地元から鶏の提供を受けたり、民間の宿泊施設の場所を借してもらうなど、協力を得て実施している。また、海士町ではしめ縄が手作りされており、それを授業で取り上げた。島前高校は島の外から留学してくる生徒もおり、このしめ縄作成は島外の生徒にとっては初の試みであるため作るのに四苦八苦する一方で、島内の生徒はほぼ全員が当然のように簡単にできることだった。こうした作業を通して島内の生徒が地域の価値を見直す機会となっている。		

段原 晴美 【地域交流型】	活動地：長野県北安曇郡小谷村	現職：地域おこし協力隊
	派遣国：セネガル 職種：村落開発普及員	派遣年次：2009-2011年
活動動機・背景： JOCAのメーリングリストで地域おこし協力隊のことを知り、調べたところ丁度小谷村の地域おこし協力隊の募集の締め切り直前だった。長野県は、協力隊派遣前に駒ヶ根の訓練所に滞在していたこと、学生時代に来たことがあったことから親しみを感じて応募した。		
活動内容： 地域おこし協力隊は、最初から明確な活動内容があったわけではなく、何ができるかを探すところから始まった。現在取り組んでいることは、地域の伝統である古布を利用した「ぼろ織」のブランド化と、小中学校を対象とした地域でのイベントなどである。 「ぼろ織」は、古い布等を使って地域の女性の作る織物であるが、村内の「ぼろ織」製作者全体がブランド化に賛成して進めているわけではなく、活動には積極的な人も消極的な人もいる。外部者が「良い」と見つけたつもりでも、内部からは外から来て物をとっていきようにも見えるようであり、外部者が村で活動することの難しさ、新しいことを開始する難しさを感じている。最近、段原氏は村で結婚したが、それを機に村内での扱われ方が微妙に変化したように感じている。明確にはわからないが、(本人はもともと定住のつもりだったが)この人は村に住み続ける、と村の人々が考え始めたのかもしれないと考えている。地域の伝統を活かし、素敵でセンスの良い品物を作って売られるようにし、多くの人に裨益することを目標に活動している。		

## 第5章 まとめ

---

### 5.1 本調査の成果

#### 5.1.1 本調査の意義

本調査は、これまで断片的にしか調査されてこなかった国内地域活性化につながる JICA ボランティアの経験を中国地方を中心に試行的にある程度の規模（調査対象者数 346 人）をもって調査したものである。レビュー対象の JOCV の活動報告書の記載には個人差があり、一律に知見の抽出ができたわけではないが、ある程度の傾向を把握するためのデータを収集することはできた。また、地域限定的ではあるが、自治体における地域活性化の課題や地域活性化に求められる人物像に関わる情報を収集することもできた。

本調査では、国内の地域活性化の課題に対して、JOCV の経験・知見をつなげることを試みた。これまでも個別事例をベースにした議論から指摘されてきたことが、活動報告書のレビュー結果等、バックデータをもってある程度裏付けられたといえる。

#### 5.1.2 本調査による発見

##### (1) 対象 3 職種の JOCV の知見活用の可能性

調査結果から、調査対象 3 職種（コミュニティ開発、青少年活動、環境教育）の JOCV の知見としては、「住民の主体性を引き出す」に関わるものが多い傾向にあった。また、途上国での活動を通じた JOCV 経験者の気づきとしては、試行錯誤しながらの活動を通じて自己変革し（たとえば、自分が前に立って活動を行うのではなく、黒子に徹すること）、そのことが活動の改善や成果につながったと認識している隊員が多い傾向にあった。そして、活動地域のことを知り、そこにいる人たちとの信頼関係を築くことが重要と認識している JOCV 経験者も多かった。

このような傾向から、農林水産業や医療のような「技術」がない、つまり「非・手に職」系の JOCV もコミュニティ活性化のためのエンパワメントという面で成果をあげており、彼らの活動や行動から得られる教訓や知見が、国内地域活性化においても、商品開発等の専門的な分野ではなく、もっと基本的な地域による内発的なアクションを促すという点において、活用が可能であることがわかった。

ただし、国内の地域活性化で求められることは継続的な活動である（これは、海外でも本質的には同様であるが、JOCV は活動期間が 2 年間<sup>40</sup>と限定されており、その後の定住は想定されていない）。最初から最後まで外部者として関わる JOCV の経験・知見は、最終的には定住を期待する国内の地域活性化と前提条件が異なる部分もあり、その点への留意は必要である。

## (2) 手に職のない人が日本の地域活性化に携わることの難しさ

JOCV の知見が国内地域活性化につながる可能性がある一方で、実際に「非・手に職」系の JOCV 経験者や国内地域活性化を志す人が、国内での地域活性化に携わることが容易ではないということも本調査を通じて明らかになった。アンケート調査の結果より、対象 3 職種の JOCV 経験者の多くは、海外のみならず日本の地域にも目は向いており、機会があれば何らかの地域活動等を通して地域に貢献したいと考えているが、職業として地域活性化に関わっている例は殆どなかった。

地域活性化活動に結びついていないのは、手に職がない彼らが地域で暮らすための生業とする職業をすぐに見つけることが困難であることが、現地踏査や実際に地域で活動している JOCV 経験者および現地の方々へのインタビュー等を通じてわかった。

4 章に述べたとおり、地域活性化に必要な人材の素養としては、熱意があり、地元の人々の中に入っていけるコミュニケーション能力、そして、古い体質の農村コミュニティですぐには理解者が得られなくても、粘り強く、地道に活動を続けられることであることから、JOCV 経験者はその担い手として期待される存在とはなり得る。しかし（地域おこし協力隊の出口戦略も同様であるが）、過疎地域で継続的に地域活性化の活動を行うためには、その土地で、生活するための生業を得る必要がある。医療や農業などもともと手に職を持っている人は、生業を得やすいが、コミュニティ開発隊員のように、特別な技術を持たない人の場合は、起業・就業することが短期間では容易ではない。

## 5.2 今後の課題

### 5.2.1 今後派遣される JOCV へのインプリケーション

本調査により抽出された JOCV の成功・失敗を含む知見については、今後派遣される JOCV（特に対象 3 職種を中心とするコミュニティ開発に関連する隊員）や国内地域活性化に「外部者」として従事する者にも参考となる。

調査結果から、JOCV が現地で地域の資源を発見したり、信頼関係を構築したりすることに苦心していることが伺える。その意味で、派遣前より人々とのコミュニケーションや地域活性化のアプローチについて、日本の地域での事例も含めて学ぶことは重要である。その一環として、本調査の中で紹介している中国地方の自治体で行われている地域活性化の取り組みを現地視察も含めて学ぶことは有用である。

---

<sup>40</sup> 赴任期間を 2 年を超えて延長する隊員もいる

また、「非・手に職」系で実務経験も少ない傾向にある対象 3 職種の JOCV は派遣先の活動（何を誰に対してどのように取り組むか）に苦勞するケースもある。派遣前の研修においては、社会調査、マーケティングや事業計画作成・管理、ファンド・レイジング等に関わる知識・スキルを強化することが活動を円滑に進める一助になる。

以下では、アンケート調査結果から JOCV が派遣前に知っておくことが有用と考えられるものを整理した。

表 5-1 JOCV 活動に役立った日本の知識

日本のどのような知識が役に立ちましたか。
<ul style="list-style-type: none"> <li>・一村一品活動(6)</li> <li>・生活改善普及員の活動(6)</li> <li>・JICA の環境教育教材と日本の取り組みデータ(英語版)</li> <li>・ジャム作り・石鹸作り、ねずみ殺しの作り方</li> <li>・日本の遊びや伝統文化(風呂敷等)</li> <li>・クロスロード 2012 年増刊号</li> <li>・かまどの作り方</li> <li>・日本の 3R の取り組み(特に地域特有のもの:北九州市、宇部市等)</li> <li>・徳島の「いろどり」という地域活性化の例</li> <li>・学校教育で取り入れられている身体測定、社会見学</li> <li>・公民館や寺子屋といったコミュニティが主体となって教育を整えた歴史</li> <li>・日本で地元の町歩きイベントの立ち上げに携わっていた経験</li> <li>・視聴覚に訴える教材作成の知識</li> </ul>

出典： アンケート結果より調査団作成

表 5-2 JOCV 派遣前の研修で学んで役立った事項

JOCV 派遣前の研修で学び、役立った日本の生活改善・地域活性化・地域おこしなどの知識があれば教えてください
<p><b>【技術・知識】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ファシリテーション技術</li> <li>・PCM 手法</li> <li>・技術補完研修での内容全般(自然塾寺小屋等)</li> <li>・日本の戦後復興の中で実践されていた生活改善の事例等</li> <li>・他の隊員の活動報告書、前任者の活動報告書</li> <li>・寄生虫などの衛生に関する授業と、環境を語る時に、人口抑制まで語らないと、本当は解決には向かっていないという話と、その解決法としての女性の高学歴化の話</li> <li>・コミュニティ開発(旧村落開発普及員)の実地訓練型の派遣前研修で学んだ地域へのアプローチ方法の知識</li> <li>・生活改善ガイドブック</li> </ul> <p><b>【姿勢】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・とにかく話を聞くという姿勢</li> <li>・信頼関係なくして活動はうまくいかないこと</li> <li>・日本の生活改善の話から、背伸びすることなく、本当に小さな改善の積み重ねが大事であること</li> </ul>

出典： アンケート結果より調査団作成



表 5-3 派遣前に知っておきたかった事項

<p>現地でのボランティア活動時に「こういうことを派遣前に知っておきたかった」という内容があれば教えてください</p> <p><b>【現地関連】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・現地語</li> <li>・配属先の詳細</li> <li>・配属組織に関わる省庁やその出先機関、国連や NGO 等(知っておけば、日本にいる間に、それに対して日本人としてどう貢献しうるのか考えるための情報収集やネットワークづくりを行うことができたかと思う)</li> <li>・誰がどのような経緯でその要請を挙げているのか(知っておけば、最初から柔軟に対応できた)</li> <li>・具体的な業務内容(配属先より何が求められているか詳しく知っていれば国内で教材などをピンポイントで準備して赴任することができたかと思う)</li> <li>・前任者や、赴任先の地域での OBOG の活動報告書は各在外事務所へ保存されており、現状把握や活動経緯を知るうえで大変参考になるということ</li> </ul> <p><b>【技術・知識】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・コンポスの手法(2)</li> <li>・予算獲得方法、またそれらに付随する言語(専門用語)</li> <li>・活動計画書の立て方、活用法</li> <li>・予算計画・管理</li> <li>・ファシリテーション、コーチング、会議の纏め方</li> <li>・各分野の深い専門知識</li> <li>・効果的に各種広告や販売チラシ作成をするためのイラストレーターの知識</li> <li>・一村一品の参考例</li> </ul>
---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

出典： アンケート結果より調査団作成

アンケート結果より、派遣中の現地活動のヒントになったものの中に、日本の生活改善・地域活性化・地域おこしなどの例が役立ったかの質問に対し、6割程度が「かなりなった・ある程度なった」と答えた。日本の事例が JOCV の現地活動にも適応するということであり、隊員が派遣前に日本の優良事例を具体的に知っておくことが、派遣中の活動のきっかけとなったり、活動の幅を広げたりする可能性があることがこのアンケート結果からも導ける。

現地活動の際の各種資金へのアクセス方法について、事前に知っておくのは有用である。基本的に JOCV は予算がない中で活動するものであるが、少額の資金で物資購入や小規模な建設を行うことにより活動に大きな効果が得られることがある。JICA、NGO、日本政府、国連などが地域活動に提供するファンドを持っており、JOCV や JOCV が活動する地域がこれらにアクセスすることは可能である。ファンドの種類や規模は当然国や地域によって異なるが、こうした資金があることを事前に知っておくことは有用である。

アンケート結果より、協力隊員が現地で思い悩むのは、気持ちだけではどうしようもないことがあるという点のようである。特に活動資金へのアクセス方法（JICA、NGO、日本政府、国連他）や、商品の付加価値をつけるのみならず、それをいかに販売していくかのマーケティング手法等についての知識が必要とされている。これらについて、必要な独特の言い回しや、また日本の地域活性化の優良事例を学んでいくことができれば、現地活動の一助となると考えられる。この事前研修をインターン型でできれば、事前に地域活性化の現場と JOCV をつなぐことができ、その結果として地域の起業家等と事前に知り合うことになる。そうすると、派遣中に現地の隊員と日本の地域活性化現場が、メールや、フェイスブック等の SNS を通じて交流する可能性もあり、場合によっては日本の地域活性化現場が派遣隊員のメンターや知恵袋に

なるケースも出てくるだろう。更には、その知見や人脈を活かし、帰国後に JOCV 経験者が日本の地域へ向かう可能性も出てくると考えられる。

## 5.2.2 今後の調査研究課題

### (1) 活動報告書の記載

JOCV の活動報告書は隊員の現地での活動について記載されている貴重な資料であるが、彼らの行動がどのように成果に結びついたのかという記載が少なく、知見を抽出する際には限界があった。今後、この点を記載することを促すことにより、隊員の経験・知見をこれまで以上に集約することが可能となる。全職種統一の書式のため、書式自体を改訂することは容易でないと考えられるが、対象3職種については、隊員に対して、成功や失敗の原因分析を含め、知見の抽出に役立つ記載を心掛けるように指導することも考えられる。また、隊員の活動から得られた知見が、国内地域活性化にも活かされる可能性があるという JICA ボランティア経験の社会還元の意味合いもこれまで以上に強調すべきである。

### (2) 対象3職種と他職種との比較

本調査から、対象3職種の JOCV が、成果があったと認識しているものは、住民のエンパワメントに関わるものが多いが、他方、地元資源の有効活用という点では限定的であった。これは対象3職種の隊員の傾向として、「非・手に職」系であり、実務経験も少ないということに起因していることが推察される。この推論を証明するためには、手に職系の他職種との比較も必要である。

### (3) JICA ボランティア経験者の社会還元の可能性の検証

本調査では、JICA ボランティアの経験・知見を国内地域活性化へつなげていくことを検証したが、その他の国内での社会還元の方向性についても検証することが有用な分野もある。近年、協力隊事務局では JICA ボランティア経験者を「グローバル人材」としてプロモーションしている。国際援助機関や海外拠点を持つグローバル企業における活躍はもちろんのこと、昨今、官民で取り組んでいる中小企業の海外進出においても活躍の可能性はありうることから、その可能性について、検証することは新たな調査研究の領域となり得る。

### (4) 本調査の成果の引き継ぎ

本調査の成果については、全国レベルでの調査に発展させることや、地域レベルでは地域の大学等が JICA 中国国際センターとも連携して、引き継いでいくことが望ましい。その際には、本調査における試行錯誤や調査手法に関わる教訓についても参考とすることが望ましい。

## 添付資料 1：参考文献リスト

## 添付資料 1 : 参考文献等リスト

### 1. 参考文献

内海成治・中村安秀(編著)、『国際ボランティア論—世界の人びとと出会い、学ぶ』、ナカニシヤ出版、2011年

小田切徳美(編集)、『農山村再生に挑む—理論から実践まで』、岩波書店、2013年

小田切徳美・藤山浩、『地域再生のフロンティア 中国山地から始まるこの国の新しいかたち』、農産漁村文化協会、2013年

小田切徳美、『農山村再生「限界集落」問題を超えて』、岩波ブックレット、2009年

金子彰、『発展途上国における地域開発のガイドラインの提案に関する研究(その1)』、国際地域学研究第6号、2003年

一般社団法人協力隊を育てる会(編著)、『東日本大震災と青年海外協力隊～自然災害への備えと提言～』、一般社団法人協力隊を育てる会、2013年

草野孝久(編)、『村落開発と国際協力 住民の目線で考える』、古今書院、2002年

国際開発学会「日本の地域振興と国際協力」部会・独立行政法人国際協力機構 青年海外協力隊事務局、『地域づくりX青年海外協力隊「開発途上国から日本の地域へ」シンポジウム報告書』、国際開発学会・独立行政法人国際協力機構 青年海外協力隊事務局、2009年

国際協力事業団 国際協力総合研究所、『地域おこしの経験を世界に』、国際協力事業団 国際協力総合研究所、2003年

独立行政法人国際協力機構 青年海外協力隊事務局、『クロスロード』(JICAボランティアOB/OG向け)、独立行政法人国際協力機構 青年海外協力隊事務局、2013年

独立行政法人国際協力機構 青年海外協力隊事務局、『クロスロード』(JICAボランティアOB/OG向け)、独立行政法人国際協力機構 青年海外協力隊事務局、2012年

独立行政法人国際協力機構、『グローバル戦略に活かす』、独立行政法人国際協力機構 青年海外協力隊事務局(パンフレット)、2012年

独立行政法人国際協力機構、『JICAボランティア』、独立行政法人国際協力機構 青年海外協力隊事務局(パンフレット)、2013年

独立行政法人国際協力機構、『JICAボランティア』、独立行政法人国際協力機構 青年海外協力隊事務局(パンフレット)、2012年

独立行政法人国際協力機構 青年海外協力隊事務局、『日本も元気にする青年海外協力隊』、独立行政法人国際協力機構 青年海外協力隊事務局(パンフレット)、2009年

独立行政法人国際協力機構 青年海外協力隊事務局、『日本も元気にする青年海外協力隊

Vol.2』、独立行政法人国際協力機構 青年海外協力隊事務局(パンフレット)、2011年

小長谷一之・福山直寿・五嶋俊彦・本松豊太、『地域活性化戦略』、晃洋書房、2012年  
金丸弘美、『実践！ 田舎力』、NHK出版新書、2013年

佐藤寛(編集)、『援助と住民組織化』、アジア経済研究所、2004年

総務省 人材力活性化研究会、『人材力活性化』、総務省、2011年

玉沖仁美、『地域をプロデュースする仕事』、英治出版株式会社、2012年

財団法人地方自治研究機構、「地縁型からテーマ型の住民組織へ」『地域活動における自治体の支援・連携に関する調査研究』pp150-175、財団法人地方自治研究機構、2012年

内閣府経済社会総合研究所(編集)、『コミュニティ機能再生とソーシャル・キャピタルに関する研究調査報告書』、内閣府経済社会総合研究所、2005年

新川達郎、『地域活性化政策に関する市町村計画行政の課題と展望』、同志社大学総合政策科学研究科、同志社大学、2002年

農林水産省農村振興局、『山村の元気は、日本の元気 山村振興事例集』、農林水産省農村振興局、2010年

藤掛洋子・中村安秀・柳崎麻里、『日本社会の課題解決における海外ボランティア活動の有効性の検証』、(社団法人青年海外協力協会委託研究)大阪大学大学院、2009年

藻谷浩介・NHK広島取材班、『里山資本主義』、角川書店、2013年

## 2. 参考WEBサイト

一般財団法人地域活性化センター

<http://www.chiiki-dukuri-hyakka.or.jp/>

国土交通省 中国地方整備局

<http://www.cgr.mlit.go.jp/>

公益社団法人青年海外協力協会

<http://www.joca.or.jp/index.html>

島根県中山間地域研究センター

<http://www.pref.shimane.lg.jp/chusankan/>

世界銀行

<http://www.worldbank.org/>

総務省 地域おこし協力隊

[http://www.soumu.go.jp/main\\_sosiki/jichi\\_gyousei/c-gyousei/02gyousei08\\_03000066.html](http://www.soumu.go.jp/main_sosiki/jichi_gyousei/c-gyousei/02gyousei08_03000066.html)

総務省 地域力創造に関する有識者会議最終取りまとめ

[http://www.soumu.go.jp/menu\\_news/s-news/02gyousei09\\_02000004.html](http://www.soumu.go.jp/menu_news/s-news/02gyousei09_02000004.html)

中国四国農政局 中山間地域の活性化

<http://www.maff.go.jp/chushi/chusankan/>

中国地域CB/SB(コミュニティビジネス/ソーシャルビジネス)推進協議会

<http://www.chugoku-cb-sb.net/>

独立行政法人国際協力機構 JICAボランティア

<http://www.jica.go.jp/volunteer/>

内閣府 地域活性化総合情報サイト

<http://www.chiiki-info.go.jp/local/>

農林水産省

<http://www.maff.go.jp/>

## 3. その他参考資料(収集資料)

岡山県真庭市、『「バイオマスタウン真庭」の取り組み』、2013年

岡山県美作市企画振興部協働企画課、『美作市地域おこし協力隊』、2013年

公益社団法人青年海外協力協会ネットコミュニティ メーリングリスト

[info@joca-nc.com](mailto:info@joca-nc.com)

## 添付資料 2：面談者リスト

## 添付資料 2 : 面談者リスト

## 【自治体】

## 【広島県】

広島県	地域政策局	過疎地域振興課
世羅郡	世羅町	役場産業観光課
廿日市	吉和支所	地域づくりグループ
山県郡	安芸太田町	地域づくり課

## 【岡山県】

岡山県	県民生活部	国際課
真庭市	総合政策局	総合政策課
真庭市	産業観光部	バイオマス政策課

## 【鳥取県】

鳥取県	鳥取未来づくり推進局	鳥取力創造課
鳥取県	地域振興部	とっとり暮らし支援課
鳥取県	文化観光局	交流推進課
智頭町	企画課	

## 【島根県】

島根県	地域振興部	しまね暮らし推進課
島根県	環境生活部	文化国際課
海士町	産業創出課	
海士町	総務課	
雲南市	政策企画部	地域振興課

## 【山口県】

周防大島町	総務部	政策企画課
-------	-----	-------

## 【熊本県】

芦北町役場	企画財政課	
芦北町役場	福祉課	
芦北町役場	農林水産課	

## 【長野県】

長野県	北安曇郡	小谷村役場	観光振興課
-----	------	-------	-------



## 【民間・個人等】

【広島県】	
奥田 圭佑	山県郡安芸太田町 地域おこし協力隊 吉和郷地域
福井 佳奈子	山県郡安芸太田町 地域おこし協力隊、上殿地域
渡辺 良平	山県郡安芸太田町 地域おこし協力隊 井仁地区
久保田 志穂	世羅高原6次産業ネットワーク 事務局長
Y・K	元JOCV村落開発隊員
取釜 宏行	広島県豊田郡大崎上島・下島 高志塾 塾長
吉富 有美	廿日市 地域支援員（地域おこし協力隊）、元JOCV環境衛生隊員
【岡山県】	
光島 宏美	新庄村社会福祉協議会、元JOCV作業療法士
藤井 裕也	美作市梶並 地域おこし協力隊、山村エンタープライズ代表
【鳥取県】	
ジュバテ 麻子	鳥取県立青谷高等学校 英語教員、元JOCV青少年活動隊員
渡辺 萌生	八頭町志古部 地域おこし協力隊
【島根県】	
三瓶 裕美	雲南市大東町塩田地区 地域おこし協力隊
芝 由紀子	幸雲南塾生、多文化まちづくりカフェ代表
高岡 裕司	株式会社吉田ふるさと村 代表取締役
宮崎 雅也	株式会社たじまや 干しナマコ加工
山崎 順子	出雲市鳶巣コミュニティーセンター チーフマネージャー
山田 裕子	隠岐島前高等学校 家庭科教員、元地域おこし協力隊、元JOCV家政隊員
【山口県】	
大野 圭司	株式会社ジブンノオト 代表取締役
K・D	周防大島町
松嶋 匡史	株式会社瀬戸内ジャムズガーデン 代表取締役兼お客さま担当
【長野県】	
加藤 隆博	小谷村農業生産組合 深山遊園 北野の郷、元地域おこし協力隊、元JOCV村落開発普及員
段原 晴美	長野県北安曇郡小谷村役場 地域おこし協力隊、元JOCV村落開発普及員

## 添付資料 3：地域活性化の優良事例集リスト

No.	取組み名	都道府県名	市区町村名	人口 (人)	調査年度	地域活性化分野	活動内容に類型	参照URL
1	(仮称)安芸高田市給食センター整備事業	広島県	安芸高田市	32,726	H20年度	⑤ 環境 ⑨ 教育・文化・スポーツ	① 社会生活環境整備型	<a href="http://www.chihiki-dukuri-hyakka.or.jp/sesaku/search/detail.cgi?id=5355">http://www.chihiki-dukuri-hyakka.or.jp/sesaku/search/detail.cgi?id=5355</a>
2	100万本のばらもちづくり推進事業	広島県	福山市	484,588	H22年度	① 住民参画・NPO・ボランティア ④ 観光振興 ⑨ 教育・文化・スポーツ	③ イベント型	<a href="http://www.chihiki-dukuri-hyakka.or.jp/sesaku/search/detail.cgi?id=214734059">http://www.chihiki-dukuri-hyakka.or.jp/sesaku/search/detail.cgi?id=214734059</a>
3	UJターン者住宅改修支援補助金	鳥取県	岩美町	13,312	H20年度	③ 農山漁村振興	① 社会生活環境整備型	<a href="http://www.chihiki-dukuri-hyakka.or.jp/sesaku/search/detail.cgi?id=5299">http://www.chihiki-dukuri-hyakka.or.jp/sesaku/search/detail.cgi?id=5299</a>
4	“100年後も受け継いでほしいふるさとみはらの味”事業	広島県	三原市	103,623	H21年度	④ 観光振興 ⑦ 健康福祉	① 社会生活環境整備型	<a href="http://www.chihiki-dukuri-hyakka.or.jp/sesaku/search/detail.cgi?id=213420412">http://www.chihiki-dukuri-hyakka.or.jp/sesaku/search/detail.cgi?id=213420412</a>
5	①「健康都市まっえ」宣言 及び ②松江市民ランジオ体操祭	鳥根県	松江市	192,055	H22年度	⑦ 健康福祉	① 社会生活環境整備型	<a href="http://www.chihiki-dukuri-hyakka.or.jp/sesaku/search/detail.cgi?id=214734027">http://www.chihiki-dukuri-hyakka.or.jp/sesaku/search/detail.cgi?id=214734027</a>
6	「えだじまで暮らし隊」発表による交流・定住施策の推進	広島県	江田島市	28,385	H20年度	③ 農山漁村振興 ④ 観光振興	④ 地域交流型	<a href="http://www.chihiki-dukuri-hyakka.or.jp/sesaku/search/detail.cgi?id=5357">http://www.chihiki-dukuri-hyakka.or.jp/sesaku/search/detail.cgi?id=5357</a>
7	「もったいない文化推進プロジェクト」の推進	山口県	光市	54,530	H21年度	⑤ 環境	① 社会生活環境整備型	<a href="http://www.chihiki-dukuri-hyakka.or.jp/sesaku/search/detail.cgi?id=213521011">http://www.chihiki-dukuri-hyakka.or.jp/sesaku/search/detail.cgi?id=213521011</a>
8	「世羅町ふるさと夢基金」の創設	広島県	世羅町	18,229	H22年度	① 住民参画・NPO・ボランティア	① 社会生活環境整備型	<a href="http://www.chihiki-dukuri-hyakka.or.jp/sesaku/search/detail.cgi?id=214734078">http://www.chihiki-dukuri-hyakka.or.jp/sesaku/search/detail.cgi?id=214734078</a>
9	「北広島町生物多様性の保全に関する条例」制定	広島県	北広島町	20,408	H22年度	⑤ 環境	① 社会生活環境整備型	<a href="http://www.chihiki-dukuri-hyakka.or.jp/sesaku/search/detail.cgi?id=214734076">http://www.chihiki-dukuri-hyakka.or.jp/sesaku/search/detail.cgi?id=214734076</a>
10	「宇部ブランド」構築事業	山口県	宇部市	176,482	H20年度	④ 観光振興 ⑩ その他	② 地域産業振興型	<a href="http://www.chihiki-dukuri-hyakka.or.jp/sesaku/search/detail.cgi?id=5371">http://www.chihiki-dukuri-hyakka.or.jp/sesaku/search/detail.cgi?id=5371</a>
11	「移動青空市」設置事業	岡山県	井原市	46,129	H20年度	② 産業振興 ③ 農山漁村振興 ④ 観光振興	② 地域産業振興型	<a href="http://www.chihiki-dukuri-hyakka.or.jp/sesaku/search/detail.cgi?id=5320">http://www.chihiki-dukuri-hyakka.or.jp/sesaku/search/detail.cgi?id=5320</a>
12	「笑って健康元気アップ」事業	岡山県	井原市	45,940	H21年度	⑦ 健康福祉	① 社会生活環境整備型	<a href="http://www.chihiki-dukuri-hyakka.or.jp/sesaku/search/detail.cgi?id=21320711">http://www.chihiki-dukuri-hyakka.or.jp/sesaku/search/detail.cgi?id=21320711</a>
13	「環境」のまちづくり推進(事業)	鳥取県	三朝町	7,535	H20年度	③ 農山漁村振興 ④ 観光振興 ⑤ 環境	① 社会生活環境整備型	<a href="http://www.chihiki-dukuri-hyakka.or.jp/sesaku/search/detail.cgi?id=5303">http://www.chihiki-dukuri-hyakka.or.jp/sesaku/search/detail.cgi?id=5303</a>
14	おっぱい都市基本構想の推進(おっぱい都市推進プラン)	山口県	光市	54,730	H20年度	① 住民参画・NPO・ボランティア ⑦ 健康福祉 ⑨ 教育・文化・スポーツ	① 社会生活環境整備型	<a href="http://www.chihiki-dukuri-hyakka.or.jp/sesaku/search/detail.cgi?id=5385">http://www.chihiki-dukuri-hyakka.or.jp/sesaku/search/detail.cgi?id=5385</a>
15	こども園開設事業	広島県	三原市	102,819	H20年度	⑨ 教育・文化・スポーツ	① 社会生活環境整備型	<a href="http://www.chihiki-dukuri-hyakka.or.jp/sesaku/search/detail.cgi?id=5342">http://www.chihiki-dukuri-hyakka.or.jp/sesaku/search/detail.cgi?id=5342</a>
16	こん(こ)ちは赤ちゃん事業	山口県	下関市	290,157	H20年度	⑦ 健康福祉	① 社会生活環境整備型	<a href="http://www.chihiki-dukuri-hyakka.or.jp/sesaku/search/detail.cgi?id=5370">http://www.chihiki-dukuri-hyakka.or.jp/sesaku/search/detail.cgi?id=5370</a>
17	しまなみ海道サイクリングログロード整備事業	広島県	尾道市	148,398	H22年度	④ 観光振興	① 社会生活環境整備型	<a href="http://www.chihiki-dukuri-hyakka.or.jp/sesaku/search/detail.cgi?id=214734058">http://www.chihiki-dukuri-hyakka.or.jp/sesaku/search/detail.cgi?id=214734058</a>
18	とっとリバーガーフェスタ vol.1	鳥取県	伯耆町	11,827	H22年度	④ 観光振興	③ イベント型	<a href="http://www.chihiki-dukuri-hyakka.or.jp/sesaku/search/detail.cgi?id=214734025">http://www.chihiki-dukuri-hyakka.or.jp/sesaku/search/detail.cgi?id=214734025</a>
19	はつかいち野菜づくり体験塾	広島県	廿日市市	117,418	H20年度	③ 農山漁村振興	② 地域産業振興型	<a href="http://www.chihiki-dukuri-hyakka.or.jp/sesaku/search/detail.cgi?id=5354">http://www.chihiki-dukuri-hyakka.or.jp/sesaku/search/detail.cgi?id=5354</a>
20	ひかりエコフェスタ2009	山口県	光市	54,305	H22年度	① 住民参画・NPO・ボランティア ⑤ 環境	③ イベント型	<a href="http://www.chihiki-dukuri-hyakka.or.jp/sesaku/search/detail.cgi?id=214734085">http://www.chihiki-dukuri-hyakka.or.jp/sesaku/search/detail.cgi?id=214734085</a>
21	ひらお農業体験農園	山口県	平生町	13,230	H21年度	③ 農山漁村振興	② 地域産業振興型	<a href="http://www.chihiki-dukuri-hyakka.or.jp/sesaku/search/detail.cgi?id=213534421">http://www.chihiki-dukuri-hyakka.or.jp/sesaku/search/detail.cgi?id=213534421</a>
22	ひろしまエコライフ推進事業「ひろしまエコライフポイント」	広島県	広島市	1,147,004	H20年度	⑤ 環境	① 社会生活環境整備型	<a href="http://www.chihiki-dukuri-hyakka.or.jp/sesaku/search/detail.cgi?id=5336">http://www.chihiki-dukuri-hyakka.or.jp/sesaku/search/detail.cgi?id=5336</a>
23	ふるさと寄附推進事業	山口県	萩市	56,196	H21年度	① 住民参画・NPO・ボランティア	① 社会生活環境整備型	<a href="http://www.chihiki-dukuri-hyakka.or.jp/sesaku/search/detail.cgi?id=213520473">http://www.chihiki-dukuri-hyakka.or.jp/sesaku/search/detail.cgi?id=213520473</a>
24	へき地医療対策事業	広島県	大竹市	29,638	H21年度	③ 農山漁村振興 ⑦ 健康福祉	① 社会生活環境整備型	<a href="http://www.chihiki-dukuri-hyakka.or.jp/sesaku/search/detail.cgi?id=213421141">http://www.chihiki-dukuri-hyakka.or.jp/sesaku/search/detail.cgi?id=213421141</a>
25	まちづくりシンポジウム	山口県	平生町	13,388	H20年度	① 住民参画・NPO・ボランティア	③ イベント型	<a href="http://www.chihiki-dukuri-hyakka.or.jp/sesaku/search/detail.cgi?id=5398">http://www.chihiki-dukuri-hyakka.or.jp/sesaku/search/detail.cgi?id=5398</a>

No.	取組み名	都道府県名	市区町村名	人口 (人)	調査年度	地域活性化分野	活動内容に類型	参照URL
26	まちづくり交流拠点整備事業	広島県	熊野町	25,440	H22年度	① 住民参画・NPO・ボランティア ② 産業振興 ③ 農山漁村振興 ④ 観光振興	② 地域産業振興型	<a href="http://www.chihiki-dokuri-hyakka.or.jp/sesaku/search/detail.cgi?id=214734072">http://www.chihiki-dokuri-hyakka.or.jp/sesaku/search/detail.cgi?id=214734072</a>
27	まちづくり推進事業	鳥取県	大山町	18,354	H22年度	① 住民参画・NPO・ボランティア	① 社会生活環境整備型	<a href="http://www.chihiki-dokuri-hyakka.or.jp/sesaku/search/detail.cgi?id=214734021">http://www.chihiki-dokuri-hyakka.or.jp/sesaku/search/detail.cgi?id=214734021</a>
28	まちと文化推進事業	山口県	山口市	187,648	H21年度	② 産業振興	③ イベント型	<a href="http://www.chihiki-dokuri-hyakka.or.jp/sesaku/search/detail.cgi?id=213520392">http://www.chihiki-dokuri-hyakka.or.jp/sesaku/search/detail.cgi?id=213520392</a>
29	みくまり峡森林保全整備パートナーズ事業	広島県	府中町	51,019	H21年度	① 住民参画・NPO・ボランティア	③ イベント型	<a href="http://www.chihiki-dokuri-hyakka.or.jp/sesaku/search/detail.cgi?id=213430211">http://www.chihiki-dokuri-hyakka.or.jp/sesaku/search/detail.cgi?id=213430211</a>
30	みんなに誇れる青海島づくり事業	山口県	長門市	40,852	H20年度	③ 農山漁村振興 ④ 観光振興	② 地域産業振興型	<a href="http://www.chihiki-dokuri-hyakka.or.jp/sesaku/search/detail.cgi?id=5386">http://www.chihiki-dokuri-hyakka.or.jp/sesaku/search/detail.cgi?id=5386</a>
31	ゆめづくり地域協働プログラム	広島県	呉市	247,881	H20年度	① 住民参画・NPO・ボランティア	① 社会生活環境整備型	<a href="http://www.chihiki-dokuri-hyakka.or.jp/sesaku/search/detail.cgi?id=5338">http://www.chihiki-dokuri-hyakka.or.jp/sesaku/search/detail.cgi?id=5338</a>
32	わんわんバートル	広島県	府中町	51,019	H21年度	⑧ 防犯・防災	① 社会生活環境整備型	<a href="http://www.chihiki-dokuri-hyakka.or.jp/sesaku/search/detail.cgi?id=213430212">http://www.chihiki-dokuri-hyakka.or.jp/sesaku/search/detail.cgi?id=213430212</a>
33	ウイークエンドファーム開設支援事業	広島県	北広島町	20,640	H21年度	③ 農山漁村振興 ④ 観光振興	② 地域産業振興型	<a href="http://www.chihiki-dokuri-hyakka.or.jp/sesaku/search/detail.cgi?id=213438921">http://www.chihiki-dokuri-hyakka.or.jp/sesaku/search/detail.cgi?id=213438921</a>
34	エコツーリズム推進事業	鳥取県	米子市	149,153	H20年度	④ 観光振興	② 地域産業振興型	<a href="http://www.chihiki-dokuri-hyakka.or.jp/sesaku/search/detail.cgi?id=5295">http://www.chihiki-dokuri-hyakka.or.jp/sesaku/search/detail.cgi?id=5295</a>
35	オムニバスタウン構想の活用による生活バス交通利用促進対策事業(ゾーンバスシステムの導入)	広島県	福山市	463,284	H20年度	⑥ 基盤整備	① 社会生活環境整備型	<a href="http://www.chihiki-dokuri-hyakka.or.jp/sesaku/search/detail.cgi?id=5344">http://www.chihiki-dokuri-hyakka.or.jp/sesaku/search/detail.cgi?id=5344</a>
36	クラスターのまち実現プロジェクト	広島県	庄原市	41,462	H21年度	① 住民参画・NPO・ボランティア ② 産業振興 ③ 農山漁村振興 ④ 観光振興 ⑤ 教育・文化・スポーツ	① 社会生活環境整備型	<a href="http://www.chihiki-dokuri-hyakka.or.jp/sesaku/search/detail.cgi?id=213421061">http://www.chihiki-dokuri-hyakka.or.jp/sesaku/search/detail.cgi?id=213421061</a>
37	コミュニティ・スケール	山口県	柳井市	35,726	H21年度	① 住民参画・NPO・ボランティア ② 産業振興 ③ 農山漁村振興 ④ 観光振興 ⑤ 教育・文化・スポーツ	① 社会生活環境整備型	<a href="http://www.chihiki-dokuri-hyakka.or.jp/sesaku/search/detail.cgi?id=213521283">http://www.chihiki-dokuri-hyakka.or.jp/sesaku/search/detail.cgi?id=213521283</a>
38	スクールバス白木線運行事業	山口県	周防大島町	20,720	H20年度	⑥ 基盤整備	① 社会生活環境整備型	<a href="http://www.chihiki-dokuri-hyakka.or.jp/sesaku/search/detail.cgi?id=5392">http://www.chihiki-dokuri-hyakka.or.jp/sesaku/search/detail.cgi?id=5392</a>
39	チャレンジショップ建設事業	山口県	周防大島町	19,889	H22年度	② 産業振興 ④ 観光振興	② 地域産業振興型	<a href="http://www.chihiki-dokuri-hyakka.or.jp/sesaku/search/detail.cgi?id=214734093">http://www.chihiki-dokuri-hyakka.or.jp/sesaku/search/detail.cgi?id=214734093</a>
40	デマンド乗合タクシー事業	岡山県	和気町	16,334	H20年度	⑥ 基盤整備	① 社会生活環境整備型	<a href="http://www.chihiki-dokuri-hyakka.or.jp/sesaku/search/detail.cgi?id=5329">http://www.chihiki-dokuri-hyakka.or.jp/sesaku/search/detail.cgi?id=5329</a>
41	トップアスリート、トップアティーティスト招へい事業	岡山県	玉野市	65,796	H22年度	⑨ 教育・文化・スポーツ	③ イベント型	<a href="http://www.chihiki-dokuri-hyakka.or.jp/sesaku/search/detail.cgi?id=214734035">http://www.chihiki-dokuri-hyakka.or.jp/sesaku/search/detail.cgi?id=214734035</a>
42	ハイオマス産業創出事業	岡山県	真庭市	51,102	H22年度	② 産業振興	① 社会生活環境整備型	<a href="http://www.chihiki-dokuri-hyakka.or.jp/sesaku/search/detail.cgi?id=214734043">http://www.chihiki-dokuri-hyakka.or.jp/sesaku/search/detail.cgi?id=214734043</a>
43	ハイオ燃料地域利用事業	岡山県	岡山市	697,143	H21年度	① 住民参画・NPO・ボランティア ⑤ 環境	① 社会生活環境整備型	<a href="http://www.chihiki-dokuri-hyakka.or.jp/sesaku/search/detail.cgi?id=213520113">http://www.chihiki-dokuri-hyakka.or.jp/sesaku/search/detail.cgi?id=213520113</a>
44	ファミリーサポートセンター事業	山口県	山陽小野田市	66,281	H20年度	⑦ 健康福祉	① 社会生活環境整備型	<a href="http://www.chihiki-dokuri-hyakka.or.jp/sesaku/search/detail.cgi?id=5391">http://www.chihiki-dokuri-hyakka.or.jp/sesaku/search/detail.cgi?id=5391</a>
45	ファーマーズマーケット	山口県	柳井市	35,436	H22年度	② 産業振興 ③ 農山漁村振興 ④ 観光振興	③ イベント型	<a href="http://www.chihiki-dokuri-hyakka.or.jp/sesaku/search/detail.cgi?id=214734090">http://www.chihiki-dokuri-hyakka.or.jp/sesaku/search/detail.cgi?id=214734090</a>
46	フロアマネージャー実施事業	広島県	府中市	44,086	H22年度	⑩ その他	① 社会生活環境整備型	<a href="http://www.chihiki-dokuri-hyakka.or.jp/sesaku/search/detail.cgi?id=214734062">http://www.chihiki-dokuri-hyakka.or.jp/sesaku/search/detail.cgi?id=214734062</a>
47	ブランド化ビジネスチャレンジ助成事業	広島県	呉市	247,881	H20年度	① 住民参画・NPO・ボランティア ③ 農山漁村振興	② 地域産業振興型	<a href="http://www.chihiki-dokuri-hyakka.or.jp/sesaku/search/detail.cgi?id=5339">http://www.chihiki-dokuri-hyakka.or.jp/sesaku/search/detail.cgi?id=5339</a>
48	ミズ利用による処理容器等購入補助	広島県	江田島市	27,778	H21年度	⑤ 環境	① 社会生活環境整備型	<a href="http://www.chihiki-dokuri-hyakka.or.jp/sesaku/search/detail.cgi?id=213421571">http://www.chihiki-dokuri-hyakka.or.jp/sesaku/search/detail.cgi?id=213421571</a>
49	コピキタタウン構想推進事業	岡山県	勝央町	11,471	H22年度	⑧ 防犯・防災	① 社会生活環境整備型	<a href="http://www.chihiki-dokuri-hyakka.or.jp/sesaku/search/detail.cgi?id=214734050">http://www.chihiki-dokuri-hyakka.or.jp/sesaku/search/detail.cgi?id=214734050</a>

No.	取組み名	都道府県名	市区町村名	人口 (人)	調査年度	地域活性化分野	活動内容に類型	参照URL
50	ラストフロンティア整備事業	岡山県	真庭市	52,242	H20年度	③ 農山漁村振興	① 社会生活環境整備型	<a href="http://www.chiiki-dukuri-hyakka.or.jp/sesaku/search/detail.cgi?id=5327">http://www.chiiki-dukuri-hyakka.or.jp/sesaku/search/detail.cgi?id=5327</a>
51	レジ袋削減行動推進事業	鳥根県	出雲市	145,776	H22年度	⑤ 環境	① 社会生活環境整備型	<a href="http://www.chiiki-dukuri-hyakka.or.jp/sesaku/search/detail.cgi?id=214734029">http://www.chiiki-dukuri-hyakka.or.jp/sesaku/search/detail.cgi?id=214734029</a>
52	三原市エコ電球交換事業	広島県	三原市	103,623	H21年度	⑤ 環境	① 社会生活環境整備型	<a href="http://www.chiiki-dukuri-hyakka.or.jp/sesaku/search/detail.cgi?id=213420411">http://www.chiiki-dukuri-hyakka.or.jp/sesaku/search/detail.cgi?id=213420411</a>
53	三朝ランド温泉を活用した元気の温泉まち再生	鳥取県	三朝町	7,307	H22年度	④ 観光振興 ⑦ 健康福祉	② 地域産業振興型	<a href="http://www.chiiki-dukuri-hyakka.or.jp/sesaku/search/detail.cgi?id=214734020">http://www.chiiki-dukuri-hyakka.or.jp/sesaku/search/detail.cgi?id=214734020</a>
54	三次市スポーツ・文化振興事業	広島県	三次市	59,024	H20年度	① 住民参画・NPO・ボランティア ⑨ 教育・文化・スポーツ	③ イベント型	<a href="http://www.chiiki-dukuri-hyakka.or.jp/sesaku/search/detail.cgi?id=5348">http://www.chiiki-dukuri-hyakka.or.jp/sesaku/search/detail.cgi?id=5348</a>
55	三次産米販売拡大事業	広島県	三次市	58,871	H21年度	③ 農山漁村振興	② 地域産業振興型	<a href="http://www.chiiki-dukuri-hyakka.or.jp/sesaku/search/detail.cgi?id=213420921">http://www.chiiki-dukuri-hyakka.or.jp/sesaku/search/detail.cgi?id=213420921</a>
56	三菱自動車購入費助成金交付事業	岡山県	総社市	66,535	H21年度	② 産業振興	① 社会生活環境整備型	<a href="http://www.chiiki-dukuri-hyakka.or.jp/sesaku/search/detail.cgi?id=213202081">http://www.chiiki-dukuri-hyakka.or.jp/sesaku/search/detail.cgi?id=213202081</a>
57	下松市中山間地域づくり活動支援制度	山口県	下松市	55,382	H20年度	① 住民参画・NPO・ボランティア	① 社会生活環境整備型	<a href="http://www.chiiki-dukuri-hyakka.or.jp/sesaku/search/detail.cgi?id=5381">http://www.chiiki-dukuri-hyakka.or.jp/sesaku/search/detail.cgi?id=5381</a>
58	下松市農業公園	山口県	下松市	55,698	H22年度	③ 農山漁村振興	② 地域産業振興型	<a href="http://www.chiiki-dukuri-hyakka.or.jp/sesaku/search/detail.cgi?id=214734083">http://www.chiiki-dukuri-hyakka.or.jp/sesaku/search/detail.cgi?id=214734083</a>
59	下水道使用料及び水道料金の徴収一本化	山口県	田布施町	16,535	H21年度	⑩ その他	① 社会生活環境整備型	<a href="http://www.chiiki-dukuri-hyakka.or.jp/sesaku/search/detail.cgi?id=213534341">http://www.chiiki-dukuri-hyakka.or.jp/sesaku/search/detail.cgi?id=213534341</a>
60	下関海響マラソン事業	山口県	下関市	290,157	H20年度	① 住民参画・NPO・ボランティア ② 産業振興 ④ 観光振興 ⑦ 健康福祉 ⑨ 教育・文化・スポーツ	③ イベント型	<a href="http://www.chiiki-dukuri-hyakka.or.jp/sesaku/search/detail.cgi?id=5369">http://www.chiiki-dukuri-hyakka.or.jp/sesaku/search/detail.cgi?id=5369</a>
61	不燃物中間処理センター整備事業	山口県	山口市	187,648	H21年度	⑤ 環境	① 社会生活環境整備型	<a href="http://www.chiiki-dukuri-hyakka.or.jp/sesaku/search/detail.cgi?id=213920393">http://www.chiiki-dukuri-hyakka.or.jp/sesaku/search/detail.cgi?id=213920393</a>
62	世界遺産登録推進事業	山口県	萩市	57,079	H20年度	⑥ 基盤整備 ⑨ 教育・文化・スポーツ ⑩ その他	③ イベント型	<a href="http://www.chiiki-dukuri-hyakka.or.jp/sesaku/search/detail.cgi?id=5378">http://www.chiiki-dukuri-hyakka.or.jp/sesaku/search/detail.cgi?id=5378</a>
63	中山間地域コミュニティ再生事業	鳥根県	浜田市	60,636	H21年度	① 住民参画・NPO・ボランティア ③ 農山漁村振興 ④ 観光振興 ⑤ 環境	① 社会生活環境整備型	<a href="http://www.chiiki-dukuri-hyakka.or.jp/sesaku/search/detail.cgi?id=213220241">http://www.chiiki-dukuri-hyakka.or.jp/sesaku/search/detail.cgi?id=213220241</a>
64	中山間地域元気いざいき補助事業	鳥根県	安来市	43,743	H20年度	③ 農山漁村振興	① 社会生活環境整備型	<a href="http://www.chiiki-dukuri-hyakka.or.jp/sesaku/search/detail.cgi?id=5314">http://www.chiiki-dukuri-hyakka.or.jp/sesaku/search/detail.cgi?id=5314</a>
65	中山間地域総合整備事業	広島県	大崎上島町	8,979	H20年度	③ 農山漁村振興	② 地域産業振興型	<a href="http://www.chiiki-dukuri-hyakka.or.jp/sesaku/search/detail.cgi?id=5366">http://www.chiiki-dukuri-hyakka.or.jp/sesaku/search/detail.cgi?id=5366</a>
66	久米南町まちづくり推進事業	岡山県	久米南町	5,530	H22年度	① 住民参画・NPO・ボランティア	③ イベント型	<a href="http://www.chiiki-dukuri-hyakka.or.jp/sesaku/search/detail.cgi?id=214734054">http://www.chiiki-dukuri-hyakka.or.jp/sesaku/search/detail.cgi?id=214734054</a>
67	乳幼児等医療費助成3歳未満無料化	鳥根県	出雲市	148,148	H20年度	⑦ 健康福祉	① 社会生活環境整備型	<a href="http://www.chiiki-dukuri-hyakka.or.jp/sesaku/search/detail.cgi?id=5311">http://www.chiiki-dukuri-hyakka.or.jp/sesaku/search/detail.cgi?id=5311</a>
68	井原市地域情報通信基盤整備事業	岡山県	井原市	46,129	H20年度	⑥ 基盤整備	① 社会生活環境整備型	<a href="http://www.chiiki-dukuri-hyakka.or.jp/sesaku/search/detail.cgi?id=5321">http://www.chiiki-dukuri-hyakka.or.jp/sesaku/search/detail.cgi?id=5321</a>
69	交通輸送対策事業	広島県	熊野町	25,579	H21年度	⑥ 基盤整備	① 社会生活環境整備型	<a href="http://www.chiiki-dukuri-hyakka.or.jp/sesaku/search/detail.cgi?id=213430791">http://www.chiiki-dukuri-hyakka.or.jp/sesaku/search/detail.cgi?id=213430791</a>
70	人事考課制度(実績、能力及び態度評定)の導入	広島県	熊野町	25,756	H20年度	⑩ その他	① 社会生活環境整備型	<a href="http://www.chiiki-dukuri-hyakka.or.jp/sesaku/search/detail.cgi?id=5361">http://www.chiiki-dukuri-hyakka.or.jp/sesaku/search/detail.cgi?id=5361</a>
71	人材確保対策事業 長州フアイアコミュニティ語学研修事業	山口県	萩市	57,079	H20年度	⑨ 教育・文化・スポーツ	① 社会生活環境整備型	<a href="http://www.chiiki-dukuri-hyakka.or.jp/sesaku/search/detail.cgi?id=5377">http://www.chiiki-dukuri-hyakka.or.jp/sesaku/search/detail.cgi?id=5377</a>
72	休日夜間応急診療所設置運営	山口県	柳井市	36,051	H20年度	⑦ 健康福祉	① 社会生活環境整備型	<a href="http://www.chiiki-dukuri-hyakka.or.jp/sesaku/search/detail.cgi?id=5387">http://www.chiiki-dukuri-hyakka.or.jp/sesaku/search/detail.cgi?id=5387</a>
73	伯耆町集落活性化モデル事業	鳥取県	伯耆町	11,929	H21年度	① 住民参画・NPO・ボランティア	③ イベント型	<a href="http://www.chiiki-dukuri-hyakka.or.jp/sesaku/search/detail.cgi?id=213139043">http://www.chiiki-dukuri-hyakka.or.jp/sesaku/search/detail.cgi?id=213139043</a>

No.	取組み名	都道府県名	市区町村名	人口 (人)	調査年度	地域活性化分野	活動内容に類型	参照URL
74	体験交流型観光推進事業	山口県	周防大島町	20,266	H21年度	③ 農山漁村振興 ④ 観光振興	② 地域産業振興型	<a href="http://www.chihiki-dukuri-hyakka.or.jp/sesaku/search/detail.cgi?id=213530511">http://www.chihiki-dukuri-hyakka.or.jp/sesaku/search/detail.cgi?id=213530511</a>
75	保育園庭芝生化事業	鳥取県	鳥取市	197,474	H21年度	① 住民参画・NPO・ボランティア ⑦ 健康福祉 ⑤ 環境	① 社会生活環境整備型	<a href="http://www.chihiki-dukuri-hyakka.or.jp/sesaku/search/detail.cgi?id=213120111">http://www.chihiki-dukuri-hyakka.or.jp/sesaku/search/detail.cgi?id=213120111</a>
76	保育所保育料2人目無料化	岡山県	里庄町	11,014	H20年度	⑦ 健康福祉	① 社会生活環境整備型	<a href="http://www.chihiki-dukuri-hyakka.or.jp/sesaku/search/detail.cgi?id=5330">http://www.chihiki-dukuri-hyakka.or.jp/sesaku/search/detail.cgi?id=5330</a>
77	倉吉市住宅用太陽光発電システム導入促進事業	鳥取県	倉吉市	51,340	H21年度	⑤ 環境	① 社会生活環境整備型	<a href="http://www.chihiki-dukuri-hyakka.or.jp/sesaku/search/detail.cgi?id=213120372">http://www.chihiki-dukuri-hyakka.or.jp/sesaku/search/detail.cgi?id=213120372</a>
78	個性ある地域づくり事業助成制度	広島県	安芸太田町	8,121	H20年度	① 住民参画・NPO・ボランティア ④ 観光振興 ⑧ 防犯・防災	③ イベント型	<a href="http://www.chihiki-dukuri-hyakka.or.jp/sesaku/search/detail.cgi?id=5364">http://www.chihiki-dukuri-hyakka.or.jp/sesaku/search/detail.cgi?id=5364</a>
79	健康づくり事業	広島県	呉市	245,937	H21年度	⑦ 健康福祉	① 社会生活環境整備型	<a href="http://www.chihiki-dukuri-hyakka.or.jp/sesaku/search/detail.cgi?id=213420251">http://www.chihiki-dukuri-hyakka.or.jp/sesaku/search/detail.cgi?id=213420251</a>
80	健康で安全安心なまちづくり事業	岡山県	奈義町	6,366	H22年度	⑦ 健康福祉 ⑨ 教育・文化・スポーツ	① 社会生活環境整備型	<a href="http://www.chihiki-dukuri-hyakka.or.jp/sesaku/search/detail.cgi?id=214734052">http://www.chihiki-dukuri-hyakka.or.jp/sesaku/search/detail.cgi?id=214734052</a>
81	健康体操普及事業	鳥取県	倉吉市	51,703	H20年度	⑦ 健康福祉	① 社会生活環境整備型	<a href="http://www.chihiki-dukuri-hyakka.or.jp/sesaku/search/detail.cgi?id=5297">http://www.chihiki-dukuri-hyakka.or.jp/sesaku/search/detail.cgi?id=5297</a>
82	健康医療電話相談サービス	鳥取県	益田市	51,665	H21年度	⑦ 健康福祉	① 社会生活環境整備型	<a href="http://www.chihiki-dukuri-hyakka.or.jp/sesaku/search/detail.cgi?id=213220413">http://www.chihiki-dukuri-hyakka.or.jp/sesaku/search/detail.cgi?id=213220413</a>
83	八頭町営バス運行事業	鳥取県	八頭町	19,386	H22年度	⑥ 基盤整備	① 社会生活環境整備型	<a href="http://www.chihiki-dukuri-hyakka.or.jp/sesaku/search/detail.cgi?id=214734019">http://www.chihiki-dukuri-hyakka.or.jp/sesaku/search/detail.cgi?id=214734019</a>
84	公共交通体系の再構築	岡山県	笠岡市	55,119	H21年度	⑥ 基盤整備	① 社会生活環境整備型	<a href="http://www.chihiki-dukuri-hyakka.or.jp/sesaku/search/detail.cgi?id=213320541">http://www.chihiki-dukuri-hyakka.or.jp/sesaku/search/detail.cgi?id=213320541</a>
85	公民館の自治センター化	広島県	世羅町	19,081	H20年度	① 住民参画・NPO・ボランティア ⑩ その他	③ イベント型	<a href="http://www.chihiki-dukuri-hyakka.or.jp/sesaku/search/detail.cgi?id=5367">http://www.chihiki-dukuri-hyakka.or.jp/sesaku/search/detail.cgi?id=5367</a>
86	公民館地域運営化事業	山口県	田布施町	16,434	H22年度	① 住民参画・NPO・ボランティア	① 社会生活環境整備型	<a href="http://www.chihiki-dukuri-hyakka.or.jp/sesaku/search/detail.cgi?id=214734094">http://www.chihiki-dukuri-hyakka.or.jp/sesaku/search/detail.cgi?id=214734094</a>
87	公用車両リース化	山口県	下松市	55,568	H21年度	⑩ その他	① 社会生活環境整備型	<a href="http://www.chihiki-dukuri-hyakka.or.jp/sesaku/search/detail.cgi?id=213520711">http://www.chihiki-dukuri-hyakka.or.jp/sesaku/search/detail.cgi?id=213520711</a>
88	公聴事業 市長室でいきいきトークキング・巡回市長対話室	岡山県	赤磐市	45,352	H20年度	① 住民参画・NPO・ボランティア	③ イベント型	<a href="http://www.chihiki-dukuri-hyakka.or.jp/sesaku/search/detail.cgi?id=5324">http://www.chihiki-dukuri-hyakka.or.jp/sesaku/search/detail.cgi?id=5324</a>
89	出雲市定住支援「住宅建築・リフォーム」助成金交付制度	鳥根県	出雲市	148,148	H20年度	③ 農山漁村振興	① 社会生活環境整備型	<a href="http://www.chihiki-dukuri-hyakka.or.jp/sesaku/search/detail.cgi?id=5310">http://www.chihiki-dukuri-hyakka.or.jp/sesaku/search/detail.cgi?id=5310</a>
90	初代内閣総理大臣伊藤博文公没後100年記念事業	山口県	光市	54,305	H22年度	⑨ 教育・文化・スポーツ	③ イベント型	<a href="http://www.chihiki-dukuri-hyakka.or.jp/sesaku/search/detail.cgi?id=214734086">http://www.chihiki-dukuri-hyakka.or.jp/sesaku/search/detail.cgi?id=214734086</a>
91	助け合いのまちづくり事業	岡山県	和気町	16,334	H20年度	① 住民参画・NPO・ボランティア	③ イベント型	<a href="http://www.chihiki-dukuri-hyakka.or.jp/sesaku/search/detail.cgi?id=5328">http://www.chihiki-dukuri-hyakka.or.jp/sesaku/search/detail.cgi?id=5328</a>
92	北広島暮らしアドバイザー設置事業	広島県	北広島町	20,640	H21年度	③ 農山漁村振興	① 社会生活環境整備型	<a href="http://www.chihiki-dukuri-hyakka.or.jp/sesaku/search/detail.cgi?id=213436922">http://www.chihiki-dukuri-hyakka.or.jp/sesaku/search/detail.cgi?id=213436922</a>
93	医療施設転換整備事業（介護保険施設及び高齢者居住施設の整備）	広島県	安芸太田町	7,890	H21年度	⑦ 健康福祉	① 社会生活環境整備型	<a href="http://www.chihiki-dukuri-hyakka.or.jp/sesaku/search/detail.cgi?id=213436841">http://www.chihiki-dukuri-hyakka.or.jp/sesaku/search/detail.cgi?id=213436841</a>
94	医療研究修資金貸付金	鳥根県	益田市	51,665	H21年度	⑦ 健康福祉	① 社会生活環境整備型	<a href="http://www.chihiki-dukuri-hyakka.or.jp/sesaku/search/detail.cgi?id=213220412">http://www.chihiki-dukuri-hyakka.or.jp/sesaku/search/detail.cgi?id=213220412</a>
95	協働のまちづくりの指針策定	岡山県	玉野市	66,908	H20年度	① 住民参画・NPO・ボランティア	③ イベント型	<a href="http://www.chihiki-dukuri-hyakka.or.jp/sesaku/search/detail.cgi?id=5319">http://www.chihiki-dukuri-hyakka.or.jp/sesaku/search/detail.cgi?id=5319</a>
96	協働のまちづくり推進事業	広島県	竹原市	29,860	H21年度	① 住民参画・NPO・ボランティア	③ イベント型	<a href="http://www.chihiki-dukuri-hyakka.or.jp/sesaku/search/detail.cgi?id=213420331">http://www.chihiki-dukuri-hyakka.or.jp/sesaku/search/detail.cgi?id=213420331</a>
97	南交流センター整備事業	広島県	府中町	50,782	H22年度	⑦ 健康福祉 ⑨ 教育・文化・スポーツ ⑩ その他	③ イベント型	<a href="http://www.chihiki-dukuri-hyakka.or.jp/sesaku/search/detail.cgi?id=214734070">http://www.chihiki-dukuri-hyakka.or.jp/sesaku/search/detail.cgi?id=214734070</a>
98	博物館建設事業	鳥根県	出雲市	147,276	H21年度	⑨ 教育・文化・スポーツ	④ 地域交流型	<a href="http://www.chihiki-dukuri-hyakka.or.jp/sesaku/search/detail.cgi?id=213220321">http://www.chihiki-dukuri-hyakka.or.jp/sesaku/search/detail.cgi?id=213220321</a>

No.	取組み名	都道府県名	市区町村名	人口 (人)	調査年度	地域活性化分野	活動内容に類型	参照URL
99	吉備中央町協働でひらく新たなまちづくり実践事業補助金	岡山県	吉備中央町	13,736	H20年度	① 住民参画・NPO・ボランティア	③ イベント型	<a href="http://www.chihiki-dukuri-hyakka.or.jp/sesaku/search/detail.cgi?c=5335">http://www.chihiki-dukuri-hyakka.or.jp/sesaku/search/detail.cgi?c=5335</a>
100	周産期医療維持継続等支援事業	鳥根県	益田市	51,665	H21年度	⑦ 健康福祉	① 社会生活環境整備型	<a href="http://www.chihiki-dukuri-hyakka.or.jp/sesaku/search/detail.cgi?c=213220411">http://www.chihiki-dukuri-hyakka.or.jp/sesaku/search/detail.cgi?c=213220411</a>
101	周防大島町ちびっ子医療費助成事業基金の設置	山口県	周防大島町	20,720	H20年度	⑦ 健康福祉	① 社会生活環境整備型	<a href="http://www.chihiki-dukuri-hyakka.or.jp/sesaku/search/detail.cgi?c=5393">http://www.chihiki-dukuri-hyakka.or.jp/sesaku/search/detail.cgi?c=5393</a>
102	和木中学校改築事業	山口県	和木町	6,594	H21年度	⑨ 教育・文化・スポーツ	① 社会生活環境整備型	<a href="http://www.chihiki-dukuri-hyakka.or.jp/sesaku/search/detail.cgi?c=213532131">http://www.chihiki-dukuri-hyakka.or.jp/sesaku/search/detail.cgi?c=213532131</a>
103	国土交通大臣杯第2回全国離島交流中学生野球大会	鳥根県	隠岐の島町	16,047	H21年度	④ 観光振興	③ イベント型	<a href="http://www.chihiki-dukuri-hyakka.or.jp/sesaku/search/detail.cgi?c=213252873">http://www.chihiki-dukuri-hyakka.or.jp/sesaku/search/detail.cgi?c=213252873</a>
104	地元産農産物の学校給食活用事業	山口県	柳井市	35,726	H21年度	③ 農山漁村振興	② 地域産業振興型	<a href="http://www.chihiki-dukuri-hyakka.or.jp/sesaku/search/detail.cgi?c=213521282">http://www.chihiki-dukuri-hyakka.or.jp/sesaku/search/detail.cgi?c=213521282</a>
105	地域づくりワークショップ	広島県	海田町	27,916	H21年度	① 住民参画・NPO・ボランティア	③ イベント型	<a href="http://www.chihiki-dukuri-hyakka.or.jp/sesaku/search/detail.cgi?c=213430481">http://www.chihiki-dukuri-hyakka.or.jp/sesaku/search/detail.cgi?c=213430481</a>
106	地域コミュニティ活性化事業	鳥根県	江津市	26,969	H21年度	① 住民参画・NPO・ボランティア ⑩ その他	③ イベント型	<a href="http://www.chihiki-dukuri-hyakka.or.jp/sesaku/search/detail.cgi?c=213220751">http://www.chihiki-dukuri-hyakka.or.jp/sesaku/search/detail.cgi?c=213220751</a>
107	地域ポイント制度～「まちづくりバスポート」事業～	広島県	福山市	463,582	H21年度	① 住民参画・NPO・ボランティア	③ イベント型	<a href="http://www.chihiki-dukuri-hyakka.or.jp/sesaku/search/detail.cgi?c=213420761">http://www.chihiki-dukuri-hyakka.or.jp/sesaku/search/detail.cgi?c=213420761</a>
108	地域公共交通整備事業	広島県	大竹市	29,335	H22年度	⑥ 基盤整備	① 社会生活環境整備型	<a href="http://www.chihiki-dukuri-hyakka.or.jp/sesaku/search/detail.cgi?c=214734065">http://www.chihiki-dukuri-hyakka.or.jp/sesaku/search/detail.cgi?c=214734065</a>
109	地域公共交通活性化・再生総合事業 地域公共交通総合連携計画策定調査	鳥根県	江津市	26,969	H21年度	⑥ 基盤整備	① 社会生活環境整備型	<a href="http://www.chihiki-dukuri-hyakka.or.jp/sesaku/search/detail.cgi?c=213220753">http://www.chihiki-dukuri-hyakka.or.jp/sesaku/search/detail.cgi?c=213220753</a>
110	地域医療等支援対策事業	鳥根県	江津市	26,969	H21年度	⑦ 健康福祉	① 社会生活環境整備型	<a href="http://www.chihiki-dukuri-hyakka.or.jp/sesaku/search/detail.cgi?c=213220752">http://www.chihiki-dukuri-hyakka.or.jp/sesaku/search/detail.cgi?c=213220752</a>
111	地域情報通信基盤整備事業	岡山県	奈義町	6,366	H22年度	⑥ 基盤整備 ⑦ 健康福祉 ⑧ 防犯・防災	① 社会生活環境整備型	<a href="http://www.chihiki-dukuri-hyakka.or.jp/sesaku/search/detail.cgi?c=214734051">http://www.chihiki-dukuri-hyakka.or.jp/sesaku/search/detail.cgi?c=214734051</a>
112	地域未来戦略会議	広島県	安芸太田町	7,735	H22年度	② 産業振興 ③ 農山漁村振興 ④ 観光振興 ⑤ 環境	② 地域産業振興型	<a href="http://www.chihiki-dukuri-hyakka.or.jp/sesaku/search/detail.cgi?c=214734074">http://www.chihiki-dukuri-hyakka.or.jp/sesaku/search/detail.cgi?c=214734074</a>
113	地域資源活用商品開発支援事業	広島県	廿日市市	117,485	H22年度	② 産業振興	② 地域産業振興型	<a href="http://www.chihiki-dukuri-hyakka.or.jp/sesaku/search/detail.cgi?c=214734067">http://www.chihiki-dukuri-hyakka.or.jp/sesaku/search/detail.cgi?c=214734067</a>
114	地方の元気再生事業	山口県	岩国市	147,167	H21年度	① 住民参画・NPO・ボランティア ② 産業振興 ③ 農山漁村振興	① 社会生活環境整備型	<a href="http://www.chihiki-dukuri-hyakka.or.jp/sesaku/search/detail.cgi?c=213520801">http://www.chihiki-dukuri-hyakka.or.jp/sesaku/search/detail.cgi?c=213520801</a>
115	地球温暖化対策地域推進計画策定	広島県	東広島市	182,164	H21年度	⑤ 環境	① 社会生活環境整備型	<a href="http://www.chihiki-dukuri-hyakka.or.jp/sesaku/search/detail.cgi?c=213421222">http://www.chihiki-dukuri-hyakka.or.jp/sesaku/search/detail.cgi?c=213421222</a>
116	地縁組織との協働システム構築計画	岡山県	笠岡市	54,683	H22年度	① 住民参画・NPO・ボランティア	③ イベント型	<a href="http://www.chihiki-dukuri-hyakka.or.jp/sesaku/search/detail.cgi?c=214734037">http://www.chihiki-dukuri-hyakka.or.jp/sesaku/search/detail.cgi?c=214734037</a>
117	坂町海外研修青少年対象事業	広島県	坂町	13,386	H22年度	① 住民参画・NPO・ボランティア ⑨ 教育・文化・スポーツ	④ 地域交流型	<a href="http://www.chihiki-dukuri-hyakka.or.jp/sesaku/search/detail.cgi?c=214734073">http://www.chihiki-dukuri-hyakka.or.jp/sesaku/search/detail.cgi?c=214734073</a>
118	坂町立横浜保育所の民営化	広島県	坂町	13,189	H20年度	⑩ その他 ⑦ 健康福祉	① 社会生活環境整備型	<a href="http://www.chihiki-dukuri-hyakka.or.jp/sesaku/search/detail.cgi?c=5362">http://www.chihiki-dukuri-hyakka.or.jp/sesaku/search/detail.cgi?c=5362</a>
119	外国人の暮らしの課題発見ワークショップ	広島県	海田町	29,047	H22年度	① 住民参画・NPO・ボランティア ⑩ その他	③ イベント型	<a href="http://www.chihiki-dukuri-hyakka.or.jp/sesaku/search/detail.cgi?c=214734071">http://www.chihiki-dukuri-hyakka.or.jp/sesaku/search/detail.cgi?c=214734071</a>
120	多文化共生のまちづくりの推進	広島県	東広島市	182,594	H22年度	① 住民参画・NPO・ボランティア ⑦ 健康福祉 ⑧ 防犯・防災 ⑨ 教育・文化・スポーツ ⑩ その他	① 社会生活環境整備型	<a href="http://www.chihiki-dukuri-hyakka.or.jp/sesaku/search/detail.cgi?c=214734066">http://www.chihiki-dukuri-hyakka.or.jp/sesaku/search/detail.cgi?c=214734066</a>
121	多文化共生社会の実現に向けた取り組み	岡山県	総社市	67,439	H22年度	① 住民参画・NPO・ボランティア	① 社会生活環境整備型	<a href="http://www.chihiki-dukuri-hyakka.or.jp/sesaku/search/detail.cgi?c=214734040">http://www.chihiki-dukuri-hyakka.or.jp/sesaku/search/detail.cgi?c=214734040</a>
122	大学との連携によるER型教習システムの構築	岡山県	岡山市	699,160	H22年度	⑦ 健康福祉	① 社会生活環境整備型	<a href="http://www.chihiki-dukuri-hyakka.or.jp/sesaku/search/detail.cgi?c=214734034">http://www.chihiki-dukuri-hyakka.or.jp/sesaku/search/detail.cgi?c=214734034</a>

No.	取組み名	都道府県名	市区町村名	人口 (人)	調査年度	地域活性化分野	活動内容に類型	参照URL
123	大学連携推進事業(東広島市と広島大学・近畿大学工学部、広島国際大学及びエリザベト音楽大学との連携)	広島県	東広島市	182,164	H21年度	② 産業振興 ⑦ 健康福祉 ⑤ 環境 ⑨ 教育・文化・スポーツ ⑩ その他	③ イベント型	<a href="http://www.chihiki-dukuri-hyakka.or.jp/sesaku/search/detail.cgi?id=213421221">http://www.chihiki-dukuri-hyakka.or.jp/sesaku/search/detail.cgi?id=213421221</a>
124	大山恵みの里プロジェクト推進事業	鳥取県	大山町	18,930	H20年度	② 産業振興 ④ 観光振興	② 地域産業振興型	<a href="http://www.chihiki-dukuri-hyakka.or.jp/sesaku/search/detail.cgi?id=5308">http://www.chihiki-dukuri-hyakka.or.jp/sesaku/search/detail.cgi?id=5308</a>
125	大崎上島町大崎苑整備事業	広島県	大崎上島町	8,605	H22年度	⑥ 基盤整備	① 社会生活環境整備型	<a href="http://www.chihiki-dukuri-hyakka.or.jp/sesaku/search/detail.cgi?id=214734077">http://www.chihiki-dukuri-hyakka.or.jp/sesaku/search/detail.cgi?id=214734077</a>
126	大石アートのエスタim秋芳洞	山口県	美祿市	29,175	H21年度	④ 観光振興	③ イベント型	<a href="http://www.chihiki-dukuri-hyakka.or.jp/sesaku/search/detail.cgi?id=213521361">http://www.chihiki-dukuri-hyakka.or.jp/sesaku/search/detail.cgi?id=213521361</a>
127	大田市太陽光発電導入促進事業	島根県	大田市	39,644	H22年度	⑤ 環境	① 社会生活環境整備型	<a href="http://www.chihiki-dukuri-hyakka.or.jp/sesaku/search/detail.cgi?id=214734031">http://www.chihiki-dukuri-hyakka.or.jp/sesaku/search/detail.cgi?id=214734031</a>
128	太陽光発電設置推進事業	広島県	福山市	463,582	H21年度	⑤ 環境	① 社会生活環境整備型	<a href="http://www.chihiki-dukuri-hyakka.or.jp/sesaku/search/detail.cgi?id=213420762">http://www.chihiki-dukuri-hyakka.or.jp/sesaku/search/detail.cgi?id=213420762</a>
129	奈義町総合防災訓練(協働の町づくり)	岡山県	奈義町	6,559	H20年度	① 住民参画・NPO・ボランティア	① 社会生活環境整備型	<a href="http://www.chihiki-dukuri-hyakka.or.jp/sesaku/search/detail.cgi?id=5332">http://www.chihiki-dukuri-hyakka.or.jp/sesaku/search/detail.cgi?id=5332</a>
130	妊婦一般健康診査公費負担制度	山口県	周防大島町	20,720	H20年度	⑦ 健康福祉	① 社会生活環境整備型	<a href="http://www.chihiki-dukuri-hyakka.or.jp/sesaku/search/detail.cgi?id=5394">http://www.chihiki-dukuri-hyakka.or.jp/sesaku/search/detail.cgi?id=5394</a>
131	妊婦健康診査・乳幼児健診にかかる公費負担助成の拡充	山口県	上関町	3,738	H20年度	⑦ 健康福祉	① 社会生活環境整備型	<a href="http://www.chihiki-dukuri-hyakka.or.jp/sesaku/search/detail.cgi?id=5396">http://www.chihiki-dukuri-hyakka.or.jp/sesaku/search/detail.cgi?id=5396</a>
132	子どもに関する総合的な支援体制の構築	岡山県	岡山市	697,143	H21年度	⑦ 健康福祉	① 社会生活環境整備型	<a href="http://www.chihiki-dukuri-hyakka.or.jp/sesaku/search/detail.cgi?id=213320111">http://www.chihiki-dukuri-hyakka.or.jp/sesaku/search/detail.cgi?id=213320111</a>
133	子ども相談事配置事業	岡山県	岡山市	695,170	H20年度	⑨ 教育・文化・スポーツ	① 社会生活環境整備型	<a href="http://www.chihiki-dukuri-hyakka.or.jp/sesaku/search/detail.cgi?id=5318">http://www.chihiki-dukuri-hyakka.or.jp/sesaku/search/detail.cgi?id=5318</a>
134	子ども農山村交流プロジェクト	広島県	北広島町	20,861	H20年度	③ 農山漁村振興	④ 地域交流型	<a href="http://www.chihiki-dukuri-hyakka.or.jp/sesaku/search/detail.cgi?id=5365">http://www.chihiki-dukuri-hyakka.or.jp/sesaku/search/detail.cgi?id=5365</a>
135	子ども農山漁村交流プロジェクト(愛称:ふるさと子ども夢学校)	山口県	長門市	39,807	H21年度	① 住民参画・NPO・ボランティア ③ 農山漁村振興 ⑨ 教育・文化・スポーツ	④ 地域交流型	<a href="http://www.chihiki-dukuri-hyakka.or.jp/sesaku/search/detail.cgi?id=213521101">http://www.chihiki-dukuri-hyakka.or.jp/sesaku/search/detail.cgi?id=213521101</a>
136	学校の元気応援事業	広島県	東広島市	177,535	H20年度	⑨ 教育・文化・スポーツ	① 社会生活環境整備型	<a href="http://www.chihiki-dukuri-hyakka.or.jp/sesaku/search/detail.cgi?id=5352">http://www.chihiki-dukuri-hyakka.or.jp/sesaku/search/detail.cgi?id=5352</a>
137	学校給食の地産地消	岡山県	奈義町	6,366	H22年度	② 産業振興 ③ 農山漁村振興 ⑨ 教育・文化・スポーツ	② 地域産業振興型	<a href="http://www.chihiki-dukuri-hyakka.or.jp/sesaku/search/detail.cgi?id=214734053">http://www.chihiki-dukuri-hyakka.or.jp/sesaku/search/detail.cgi?id=214734053</a>
138	宇部地域SNS(ソーシャル・ネットワーク・キング・サービス)事業	山口県	宇部市	173,401	H21年度	① 住民参画・NPO・ボランティア ⑥ 基盤整備	③ イベント型	<a href="http://www.chihiki-dukuri-hyakka.or.jp/sesaku/search/detail.cgi?id=213520211">http://www.chihiki-dukuri-hyakka.or.jp/sesaku/search/detail.cgi?id=213520211</a>
139	安心安全の町づくり	岡山県	奈義町	3,279	H20年度	⑧ 防犯・防災	① 社会生活環境整備型	<a href="http://www.chihiki-dukuri-hyakka.or.jp/sesaku/search/detail.cgi?id=5488">http://www.chihiki-dukuri-hyakka.or.jp/sesaku/search/detail.cgi?id=5488</a>
140	安来市医学生、看護学生等奨学金貸与事業	島根県	安来市	42,878	H22年度	⑦ 健康福祉	① 社会生活環境整備型	<a href="http://www.chihiki-dukuri-hyakka.or.jp/sesaku/search/detail.cgi?id=214734032">http://www.chihiki-dukuri-hyakka.or.jp/sesaku/search/detail.cgi?id=214734032</a>
141	安芸高田市庁舎・クリスタルアージュ整備事業	広島県	安芸高田市	32,726	H20年度	⑩ その他 ② 産業振興 ⑦ 健康福祉 ⑤ 環境 ⑨ 教育・文化・スポーツ	① 社会生活環境整備型	<a href="http://www.chihiki-dukuri-hyakka.or.jp/sesaku/search/detail.cgi?id=5356">http://www.chihiki-dukuri-hyakka.or.jp/sesaku/search/detail.cgi?id=5356</a>
142	定住促進団地整備事業	鳥取県	八頭町	19,845	H20年度	③ 農山漁村振興	① 社会生活環境整備型	<a href="http://www.chihiki-dukuri-hyakka.or.jp/sesaku/search/detail.cgi?id=5302">http://www.chihiki-dukuri-hyakka.or.jp/sesaku/search/detail.cgi?id=5302</a>
143	定住促進対策事業(応援団制度)	山口県	岩国市	150,132	H20年度	③ 農山漁村振興	① 社会生活環境整備型	<a href="http://www.chihiki-dukuri-hyakka.or.jp/sesaku/search/detail.cgi?id=5383">http://www.chihiki-dukuri-hyakka.or.jp/sesaku/search/detail.cgi?id=5383</a>
144	定住促進空き家活用事業	広島県	安芸太田町	7,735	H22年度	① 住民参画・NPO・ボランティア ③ 農山漁村振興	① 社会生活環境整備型	<a href="http://www.chihiki-dukuri-hyakka.or.jp/sesaku/search/detail.cgi?id=214734075">http://www.chihiki-dukuri-hyakka.or.jp/sesaku/search/detail.cgi?id=214734075</a>
145	小地域ケア会議	岡山県	総社市	68,065	H20年度	⑦ 健康福祉	① 社会生活環境整備型	<a href="http://www.chihiki-dukuri-hyakka.or.jp/sesaku/search/detail.cgi?id=5322">http://www.chihiki-dukuri-hyakka.or.jp/sesaku/search/detail.cgi?id=5322</a>



No.	取組名	都道府県名	市区町村名	人口 (人)	調査年度	地域活性化分野	活動内容に類型	参照URL
146	就学児の医療費負担の軽減(小学生の医療費無料化)	山口県	上関町	3,738	H20年度	⑦ 健康福祉	① 社会生活環境整備型	<a href="http://www.chihiki-dukuri-hyakka.or.jp/sesaku/search/detail.cgi?id=5395">http://www.chihiki-dukuri-hyakka.or.jp/sesaku/search/detail.cgi?id=5395</a>
147	屋外広告物等の掲出に関する規制・誘導	山口県	萩市	56,196	H21年度	⑥ 基盤整備	① 社会生活環境整備型	<a href="http://www.chihiki-dukuri-hyakka.or.jp/sesaku/search/detail.cgi?id=21352472">http://www.chihiki-dukuri-hyakka.or.jp/sesaku/search/detail.cgi?id=21352472</a>
148	山口市グループタクシー実証実験事業	山口県	山口市	191,716	H20年度	① 住民参画・NPO・ボランティア ⑥ 基盤整備	① 社会生活環境整備型	<a href="http://www.chihiki-dukuri-hyakka.or.jp/sesaku/search/detail.cgi?id=5373">http://www.chihiki-dukuri-hyakka.or.jp/sesaku/search/detail.cgi?id=5373</a>
149	山口市コミュニティタクシー実証運行事業	山口県	山口市	191,716	H20年度	① 住民参画・NPO・ボランティア ⑥ 基盤整備	① 社会生活環境整備型	<a href="http://www.chihiki-dukuri-hyakka.or.jp/sesaku/search/detail.cgi?id=5372">http://www.chihiki-dukuri-hyakka.or.jp/sesaku/search/detail.cgi?id=5372</a>
150	山口市芸術教育育成支援事業	山口県	山口市	187,648	H21年度	⑨ 教育・文化・スポーツ	④ 地域交流型	<a href="http://www.chihiki-dukuri-hyakka.or.jp/sesaku/search/detail.cgi?id=213520391">http://www.chihiki-dukuri-hyakka.or.jp/sesaku/search/detail.cgi?id=213520391</a>
151	山陰海岸ジオパーク認定推進事業	鳥取県	岩美町	13,013	H22年度	① 住民参画・NPO・ボランティア ② 産業振興 ④ 観光振興	② 地域産業振興型	<a href="http://www.chihiki-dukuri-hyakka.or.jp/sesaku/search/detail.cgi?id=214734016">http://www.chihiki-dukuri-hyakka.or.jp/sesaku/search/detail.cgi?id=214734016</a>
152	山陽小野田市「科学博覧会」	山口県	山陽小野田市	65,708	H22年度	⑨ 教育・文化・スポーツ	③ イベント型	<a href="http://www.chihiki-dukuri-hyakka.or.jp/sesaku/search/detail.cgi?id=214734092">http://www.chihiki-dukuri-hyakka.or.jp/sesaku/search/detail.cgi?id=214734092</a>
153	岡山市区づくり推進事業	岡山県	岡山市	699,160	H22年度	① 住民参画・NPO・ボランティア	③ イベント型	<a href="http://www.chihiki-dukuri-hyakka.or.jp/sesaku/search/detail.cgi?id=214734093">http://www.chihiki-dukuri-hyakka.or.jp/sesaku/search/detail.cgi?id=214734093</a>
154	岡山市美しいまちづくり、快適なまちづくり条例の制定について	岡山県	岡山市	695,170	H20年度	① 住民参画・NPO・ボランティア ⑥ 基盤整備	① 社会生活環境整備型	<a href="http://www.chihiki-dukuri-hyakka.or.jp/sesaku/search/detail.cgi?id=5317">http://www.chihiki-dukuri-hyakka.or.jp/sesaku/search/detail.cgi?id=5317</a>
155	島田荘司選 ばらのまち福山ミステリー文学新人賞事業	広島県	福山市	463,284	H20年度	⑨ 教育・文化・スポーツ	③ イベント型	<a href="http://www.chihiki-dukuri-hyakka.or.jp/sesaku/search/detail.cgi?id=5346">http://www.chihiki-dukuri-hyakka.or.jp/sesaku/search/detail.cgi?id=5346</a>
156	市内巡回移動図書館車購入事業	広島県	竹原市	30,298	H20年度	① 住民参画・NPO・ボランティア ⑦ 健康福祉 ⑨ 教育・文化・スポーツ	① 社会生活環境整備型	<a href="http://www.chihiki-dukuri-hyakka.or.jp/sesaku/search/detail.cgi?id=5341">http://www.chihiki-dukuri-hyakka.or.jp/sesaku/search/detail.cgi?id=5341</a>
157	市営渡船「平成いろは丸」の建造	広島県	福山市	464,558	H22年度	④ 観光振興	② 地域産業振興型	<a href="http://www.chihiki-dukuri-hyakka.or.jp/sesaku/search/detail.cgi?id=214734061">http://www.chihiki-dukuri-hyakka.or.jp/sesaku/search/detail.cgi?id=214734061</a>
158	市民がつくる市民のための自治基本条例策定	鳥取県	米子市	150,137	H21年度	① 住民参画・NPO・ボランティア	③ イベント型	<a href="http://www.chihiki-dukuri-hyakka.or.jp/sesaku/search/detail.cgi?id=213120291">http://www.chihiki-dukuri-hyakka.or.jp/sesaku/search/detail.cgi?id=213120291</a>
159	市民と市長と気楽にトーク	山口県	柳井市	35,436	H22年度	① 住民参画・NPO・ボランティア ⑩ その他	③ イベント型	<a href="http://www.chihiki-dukuri-hyakka.or.jp/sesaku/search/detail.cgi?id=214734089">http://www.chihiki-dukuri-hyakka.or.jp/sesaku/search/detail.cgi?id=214734089</a>
160	市民と行政の協働による安心・安全の取り組み	広島県	福山市	463,284	H20年度	① 住民参画・NPO・ボランティア ⑧ 防犯・防災	① 社会生活環境整備型	<a href="http://www.chihiki-dukuri-hyakka.or.jp/sesaku/search/detail.cgi?id=5345">http://www.chihiki-dukuri-hyakka.or.jp/sesaku/search/detail.cgi?id=5345</a>
161	市民サービスマスター運営事業	広島県	江田島市	28,385	H20年度	⑩ その他	① 社会生活環境整備型	<a href="http://www.chihiki-dukuri-hyakka.or.jp/sesaku/search/detail.cgi?id=5358">http://www.chihiki-dukuri-hyakka.or.jp/sesaku/search/detail.cgi?id=5358</a>
162	市民提案型協働モデル事業	鳥根県	大田市	40,332	H20年度	① 住民参画・NPO・ボランティア	③ イベント型	<a href="http://www.chihiki-dukuri-hyakka.or.jp/sesaku/search/detail.cgi?id=5313">http://www.chihiki-dukuri-hyakka.or.jp/sesaku/search/detail.cgi?id=5313</a>
163	市民活動支援事業	広島県	大竹市	29,807	H20年度	① 住民参画・NPO・ボランティア	③ イベント型	<a href="http://www.chihiki-dukuri-hyakka.or.jp/sesaku/search/detail.cgi?id=5351">http://www.chihiki-dukuri-hyakka.or.jp/sesaku/search/detail.cgi?id=5351</a>
164	幸せさびちゅうおう21	岡山県	吉備中央町	13,533	H21年度	⑦ 健康福祉	① 社会生活環境整備型	<a href="http://www.chihiki-dukuri-hyakka.or.jp/sesaku/search/detail.cgi?id=213869151">http://www.chihiki-dukuri-hyakka.or.jp/sesaku/search/detail.cgi?id=213869151</a>
165	広島市西部水資源再生センター下水汚泥燃料化事業	広島県	広島市	1,155,077	H22年度	⑤ 環境	① 社会生活環境整備型	<a href="http://www.chihiki-dukuri-hyakka.or.jp/sesaku/search/detail.cgi?id=214734055">http://www.chihiki-dukuri-hyakka.or.jp/sesaku/search/detail.cgi?id=214734055</a>
166	庄原さとやま博	広島県	庄原市	41,309	H22年度	③ 農山漁村振興 ④ 観光振興	③ イベント型	<a href="http://www.chihiki-dukuri-hyakka.or.jp/sesaku/search/detail.cgi?id=214734064">http://www.chihiki-dukuri-hyakka.or.jp/sesaku/search/detail.cgi?id=214734064</a>
167	府中市保育体制再編整備事業～(仮称)中央保育所建設事業～	広島県	府中市	45,149	H20年度	⑦ 健康福祉	① 社会生活環境整備型	<a href="http://www.chihiki-dukuri-hyakka.or.jp/sesaku/search/detail.cgi?id=5347">http://www.chihiki-dukuri-hyakka.or.jp/sesaku/search/detail.cgi?id=5347</a>
168	府中町キッズ環境調査プロジェクト	広島県	府中町	51,950	H20年度	⑤ 環境	① 社会生活環境整備型	<a href="http://www.chihiki-dukuri-hyakka.or.jp/sesaku/search/detail.cgi?id=5359">http://www.chihiki-dukuri-hyakka.or.jp/sesaku/search/detail.cgi?id=5359</a>
169	徳佐小学校改築事業	山口県	阿東町	7,608	H20年度	⑨ 教育・文化・スポーツ	① 社会生活環境整備型	<a href="http://www.chihiki-dukuri-hyakka.or.jp/sesaku/search/detail.cgi?id=5399">http://www.chihiki-dukuri-hyakka.or.jp/sesaku/search/detail.cgi?id=5399</a>
170	情報通信ネットワーク基盤整備費補助	山口県	岩国市	150,132	H20年度	⑥ 基盤整備	① 社会生活環境整備型	<a href="http://www.chihiki-dukuri-hyakka.or.jp/sesaku/search/detail.cgi?id=5384">http://www.chihiki-dukuri-hyakka.or.jp/sesaku/search/detail.cgi?id=5384</a>

No.	取組み名	都道府県名	市区町村名	人口 (人)	調査年度	地域活性化分野	活動内容に類型	参照URL
171	救急情報活用支援事業	鳥取県	南部町	11,786	H22年度	⑦ 健康福祉	① 社会生活環境整備型	<a href="http://www.chiiki-dukuri-hyakka.or.jp/sesaku/search/detail.cgi?c=214734024">http://www.chiiki-dukuri-hyakka.or.jp/sesaku/search/detail.cgi?c=214734024</a>
172	救急搬送患者画像送信システム実証実験事業	岡山県	新見市	35,583	H20年度	① 住民参画・NPO・ボランティア ⑦ 健康福祉	① 社会生活環境整備型	<a href="http://www.chiiki-dukuri-hyakka.or.jp/sesaku/search/detail.cgi?c=5323">http://www.chiiki-dukuri-hyakka.or.jp/sesaku/search/detail.cgi?c=5323</a>
173	教科担任制加配教員	鳥取県	倉吉市	51,340	H21年度	⑨ 教育・文化・スポーツ	① 社会生活環境整備型	<a href="http://www.chiiki-dukuri-hyakka.or.jp/sesaku/search/detail.cgi?c=213120371">http://www.chiiki-dukuri-hyakka.or.jp/sesaku/search/detail.cgi?c=213120371</a>
174	新たな地域コミュニティ組織づくり	山口県	萩市	57,079	H20年度	① 住民参画・NPO・ボランティア	③ イベント型	<a href="http://www.chiiki-dukuri-hyakka.or.jp/sesaku/search/detail.cgi?c=5374">http://www.chiiki-dukuri-hyakka.or.jp/sesaku/search/detail.cgi?c=5374</a>
175	新交通システム運営(試行運転)事業	鳥根県	浜田市	60,533	H20年度	⑥ 基盤整備	① 社会生活環境整備型	<a href="http://www.chiiki-dukuri-hyakka.or.jp/sesaku/search/detail.cgi?c=5309">http://www.chiiki-dukuri-hyakka.or.jp/sesaku/search/detail.cgi?c=5309</a>
176	新規創業・開業支援事業	鳥取県	岩美町	13,243	H21年度	② 産業振興	② 地域産業振興型	<a href="http://www.chiiki-dukuri-hyakka.or.jp/sesaku/search/detail.cgi?c=213130251">http://www.chiiki-dukuri-hyakka.or.jp/sesaku/search/detail.cgi?c=213130251</a>
177	日南町デマンドバス運行事業	鳥取県	日南町	5,942	H21年度	⑥ 基盤整備	① 社会生活環境整備型	<a href="http://www.chiiki-dukuri-hyakka.or.jp/sesaku/search/detail.cgi?c=213140131">http://www.chiiki-dukuri-hyakka.or.jp/sesaku/search/detail.cgi?c=213140131</a>
178	日南町定住促進施設(宿泊研修所)いっわみ(にし)整備事業(農林業後継者育成と廃校舎活用の取組み)	鳥取県	日南町	5,811	H22年度	③ 農山漁村振興	② 地域産業振興型	<a href="http://www.chiiki-dukuri-hyakka.or.jp/sesaku/search/detail.cgi?c=214734026">http://www.chiiki-dukuri-hyakka.or.jp/sesaku/search/detail.cgi?c=214734026</a>
179	日本ゼロ分のイチ地区振興協議会	鳥取県	智頭町	8,596	H20年度	① 住民参画・NPO・ボランティア	③ イベント型	<a href="http://www.chiiki-dukuri-hyakka.or.jp/sesaku/search/detail.cgi?c=5300">http://www.chiiki-dukuri-hyakka.or.jp/sesaku/search/detail.cgi?c=5300</a>
180	智頭町森林セラピー	鳥取県	智頭町	8,314	H22年度	② 産業振興 ③ 農山漁村振興 ④ 観光振興	③ イベント型	<a href="http://www.chiiki-dukuri-hyakka.or.jp/sesaku/search/detail.cgi?c=214734018">http://www.chiiki-dukuri-hyakka.or.jp/sesaku/search/detail.cgi?c=214734018</a>
181	智頭町百人委員会	鳥取県	智頭町	8,500	H21年度	① 住民参画・NPO・ボランティア	③ イベント型	<a href="http://www.chiiki-dukuri-hyakka.or.jp/sesaku/search/detail.cgi?c=213132881">http://www.chiiki-dukuri-hyakka.or.jp/sesaku/search/detail.cgi?c=213132881</a>
182	有機農業促進事業	岡山県	奈義町	6,559	H20年度	③ 農山漁村振興	② 地域産業振興型	<a href="http://www.chiiki-dukuri-hyakka.or.jp/sesaku/search/detail.cgi?c=5333">http://www.chiiki-dukuri-hyakka.or.jp/sesaku/search/detail.cgi?c=5333</a>
183	木質バイオマス活用プロジェクト	広島県	庄原市	42,110	H20年度	② 産業振興 ③ 農山漁村振興 ④ 観光振興 ⑤ 環境	② 地域産業振興型	<a href="http://www.chiiki-dukuri-hyakka.or.jp/sesaku/search/detail.cgi?c=5350">http://www.chiiki-dukuri-hyakka.or.jp/sesaku/search/detail.cgi?c=5350</a>
184	東広島市子育て・障害総合支援センター開設	広島県	東広島市	177,535	H20年度	⑦ 健康福祉	① 社会生活環境整備型	<a href="http://www.chiiki-dukuri-hyakka.or.jp/sesaku/search/detail.cgi?c=5353">http://www.chiiki-dukuri-hyakka.or.jp/sesaku/search/detail.cgi?c=5353</a>
185	東郷湖活性化プロジェクト	鳥取県	湯梨浜町	17,855	H20年度	② 産業振興 ④ 観光振興 ⑤ 環境	② 地域産業振興型	<a href="http://www.chiiki-dukuri-hyakka.or.jp/sesaku/search/detail.cgi?c=5304">http://www.chiiki-dukuri-hyakka.or.jp/sesaku/search/detail.cgi?c=5304</a>
186	柳井市防災メール導入事業	山口県	柳井市	35,726	H21年度	⑥ 防犯・防災	① 社会生活環境整備型	<a href="http://www.chiiki-dukuri-hyakka.or.jp/sesaku/search/detail.cgi?c=213521281">http://www.chiiki-dukuri-hyakka.or.jp/sesaku/search/detail.cgi?c=213521281</a>
187	極微量ウラン影響効果試験	鳥取県	三朝町	7,549	H21年度	④ 観光振興 ⑤ 環境	① 社会生活環境整備型	<a href="http://www.chiiki-dukuri-hyakka.or.jp/sesaku/search/detail.cgi?c=213130451">http://www.chiiki-dukuri-hyakka.or.jp/sesaku/search/detail.cgi?c=213130451</a>
188	次世代若者交流イベント	山口県	下関市	283,649	H21年度	⑩ その他	③ イベント型	<a href="http://www.chiiki-dukuri-hyakka.or.jp/sesaku/search/detail.cgi?c=213520121">http://www.chiiki-dukuri-hyakka.or.jp/sesaku/search/detail.cgi?c=213520121</a>
189	次代の農業を担う若者育成対策事業 農山漁村生活体験事業	鳥取県	鳥取市	197,474	H21年度	③ 農山漁村振興	② 地域産業振興型	<a href="http://www.chiiki-dukuri-hyakka.or.jp/sesaku/search/detail.cgi?c=213120112">http://www.chiiki-dukuri-hyakka.or.jp/sesaku/search/detail.cgi?c=213120112</a>
190	歩っ徒クラブ ヘルスマチャレンジ(ボランティアによる健康づくり)	岡山県	里庄町	11,037	H22年度	① 住民参画・NPO・ボランティア ⑦ 健康福祉	① 社会生活環境整備型	<a href="http://www.chiiki-dukuri-hyakka.or.jp/sesaku/search/detail.cgi?c=214734048">http://www.chiiki-dukuri-hyakka.or.jp/sesaku/search/detail.cgi?c=214734048</a>
191	江田島健康・長寿のまちづくり	広島県	江田島市	27,279	H22年度	① 住民参画・NPO・ボランティア ⑦ 健康福祉	① 社会生活環境整備型	<a href="http://www.chiiki-dukuri-hyakka.or.jp/sesaku/search/detail.cgi?c=214734089">http://www.chiiki-dukuri-hyakka.or.jp/sesaku/search/detail.cgi?c=214734089</a>
192	活イカ・活魚プロジェクト事業	鳥根県	西ノ島町	3,379	H20年度	② 産業振興 ③ 農山漁村振興 ④ 観光振興	② 地域産業振興型	<a href="http://www.chiiki-dukuri-hyakka.or.jp/sesaku/search/detail.cgi?c=5316">http://www.chiiki-dukuri-hyakka.or.jp/sesaku/search/detail.cgi?c=5316</a>
193	流川・粟研堀地区安全なまなまづくり推進事業(薬研堀通りの整備工事)	広島県	広島市	1,151,266	H21年度	① 住民参画・NPO・ボランティア ⑧ 防犯・防災	① 社会生活環境整備型	<a href="http://www.chiiki-dukuri-hyakka.or.jp/sesaku/search/detail.cgi?c=213410021">http://www.chiiki-dukuri-hyakka.or.jp/sesaku/search/detail.cgi?c=213410021</a>
194	浜田の五地帯ものがたり推進事業	鳥根県	浜田市	59,476	H22年度	④ 観光振興	① 社会生活環境整備型	<a href="http://www.chiiki-dukuri-hyakka.or.jp/sesaku/search/detail.cgi?c=214734028">http://www.chiiki-dukuri-hyakka.or.jp/sesaku/search/detail.cgi?c=214734028</a>
195	海田町ふれあいウォーキング事業	広島県	海田町	29,294	H20年度	⑦ 健康福祉	① 社会生活環境整備型	<a href="http://www.chiiki-dukuri-hyakka.or.jp/sesaku/search/detail.cgi?c=5360">http://www.chiiki-dukuri-hyakka.or.jp/sesaku/search/detail.cgi?c=5360</a>

No.	取組み名	都道府県名	市区町村名	人口 (人)	調査年度	地域活性化分野	活動内容に類型	参照URL
196	湯梨浜町学校跡地施設等の有効活用推進	鳥取県	湯梨浜町	17,727	H21年度	⑩ その他	① 社会生活環境整備型	<a href="http://www.chihiki-dokuri-hyakka.or.jp/sesaku/search/detail.cgi?id=213137002">http://www.chihiki-dokuri-hyakka.or.jp/sesaku/search/detail.cgi?id=213137002</a>
197	湯梨浜町語り部育成事業「ゆりはま塾」	鳥取県	湯梨浜町	17,727	H21年度	① 住民参画・NPO・ボランティア	③ イベント型	<a href="http://www.chihiki-dokuri-hyakka.or.jp/sesaku/search/detail.cgi?id=213137001">http://www.chihiki-dokuri-hyakka.or.jp/sesaku/search/detail.cgi?id=213137001</a>
198	滞在型観光促進事業	広島県	三原市	102,819	H20年度	④ 観光振興 ⑦ 健康福祉	③ イベント型	<a href="http://www.chihiki-dokuri-hyakka.or.jp/sesaku/search/detail.cgi?id=5343">http://www.chihiki-dokuri-hyakka.or.jp/sesaku/search/detail.cgi?id=5343</a>
199	漁業地域活性化支援事業	広島県	呉市	245,937	H21年度	① 住民参画・NPO・ボランティア ② 産業振興 ③ 農山漁村振興	① 社会生活環境整備型	<a href="http://www.chihiki-dokuri-hyakka.or.jp/sesaku/search/detail.cgi?id=213420252">http://www.chihiki-dokuri-hyakka.or.jp/sesaku/search/detail.cgi?id=213420252</a>
200	瀬戸内しまなみ海道10周年記念事業	広島県	尾道市	149,335	H21年度	④ 観光振興 ⑨ 教育・文化・スポーツ	③ イベント型	<a href="http://www.chihiki-dokuri-hyakka.or.jp/sesaku/search/detail.cgi?id=213420501">http://www.chihiki-dokuri-hyakka.or.jp/sesaku/search/detail.cgi?id=213420501</a>
201	瀬戸内市景観計画の策定及び瀬戸内市景観条例の制定	岡山県	瀬戸内市	39,254	H21年度	⑥ 基盤整備	① 社会生活環境整備型	<a href="http://www.chihiki-dokuri-hyakka.or.jp/sesaku/search/detail.cgi?id=213321271">http://www.chihiki-dokuri-hyakka.or.jp/sesaku/search/detail.cgi?id=213321271</a>
202	瀬戸内市立美術館整備事業	岡山県	瀬戸内市	39,054	H22年度	④ 観光振興	④ 地域交流型	<a href="http://www.chihiki-dokuri-hyakka.or.jp/sesaku/search/detail.cgi?id=214734041">http://www.chihiki-dokuri-hyakka.or.jp/sesaku/search/detail.cgi?id=214734041</a>
203	災害時要援護者登録台帳の作成	広島県	呉市	247,881	H20年度	① 住民参画・NPO・ボランティア ⑧ 防犯・防災	① 社会生活環境整備型	<a href="http://www.chihiki-dokuri-hyakka.or.jp/sesaku/search/detail.cgi?id=5340">http://www.chihiki-dokuri-hyakka.or.jp/sesaku/search/detail.cgi?id=5340</a>
204	父子家庭児童育成手当制度	鳥根県	出雲市	148,148	H20年度	⑦ 健康福祉	① 社会生活環境整備型	<a href="http://www.chihiki-dokuri-hyakka.or.jp/sesaku/search/detail.cgi?id=5312">http://www.chihiki-dokuri-hyakka.or.jp/sesaku/search/detail.cgi?id=5312</a>
205	現代ガラス展開催事業	山口県	山陽小野田市	66,006	H21年度	④ 観光振興 ⑨ 教育・文化・スポーツ	③ イベント型	<a href="http://www.chihiki-dokuri-hyakka.or.jp/sesaku/search/detail.cgi?id=21321611">http://www.chihiki-dokuri-hyakka.or.jp/sesaku/search/detail.cgi?id=21321611</a>
206	環境協働まちづくりの推進	広島県	三原市	102,606	H22年度	① 住民参画・NPO・ボランティア ⑤ 環境	① 社会生活環境整備型	<a href="http://www.chihiki-dokuri-hyakka.or.jp/sesaku/search/detail.cgi?id=214734056">http://www.chihiki-dokuri-hyakka.or.jp/sesaku/search/detail.cgi?id=214734056</a>
207	環境型空調設備導入事業	山口県	山口市	194,974	H22年度	⑤ 環境	① 社会生活環境整備型	<a href="http://www.chihiki-dokuri-hyakka.or.jp/sesaku/search/detail.cgi?id=214734081">http://www.chihiki-dokuri-hyakka.or.jp/sesaku/search/detail.cgi?id=214734081</a>
208	環境対応車両導入促進事業	鳥根県	大田市	40,066	H21年度	⑤ 環境	① 社会生活環境整備型	<a href="http://www.chihiki-dokuri-hyakka.or.jp/sesaku/search/detail.cgi?id=213220591">http://www.chihiki-dokuri-hyakka.or.jp/sesaku/search/detail.cgi?id=213220591</a>
209	生活交通活性化事業	山口県	周南市	152,771	H20年度	⑥ 基盤整備	① 社会生活環境整備型	<a href="http://www.chihiki-dokuri-hyakka.or.jp/sesaku/search/detail.cgi?id=5390">http://www.chihiki-dokuri-hyakka.or.jp/sesaku/search/detail.cgi?id=5390</a>
210	産業ネットワーク形成事業	鳥取県	伯耆町	11,929	H21年度	② 産業振興	② 地域産業振興型	<a href="http://www.chihiki-dokuri-hyakka.or.jp/sesaku/search/detail.cgi?id=213138044">http://www.chihiki-dokuri-hyakka.or.jp/sesaku/search/detail.cgi?id=213138044</a>
211	田布施町スポーツセンター指定管理委託事業	山口県	田布施町	16,634	H20年度	⑩ その他	① 社会生活環境整備型	<a href="http://www.chihiki-dokuri-hyakka.or.jp/sesaku/search/detail.cgi?id=5397">http://www.chihiki-dokuri-hyakka.or.jp/sesaku/search/detail.cgi?id=5397</a>
212	町立幼稚園保育料無料化	岡山県	里任町	11,037	H22年度	⑨ 教育・文化・スポーツ	① 社会生活環境整備型	<a href="http://www.chihiki-dokuri-hyakka.or.jp/sesaku/search/detail.cgi?id=214734047">http://www.chihiki-dokuri-hyakka.or.jp/sesaku/search/detail.cgi?id=214734047</a>
213	発達障害者支援システム構築	広島県	三原市	102,606	H22年度	⑦ 健康福祉	① 社会生活環境整備型	<a href="http://www.chihiki-dokuri-hyakka.or.jp/sesaku/search/detail.cgi?id=214734057">http://www.chihiki-dokuri-hyakka.or.jp/sesaku/search/detail.cgi?id=214734057</a>
214	真庭のモノづくり産業展	岡山県	真庭市	51,102	H22年度	① 住民参画・NPO・ボランティア ② 産業振興	③ イベント型	<a href="http://www.chihiki-dokuri-hyakka.or.jp/sesaku/search/detail.cgi?id=214734045">http://www.chihiki-dokuri-hyakka.or.jp/sesaku/search/detail.cgi?id=214734045</a>
215	真庭市コミュニティバス運行事業	岡山県	真庭市	52,242	H20年度	⑧ 防犯・防災	① 社会生活環境整備型	<a href="http://www.chihiki-dokuri-hyakka.or.jp/sesaku/search/detail.cgi?id=5325">http://www.chihiki-dokuri-hyakka.or.jp/sesaku/search/detail.cgi?id=5325</a>
216	真庭市産業サポートセンター事業（真庭市施策名ニュービジネスの促進）	岡山県	真庭市	51,652	H21年度	② 産業振興	③ イベント型	<a href="http://www.chihiki-dokuri-hyakka.or.jp/sesaku/search/detail.cgi?id=213321431">http://www.chihiki-dokuri-hyakka.or.jp/sesaku/search/detail.cgi?id=213321431</a>
217	真庭市産業サポートセンター支援事業	岡山県	真庭市	51,102	H22年度	① 住民参画・NPO・ボランティア ② 産業振興	③ イベント型	<a href="http://www.chihiki-dokuri-hyakka.or.jp/sesaku/search/detail.cgi?id=214734046">http://www.chihiki-dokuri-hyakka.or.jp/sesaku/search/detail.cgi?id=214734046</a>
218	真庭市起業支援事業（市施策名ニュービジネスの促進）	岡山県	真庭市	51,652	H21年度	② 産業振興	③ イベント型	<a href="http://www.chihiki-dokuri-hyakka.or.jp/sesaku/search/detail.cgi?id=213321432">http://www.chihiki-dokuri-hyakka.or.jp/sesaku/search/detail.cgi?id=213321432</a>
219	着物ウィークin萩	山口県	萩市	57,079	H20年度	④ 観光振興	③ イベント型	<a href="http://www.chihiki-dokuri-hyakka.or.jp/sesaku/search/detail.cgi?id=5376">http://www.chihiki-dokuri-hyakka.or.jp/sesaku/search/detail.cgi?id=5376</a>
220	石見美術館小中学生入館無料化経費（石見美術館入館料補助金）	鳥根県	益田市	50,880	H22年度	⑨ 教育・文化・スポーツ	③ イベント型	<a href="http://www.chihiki-dokuri-hyakka.or.jp/sesaku/search/detail.cgi?id=214734030">http://www.chihiki-dokuri-hyakka.or.jp/sesaku/search/detail.cgi?id=214734030</a>
221	研究開発学校制度を活用した地域の将来を切り拓く人材の育成	広島県	廿日市市	117,477	H21年度	⑨ 教育・文化・スポーツ ④ 観光振興	③ イベント型	<a href="http://www.chihiki-dokuri-hyakka.or.jp/sesaku/search/detail.cgi?id=213421311">http://www.chihiki-dokuri-hyakka.or.jp/sesaku/search/detail.cgi?id=213421311</a>

No.	取組み名	都道府県名	市区町村名	人口 (人)	調査年度	地域活性化分野	活動内容に類型	参照URL
222	神石高原和牛の里再構築プロジェクト	広島県	神石高原町	11,541	H20年度	② 産業振興	② 地域産業振興型	<a href="http://www.chiiki-dukuri-hyakka.or.jp/sesaku/search/detail.cgi?id=5368">http://www.chiiki-dukuri-hyakka.or.jp/sesaku/search/detail.cgi?id=5368</a>
223	神石高原町美しい源流の里維持再生(集落支援員制度)	広島県	神石高原町	1,104	H22年度	③ 農山漁村振興	① 社会生活環境整備型	<a href="http://www.chiiki-dukuri-hyakka.or.jp/sesaku/search/detail.cgi?id=214734079">http://www.chiiki-dukuri-hyakka.or.jp/sesaku/search/detail.cgi?id=214734079</a>
224	福寿会館の利活用	広島県	福山市	464,558	H22年度	② 産業振興 ④ 観光振興 ⑨ 教育・文化・スポーツ	③ イベント型	<a href="http://www.chiiki-dukuri-hyakka.or.jp/sesaku/search/detail.cgi?id=214734060">http://www.chiiki-dukuri-hyakka.or.jp/sesaku/search/detail.cgi?id=214734060</a>
225	福山市高齢者おでかけ支援事業	広島県	福山市	463,528	H21年度	⑦ 住民参画・NPO・ボランティア ⑧ 防犯・防災	① 社会生活環境整備型	<a href="http://www.chiiki-dukuri-hyakka.or.jp/sesaku/search/detail.cgi?id=213420763">http://www.chiiki-dukuri-hyakka.or.jp/sesaku/search/detail.cgi?id=213420763</a>
226	秋台地域エコツアーリズム事業	山口県	美祿市	29,641	H20年度	① 住民参画・NPO・ボランティア ④ 観光振興 ⑤ 環境 ⑨ 教育・文化・スポーツ	③ イベント型	<a href="http://www.chiiki-dukuri-hyakka.or.jp/sesaku/search/detail.cgi?id=5389">http://www.chiiki-dukuri-hyakka.or.jp/sesaku/search/detail.cgi?id=5389</a>
227	移住定住促進事業	鳥取県	伯耆町	11,929	H21年度	③ 農山漁村振興	① 社会生活環境整備型	<a href="http://www.chiiki-dukuri-hyakka.or.jp/sesaku/search/detail.cgi?id=213138041">http://www.chiiki-dukuri-hyakka.or.jp/sesaku/search/detail.cgi?id=213138041</a>
228	空き屋活用事業	鳥取県	倉吉市	51,057	H22年度	① 住民参画・NPO・ボランティア	① 社会生活環境整備型	<a href="http://www.chiiki-dukuri-hyakka.or.jp/sesaku/search/detail.cgi?id=214734015">http://www.chiiki-dukuri-hyakka.or.jp/sesaku/search/detail.cgi?id=214734015</a>
229	空き店舗活用促進事業	山口県	防府市	118,311	H20年度	② 産業振興	② 地域産業振興型	<a href="http://www.chiiki-dukuri-hyakka.or.jp/sesaku/search/detail.cgi?id=5379">http://www.chiiki-dukuri-hyakka.or.jp/sesaku/search/detail.cgi?id=5379</a>
230	窓口ねっと(本庁支所間テレビ電話)開設事業	広島県	安芸高田市	32,380	H21年度	⑥ 基盤整備	① 社会生活環境整備型	<a href="http://www.chiiki-dukuri-hyakka.or.jp/sesaku/search/detail.cgi?id=213421491">http://www.chiiki-dukuri-hyakka.or.jp/sesaku/search/detail.cgi?id=213421491</a>
231	結婚サポート事業	広島県	安芸高田市	32,543	H22年度	⑩ その他	③ イベント型	<a href="http://www.chiiki-dukuri-hyakka.or.jp/sesaku/search/detail.cgi?id=214734068">http://www.chiiki-dukuri-hyakka.or.jp/sesaku/search/detail.cgi?id=214734068</a>
232	結婚相談所運営事業	山口県	萩市	57,079	H20年度	③ 農山漁村振興	① 社会生活環境整備型	<a href="http://www.chiiki-dukuri-hyakka.or.jp/sesaku/search/detail.cgi?id=5375">http://www.chiiki-dukuri-hyakka.or.jp/sesaku/search/detail.cgi?id=5375</a>
233	緊急告知FM放送整備事業	山口県	防府市	118,019	H22年度	⑧ 防犯・防災	① 社会生活環境整備型	<a href="http://www.chiiki-dukuri-hyakka.or.jp/sesaku/search/detail.cgi?id=214734082">http://www.chiiki-dukuri-hyakka.or.jp/sesaku/search/detail.cgi?id=214734082</a>
234	総社観光プロジェクト	岡山県	総社市	67,439	H22年度	② 産業振興 ④ 観光振興 ⑤ 環境	② 地域産業振興型	<a href="http://www.chiiki-dukuri-hyakka.or.jp/sesaku/search/detail.cgi?id=214734039">http://www.chiiki-dukuri-hyakka.or.jp/sesaku/search/detail.cgi?id=214734039</a>
235	美作市不妊治療支援事業	岡山県	美作市	32,297	H21年度	⑦ 健康福祉	① 社会生活環境整備型	<a href="http://www.chiiki-dukuri-hyakka.or.jp/sesaku/search/detail.cgi?id=21321512">http://www.chiiki-dukuri-hyakka.or.jp/sesaku/search/detail.cgi?id=21321512</a>
236	美作市多子家庭支援手当事業	岡山県	美作市	32,297	H21年度	⑦ 健康福祉	① 社会生活環境整備型	<a href="http://www.chiiki-dukuri-hyakka.or.jp/sesaku/search/detail.cgi?id=21321511">http://www.chiiki-dukuri-hyakka.or.jp/sesaku/search/detail.cgi?id=21321511</a>
237	美祿市ふるさと創造未来交付金	山口県	美祿市	28,726	H22年度	① 住民参画・NPO・ボランティア ③ イベント型	③ イベント型	<a href="http://www.chiiki-dukuri-hyakka.or.jp/sesaku/search/detail.cgi?id=214734091">http://www.chiiki-dukuri-hyakka.or.jp/sesaku/search/detail.cgi?id=214734091</a>
238	美郷町新エネルギー設備導入促進事業	島根県	美郷町	5,712	H21年度	② 産業振興 ⑤ 環境	① 社会生活環境整備型	<a href="http://www.chiiki-dukuri-hyakka.or.jp/sesaku/search/detail.cgi?id=213244851">http://www.chiiki-dukuri-hyakka.or.jp/sesaku/search/detail.cgi?id=213244851</a>
239	義務教育施設耐震化	鳥取県	境港市	36,292	H21年度	⑨ 教育・文化・スポーツ	① 社会生活環境整備型	<a href="http://www.chiiki-dukuri-hyakka.or.jp/sesaku/search/detail.cgi?id=213120451">http://www.chiiki-dukuri-hyakka.or.jp/sesaku/search/detail.cgi?id=213120451</a>
240	習熟度別サポート事業	岡山県	岡山市	697,143	H21年度	⑨ 教育・文化・スポーツ	① 社会生活環境整備型	<a href="http://www.chiiki-dukuri-hyakka.or.jp/sesaku/search/detail.cgi?id=213320112">http://www.chiiki-dukuri-hyakka.or.jp/sesaku/search/detail.cgi?id=213320112</a>
241	脱温暖化のまちづくりプログラムの策定	広島県	世羅町	18,494	H21年度	① 住民参画・NPO・ボランティア ⑤ 環境	① 社会生活環境整備型	<a href="http://www.chiiki-dukuri-hyakka.or.jp/sesaku/search/detail.cgi?id=213446211">http://www.chiiki-dukuri-hyakka.or.jp/sesaku/search/detail.cgi?id=213446211</a>
242	自主防災組織支援事業	岡山県	久米南町	5,642	H21年度	⑥ 基盤整備	① 社会生活環境整備型	<a href="http://www.chiiki-dukuri-hyakka.or.jp/sesaku/search/detail.cgi?id=213366371">http://www.chiiki-dukuri-hyakka.or.jp/sesaku/search/detail.cgi?id=213366371</a>
243	自家用有償旅客運送(通疎地有償運送)	広島県	三次市	57,709	H22年度	⑥ 基盤整備	① 社会生活環境整備型	<a href="http://www.chiiki-dukuri-hyakka.or.jp/sesaku/search/detail.cgi?id=214734083">http://www.chiiki-dukuri-hyakka.or.jp/sesaku/search/detail.cgi?id=214734083</a>
244	自治基本条例の制定	鳥取県	日吉津村	3,267	H20年度	① 住民参画・NPO・ボランティア	① 社会生活環境整備型	<a href="http://www.chiiki-dukuri-hyakka.or.jp/sesaku/search/detail.cgi?id=5307">http://www.chiiki-dukuri-hyakka.or.jp/sesaku/search/detail.cgi?id=5307</a>
245	自治振興会制度・地域自治振興会制度	広島県	安芸太田町	8,121	H20年度	① 住民参画・NPO・ボランティア ⑧ 防犯・防災	① 社会生活環境整備型	<a href="http://www.chiiki-dukuri-hyakka.or.jp/sesaku/search/detail.cgi?id=5363">http://www.chiiki-dukuri-hyakka.or.jp/sesaku/search/detail.cgi?id=5363</a>
246	航空機利用促進事業(隠岐空港ジェット機対策事業)	鳥根県	隠岐の島町	16,047	H21年度	④ 観光振興	② 地域産業振興型	<a href="http://www.chiiki-dukuri-hyakka.or.jp/sesaku/search/detail.cgi?id=213252871">http://www.chiiki-dukuri-hyakka.or.jp/sesaku/search/detail.cgi?id=213252871</a>

No.	取組み名	都道府県名	市区町村名	人口 (人)	調査年度	地域活性化分野	活動内容に類型	参照URL
247	花薫るしまなみウォーク開催	広島県	尾道市	150,488	H20年度	① 住民参画・NPO・ボランティア ④ 観光振興 ⑦ 健康福祉 ⑤ 環境 ⑨ 教育・文化・スポーツ	③ イベント型	<a href="http://www.chihiki-dukuri-hyakka.or.jp/sesaku/search/detail.cgi?c=5337">http://www.chihiki-dukuri-hyakka.or.jp/sesaku/search/detail.cgi?c=5337</a>
248	若桜町営バス	鳥取県	若桜町	4,072	H22年度	⑥ 基盤整備	① 社会生活環境整備型	<a href="http://www.chihiki-dukuri-hyakka.or.jp/sesaku/search/detail.cgi?c=214734017">http://www.chihiki-dukuri-hyakka.or.jp/sesaku/search/detail.cgi?c=214734017</a>
249	若桜鉄道再構築事業	鳥取県	若桜町	4,214	H21年度	⑥ 基盤整備	① 社会生活環境整備型	<a href="http://www.chihiki-dukuri-hyakka.or.jp/sesaku/search/detail.cgi?c=213132541">http://www.chihiki-dukuri-hyakka.or.jp/sesaku/search/detail.cgi?c=213132541</a>
250	若桜鉄道再構築事業	鳥取県	八頭町	19,620	H21年度	⑥ 基盤整備	① 社会生活環境整備型	<a href="http://www.chihiki-dukuri-hyakka.or.jp/sesaku/search/detail.cgi?c=213132971">http://www.chihiki-dukuri-hyakka.or.jp/sesaku/search/detail.cgi?c=213132971</a>
251	若者定住促進住宅建設事業	岡山県	久米南町	5,728	H20年度	③ 農山漁村振興	① 社会生活環境整備型	<a href="http://www.chihiki-dukuri-hyakka.or.jp/sesaku/search/detail.cgi?c=5334">http://www.chihiki-dukuri-hyakka.or.jp/sesaku/search/detail.cgi?c=5334</a>
252	萩・夏みかんの再生～発祥の地からの挑戦 地域とともに～	山口県	萩市	56,196	H21年度	③ 農山漁村振興 ④ 観光振興	② 地域産業振興型	<a href="http://www.chihiki-dukuri-hyakka.or.jp/sesaku/search/detail.cgi?c=213520471">http://www.chihiki-dukuri-hyakka.or.jp/sesaku/search/detail.cgi?c=213520471</a>
253	蒜山ワイナリー整備事業	岡山県	真庭市	52,242	H20年度	③ 農山漁村振興 ④ 観光振興	② 地域産業振興型	<a href="http://www.chihiki-dukuri-hyakka.or.jp/sesaku/search/detail.cgi?c=5326">http://www.chihiki-dukuri-hyakka.or.jp/sesaku/search/detail.cgi?c=5326</a>
254	藤之脇雨水ポンプ場整備事業	広島県	坂町	13,368	H21年度	⑧ 防犯・防災	① 社会生活環境整備型	<a href="http://www.chihiki-dukuri-hyakka.or.jp/sesaku/search/detail.cgi?c=213430991">http://www.chihiki-dukuri-hyakka.or.jp/sesaku/search/detail.cgi?c=213430991</a>
255	西部地区小・中一貫校整備事業	広島県	府中市	44,669	H21年度	⑨ 教育・文化・スポーツ	① 社会生活環境整備型	<a href="http://www.chihiki-dukuri-hyakka.or.jp/sesaku/search/detail.cgi?c=213420841">http://www.chihiki-dukuri-hyakka.or.jp/sesaku/search/detail.cgi?c=213420841</a>
256	観光・地域資源発掘、開発及び人材育成事業	山口県	阿東町	7,444	H21年度	④ 観光振興	② 地域産業振興型	<a href="http://www.chihiki-dukuri-hyakka.or.jp/sesaku/search/detail.cgi?c=213550461">http://www.chihiki-dukuri-hyakka.or.jp/sesaku/search/detail.cgi?c=213550461</a>
257	認知症予防プログラムによる高齢者の健康づくり（認知症対策連携強化事業による）	鳥取県	南部町	11,786	H22年度	⑦ 健康福祉	① 社会生活環境整備型	<a href="http://www.chihiki-dukuri-hyakka.or.jp/sesaku/search/detail.cgi?c=214734023">http://www.chihiki-dukuri-hyakka.or.jp/sesaku/search/detail.cgi?c=214734023</a>
258	赤磐市協働のまちづくり塾	岡山県	赤磐市	44,876	H22年度	① 住民参画・NPO・ボランティア	③ イベント型	<a href="http://www.chihiki-dukuri-hyakka.or.jp/sesaku/search/detail.cgi?c=214734042">http://www.chihiki-dukuri-hyakka.or.jp/sesaku/search/detail.cgi?c=214734042</a>
259	農林水産業活性化研究会(H19～)	鳥取県	琴浦町	19,770	H20年度	③ 農山漁村振興	③ イベント型	<a href="http://www.chihiki-dukuri-hyakka.or.jp/sesaku/search/detail.cgi?c=5306">http://www.chihiki-dukuri-hyakka.or.jp/sesaku/search/detail.cgi?c=5306</a>
260	農林水産業活性化研究会(H19～)	鳥取県	琴浦町	19,422	H21年度	③ 農山漁村振興	③ イベント型	<a href="http://www.chihiki-dukuri-hyakka.or.jp/sesaku/search/detail.cgi?c=213137182">http://www.chihiki-dukuri-hyakka.or.jp/sesaku/search/detail.cgi?c=213137182</a>
261	農業後継者育成対策事業	鳥取県	日南町	5,942	H21年度	③ 農山漁村振興	② 地域産業振興型	<a href="http://www.chihiki-dukuri-hyakka.or.jp/sesaku/search/detail.cgi?c=213140132">http://www.chihiki-dukuri-hyakka.or.jp/sesaku/search/detail.cgi?c=213140132</a>
262	近代先人顕彰館管理運営業務	山口県	下関市	282,091	H22年度	④ 観光振興 ⑨ 教育・文化・スポーツ	④ 地域交流型	<a href="http://www.chihiki-dukuri-hyakka.or.jp/sesaku/search/detail.cgi?c=214734080">http://www.chihiki-dukuri-hyakka.or.jp/sesaku/search/detail.cgi?c=214734080</a>
263	過疎地域集落再編整備事業	広島県	大崎上島町	8,762	H21年度	⑩ その他	① 社会生活環境整備型	<a href="http://www.chihiki-dukuri-hyakka.or.jp/sesaku/search/detail.cgi?c=213443111">http://www.chihiki-dukuri-hyakka.or.jp/sesaku/search/detail.cgi?c=213443111</a>
264	里山ステーション・熊山整備事業 NPO法人の農山村づくり	山口県	長門市	39,363	H22年度	① 住民参画・NPO・ボランティア ② 産業振興 ③ 農山漁村振興 ④ 観光振興 ⑤ 環境 ⑨ 教育・文化・スポーツ	② 地域産業振興型	<a href="http://www.chihiki-dukuri-hyakka.or.jp/sesaku/search/detail.cgi?c=214734087">http://www.chihiki-dukuri-hyakka.or.jp/sesaku/search/detail.cgi?c=214734087</a>
265	里山連携機構(里山コミュニケーション)設立事業	島根県	飯南町	5,979	H20年度	③ 農山漁村振興	② 地域産業振興型	<a href="http://www.chihiki-dukuri-hyakka.or.jp/sesaku/search/detail.cgi?c=5315">http://www.chihiki-dukuri-hyakka.or.jp/sesaku/search/detail.cgi?c=5315</a>
266	重要文化財松崎天神縁起ほか美術工芸品防災事業	山口県	防府市	118,169	H21年度	④ 観光振興 ⑨ 教育・文化・スポーツ	④ 地域交流型	<a href="http://www.chihiki-dukuri-hyakka.or.jp/sesaku/search/detail.cgi?c=213520631">http://www.chihiki-dukuri-hyakka.or.jp/sesaku/search/detail.cgi?c=213520631</a>
267	錦川鉄道再生支援事業	山口県	岩国市	150,132	H20年度	⑥ 基盤整備	① 社会生活環境整備型	<a href="http://www.chihiki-dukuri-hyakka.or.jp/sesaku/search/detail.cgi?c=5382">http://www.chihiki-dukuri-hyakka.or.jp/sesaku/search/detail.cgi?c=5382</a>
268	鏡野町未来・希望基金事業	岡山県	鏡野町	14,381	H22年度	① 住民参画・NPO・ボランティア	③ イベント型	<a href="http://www.chihiki-dukuri-hyakka.or.jp/sesaku/search/detail.cgi?c=214734049">http://www.chihiki-dukuri-hyakka.or.jp/sesaku/search/detail.cgi?c=214734049</a>
269	長登銅山文化交流館事業	山口県	美祢市	29,641	H20年度	③ 農山漁村振興 ⑨ 教育・文化・スポーツ	④ 地域交流型	<a href="http://www.chihiki-dukuri-hyakka.or.jp/sesaku/search/detail.cgi?c=5388">http://www.chihiki-dukuri-hyakka.or.jp/sesaku/search/detail.cgi?c=5388</a>

No.	取組み名	都道府県名	市区町村名	人口 (人)	調査年度	地域活性化分野	活動内容に類型	参照URL
270	長門市子ども未来室ホームページ作成事業	山口県	長門市	39,363	H22年度	⑥ 基盤整備	① 社会生活環境整備型	<a href="http://www.chihiki-dukuri-hyakka.or.jp/sesaku/search/detail.cgi?d=214734088">http://www.chihiki-dukuri-hyakka.or.jp/sesaku/search/detail.cgi?d=214734088</a>
271	関西事務所運営事業(H20～)	鳥取県	琴浦町	19,770	H20年度	② 産業振興 ③ 農山漁村振興 ④ 観光振興	③ イベント型	<a href="http://www.chihiki-dukuri-hyakka.or.jp/sesaku/search/detail.cgi?d=5305">http://www.chihiki-dukuri-hyakka.or.jp/sesaku/search/detail.cgi?d=5305</a>
272	関西事務所運営事業(H20～)	鳥取県	琴浦町	19,422	H21年度	② 産業振興 ③ 農山漁村振興 ④ 観光振興	③ イベント型	<a href="http://www.chihiki-dukuri-hyakka.or.jp/sesaku/search/detail.cgi?d=213137181">http://www.chihiki-dukuri-hyakka.or.jp/sesaku/search/detail.cgi?d=213137181</a>
273	防府市事業所誘致促進補助金	山口県	防府市	118,311	H20年度	② 産業振興	① 社会生活環境整備型	<a href="http://www.chihiki-dukuri-hyakka.or.jp/sesaku/search/detail.cgi?d=5380">http://www.chihiki-dukuri-hyakka.or.jp/sesaku/search/detail.cgi?d=5380</a>
274	防災コーディネーター設置事業	鳥取県	南部町	11,786	H22年度	⑧ 防犯・防災	① 社会生活環境整備型	<a href="http://www.chihiki-dukuri-hyakka.or.jp/sesaku/search/detail.cgi?d=214734022">http://www.chihiki-dukuri-hyakka.or.jp/sesaku/search/detail.cgi?d=214734022</a>
275	障害児子育てサロン運営事業	岡山県	笠岡市	54,683	H22年度	⑦ 健康福祉	① 社会生活環境整備型	<a href="http://www.chihiki-dukuri-hyakka.or.jp/sesaku/search/detail.cgi?d=214734036">http://www.chihiki-dukuri-hyakka.or.jp/sesaku/search/detail.cgi?d=214734036</a>
276	障害児(者)トランポリン教室	鳥取県	境港市	36,514	H20年度	⑦ 健康福祉	③ イベント型	<a href="http://www.chihiki-dukuri-hyakka.or.jp/sesaku/search/detail.cgi?d=5298">http://www.chihiki-dukuri-hyakka.or.jp/sesaku/search/detail.cgi?d=5298</a>
277	隠岐の島ウルトラマラソン事業	鳥根県	隠岐の島町	16,047	H21年度	① 住民参画・NPO・ボランティア ④ 観光振興 ⑤ 教育・文化・スポーツ	③ イベント型	<a href="http://www.chihiki-dukuri-hyakka.or.jp/sesaku/search/detail.cgi?d=213252872">http://www.chihiki-dukuri-hyakka.or.jp/sesaku/search/detail.cgi?d=213252872</a>
278	集団健康診査等事業	広島県	神石高原町	11,308	H21年度	⑦ 健康福祉	① 社会生活環境整備型	<a href="http://www.chihiki-dukuri-hyakka.or.jp/sesaku/search/detail.cgi?d=213454511">http://www.chihiki-dukuri-hyakka.or.jp/sesaku/search/detail.cgi?d=213454511</a>
279	集落再編コーデイネイト事業	鳥取県	伯耆町	11,929	H21年度	① 住民参画・NPO・ボランティア ③ 農山漁村振興 ⑥ 防犯・防災	① 社会生活環境整備型	<a href="http://www.chihiki-dukuri-hyakka.or.jp/sesaku/search/detail.cgi?d=213138042">http://www.chihiki-dukuri-hyakka.or.jp/sesaku/search/detail.cgi?d=213138042</a>
280	集落支援事業	山口県	岩国市	146,524	H22年度	③ 農山漁村振興	① 社会生活環境整備型	<a href="http://www.chihiki-dukuri-hyakka.or.jp/sesaku/search/detail.cgi?d=214734084">http://www.chihiki-dukuri-hyakka.or.jp/sesaku/search/detail.cgi?d=214734084</a>
281	集落機能再編・強化事業	岡山県	真庭市	51,102	H22年度	① 住民参画・NPO・ボランティア ⑧ 防犯・防災	③ イベント型	<a href="http://www.chihiki-dukuri-hyakka.or.jp/sesaku/search/detail.cgi?d=214734044">http://www.chihiki-dukuri-hyakka.or.jp/sesaku/search/detail.cgi?d=214734044</a>
282	集落機能再編・強化事業	岡山県	井原市	45,413	H22年度	① 住民参画・NPO・ボランティア ③ 農山漁村振興	③ イベント型	<a href="http://www.chihiki-dukuri-hyakka.or.jp/sesaku/search/detail.cgi?d=214734038">http://www.chihiki-dukuri-hyakka.or.jp/sesaku/search/detail.cgi?d=214734038</a>
283	雇用の維持と確保(就業情報の提供) 若者向け情報サービス提供事業	鳥取県	倉吉市	51,703	H20年度	② 産業振興	① 社会生活環境整備型	<a href="http://www.chihiki-dukuri-hyakka.or.jp/sesaku/search/detail.cgi?d=5296">http://www.chihiki-dukuri-hyakka.or.jp/sesaku/search/detail.cgi?d=5296</a>
284	離島勤務医助成事業	鳥根県	隠岐の島町	16,047	H21年度	⑦ 健康福祉	① 社会生活環境整備型	<a href="http://www.chihiki-dukuri-hyakka.or.jp/sesaku/search/detail.cgi?d=213252874">http://www.chihiki-dukuri-hyakka.or.jp/sesaku/search/detail.cgi?d=213252874</a>
285	食育推進事業	広島県	三次市	59,024	H20年度	① 住民参画・NPO・ボランティア ② 産業振興 ③ 農山漁村振興 ⑦ 健康福祉 ⑤ 教育・文化・スポーツ	① 社会生活環境整備型	<a href="http://www.chihiki-dukuri-hyakka.or.jp/sesaku/search/detail.cgi?d=5349">http://www.chihiki-dukuri-hyakka.or.jp/sesaku/search/detail.cgi?d=5349</a>
286	高等学校通学定期購入費補助金事業	山口県	上関町	3,667	H21年度	⑥ 基盤整備 ⑨ 教育・文化・スポーツ	① 社会生活環境整備型	<a href="http://www.chihiki-dukuri-hyakka.or.jp/sesaku/search/detail.cgi?d=213534181">http://www.chihiki-dukuri-hyakka.or.jp/sesaku/search/detail.cgi?d=213534181</a>
287	鳥取市知名度アップ大作戦	鳥取県	鳥取市	195,568	H22年度	④ 観光振興	③ イベント型	<a href="http://www.chihiki-dukuri-hyakka.or.jp/sesaku/search/detail.cgi?d=214734014">http://www.chihiki-dukuri-hyakka.or.jp/sesaku/search/detail.cgi?d=214734014</a>
288	鳥取市自治基本条例の制定	鳥取県	鳥取市	195,568	H22年度	① 住民参画・NPO・ボランティア	① 社会生活環境整備型	<a href="http://www.chihiki-dukuri-hyakka.or.jp/sesaku/search/detail.cgi?d=214734013">http://www.chihiki-dukuri-hyakka.or.jp/sesaku/search/detail.cgi?d=214734013</a>
289	1/Oiいきいきひとづくり塾	鳥取県	智頭町	8,596	H20年度	① 住民参画・NPO・ボランティア	③ イベント型	<a href="http://www.chihiki-dukuri-hyakka.or.jp/sesaku/search/detail.cgi?d=5301">http://www.chihiki-dukuri-hyakka.or.jp/sesaku/search/detail.cgi?d=5301</a>

## 添付資料 4：地域活性化の優良事例カルテ

1. バイオマス資源を活用した地域活性化（岡山県真庭市）  
【社会生活環境循環型】
2. 住民自治のしくみを活用した地域活性化（鳥取県智頭町）  
【社会生活環境整備型】
3. 六次産業化を活用した地域活性化（広島県世羅町）  
【地域産業振興型】
4. 伝統食文化に着目した葉っぱビジネス（徳島県上勝町）  
【地域産業振興型】
5. アートを活用した地域活性化（岡山県岡山市（犬島））  
【イベント型】
6. 温泉資源を活かしたまちづくりの取り組み（大分県別府市）  
【イベント型】
7. Iターン者を積極活用した地域活性化（島根県海士町）  
【地域交流型】
8. 「萩まちじゅう博物館」を中心とした地域活性化（山口県萩市）  
【地域交流型】

# 1. バイオマス資源を活用した地域活性化（岡山県真庭市）

## 【社会生活環境循環型】

<p>地域概要</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>2005年に9町が合併して真庭市が誕生。岡山県の11.6%を占める。北部は山、南部は高原地帯。</li> <li>観光資源は、湯原温泉、神庭の滝他、蒜山高原、勝山町並み保存地区などがあり、年間観光客数は約400万人を超える。(平成22年以降)</li> <li>全国の中山間地域同様過疎高齢化が進み、地域機能の維持すら困難な地域もある。</li> </ul> <p>＜基本指標＞</p> <p>面積：約828km<sup>2</sup>          人口：49,362人 / 世帯数：17,862 (2013年9月1日現在)          高齢化率：32.2% (平成23年時点)</p> <p>＜位置図＞</p>  <p>＜地域の様子＞</p>  <p>(出典：旬レポ中国地域 2011年8月号)</p>	<p>取組み内容</p> <p>＜組織の立ち上げ＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>約20年前の高速道路開通時に人口流出や産業衰退を恐れた地元若手有志が集まり「21世紀の真庭塾」(現在はNPO法人)が発足した。「ゼロミッション協会」「まちなみ部会」等の勉強会が始まった。</li> </ul> <p>＜バイオマス利用の開始＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>昔からの産業の中心である林業を中心に産業振興を考えたこの考え方がバイオマスの活用につながった。</li> <li>未利用材、間伐材、製材端材などをチップ化して発電するバイオマス発電を平成27年開始予定。地域で循環させ、地域内で資金調達をしている。</li> <li>バイオマスの活用を通じて、林業・木材産業の振興、エネルギー自給率の向上、雇用の拡大、地域観光振興など様々な効果を創出。大学や専門学校、企業など他の組織とのネットワークを形成。</li> </ul> <p>＜バイオマスツアーの開催＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>平成18年から真庭観光連盟がバイオマスツアーを開催。</li> <li>バイオマスを観光資源としても活用している。年間参加者数が2,500人を超えている。</li> </ul> <p>＜バイオマスボイラー＞</p> 
<p>取組み主体</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>取組み主体名：真庭市役所</li> <li>連絡先：0867-42-1111</li> </ul>	<p>取組み内容</p> <p>＜バイオマス資源の活用＞</p> <p>（出典：環境省中国環境パートナーシップオフィスホームページ）</p>



## 2. 住民自治のしくみを活用した地域活性化（鳥取県智頭町）

### 【社会生活環境整備型】

<p>地域概要</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>鳥取県の東南部、岡山県に接する果境に位置する。1,000m級の中国山脈の山々に囲まれた中山間地域で、複雑に入り組んだ谷々に 89 の集落が点在する。</li> <li>総面積の 93%がスギをはじめとする山林で、吉野・北山と並ぶ歴史ある林業地。</li> <li>毎年自然減で人口が 100 人減少している。</li> <li>気候は、日本海側気候に属し、冬に雪が多いのが特徴である。</li> </ul> <p>&lt;基本指標&gt;</p> <p>面積：約 224km<sup>2</sup></p> <p>人口：7,798 人 / 世帯数：2,761 (2013 年 12 月 2 日現在)</p> <p>高齢化率：35.9% (平成 25 年時点)</p>	<p>取組み内容</p> <p>&lt;ゼロ分のイチ村おこし運動の立ち上げ&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>1997 年度から「日本ゼロ分のイチ村おこし運動」に取り組む。これは、最小コミュニティ単位である「集落」ごとに、集落ビジョンを描きそれを実現しようとする、住民主導によるボトムアップの運動である。(知恵やお金を出すのは住民であり、行政は脇役としてのサポートにとどまる)</li> <li>ゼロイチ運動は「0 から 1、つまり、無から有への第一歩こそ村おこしの精神」の理念から名付けられた。「村の誇り(宝)の創造」を目的とし、①地域経営との理念から名付けられた。「村の誇り(宝)の創造」を目的とし、①地域経営(生活や地域文化の再評価を行い、村の付加価値をつける)、②交流(村の誇りをつくるために、意図的に外の社会と交流を行う)、③住民自治(自分たちが主役になって、自らの第一歩によって村を起す)という 3 本の柱から成り立っている。</li> </ul>
<p>&lt;位置図&gt;</p>  <p>&lt;地域の様子&gt;</p>  <p>(出典：マピオン)</p> <p>(出典：智頭町ホームページ)</p>	<p>取組みの経緯・背景</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>江戸時代から杉の植林が盛んであったが、1960 年代に著しく進行した人口流出に加え、折からの林業不況も重なり、町の活力は著しく低下していった。</li> <li>智頭町の村おこし運動は、昭和 60 年の鳥取国体(わかとり国体)会場に町内地区が選定されたのを契機に、住民が特産品の杉を活かして国体選手や観戦者への土産物の商品開発(杉の名刺、杉の香りはがき)を手がけたことから始まり、昭和 63 年に彼らが中心となって地域住民約 30 名が「智頭町活性化プロジェクト集団(CCPT)」を結成した。</li> <li>CCPT は地域住民による自主的な村づくり活動団体だが、協議の過程で町行政職員も加わり、町と郵便局の共同により JA や町立病院・開業医、警察署等の協力を得て、毎日の郵便配達を通じて日用品や菓等を配達して独居老人の生活をサポートする「ひまわりシステム」や、全住民参加による行政(県・町)との協働により川を軸とした地域づくりを展開する「サロン方式の川づくり」、以下に紹介する「日本 1 / 0 村おこし運動」など、住民の主導による行政・住民協働のまちづくりの各種施策を産み出す孵化器としての役割を持つ。</li> </ul>
<p>取組み主体</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>取組み主体名：智頭町役場</li> <li>連絡先：0858-75-4111</li> </ul>	<p>&lt;「日本 1 / 0 村おこし運動」の基本的な考え方&gt;</p> <p>&lt;&lt;運動の柱&gt;&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 都会と積極的に交流を行うための、情報化への取り組みを推進します(交流・情報)</li> <li>2. 自らが一歩を踏み出す村づくりを基本理念とします。(住民自治)</li> </ol>  <p>(出典：智頭町「日本 1 / 0 村おこし運動」パンフレット)</p> <p>&lt;ゼロイチ運動の成果&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ゼロイチ運動の成果としては、地酒やみそ、そばの生産からホームベージ開設や、旧来の住民自治組織が担っていた伝統行事の見直しなど多岐にわたる。</li> <li>豊かな森林を活かして、森のようちえん「まるたんぼう」の開園(2009 年)、森林セラピー基地の認定、日本で最も美しい村連合加盟(2010 年)等、地盤沈下の続く「農」と「林」にあえて光を当てた施策を展開し、癒しの町として、都会のストレス社会から「疎開」できる町を目指した取り組みを着々と進めている。</li> </ul>

### 3. 六次産業化を活用した地域活性化（広島世羅町）【地域産業振興型】

<p>地域概要</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>世羅町は、広島県中部に位置し、古くから米作を中心とした水田農業が栄えた中山間地域である。標高 350～400m にある世羅台地一帯は世羅高原と呼ばれている。</li> <li>平成 16 年に、世羅郡旧世羅町、甲山町、世羅西町の新設合併により、現在の世羅町が誕生した。</li> <li>人口は、人口 17,690 人 (H25/6/1) 昭和 35 年以降から減少傾向にある。高齢化率は、平成 22 年国勢調査では約 36.0% と、広島県平均値約 23.9% を大きく上回る。</li> </ul> <p>＜基本指標＞ 面積：約 278km<sup>2</sup> 人口：17,653 人 / 世帯数：6,926 (2013 年 11 月末日現在) 高齢化率：34.9% (自治体の最新データ)</p> <p>＜位置図＞</p>  <p>（出典：マピオン）</p> <p>＜地域の様子＞</p>  <p>（出典：世羅町ホームページ）</p>	<p>取り組み内容</p> <p>＜世羅高原 6 次産業推進協議会の設立＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>世羅郡一帯の 6 次産業化を推進すべく、合併前の世羅郡 3 町や広島県、JA を中心に、平成 10 年 1 月に「世羅高原 6 次産業推進協議会（以下「6 次産業推進協議会」という。）」が発足し、本格的に 6 次産業化に取り組むこととなった。</li> </ul> <p>＜世羅高原 6 次産業ネットワークの設立＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>6 次産業推進協議会の活動に具体的に取り組み、当事者である農業従事者の連携が不可欠であることから、そのネットワークの構築が急務となった。そこで 6 次産業推進協議会の働き掛けにより、翌平成 11 年 7 月に世羅高原 6 次産業ネットワーク（以下「6 次産業ネットワーク」という。）が発足した。</li> <li>これ以降、6 次産業推進協議会の事務局は、6 次産業ネットワークに対し、人的支援や補助金による支援、活動へのアドバイスなど、様々な面からサポートしており、6 次産業ネットワークの掲げる「町中を農村公園に」を目標に世羅町全体で 6 次産業化に取り組んでいる。</li> </ul>	<p>取り組み主体</p> <p>取組み主体名：世羅町役場 連絡先：0847-22-1111</p>
<p>取り組みの経緯・背景</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>世羅町では、平成 19 年度における第 1 次産業の生産額が総生産額の約 9.4% となっているが、これは広島県全体の第 1 次産業の割合約 0.7% と比較すると、非常に高い数値である。農業は第 1 次産業の中でもとりわけ高い割合を占め、世羅町の基幹産業となっている。</li> <li>一部の農園が梨狩りや花摘みができる観光農園として成功を収めたため、その他の農園でも観光農園経営に乗り出すものが現われた。</li> <li>農業経営の不安定、加工品の売り場不足、直売所の商品不足や観光農園への入込客数の減少といった課題を克服するためには、地域が一体となり、農業振興に取り組むことが不可欠という考えから、世羅高原をひとつの農業公園に見立て、広域的な 6 次産業化への取り組みが行われることとなった。</li> </ul>	<p>取組み内容</p> <p>＜世羅高原 6 次産業推進協議会組織図＞</p> <p>（出典：地域活性化センター「地域活性化ガイドブック」ホームページ）</p> <p>＜これまでの成果＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>設立時の会員数 32 団体から平成 23 年 10 月現在では 63 団体と会員数を増やすとともに、産直市場、直売農園、観光農園、高等学校等との幅広い連携が進んだ結果、農業従事者等による加工、販売、企業等設立への展開、入込客数及び売上高の増加などの成果が得られている。</li> </ul>	<p>取り組み主体</p> <p>取組み主体名：世羅町役場 連絡先：0847-22-1111</p>

#### 4. 伝統食文化に着目した葉っぱビジネス（徳島県上勝町）

#### 【地域産業振興型】

<p>地域概要</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・徳島県の中央やや南東寄りに位置し、県庁所在地の徳島市から約40km、路線バスで約2時間の場所に位置する。人口は名863世帯（平成25年10月1日現在）、高齢者比率が49.57%という、過疎化と高齢化が進む町。</li> <li>・標高100m～1500mの山地に位置し、町域の多くが傾斜地となっている。</li> <li>・町では農林業が基幹産業となっている。</li> </ul> <p>＜基本指標＞</p> <p>面積：約789km<sup>2</sup></p> <p>人口：1,840人 / 世帯数：863（2013年10月1日現在）</p> <p>高齢化率：高齢者比率が49.5%（平成23年時点）</p>	<p>取組み内容</p> <p>＜位置図＞</p>  <p>＜地域の様子＞</p>  <p>（出典：全国過疎地域自立促進連盟ホームページ）</p> <p>（出典：上勝町観光協会ホームページ）</p>	<p>取組み主体</p> <p>・徳島県の中央やや南東寄りに位置し、県庁所在地の徳島市から約40km、路線バスで約2時間の場所に位置する。人口は名863世帯（平成25年10月1日現在）、高齢者比率が49.57%という、過疎化と高齢化が進む町。</p> <p>・標高100m～1500mの山地に位置し、町域の多くが傾斜地となっている。</p> <p>・町では農林業が基幹産業となっている。</p> <p>＜基本指標＞</p> <p>面積：約789km<sup>2</sup></p> <p>人口：1,840人 / 世帯数：863（2013年10月1日現在）</p> <p>高齢化率：高齢者比率が49.5%（平成23年時点）</p> <p>＜位置図＞</p>  <p>＜地域の様子＞</p>  <p>（出典：全国過疎地域自立促進連盟ホームページ）</p> <p>（出典：上勝町観光協会ホームページ）</p>	<p>取組み主体</p> <p>・取組み主体名：株式会社いろどり</p> <p>・連絡先：0885-46-0166</p>
<p>＜主な取り組み＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・主力商品として、紅葉、柿の葉、南天の枝葉、椿の葉、梅・桜・桃の花など、地域で収穫された植物の部位を、日本料理の「つまもの」の販売を行っている。</li> <li>・「いろどり農業」は、町の新たな基幹産業として経済活性化に寄与している。また、視察等の交流人口の増加による経済効果も大きい。</li> <li>・町民主役かつ地域の自然資源を活用した産業が、国内ひいては海外からも注目を集めるまでに成長したことにより、町民の間で誇りと自信が醸成されている。</li> <li>・高齢者が生き活きと「いろどり農業」に取り組むことにより、生き甲斐を感じながら収入を得ることができ、産業を通じた福祉が実現している。</li> </ul> <p>＜地域ぐるみでのビジネス展開＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「いろどり農業」は、当初から町民が利益を得ることができ「地域ビジネス」として計画及び開始され、個々の住民が主役として生産に携わり、行政（上勝町）及び農業協同組合が、サポート及び販売を行っている。</li> <li>・（株）いろどりは、個々の生産者と市場をつなぐ存在として、営業活動、市場と生産者を結ぶ情報提供、受発注を行うための情報ネットワークシステムの運営等を行っている。</li> <li>・システムは、受注管理、商品の注文取り（生産者への発注）、商品の仕入れ、そして出荷処理などコア機能から構成されている。お客様からご注文を直接に受け、生産者へそれらの注文情報を配布して、注文商品を早く仕入れて、お客様に送付するといった一連の受発注・販売業務を行うことができる。</li> </ul>	<p>取組み内容</p> <p>＜位置図＞</p>  <p>＜地域の様子＞</p>  <p>（出典：全国過疎地域自立促進連盟ホームページ）</p> <p>（出典：上勝町観光協会ホームページ）</p>	<p>取組み主体</p> <p>・取組み主体名：株式会社いろどり</p> <p>・連絡先：0885-46-0166</p>	<p>取組み主体</p> <p>・取組み主体名：株式会社いろどり</p> <p>・連絡先：0885-46-0166</p>
<p>取組み内容</p> <p>＜位置図＞</p>  <p>＜地域の様子＞</p>  <p>（出典：全国過疎地域自立促進連盟ホームページ）</p> <p>（出典：上勝町観光協会ホームページ）</p>	<p>取組み主体</p> <p>・取組み主体名：株式会社いろどり</p> <p>・連絡先：0885-46-0166</p>	<p>取組み主体</p> <p>・取組み主体名：株式会社いろどり</p> <p>・連絡先：0885-46-0166</p>	<p>取組み主体</p> <p>・取組み主体名：株式会社いろどり</p> <p>・連絡先：0885-46-0166</p>

## 5. アートを活用した地域活性化（岡山県岡山市（犬島））【イベント型】

<p>地域概要</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・犬島は、岡山市の南東部に位置し、瀬戸内海に浮かぶ面積が0.54km<sup>2</sup>の岡山市唯一の有人島である。</li> <li>・良質な花崗岩（犬島みかげ）の産出で知られ、古くは江戸城、大阪城、岡山城の石垣に用いられるなど、全国各地で犬島の石が珍重されている。</li> <li>・明治時代後期には、犬島製錬所が操業され、最盛期には島の人口が約5,000人に及んだといわれているが、銅の価格の大暴落によりわずか10年で製錬所が閉鎖され、採石業の衰退も相まって、現在では人口約50人、高齢化率が85%を超える典型的な過疎の島となっている。</li> </ul> <p>＜基本指標＞</p> <p>面積：約789km<sup>2</sup>      人口：49,362人      世帯数：17,862（2013年9月1日現在）      高齢化率：32.2%（平成23年時点）</p> <p>＜位置図＞</p>  <p style="text-align: center;">岡山市</p> <p>＜地域の様子＞</p>  <p>（出典：地域活性化センターホームページ：平成21年度地域活性化事例集）</p>	<p>取り組み内容</p> <p>＜第Ⅰ期の事業＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・かつての精錬所を彷彿させる煙突・からみ煉瓦（鉾澤れんが）などの遺構、瀬戸内の自然・風景・環境及び現代アートをテーマとした美術館「犬島アートプロジェクト『精錬所』」を平成20年4月にオープン。</li> <li>・太陽、地熱等の自然エネルギー並びにその地形及び既存の煙突を利用し、夏は空気を冷却し、冬は空気を暖め、周囲の環境にできるだけ負荷を与えないよう工夫がなされている。</li> <li>・従来のように汚水を直接海に流すのではなく、植物の力を借りた高度な水質浄化システムも用いられるなど、循環型社会のモデル施設となっている。</li> <li>・植栽については、島の環境に合わせ、耐塩性の高い植物や条件の悪い生育環境でも育つ植物を植えるなど、自然に適合した緑化システムが取り入れられている。こうして、時間をかけて自然環境をつくりあげていくこととされている。</li> </ul> <p>＜第Ⅱ期の事業＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・島内の集落を再生する犬島「家プロジェクト」が動いている。これにより、周遊型のギャラリーの整備が始まっており、島内外の交流促進に期待がかかる。</li> </ul>  <p style="text-align: center;">犬島アートプロジェクト「精錬所」</p> <p>（出典：地域活性化センターホームページ 平成24年度 地域活性化事例集）</p> <p>＜事業の成果＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・事業の成果を見ると、平成20年4月の「精錬所」の開館後1年間で島民の200倍近くに当たる約12,000人がここを訪れた。</li> <li>・平成21年度の来館者数は約16,000人になると予想されている。こうして来島者が増加したことにより、島内にある犬島自然の家、キャンプ場、海水浴場の利用者も増加し、島全体が賑わってきている。</li> <li>・地域住民も環境美化に積極的に取り組むようになるなど、地域づくりに関する意識の変化がうかがえる。</li> </ul>
<p>取り組みの経緯・背景</p> <p>（出典：地域活性化センターホームページ：平成21年度地域活性化事例集）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・瀬戸内海にある島々では、急激な少子・高齢化が起きている。そこで、「少子・高齢化の進展が著しい瀬戸内の島々を現代アートによって元気づける」というベネッセホールディングス取締役会長・福武總一郎氏の構想により、アートプロジェクトが開始した。</li> <li>・平成4年に香川県の直島にベネッセハウスがオープンして以来、地中美術館や家プロジェクトなど、建築・現代アートを軸として展開されている。</li> <li>・本プロジェクトは、説明会や話し合いを通じ、地域住民の理解と協力を得ながら進められている。</li> <li>・岡山市としても、市内唯一の有人離島の振興方向と合致することから支援を行っている。</li> </ul>	<p>取り組み主体</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・取組み主体名：公益財団法人 福武財団</li> <li>・連絡先：086-803-1042（岡山市政策局事業政策課）</li> </ul>

## 6. 温泉資源を活かしたまちづくりの取り組み（大分県別府市）【イベント型】

<p>地域概要</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・大分県の東海岸のほぼ中央に位置する大分県第二の都市。</li> <li>・2,511 の源泉をもつ別府八湯（別府、浜脇、観海寺、堀田、明礬、鉄輪、柴石、亀川）と呼ばれる温泉群が点在。</li> <li>・毎分 8 万 7,576 リットル（2009 年）の湧出量は日本最大。</li> <li>・ここ 10 年間の観光入込客数は微減。2010 年度は年間約 370 万人が宿泊。</li> </ul> <p>&lt;基本指標&gt;</p> <p>面積：約 789km<sup>2</sup> 人口：122,085 人 / 世帯数：62,209（2012 年現在） 高齢化率：29.9%（平成 25 年時点）</p> <p>&lt;位置図&gt;</p>  <p>&lt;地域の様子&gt;</p>  <p>（出典：マピオン）</p> <p>（出典：別府市観光協会ホームページ）</p>	<p>取組み内容</p> <p>&lt;取組み概要&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・別府八湯温泉泊覧会・通称オンパクは、NPO 法人ハットウ・オンパクを運営母体とし、春と秋の年 2 回、1 ヶ月ほどの期間、「天然温泉力の体験」「散策で地域文化の体験」「温泉と健康（癒しと美）」「自然の体験・広域」「地元ならではの日常の食の掘り起こし」をテーマに 100 種類の温泉地体験型プログラムを実施している。</li> <li>・このプログラムは地域固有の文化や資源を生かした地域の持続的な成長を目指し、温泉を核にしたウェルネス産業を起すことを目的とし、以下課題の解決を目指している。</li> </ul> <p>1) 地域資源の発掘と商品化 2) 人材・組織の育成 3) パブリシティ・地域イメージの向上 4) 多彩な事業者による地域横断的まちづくりプラットフォームの確立 5) 収益力強化による持続性の確保</p> <p>&lt;オンパクの内容&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・オンパクは、別府の文化、自然、日常の食と組み合わせたウェルネスといったテーマを織り込んだ活動になっている。</li> <li>・約 1 か月の期間中に 100 を超える多彩な体験プログラムが実施される。（例：「まちあるき」、「芸者によるお座敷遊び」、「秘湯への探検ツアー」など）</li> <li>・住民参加のみならず、200 を超える地域内の事業者が参加しており、幅広いステークホルダーを巻き込んだ地域活性化の手法としても注目されている。</li> <li>・事務局が集客、プロモーション、プログラムの品質管理、ファンクラブの管理などを担っているため、プログラムを提供する人（「パートナー」と呼ばれる）は、プログラムの企画と提供に専念できるようになっている。</li> <li>・「パートナー」のモチベーションを維持しながら、地域の資源を活かしたコミュニケーション・ビジネスなどの創設を目指す。</li> </ul>
<p>取組みの経緯・背景</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・バブル崩壊以降、団体が激減し、衰退していた温泉地をどうにかしようとして地域の住民が主体となった地域再生の取組みを開始。</li> <li>・オンパクは「別府八湯温泉泊覧会」の略称で、地域の魅力の発掘と発信、地域の人材の育成、地域資源を活用した多彩な集客交流サービスの創出等を目的とする地域活性化の取り組み。初回は平成 13 年。</li> <li>・活動開始から 3 年で NPO 法人ハットウ・オンパクを設立。9 年で一般社団法人ジャパン・オンパクを設立した。</li> </ul> <p>&lt;オンパクの風景&gt;</p> 	<p>取組み主体</p> <p>&lt;ジャパン・オンパク事業の展開&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・平成 19 年度より経済産業省「地域新事業活性化中心支援機能強化補助事業」によりオンパクモデルを活かした地域活性化を担う人材育成事業「オンパク（地域の輝き見本市）人づくり事業」を開始。全国で「ジャパン・オンパク事業」が展開される。</li> <li>・全国 20 カ所程度の地域活性化を行う 3 カ年計画を立案している。</li> <li>・取組み主体名：特定非営利活動法人ハットウ・オンパク</li> <li>・連絡先：0977-80-6297</li> </ul>

## 7. Iターン者を積極活用した地域活性化（島根県海士町）【地域交流型】

<p>地域概要</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>島根半島の沖合約60kmに位置する隠岐諸島の中の一つである面積33.46㎢、周囲89.1kmの中ノ島に位置する。島全体を町域とした1島1町のまちである。</li> <li>人口約2,400人でピーク時の3分の1にまで減少。高齢化率は39%で、10年ほど前までは「超過疎化・超少子高齢化・超財政悪化」の町であった。</li> </ul> <p>&lt;基本指標&gt;</p> <p>面積：約33km<sup>2</sup>          人口：2,374人 / 世帯数：1,052（2013年5月）          高齢化率：38.9%（2013年5月時点）</p>	<p>&lt;位置図&gt;</p>  <p>&lt;地域の様子&gt;</p>  <p>(出典：マピオン)          (出典：海士町ホームページ)</p>	<p>取組みの経緯・背景</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>戦後、離島振興法などを活用して公共事業で生計を立ててきたが、当時の町長が平成の財政難のなかで、国の合併要請を断り自立の道を選ぶ。</li> <li>1999年、このまま何もしなければ、2002年には町の基金が底をついて、赤字に転落することが判明した。この状況をなんとか打開しなければということで、町は「行財政改革やるぞ計画」（1999～2003年度）を策定し、それに沿って、職員の昇給停止や人件費カットなどを始めた。</li> <li>平成2003年から現町長が先頭に立って大改革を開始し、「自立・挑戦・交流」を掲げて地域づくりに積極的に取り組んでいる。</li> <li>町の担当職員は、「島（海士町）は超過疎、超少子高齢化、超財政悪化で、何もしなければ財政再建団体になる状態だった。海士がそうならなかったのは、放置せずに手を打ったからだ」との自負がある。</li> </ul>
<p>取組み内容</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>行財政改革に行政と住民が一丸となって取り組み、島に息づく地域資源と島外の若き人材の潜在能力を巧みに掛け合わせて新商品・新産業・新規雇用の創出を図っている。</li> <li>島の食文化を商品化した「島じゃ常識！サザエカレール」、海士の漁師の食卓を都会にそのまま届ける「CAS (Cells Alive System) システム」、流通の仕組みを変えた「隠岐海士のいわがき・春香はるか」、独自ブランドを確立した「島生まれ、島育ち、『隠岐牛』、海士のモノづくりの原点を呼び覚ます「海士乃塩」。</li> <li>これら産業振興の成果として、島外からの移住・定住を加速度的に増加させている。</li> </ul>	<p>&lt;島じゃ常識！さざえカレール&gt; &lt;CAS凍結センター&gt; &lt;「隠岐海士のいわがき・春香」の養殖場&gt;</p>    <p>(出典：総務省「地域資源を活用したまちづくり」ホームページ)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>UIターン者は、H16～H24までで246世帯、361名。定住率約6割（島根の他の地域はIターン定住率3割。）と高い割合を占めている。</li> <li>また、定住だけを目的とせず全国に海士町ファンを増やすことを目指している。</li> </ul>	<p>&lt;島の風景&gt;</p>   <p>取組み主体</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>取組み主体名：隠岐郡海士町</li> <li>連絡先：08514-2-0111</li> </ul>

## 8. 「萩まちじゅう博物館」を中心とした地域活性化（山口県萩市）

### 【地域交流型】

<p>地域概要</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・2005年（平成17年）3月に1市2町4村が合併して新「萩市」となった。</li> <li>・萩市は日本海に注ぐ松本川と橋本川に挟まれた三角州を中心に発展した城下町で、今でもその風情をよく残している</li> <li>・新市を構成する市町村の高齢者（65歳以上）人口割合は2000年に27.9%であったが、2015年には36.6%になる見通し。</li> </ul> <p>＜基本指標＞</p> <p>面積：約698km<sup>2</sup>          人口：53,589人 / 世帯数：24,121（2012年4月1日現在）          高齢化率：36.6%（平成23年時点）</p> <p>＜位置図＞</p>  <p>＜地域の様子＞</p> 	<p>取組み内容</p> <p>＜取組みの概要＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・萩市は、城下町のたまたま残る都市遺産として今日まで継承されており、日本でただ一つ「江戸時代の地図がそのまま使えるまち」と言われている。</li> <li>・これらの歴史・文化遺産、自然を保存・活用したまちづくり・観光地づくりを「萩まちじゅう博物館構想」と称して、市民と政府が協働し、魅力あるまちづくりに努めている。</li> <li>・萩には、多くの文化財をはじめ、「まちじゅう」に豊かな文化や歴史、自然の「おたから」がある。それらの「おたから」を、その場所でありのままに展示・保存されている資料と考えると、萩のまちは、まるで屋根のない広い博物館＝「まちじゅう博物館」と想定することができる。</li> <li>・「萩まちじゅう博物館」は、萩の魅力を、萩にすむ人々が再発見するとともに、かけがえのない「萩のおたから」を守り育てながら、誇りをもって次世代に伝えていこうとする新しいまちづくりの取り組みである。</li> </ul> <p>＜「萩まちじゅう博物館」のコンセプト＞</p>  <p>（出典：萩市「萩まちじゅう博物館」）</p>	<p>取組みの経緯・背景</p> <p>（出典：マピオン）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・萩市このような豊かな自然、歴史、文化環境は、高度成長期以降の急激な都市開発で大幅な後退を余儀なくされてきた。文化的価値があるものでも気がつかないうちに失われてきたものが多く、市内の有形、無形の価値あるものが消滅してきた。まちの風情も画一的な近代化の波に洗われて失われてきた。</li> <li>・一方、萩市にとって観光ははやくから重要な産業のひとつであったが、最近では観光客数、宿泊客数ともに大幅に減少してきている。特に、萩市で宿泊して市内をゆったりと観て回る形の観光が激減してきた。</li> <li>・このようなか、萩市の活力も低下してきた。人口は若年層の流出、少子化、高齢化により減少を続けてきたが、その傾向は今後も続くと思われている。</li> <li>・以上のような状況に対し、文化財の保護、観光の振興、及びまちの活性化を同時に追求する仕組みとして「萩まちじゅう博物館」の考えが出てきた。</li> </ul>	<p>取組み主体</p> <p>・取組み主体名：NPO 萩まちじゅう博物館          ・連絡先：0838-25-3177</p>
<p>取組みの経緯・背景</p> <p>＜取組みの体制＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「萩まちじゅう博物館」の具体的な運営は NPO 萩まちじゅう博物館と萩市まちじゅう博物館推進課が連携して行っている。この2つの組織を核に、市民、民間事業者、行政がネットワークで結ばれる。</li> </ul>			

添付資料 5： 地方自治体における地域活性化への  
取り組み



添付資料 5： 地方自治体における地域活性化への取り組み

キーワード	事例	事例から言えること	インタビュー先
定住促進	知り合いがその土地にいることがIターン者の定住を促すと考えられる。	横のつながりが定住を促進する。	SU市
定住促進	移住はお金よりも場所と人で決める人が近年増加している。	収入も重要だが、移住者が移住先に求める最重要点は、個人として暮らしやすい環境である。	U市
定住促進	町の定住協議会事務局長は民間のファイナンシャルプランナー。定住希望者へ起業の助言をするうえで役立っている。	田舎暮らしへの憧れだけでは、現実的に立ち行かなくなるので、お金の話ができる人が定住者と地域の間にいると役立つ。	SU市
定住促進	外部人材に対して定住を全面に出すとプレッシャーになる。海士町は「去る者追わず」「去っても支援してもらおう」というスタンスで、成功していると言える。	「定住」は外部人材へのプレッシャーとなる。	S県
定住促進	土地代割引等定住促進政策を打ち出しているが効果はまだ見られない。子育て支援は乳幼児期だけでなく高校位まで一貫して助成する必要があるかもしれないと考えている。	定住者に対する助成範囲の限界がある。また、これらが本当に定住者を呼び込むきっかけとなるのか。	AK町
定住のむずかしさ	後継者不足を背景に、農家ごとの農業運営が難しくなり、農業法人化が進んでいる。		H市
定住のむずかしさ	空き家を、知らない人に貸し渋る傾向がある。	知らない人に貸したくない。	SE町
定住のむずかしさ	空き家バンクに登録されている家は、良い家＝高価であり、若者は家賃が払えない。若者向けの小さな家はなく、シェアハウスは複数人が家主になる点から、家主が貸し渋る(シェアハウスが地方で浸透していないというもある)。また配偶者がいないと住めない等条件が厳しい。	若者に地域に入ってきてほしいが、家賃が高いため、定年退職者等しか住めないという矛盾が生じる。単身者に対する信用が低く、閉鎖的である。	SE町
定住のむずかしさ	近隣に生活が丸見えなので、プライベートな時間はない。		Y町
定住のむずかしさ	Iターンで来ても馴染めずに出ていく人もいる。	地元と馴染めないケースがある。	SE町
就農のむずかしさ	果樹園はゼロから始めると莫大な資金がかかり、また収益が上がるまで年数が必要。	外部者の新規就農は簡単ではない。	MI市
就農のむずかしさ	後継者不足を背景に、農家ごとの農業運営が難しくなり、農業法人化が進んでいる。	知らない人に土地を貸したくない。	H市
就農のむずかしさ	町として50人の移住者受入を目標としているが、現在購入できる農地がないのが課題である。	知らない人に土地を売りたいくない、貸したくない	SE町
就農のむずかしさ	土地の形状上広い農地がとれない、リゾート地でありサービス業従事者が多い。	農業に力を入れたいが土地がない。	AK町
就農のむずかしさ	Iターンの難しさは、「住む場所が見つからない」「したいことができるか」「農地と家と同じ場所にある物件を確保できない」「栽培したい作物と栽培可能な作物が異なる」等。良い条件の耕作地は農業法人化しており、個人が使えるのは使いにくい耕作放棄地となる。農業法人としては後継者を確保したい意向だが、移住者のニーズとマッチしていない可能性がある。耕作放棄地であっても知らない人に貸し渋る傾向がある。		SE町
マッチング	就農希望者からの問い合わせがあれば、市は果樹園主をあたって閉園したい人がいればマッチングする。	マッチングはその解決策の一つとなり得る。	MI市

添付資料 5: 地方自治体における地域活性化への取り組み

キーワード	事例	事例から言えること	インタビュー先
マッチング	後継者不足を背景に、農家ごとの農業運営が難しくなり、農業法人化が進んでいる。	地域が必要としている後継者は農業法人の後継者であり、個人で農業を運営したい人が入ってきにくい。	H 市
マッチング	後継者不足で悩んでいるのは集落法人である。	移住者希望者との要望があわない。	SE 町
マッチング	最近、市のマッチングにより新規就農者が果樹園をそのまま引き継いだ例がある。	マッチングにより後継者問題に対応できた事例もある。	MI 市
情報発信力	民間企業立役者で情報発信力がある人が活躍している。	地域活性化では情報発信力が役立つ。	SE 町
情報発信力	先行移住者の情報発信力や事例の豊富さが後継者を生み出していると思う。連鎖効果がある。	—	SU 市
情報発信力	Iターン者は、IT を利用して海士町を PR しており、Iターン者がIターン者を呼ぶ現象が起きている。	個人の情報発信力による影響が大きい。人を呼ぶのは人である。	AM 町
ネットワーク	バイオマスを通じて、大学や専門学校、企業などネットワーク形成。お互いにメリットのある組織との連携。	ひとつのものからネットワークや連携に発展できる	MA 市
地域ブランド	必要なのは事業者間の連携。島の資源を生かし、将来的に島のブランド力アップにつながると良い。	「地域のブランド力」というテーマを地域の事業者間で共有することが強み。	SU 市
地域ブランド	Uターン者にとって魅力的な地域ブランドがない。Uターン者のためには、雇用創出に加えて地域ブランド作りも必要。	—	U 市
参加者	地域の風潮としては「行政にやってもらいたい」という人が多い。	—	H 市
参加者	地域づくりの場に参加する人は限られた人たちである。	参加することに意義を感じる人とそうでない人に分かれている。	H 市
参加者	会議等へネットワーク会員の不参加の理由は、「高齢化」「ネットワークの方向性が変わってしまった」「開始当初は会議等への参加は義務でなかった」など様々である。	地域活性化活動が進む中で、目的や形態の変化が起こる。賛同する人も、そうでない人もいる。	SE 町
参加者	アンテナショップ等に出店するためにはネットワークに参加する必要がある。	活動に参加させるためには、インセンティブが必要である。	SE 町
参加者	「防災」をテーマにすべての世代の地域の人とつながることを目指している。災害時に命を守るためというメッセージを発信して、活動の場を提供し、参加を促している。	参加促進のための工夫が必要。ここでは「防災」「体操」等。場を設け声をかけ、役割を設けることが重要。JOCV も同じことを言っている。	I 市
参加者	24 時間テレビ募金活動や、「お金になる」空き缶回収を呼び掛けたら、参加者が多かった。これをきっかけに現在も募金活動を継続。	具体的ですぐに成果の見える「目的」があると、人は参加する傾向にある。	I 市
参加者	単なるイベントとしての芋煮会ではなく、「災害時の非常時に備えて」という意味を持たせる。	参加者を増やすには仕掛けが必要。「防災」は良いキーワードになる。	U 市
参加者	従来はシニアのみが参加する市制懇談会に若年世代を参加させてみたところ、評判が良かった。	勢力構図が脅かされないうちは、肯定的な反応になる。	U 市
参加者	棚田保全協議会の活動で、オーナー制度を導入した。その結果、耕作放棄地が減少し、畑の共同管理をすることによって共同体としての役割を果たすようになり、独居老人を外に出てこさせることもできるようになった。現金収入も得られるようになった。	明確な目標と、役割をふることで参加者を増やすことができる。	AS 町

添付資料 5: 地方自治体における地域活性化への取り組み

キーワード	事例	事例から言えること	インタビュー先
参加者	年長者が発言権や決定権を握る現状に対して若い世代の住民が不満を持っている。30代女性が主導できた「おさんぽギャラリー」は、若い世代も地域に貢献できることが増えたという意味で、活力の元となった。	地域での意思決定者は、長老であり、30代、40代といった比較的若い人々は重要であるとみなされていない。	H市
役割分担／関係者間調整／溝	6次産業ネットワーク事務局は3年間で8名が就任したが継続しない。	多数のステークホルダーと関わる調整役はストレスが多いらしい。	SE町
役割分担／関係者間調整／溝	事務局の仕事が理解されていないことがあり、農業者に事務局員は暇だと思われることがある。	JOCVも同じことを述べている。事務局や支援者はその活動が理解されない傾向がある。	SE町
役割分担／関係者間調整／溝	男性は縦社会を作る傾向にあり、女性は横社会を作る傾向にある。	熱意がある活動者同士が、ネットワーク構築方法の差で溝を生じることがある。	SE町
役割分担／関係者間調整／溝	行政と農業者・参加企業が、お互いに「〇〇をするべきだ」論になることがある。	熱意がある活動者同士が、それぞれの立場の違いにより、溝を生じることがある。調整が必要になるときがある。	SE町
役割分担／関係者間調整／溝	行政や議会の地域振興に係るイニシアティブは必ずしも高いとは言えないが、町長は定住促進に理解があり、民間側からの提案に耳を傾けて意思決定をしてくれる。民間は元気。	行政民間の両者が常にモチベーションが高いわけではなくとも、協調して発展することは可能である。	SU市
役割分担／関係者間調整／溝	行政主導で設置した、道の駅が集客力町内 No.1。	行政でしかできないこともある。	SU市
役割分担／関係者間調整／溝	グループの連携が困難。いくつかのグループがあり、メンバーも重複しているが、連携があまりない。	—	H市
役割分担／関係者間調整／溝	青壮年層が子育ても含め暮らしやすい町づくりを目指す。行政はきっかけづくり、民間は人のつながりや受け皿づくりを担う。	関係者それぞれのマネートが明確になると動きやすいようである。	SU市
コミュニティ内の風通し	コミュニティのニュースレターを作っている。	地域コミュニティ内は必ずしも風通しがよいわけではないようである	H市
コミュニティ内の風通し	IURターナー者が増え、彼らのコミュニティ形成ができたことが若手移住希望者の定住につながった。「島くらす」という団体をつくり、交流会開催、違う世代への活動の巻き込みを行いながら、町長や行政とのコミュニケーションにも役立っている。	地域コミュニティ内の風通しをよくすることが、必要とされている。地域コミュニティ内は必ずしも風通しがよいわけではない。	SU市
コミュニティ内の風通し	学校を通じた母親コミュニティがあるが、子供が町の学校に通うようになるとコミュニティが消失するようだ。	地域コミュニティは必ずしも風通しが良いわけではない。	U市
コミュニケーションの場／活動拠点	若い人がいないという課題を地域は感じているが、それを話し合う場所がない。	地域の人々は、コミュニケーションの場や、活動拠点となる場所を必要とする。	U市
コミュニケーションの場／活動拠点	地域活動グループが気軽に集まれるカフェがないことが課題だと思う。	地域の人々は、コミュニケーションの場や、活動拠点となる場所を必要とする。	U市
交流人口	道がつながったことで観光客が他地域に向かいやすくなった。	予定外の交通網の変化で地域活性化の方向性に影響が出ることがある。	SE町
交流人口	視察を農業の忙しくない冬季に受け入れている。	地域の予定に合わせた視察の受入が、閑散期の収入増につながっている。	SE町

添付資料5： 地方自治体における地域活性化への取り組み

キーワード	事例	事例から言えること	インタビュー先
交流人口	関係者・関係団体が多く、活動が重複し一本化されておらず、毎週どこかで何かをしているが観光客にはわかりにくいという指摘もある。	—	SE 町
交流人口	おばちゃんたちを里山イベントに連れて行き、お客さんが何を喜ぶかということを経験してもらっている。	JOCV も同じ活動をしているが、地域の人々は外部の人が何を喜ぶかを知らない。	SE 町
交流人口	棚田 100 選に選ばれた地域であるが、収入には結びつかない。	交流人口が増えても収入に結びつかないことがある。	AK 町
副収入	レストランでアルバイトをしている。	副収入の必要がある。	H 市
副収入	自然塾でのインストラクターを考えている。	副収入の必要がある。	Y 町
外部者の活用	地域おこし初期には、省庁・自治体の幹部・シンクタンク・金融機関等から外部専門家を招き勉強会を実施。地域問題に即した適切な専門家を招へいし、そのアドバイスを活用したことが成功につながった。	何が必要か考えた上で、外部人材を登用すると効果が出た。	MA 市
外部者の活用	元生活改善普及員でのちに農業普及員となった女性が牽引力だった。	現在は内発的な地域活性化であるが、過去には外部牽引力があった。	SE 町
外部者の活用	神石高原町で NGO が地域活性化活動をしているが、地元との折り合いが悪いという話を聞いた。	外部団体を使う方法について慎重な意見もある。	SE 町
外部者の活用	移住者同士あるいは移住者と町民のつながりが弱く、地域に根差した定住に結びつかない事例が散見されることから、移住者の情報を共有できる組織が必要との声が上がったことから、事務局を担えてかつ定住に関する取り組みの情報発信（＝定住者の横のつながり）ができる人材を「地域おこし協力隊員」として確保することにした。	溝を埋める役割として地域おこし協力隊を活用できる。	SU 市
外部者の活用	行政がIターン者へ過度の支援をしている、と不満を持つ住民はいるが、外部者を使わないと再生できないので、街として「若者・よそ者・バカ者」を使うことを掲げている。	Iターン者優遇施策により、行政の味方を増やすこともできる。	AM 町
外部者の活用	よそ者として、地域では当たり前だが受け継がれて欲しい文化や経験を発見できる。	よそ者の目で、その地域の良さを再発見することは重要である。	AM 町
後継者問題	おもてなし精神が旺盛すぎて、オーナー制度では利益が出ず、また、商売っ気がないため利益を出すことを農業者が頑なに拒む。利益が出せれば後継者も出てくるかもしれない。	産業になりにくい気質がある	AS 町
後継者問題	Iターン者が増えているが、高齢化している農業や漁業の今後の担い手が少ないことが課題である。	Iターン者が増えても、後継者問題が必ずしも解決するわけではない。	AM 町
意識のずれ	Iターン者は、田舎の生活に自然農業など理想を持って来る人がいるが、それを地域の人々が求めているとは限らず、地域活性化にもつながらないことが多い。	外部者はしたいことができない。	U 市
意識のずれ	問題意識が強い人材が地域活性化に適しているとは一概には言えない。地域おこし協力隊員についても本人と地元や市役所との意識のズレによりうまく協調できない場合がある	やる気のある人の考えていることと、地元や行政の意識とのズレが生じる場合がある。	S 県
意識のずれ	思いが強すぎて失敗するIターン者のケースがあった。強い想いで進めるのは悪くないが、地元のひととのギャップが生まれることがあるので、まずは地元の人々の話を受け止めて聞く姿勢が重要。	やる気のある人と地元とのギャップが生まれることがある。	U 市

添付資料 5: 地方自治体における地域活性化への取り組み

キーワード	事例	事例から言えること	インタビュー先
意識のずれ	市が押ししているだけで地元のひとはあまり動こうとしない。	やる気のある人と地元とのギャップが生まれることがある。	U 市
意識のずれ	多くの住民は地域への想いはあるようだが、市の状況や、イベント等に関心が向いていない。	住民と行政の間の関心事項にギャップがある。	U 市
意識のずれ	地域活性化は行政の盛り上げが大きい。一方で市役所の中でも地域活性化に関わる部署とそうでない部署で温度差があるようだ。	関係者間で関心事項にギャップがある。	U 市
意識のずれ	Iターン者は、田舎の生活に自然農業など理想を持ってくる人がいるが、それを地域の人々が求めているとは限らず、地域活性化にもつながらないことが多い。	外部者の想いと、地域のニーズのずれがある。	U 市
意識のずれ	Iターンで失敗する人は、地域に入って自分が取り組みたいことに対する思い入れが強すぎる人が多い。	外部者の想いと、地域のニーズのずれがある。	AM 町
あるものの活用	昔からの産業である林業の副産物(木屑)を中心に産業振興を考えたらバイオマスにつながった。また、バイオマスから林業・木材産業振興、エネルギー自給率向上、雇用拡大、地域観光振興・・・と様々な効果が出た。	地域おこしは、何でも新しいことをすればいいというわけではない。	MA 市
あるものの活用	昔からの産業である林業の副産物(木屑)を中心に産業振興を考えたらバイオマスにつながった。	既存の産業を中心にしたら効果が出た	MA 市
内部での関係	民間企業で大成功すると周囲の妬みをかうこともある。	突出すると風当たりが強いこともある。	SE 町
独自性	地域問題に即した適切な専門家を招へいし、そのアドバイスを活用したことが成功につながった。	オーダーメイドの地域活性化が有効である。	MA 市
地域住民との関係	起業した SU 町は、既に親戚である住職さんを通じた人的ネットワークがある場所であった。	既存地元ネットワーク、人望のある地元住民とのつながりがあると、Iターン者が地域で受け入れられやすい。	SU 市
効果	活動したり賑やかにしたりするのは簡単だが、果たしてそれが地元の人々の幸福に結び付いているか疑問。	求める地域活性化像について、共通見解が得られてない。	AK 町
合意形成	マスタープランは完成したものではなくアイデア段階のもの、住民の総意がとれていないものがある。	地域内での合意形成がうまくいかない。	AK 町
新しいこと	コミュニティスクールモデル校として新しいことに取り組むが、保護者の意識は二極化している。	新しいことをすれば、賛同も反発も常にある。	SU 市
Iターン者に求められること	田舎暮らしへの憧れだけでは、現実に向き合った時に心が折れる可能性があるため、自ら行動を起こせて、人を巻き込む力、つながりを作れる人が望ましい。	—	SU 市
自らを知る	ネットワークで町を回るツアーを実施した。新発見や連携を感じたりできている。	自らが自らの良さを発見する工夫。	SE 町

添付資料 6 : コミュニティ開発に関わるJOCVが  
途上国で得た経験・知見

## 添付資料6 コミュニティ開発に関わるJOCVが途上国で得た経験・知見

表題について、ここでは以下のカテゴリーで分類した。

- I. ソーシャルキャピタル
- II. エンパワメント
- III. 参加型・合意形成
- IV. 持続性
- V. JOCV自身の自己変革につながった行動
- VI. その他

### I. ソーシャルキャピタル

カテゴリ	手続	行動	結果・効果・気づき	知見
プラスの効果	関係団体に働き掛ける	レジ袋削減キャンペーンへの参加を、大手スーパーマーケット、教育省、自治体、企業、関係NGOといった関係主体にプロポーザルを送付して呼び掛けた。  JOCVの活動がきっかけで他団体と関係が築かれた。  主催者との交渉の際は、人脈のある友人に常に間に入ってもらった。  各家庭を巡回し、妊婦とその家族に対して妊婦中の注意事項、妊娠中毒症などの意識向上の啓発活動を行った。他団体であるCARE等のNGOと、政府職員との活動と連携した。  住民は意識がなく、市役所での移転に関する手続き方法が分からなかった。また行政サービスは移転先の新サイト(地域)を認識していなかった。その結果郵便が届かない等の問題があった。住民の生活に関わる各機関の代表に、現地(移転先)に来てもらって住民とのミーティングを実施した。	約10団体がキャンペーンに賛同した。交渉は難航したが最終的にフィジーク最大手のスーパーマーケットの賛同を得た。  配属先の活動の幅が広がった。一度研修で呼んだ講師が、任地の青少年を研修生として招いてくれるようになった。  その友人の子供団体と共に参加することができ、終了後も友人が活動を提案するようになり、協力して啓発活動を行った。  政府職員の活動と連携した効果なのかどうかかわからないが、少しずつ意識向上が進んだ。当初は妊婦健診の必要性を知らないため、ほとんどの妊婦が検診を受けなかったが、(啓発活動の結果)自分の体を意識する妊婦が増えた。裕福でない人もCommunity support systemを活用しての搬送が可能になり、住民と医療施設のリンクができた。	関係団体に協力を呼び掛けたら、賛同を得られる場合がある。  他団体に講師を頼んだら、以降も交流が続く。  キーパーソンを仲介したら、その人が持っているネットワークともつながり活動が広がる。  他団体と連携し啓発活動をしたら、より効果が生まれる。  行政サービスが届いていない地域について、行政に働きかけたら状況が改善される。
異なるグループが定期的・継続的に会う場を設ける		エコツアー立上げのため、配属先と農家、市役所の三者でツーリズムに関する会議を重ねた。  青少年グループと、同僚の母親らの間で対立が生じた時、JOCVが仲介役になって、青少年グループに配属先の教育局まで出向いてもらったりした。	農家と市役所の観光課につながりができた。また、会議で活発な意見交換が得られ、ツーリズムに興味のある農家が各自工夫を凝らすようになった。  教育局に一般の若者がよく出入りするようになった。	目的のために民間と役所が会う場を設けることにより、活発な意見交換に発展する。民間の自助努力がさらに促進される。  2つの対立するグループに、頻繁に会うように働きかけたところ、自主的な行き来につながる。

カテゴリ	手段	行動	結果・効果・気づき	知見
		野菜生活協同組合で毎週のミーティングを習慣化した。組合員は45名が登録していたが、実際に活動するのは20名前前後であった。5-6名は最もアクティブであった。  (プロジェクト)対象サイト(移転先)の住民と、その地に元から住む地元住民との仲が悪かった。仲良くなってもらうために新年会を行った	皆が少しずつ農場に来る機会が増え、組合員同士のコミュニケーションも増えた。	会合を習慣化することで、メンバーのコミュニケーションが増える。
		人々が新しく移り住んだ移転サイトで子ども会を立ち上げ、定期的に子どもたちを集めて活動を実施した。	食事会を行ったら、お互いの交流が出てきた。ただ仲良くなりすぎて、毎日一緒にカードゲームに興じたり、薬物の売買をしたりするようになってしまった。これには、移転先地区がそもそも評判の悪い地区であったことにも起因している。状況の改善のため、警察、市役所など多くの関係者に一同に会してもらい、住民に対し、宗教の大切さや子供たちの将来について、対象サイトの住民に伝えてもらった。	対立するグループ間を会し食事会を開いたら、仲良くなる。
	外部リソースの活用	子ども会の立上りや活動など、現地の人々だけでは思い浮かばないアイデアを外国人であるJOCVが提供したり、ドナーとの連携をうながしたりした。  赤十字と協働した。  津波被害者のコミュニケーション調和を保つためスपोर्टスクラブを結成した。  関係のありそうな事務所、個人を訪ねたり、彼らに配属先の受け持つラジオ番組に出演してもらった。	より大きな規模でのプログラムを実施することができた。  継続力が強いこの国で、横のつながりができた。  大使館婦人部の支援を得てスポーツ用品が贈呈された。  今までに関係のなかった方面の人々と配属先をつなぐことができた。	定期的・継続的な活動をすると子供たちに組織をまとめる力が身につく。さらに親同士の交流も生まれる。  外部リソースを活用することにより、活動規模を拡大できる。  縦割りが強い国でも外部団体等との横の関係を作れる。  組織化することで外部リソースを呼び込むこともできる  外部組織とのつながりを作ることが有用。
	同じ技術の共有	日本ではEM技術によって飼育された豚は高品質とされ、他の豚肉よりも高値で取引されていると伝え続けた。  EM技術を伝えた。	村人の間では、「高値を維持するためにキロ当たり単価の最低額を設定し、それ以下では販売しないようにしよう」という会話がされている。  養鶏や養豚の悪臭が軽減されるなどの効果があった。またEM技術の情報交換が村人で行われるようになり、その際に市場での豚の売買価格などについても会話をすると、というように、村の人たちの情報交換が促進された。	同じ技術を使う村人の中で交流が生まれることにより、商品価値の維持に発展する可能性が生まれる。  1つの農業技術を習得した村で、村民間で商品情報についての情報交換が盛んになる。
	外部へ発信	ラジオに3回出演、写真付きで新聞に1度掲載された。	ラジオを聞いて別団体が訪ねてきた	情報発信することにより、別団体とのつながりができる。
	具体的な説明・報告	配属先に活動報告をする際に、実際に学校名を上げて活動内容や教員の反応などを伝えた。	(JOCVが)目が行き届かない村と(行政と)のハンゴ役になったと思う。	報告する際には、なるべく具体的に説明することによって、両者間を取り持てる。
	主体性のあるグループを見つける	女性グループへの巡回活動を通じて、意欲はあるが問題に遭遇した際に解決するための情報が少ないと感じた。そこで複数の女性グループを紹介しあって情報交換をできるようにした。その結果、町で石鹸作りを通して女性グループの支援をしているNGOのスタッフとつながる等した。	地域で毎月1回開かれる市に、女性グループが共同で出店するようになった。また他のグループの真似をして広告を取り入れた。	意欲のあるグループの交流を促進すると、主体的に学ぶ姿勢が引き出される。



カテゴリ	手段	行動	結果・効果・気づき	知見
どちらとも言えない	その他	総合地域開発を担っている配属先は、直接的に村や村人たちにアプローチャする機会があまりない組織であったが、JOCV隊員は、学校、村のリーダー、市役所関係者と直接的に連絡をとった。	配属先と村の関係を近づけた。JOCV隊員が行った具体的な研修内容やアプローチャ方法が地域開発には不可欠であるとの認識を配属先から得た。各村や学校では新しい影響や刺激を残せた。	配属先と関係者との関係を近づけることにより、相互に活動が活性化する。
	その他	コミュニティとの信頼関係構築や、プロジェクトと市役所の橋渡しをした。	CPIに評価された。後任の要請につながった。	信頼と評価はJOCVにとって重要な指標である。
	対立するグループの仲介	過去にJICAが介入し、コーヒー事業を営むグループ間に対立が生まれた。その回復のために幹部に幹部に同じテーブルについてもらおうと努力した。	結局、同じテーブルにつくことはなかった。	JOCVが介入する際は、関係者に対立がないか等身長な見極めが必要である。

## II. エンパワメント

カテゴリ	効果	行動	結果・効果・気づき	知見
プラスの効果	定期的・継続的な働きかけ	当初は、活動のすべてをJICAが補助するものだと配属先は考えていた。それに対して、受益者は地域であり、受益者も負担を負うことを何度も説明した。  空手を教えるときに、まず床の雑巾がけから始めた。  孤児院の子供たちに道徳を教えた。「自分が同じことをされて傷つく？嬉しくない？を考え、相手を悲しませないこと」「お金は生きていくために必要だが一番大切なものではないこと」などを、日ごろから会話や授業で伝えた。  ゴミのポイ捨てをしないように言い続けた。  特別な指導をする立場にはなかった。日々の仕事を通じて、スタッフが働きやすいように、物品リストを作成したり、物品のリサイクルを行った。また、医療現場では自分の体調を崩すことが多い。これを予防するための姿勢、マッサージや体操を行ったり、また同様に(マッサージを)してあげた。  クラスの児童は当初はよく「できない」と口にしていていたが、「できないいけない」というからできない」と言い続けた。  3人のJOCVが組合員のための活動をしてきた。	配属先の理解が得られた。自己負担の重要性について、総務局のJOCV担当が農業国局長を説得し、県財政局にも働きかけ、県・村の共同負担が実現した。  最初は嫌がっていた生徒たちも、今では道場を大切な場所だと思い、率先して雑巾がけをするようになった。  子供たちは、人の物を勝手に見たり使ったりしなくなり、「見てもいいですか？」「使ってもいいですか？」と言うようになった。返却するとき「ありがとう」が言えるようになった。  青少年グループの間で、ゴミを自然にポケットに入れるようになった。  自然に同僚が自分の行動・習慣を真似るようになった。  児童は自分たちで励ましあうようになった。  それまでは農協は組合員への投資はそれほど重視していなかったが、活動後、農協組織強化のためには組合員への投資が必要と認識してもうえられたかもしれない。	自助努力の重要性を伝え続けることにより、理解を得られる。  基本から繰り返すことで、正しい考え方が身につく。  何度も繰り返し伝えることによって、良い習慣が身につく。  何度も繰り返し伝えることによって、良い習慣が身につく。  何度も繰り返し行うことで、良い習慣が伝わる。  言い続けることによって相手の意識が変わった。  続けることによって、相手に重要性を理解してもらえる。  何度も繰り返し伝えることによって、良い習慣が身につく。

カテゴリ	手段	行動	結果・効果・気づき	知見
		毎日歌わなければ短い歌でも覚えにくいので、輪唱する日本の童謡を一緒に歌って教えた。	毎回歌っている人とみんな少しずつ覚えていった。	毎日練習するとできるようになる。
		プレゼンの作成のたびに、文字の大きさや一定したフォォーマットを使うなど、聞く側に親切なプレゼンにするための助言をした。	赴任した当時よりもプレゼンが改善された。	何度も繰り返し伝えることによって、技術が改良される。
		2年間、学校を巡回し環境教育に努めた。	3Rについて学んだことを、先生の指導の下にポスターを作ったり、リサイクルのためのペットボトル入れを配置した学校がでてきた。	定期的なコミュニケーションを持つことで、自主的な活動が促される。
		青少年がたむろしている商店があり、そこからは我々の行動が良く見えるため、私たちが頻繁にからかっていた。そこでその青少年たちのもとに行き、毎朝・毎昼、コーラを飲みながら仕事や日本の話をした。	日本語の挨拶を教えてほしい、という態度に変わり、コミュニケーションターに日本語を学びに来る青年も出てきた。	交流が生まれると、興味をもってもらえる。
		空手は精神を鍛え弱者を守るためのものである、と教えた。	地元の人にはよくケンカをし、強くなりたいたい目的で空手を始めたようだが、活動を始めるにつれ少しずつ正しい理解が得られた。	伝え続けることによって相手の意識が変わる。
		何度も生徒に縫い直しを求めたのでいじけてしまう生徒も続出したが、その度に「日本の消費者が、あなたが製作したバッグを購入して身に着けているのを想像して！」と励まし、モチベーションを保った。	JOCV隊員の指摘がなくても自分で判断し縫い直し生徒も出てきた。	何度も繰り返し言いつづけることで、相手の向上し、技術が身についた。
		スタッフに対するアドバイス活動により注力し、顧客の意見に耳を傾けることの重要性を活動の中で伝えるように努力した。	完全ではないがスタッフの意識を変化させることができた。	何度も繰り返し言い続けることで、相手の意識が変わる。
	役割を与える	国調べや単語調べの表を作成する作業で、JOCV隊員が単語のチェックをしながらが子どもたちの絵をほめたり貼ったりするのは時間の限界があったので、国調べや単語調べの表を全てクリアした子供たちに先生役をして教えてもらった。	先生役をした子供たちにとっては、その科目の復習にもなり、また自信にもつながった。	責任を任せられると、自主的な行動につながる。
		2人いた同僚の1人が辞め、相談相手が1人だけになった。JOCVは「任期があと半年しかない」と強く訴えた。	隣ったOPが、相談相手が自分だけになったと自覚し始め、JOCVの任期があと半年になったこともあって、モチベーションが上がり、積極的に質問してくるようになった。	自分以外に誰もいないという状況になると、相手に責任感が芽生える。
		日本の遊びを伝えるために本を作成し、同僚の教師に渡したところ、JOCVが教えてほしいと頼まれた。今後のことを考えて断った。	その教員は自分なりにアレンジして、現地の子供たちにあった形での遊びを子供達に教えた。	誰も教えてくれない環境では、自力で何とかする。
		子供たちに責任感を持たせるために、子供たちの中から会長、副会長などの係を決め、リーダーたちに任せる仕事を増やした。	態度が悪かった子供が、重役になったことで、態度が良くなった。	役割を与えられると、責任感が生まれる。
		トップダウンの国柄。料金徴収のシステムは政府がある程度枠組みを決め、徴収活動はコミュニティ自身が行った。	当初の予想を超える金額を徴収することができた。	役割を与えられると、責任を果たす。

カテゴリ	手段	行動	結果・効果・気づき	知見
		<p>水ラインを供給するプロジェクトで7つの機関が関わった。資金集めの過程において自治会にいくつもの問題が降りかかってきたが、JOCVはあえて手を出さず見守った(カウンタートパートには随時状況を報告した)。</p> <p>CPが非常に忙しいなどの理由で、実質的にJOCVがプロジェクトを主導することになった。一人で現場に行くことが多かったが、詳細を書面と口頭でCPに報告し、定量的・定性的情報を報告書に入れた。CPに英語チェックを頼み、CPが全文を読まざるを得ない状況にした。</p> <p>ピアノでの音楽教室や、絵の具・折り紙・障材を使った図工などを行った。授業を行う際は必ずそのクラスの担当にも付き添ってもらい、授業で何をやっているかを見もらうようにした。</p> <p>環境啓発活動を、学校、特定の海岸などにある、目に見える範囲を対象として計画的に行った。</p> <p>3つの地区でCAP (Community Action planning)ワークショップを実施した。うち1地区では排水溝の設置が最重要課題として上がり、住宅省の予算を使い約80mの排水溝を設置した。別地区では家庭から排出されるごみを軽減すべし、という課題が出て、すでに進んでいたコンポスト・バレル配布事業と合わせ、コンポスト作りの説明会を実施し、50戸にバレルを配布した。</p> <p>地域の女性たちによる従来方法と、自分が推奨する方法を、同時並行で進めた(例えば、有機肥料を用いた玉ねぎの苗床作りや稲の植え替え方法など)。</p> <p>当初はボランティアが授業を行っていても、その教室を担当する先生は授業を見ず外で休憩しているなど、学ぶ意識は低かった。それに対し、教諭に授業内容を説明し、教諭自身に授業を実施してもらい、情操教育指導書に基づき頭職参加教員研修会や現地の教員養成校で授業紹介を行った。</p> <p>店舗との交渉等、村外販路開拓の実践的な仕事をJOCVが代行していたが、村でのんびりした時間の流れにいるメンバーは、今一つ村外販売に際しての意識に欠け、期日厳守、注文数厳守、梱包等、基本的なことを守れず、クレームも受けたが改善されなかった。このためメンバーの一人をつれて県庁所在地へ出かけ、商品が売られている店舗の見学や、飛び込み営業活動を行った。</p> <p>最初はボランティアに対する関心は低かった。他のNGOと活動し始め協力者を得て範囲を広げていくと、任地でのJOCVに対する認知度が高まった。</p>	<p>事業終了後、自治会は村の信頼を得ると共に、自治会のメンバーも自信をつけた。</p> <p>CPがプロジェクト概要を把握するのに役立った。インタビューや問い合わせに回答しているのに随伴したが、彼女がプロジェクトを十分に理解していることがわかった。</p> <p>先生たちが徐々にボランティアが何をしているかに興味を持ち始め、ピアノを教えてほしい、教材の作り方を教えてほしい、などの要望がでてきた。</p> <p>成果が目に見えるので、対象者の達成感につながり効果的だった。</p> <p>提起された課題に対して、住民の目に見える形でアクションがとられたので、「地域社会が抱えている共通問題」に対して取り組む住民の参加意識が高まった。現在もこの2地区では定期的に住民集会在開催され、市役所との活発な協議が展開されている。</p> <p>実際に目で見てどういう改善が必要かを理解してもらうことができた。</p> <p>情操教育の重要性に理解のある教諭が増えてきた。</p> <p>コネクションのない店舗では冷たい対応で販路開拓はできず営業成績は出なかったが、同行したメンバーが、村外販売は村内販売のように入りこみ構えてはいけない、基準も高く厳しいものだと認識をもった言葉を聞いているのを見て救われた。</p> <p>配属先のJOCVに対する関心が高まり、活動1年後には活動のための交通費や講義の材料費を配属先が全面的に負担してくれるようになった。</p>	<p>問題が降りかかっても、自力で解決する環境に置かれれば、自助努力をする。周囲はそれを見て信頼するようになる。</p> <p>報告書を読まざるを得ない環境を作ると、その人に活動を理解してもらいやすい。</p> <p>活動をCPに見せることで、興味を促せる。</p> <p>成果が目に見えやすくと、達成感につながる。</p> <p>要望が目に見える形で実現されると、参加意識が高まる。</p> <p>2つのやり方を目に見えて比較できるようにすると、理解してもらいやすい。</p> <p>見るだけでなくやってみてもらうことによって、自主性が引き出される。</p> <p>困難なことを実体験すると、危機意識が芽生える。</p> <p>活動を見せることによって、相手の理解が深まり、協力が得られる。</p> <p>成功例を見て、それまでやる気のなかった人が真似をするようになる。</p>
	<p>実際に見る、体験する</p> <p>成功体験</p>	<p>受益者の多くは、ほぼ彼らのおかれている状況に慣れてしまいい、変化を求めず、受身的で、あきらめている人が多い。その中でも積極的で向上心の強い人を支援するために、受益者がなくなってもあきらめことなく定期的にミーティングをしてコミュニケーションを図った。</p>		

カテゴリ	手 段	行 動	結 果・効 果・気 つ き	知 見
		<p>計画していたトイレ建設や市営墓地再整備が実施不可能になり、市役所、ボランティア、CPは住民から不信を買った。「責められるのは自分」とCPは意思消沈していたが、別活動である市民一斉道路清掃奉仕活動を実施したところ、なんでも行政任せで自分の家の前の道路の掃除もせず市役所労働者に掃除させている住民が、奉仕作業に参加し、成功を収めた。</p> <p>成功しているグループの経営方法などをマニュアル化して配布し、実際にグループの代表の人にほかのグループを訪問してもらい、経営に関して良い例や悪い例などを具体的に話してもらった。</p> <p>トウモロコシ栽培育成トレーニングプログラムで、前々回の参加者に、指導者のサポートしてもらった。</p> <p>ドライトマトを試験的に作り、お菓子などのドライトマト加工品を合わせてJapan Festivalで販売したら、好評で完売した。</p> <p>モンゴルの旧正月に欠かせない飾り菓子「イェーウエン」を、計画的に製造し、イェーウエン用の包装を準備し、1月から2月上旬にかけて集中的に販売した。</p> <p>対象の博物館でワークショップを行う際、訪れる人の興味をひくために例えば「リサイクル工作」などを取り入れ、4Rの普及に努めた。</p> <p>道路整備。地域で入手できる素材を用い、簡単にできる側道補修を行った。</p> <p>石 礫作りを伝えた。</p>	<p>CPは市民からの信頼を取り戻し、市長から一定の評価を得た。CPの意識が変わった。</p> <p>徐々に経営状態が改善されているグループも見られた。</p> <p>人に教えることで知識が深まる。また参加者側からしても、身近な農民が指導側におり成果を体現しているのを見て、モチベーションが上がる。</p> <p>配属先は農産物加工品分野を始めたいと考えている。ドライトマトの加工品はそれに活用される見込みがある。</p> <p>用意した40セットすべて売り切り、それ以外の問い合わせもあった。</p> <p>子供たちが興味をもち、家から不用品を持ってきて、何かできないか、と質問する子供がでてきた。子供が喜ぶ姿を見て、それまで関心がなかったセンター職員も興味を持つようになり、不用品回収に協力的になった。子供たちは「リサイクル」と「リユース」が言えるようになった。</p> <p>住民が自分たちで道路を維持管理する意識が生まれ、水たまりを埋めたり周囲(街路樹等)を整備するようになった。</p> <p>自宅で作れる、経済的、との理由で興味を示す人が多かった。</p>	<p>成功体験をすることにより、CPが前向きになる。</p> <p>成功例を知ること、自分たちのグループの改善につながる。</p> <p>成功例を見るとモチベーションが上がる。</p> <p>成功体験は、人々のやる気を引き出す。</p> <p>地元の行事に合わせて売ると、商品が売やすい。</p> <p>身の回りにある物を使ったり、目に見える物を作ると、興味を引くことが出来る。</p> <p>地域で容易に入手できる素材があれば、自主的に管理しようとする意識が生まれ実施に結びつく。</p> <p>容易に入手可能な材料で作るものには、興味を示されやすい。</p>
ステージに立つ		<p>栄養に関する人形劇を実施した。当初は問題を投げかけたところで終わり、その後の問題分析や解決については人形劇終了後に話し合う、という設定していたが、Community mobilizerたちから「自分たちで話を完結させたい」と提案があり、2日かけて彼女たちが完成させた。</p> <p>シニアボランティアの力添えを得て、村外の高齢レストランのコーヒーや紅茶にクッキーを添えてもらうことをお願いし、試食を出すことを許可してもらった。また、レストランオーナーが経営する夏の保養所への納品も回数許可してもらった。</p> <p>村を歩くこと、人々と少しでも多くの時間を過ごすこと、状況を教えてもらうこと、を心がけた結果、少しずつ活動の糸口が見つかった。具体的には、女性グループ・青年グループを組織化し、組織の機能と効率化を活かし、環境教育、ゴミ問題や民芸品開発に注力した。女性グループとは生活改善の一環として生活衛生や栄養といったテーマで研修と実践を繰り返し、直接的な問題に取り組んだ。</p>	<p>ストリーを考える、録音する、役になりきるなどの過程を通じて、意欲と自信が満ちてきた。</p> <p>高級レストランに受け入れられたことが、メンバーの自信につながった。</p> <p>村人たちが観光客受け入れをエコツーリズムとして意識を持ち始めた。子供たちをはじめとしてゴミ削減に興味を持ち始めた。民芸品開発が少し定着した。</p>	<p>人前で発表する場を与えると、よりよいものにするために創造力を発揮し自主的に行動する。</p> <p>作品がレベルの高い場所に採用されることでモチベーションが上がる。</p> <p>観光客を受け入れようとする、環境問題に目覚めたり、村の特産品について考えるようになる。</p>

カテゴリ	手続	行動	結果・効果・気づき	知見
		青少年の環境グループがエコガイドとして活動に参加した。	首都から訪れる観光客に対して自分たちの村の紹介をすることで、村の自然の豊かさを自覚するようになった。	観光客がくると自分たちの地域の意識するようになる。
	効果的な情報提供、問題・課題の具体的な理解	廃棄物排出状況調査、生活実態調査、住民意識調査を行った。調査結果はワークショップやニュースレターを通じて住民に伝えた。	システムの実現可能性と妥当性を担保し、委員会の活動に対するモチベーション向上につながった。住民が自分たちの住む地域の科学的データを知られることとなり、意識向上につながった。	自分たちの村の情報が数値化されると、住民の意識向上につながる。
		参加型開発手法を用いた地域のニーズ分析ワークショップの開催、プロポーザルの書き方講座を実施した。	住民が自分たちの抱える問題を分析し、村落開発委員会などの政府事務所に声を届けるための一歩となった。	問題の分析力、提案力を身につけることにより、住民が役所に主張できるようになる。
		水道プロジェクトで、コミュニティと一緒に調査をし、何度も会議を持った。彼らは市役所に「水道プロジェクトをしてほしい」と訴えていただけで、なぜ水道が必要なのか、どういう問題があるのか、水道があれば何が解決されるのか、といった内容を伝えていなかった。JOCV隊員が、彼らと共に基礎調査、問題分析、目的分析の方法を伝えた。プロジェクトの必要性を外部に伝える情報を収集して関係NGOと連絡を取るようになり取らった。	住民は、以前は具体的にどんな問題があるのか、どうしたいのかという明確な意識はなかったが、共に作業をしていく中で、自分たちが抱えている問題に気づき、外部からの助言が必要ではあるものの、少しずつそれらに対処する術を身に付けていった。プロジェクト実現に向けて何をすればいいのか考えることができるようになった。	問題を大枠でなく具体的にとらえることにより、取り組みがより明らかになり主体的な意識も芽生える。
		定期的に会合を持ちメンバーに情報提供を行った。収支を全体の数字で説明するのではなく、グループ単位、個人単位に割り付けて説明した。	個人々々の責任意識の向上に役立った。	収支報告を個人単位まで詳細にすることで、個人の責任意識向上に役立つ。
キーパーソン	キーパーソンの発掘・活用	村のグループの青年に、合唱の仕方、曲の意味、日本の挨拶の方法をまず説明し、その青年が子供たちにソマリ語、フランス語で説明する、という形をとった。	青年の存在価値が上がり、子供たちも音楽活動を十分に味わうことができた。この青年はこの地域でも一目置かれる存在なので、周囲の青年少年への影響が大きい。他の青少年もコミュニケーションセンターに興味を持ち足を運ぶことが増えた。	何かを伝えるときには、地元の人から地元の結果である。
		自分の現地語能力の低さ、見識の低さを自覚し、その道に明るい現地の人に協力を仰いだ。	活動が上手くいくだけでなく、その協力者への啓発にもなり、絆も生まれ続けた。小学校の授業では、言葉足らずになったものの、担当がボランティアの言うことを汲み取り、さらに自分の考えを交えて生徒に説明してくれた。	その道の協力者を得ることで、活動がスムーズにいく。
		EM技術を村に紹介した。南部では稲作、野菜、ライチ、家畜飼育という農業が大半であり、各集落の中心人物がよき理解者となってくれた。赴任前の技術補完研修のとき「キーパーソンを見つけることが重要」と言われた。リーダーやキーパーソンは何らかの役割になっていくことが多く、見つけるのは難しい。	村の他地域よりも、ボランティアが入った南部が一番盛り上がりがあった。	キーパーソンを仲介者にしたら、活動がスムーズにいく。
		定期的に、活動の振り返りと、活動の再開のための改善事項を各グループで話し合った。	石鹸を作る分量と完成品にばらつきがなくなり、常に同じ要領で同じ分量の成果品が生成できるようになった。	定期的に活動の振り返りをする中で、質が向上する。
		最初の頃は、CPはトレーニングなどの数をこなすことが目的だった。トレーニングや会議の後、内容を中心に振り返りを重ね、トレーニングに関しても住民の役に立つものになっていくようにした。	以前に比べて、CPがトレーニングの内容をより意識して計画・実行するようになった。	振り返りを重ねることで、質を向上するようになる。
		学校での講座後、業務が終わるとCPは「振り返りをせずに終わっていた。講座直後に振り返りを持ちかけると疲れているからまた今度」と言われケンカになった。翌日CPが暇そうな時をねらってもう一度話をもち掛けたところ、議論ができた。	CPからある日「自分の授業が良くなった。あなたの協力のおかげだ」と言われた。振り返りは講座直後にこだわらなくてもできることに後で気づいた。	直後だけでなくも振り返りをするることによって、質が向上する。

カテゴリ	手段	行動	結果・効果・気づき	知見
	リーダーシップ	環境活動の一環で、ゴミ拾い行進を行った。校長は計画・準備の段階から熱心に参加してくれた。	行進は予想以上に盛り上がり、子供たちが多く参加し、スローガンを自ら歌いだした。ゴミ拾いをしながら前に進み、その姿を見た住民に、ゴミをどこにでも捨てないこと、通りをきれいにすることをアピールできた。残念ながら教師の参加が少なかったこと。	トップがリーダーシップを発揮し学校全体行事になると、町全体に影響を与える規模の活動ができる。
		子供たちによる、村内一斉清掃を実施。子供から大人に呼びかけるもので、家の周りのごみを片づけることを拡声器を使って休日に回った。	多くの人が家から出てきて近所の清掃を行った。一斉清掃の日は、役場からもごみ収集車のガソリン代が支援され、町長からも役場や銀行などに清掃活動に協力するように文書を発行してもらった。収集車も活躍し、終了後に村は見違えるほどきれいになった。	トップが協力して地域全体の行事になると、町全体に影響を与える規模の活動ができる。
	書面化	外務省草の根無償資金協力のプロポーザルを提出したが、見送りになってしまった。	回様が今回の反省点を活かして次回のプロポーザルには改善の余地があることを認識してくれた。今回の応募に際して、コミュニティでの井戸の必要性が回様の目に止まったことをきっかけに、今後の配属先の活動において当該コミュニティが重視される可能性が高まった。	書面化すると、理解を得やすい。
	適正なレベルの作業	環境キャンペーンを2回行ったが、そのたびに評価レポートを書いた。	環境省が中心となった環境に関するコミュニケーション戦略が作成されつつあるが、この中に2つのキャンペーンの知見が役に立っている。	記録を紙に残すことによって、活かされやすくなる。
	楽しいことを少し先に据える	クラフトクラスになかなか関わられなかった。最終的にはクラフトインストラクターの得意分野とは違う分野(リサイクルクラフト)でアプローチしてみたら受け入れられた。	アイデアは難易度が低く、基本動作を繰り返すものが多く、繰り返すことによってクラフトの基礎技術向上にもつながったと思う。	簡単な作業はハードルが低く取り組みやすい。
	楽しいことを少し先に据える	おから粉作りを考えたが手間がかかるので、もっと簡単なおからクッキーを作ってみてみたら受けたところ味が良く、売れた。	しかし女性グループが生産・販売を始めるほどには定着していない。	簡単に作れるものが、受けが良い。
	楽しいことを少し先に据える	子供たちの、ばらつきのある講座参加率を上げるため、月に1回の日帰り旅行を定期的の実施した。その旅行に参加するためには子供たちは毎週行われる講座に参加しなければならぬ。参加者各自のカードを作り、スタンプを押印して出席を管理した。	子供たちのモチベーションが向上し、講座に参加する子供が急増した。	楽しいイベントを後に準備することによって、今のモチベーションが上がる。
	楽しいことを少し先に据える	識字教室参加に対する生徒のモチベーションが低かった。そこでアンケートを行い「識字教室に参加した理由」「卒業したら何をしたいか」「読み書きでどんな知識・能力を身に付けたいか」を問うたところ、回答は、読み書き計算の上達、ビジネスを始めること、英語やビジネススキルやお金の計算などの習得、というものであった。そこで図書館を配置し、本の貸し出しを開始した。またビジネススキルや支出の計算などのプログラムを考えた。	ビジネススキルなどの新たなプログラムは時間がなく開始できず。	近い将来になりたい自分を描いてもらったら、目の前の勉強のモチベーションが上がる。
	遊びの取入れ	野菜作りは当初から現金収入の向上を主目的としていたため、女性たちへのインセンティブも金銭で行った。	女性グループはメンバー同士の交流の場でもあるので、まじめに働いた人には表彰状を授与するなど、もう少し遊びの部分があっても良かった。	インセンティブを与えるときは、少し遊びの感覚を入れると良い。
	意見を聞く	住民目線で活動を行うことを心掛け、住民に対する観光意識調査、村の伝統価値・魅力を認識するワークショップを何度か実施した。	村の住民の意識向上につながった。	住民の意識調査やワークショップは、住民の意識向上につながる。
	外部者は黒子	JOCVの役割は今までなかったネットワークを開拓して新しいつながりをつくること、自分は裏方にまわり現地スタッフをエンパワメントすることだと認識し、活動ではサブファシリテーターとして現地スタッフのサポートにまわった。	サポートした現地スタッフは初めの頃は自信なげであったが、二度目では自信を持って生き生きと活動した。	JOCVが裏方に徹することで、現地の人々の主体性が促される。

カテゴリ	手段	行動	結果・効果・気づき	知見
	活動サイクルの形成	刺繍製品の販売支援。徹底的に市場調査し、オリジナル製品を制作し、付加価値をつけ、女性たちへの支払いを着実に増やし、銀行口座を開設した。アソシエーションの運営を女性たち自身でできるようルールを徹底し、システム化した。販路開拓も試みたが、安定したルートは確立できなかった。	アソシエーションのメンバーが10人から50人になった。	活動のサイクルが安定すると、参加者が増える。
	活動の説明	省庁の職員の前で現在までの活動や今後の見通し、職場の問題点をスライドでプレゼンテーションし、残り半年の活動の提案(JOCVがインターネットセンターのみならず村全体で活動できるような許可をリクエスト)をした。	活動に必要な物品については予算上保留になったが、活動については理解を示してもらえた。	活動をプレゼンすることで、JOCVの活動への理解につながる。
	関連団体とつなげる	共同性や自主性、問題解決を図ろうとする意志が生まれてきている住民に対し、関係政府機関や関連するNGOを紹介し、協力を得られるように支援した。	住民組織が安定しているところでは、必要な時にNGOを訪問する、警察の力を借りるなど、住民自身で支援を求めに行けるようになった。	住民組織の安定及び関係団体を紹介することにより、住民が自分たちで問題解決に動くようになった。
	きっかけ	当初は青少年グループはマリファナなどで目が赤々と充血した若者が多く、一人で回るのが警戒したほど。グループリーダーやメンバーに麻薬・アルコールに関するセミナーに参加してもらった。	グループ自らが勉強会を始めた。	学びきっかけを与えたら、自分で勉強するようになる。
	競争	防護柵作りをコンクールという形にして、村人に頭をひねってもらった。	賞品付きで村人の競争意識を高めることができた。各人が試行錯誤しながら柵を作り、他の出来のいい柵を見ると作り直したり、改良したりしていた。	コンクール形式にすることで、競争意識が芽生え、改良に向けた動きにもつながる。
	金銭的イニシアティブ	活動を定期的に振り返り、再度目標を立て、その後の見直しを立てた。	石籬作りで利益を増やし、その利益をもとに果樹の苗木を購入し育てる活動について、女性たちのやる気が萎まずに済んだ。	利益を出すことによって、やる気が継続する。
	商品の差別化、営業活動	メンバーとボランティアが、少しずつだが友人知人に美味しいお菓子の味見をさせた。またメンバーの食堂にお菓子のお菓子の陳列棚を設置した。	村で一般によく売っていたのは、卵やバターを使わない味は悪いが安いお菓子。グループの作るお菓子は卵やバターを使うため、味は良いが高額であるという理由で売れ行きが悪かった。しかし、口コミのお陰かグループのお菓子が任期終盤に急に売れるようになった。	他よりも良質の物を作り、口コミが機能すれば、商品は売れる。
	スポーツを通じた規律	スポーツを楽しむながら、グループ内での基本的な規律を守ることを身につけることを目指した。	グループの中にだんだんと秩序が生まれて行った。	スポーツを通じて規律を守ることを経験したら、グループ内で秩序が生まれる。
	スムーズなコミュニケーション	途中でCPが替わり、新米の行政官と働くことになった。良い転機となり、お互いの足りない部分をフォローしあいながらプロジェクトを進めて行けるようになった。毎日行動を共にし、小さなことでも常に意見交換を行った。良い部分は褒めたり、首都の会議など他の場所での彼の仕事を紹介したりした。	一人だと思いつかないようなアイデアが生まれた。CPのモチベーション維持に役立った。	CPと何でも言い合える環境があると、一人で思いつかないアイデアがでる。
	組織内部規律	裁縫教室グループを結成。地域のリソースを活用しようと、地域から先生を選出したが、責任感がないボランティア講師では運営が継続できなかった。そのため、次は外部から指導者を探し、またコミュニティの調和を図るため、生徒は4つのコミュニティから集めた。	裁縫教室が順調に運営されるようになった。	やる気のない人は去ってもらい、またグループを平等に扱うことで、運営が順調になる。
	褒める	配属された地域での「称賛されるべき事例(スタッフ、会議、スキームの実施についてなど様々)」は全て、時には大げさにプロジェクト上層部へ伝えることを意識していた。	視察等のお客が増え、任地の士気も上がる良い傾向ができた。	大げさに褒めることでやる気を促した。





カテゴリ	手段	行動	結果・効果・気づき	知見
	運営・維持管理	無償資金協力で提供された井戸の状態、使用状況を調査した。使用料未徴収、故障井戸など問題のある地域には、使用に際しての注意、井戸管理指導等した。	井戸を修理した地域もあるが、全ての水組織に指導が浸透したわけではない。定期的に地域巡回できなかったことが失敗要因であった。その背景は、カウンタートパートの不在と、バイクを返却したことがある。	インフラも運営・維持管理が重要である。
マイナスの効果	外部者が主体的になる	隊員連絡所での販売会を2年間続けた。 女性手工芸グループへの支援は隊員3代目。意識向上のためにJOCVが去ったらどうするかと日々尋ね続けた。最後に尋ねた時は「この人に連絡するとJICA事務所のナショナルスタッフの名刺を出してきた プログラムを企画したのがJOCV隊員であったため、プロジェクトスタッフが主体的に行動せず、プログラムの予算申請プロセスを現地住民と共有しなかった。(注1) 絨毯の商品開発や販売に関わる活動を主に行った。	自分の達成感はあるが、住民の日本人に対する依存心が高まった気がする。 日本人への依存心を上げてしまった。 現地の人が主体性を持って取り組む機会を阻んでしまった。途中からJOCV隊員がほぼ調整を行わず、直接現地の者がやり取りをするようにした。 ボランティアはそういうことをする人だと思われた。もっと女性の意識向上や生活改善に関われればよかった 本来販売するべき現地の人が販売に消極的になってしまった。	外部リソースに頼りすぎると持続性が損なわれる。 外部リソースに頼りすぎると持続性が損なわれる。 自分が主体になりすぎると、地域の人々の主体性を阻害する。 自らが主体になると、住民の主体性が弱まる。 自らが主体になると、住民の主体性が弱まる。
	地域理解不十分	JOCVが市場での販売のデモストレーションを見せるつもりが、日本人であるJOCVが売ることによって人々が珍しがる商品を買っていった。 受益者である女性たちによかれと思っでミーティングやプロジェクトを提案したり、英語を教えようと考えたりした。 野菜栽培に関しては、スケジュールの遅れが、収穫量や販売価格に直接影響するため、週間・月間の予定を話し合い、女性たちに理解を求めめる努力を行った。	実際に人が集まらなかった。現地の女性たちの生活の中で何を最も求めているのかを知らないということに気付いた。そこから相手の目線に立つことが必要だと考え、ホームステイや家宅訪問を頻繁にした。 女性メンバーたちはそれぞれ家事や育児等を抱えていることもあり、なかなか思うようには改善されなかった。	状況を理解しないと、必要のないものを提供してしまう。 多忙な状況を理解しないまま、新たな活動を促すのは難しい。
	意識の低さ	IGA活動の準備をした。 村落開発委員会立ち上げに向けた住民集会の開催。村落開発委員会は、自ら村の問題点を定義し解決方法を考え、村人全体を巻き込んだプログラムの立案と実施をする組織形成が期待されていた。援助側が常にアクションを起こすと継続性に問題が残るので、村人自身が主体となる村落開発を行うために委員会が必要であることを各村に提案した。しかし住民集会は集まりが悪く、村長自身も村の問題を改善する意識が低く、実現不可能なアクションを出してくる。など、村人からの意欲が感じられないという問題が生じた。こちらが無理やり委員会設置を押ししている雰囲気があった。	実現しなかった。IGA活動の開始時期が畑の収穫時期と重なり女性が集まらなかった。 村落開発委員会立ち上げは一時中断することにした。	多忙な状況を理解しないまま、新たな活動を促すのは難しい。
	実力者のネガティブ発言	調理講習をCPに引き継ぐため調理を教えた。行政官以外の人間に技術移転することも考えたが、「現地の人は手当てが出ない限り誰も何もやらない」という上司のアドバイスの前にはじろいってしまった。	スキルトレーニングの場が単なる会食の場となってしまう失敗に終わった。	実力者がネガティブな発言をすると、他の人もひっぱられてしまう。

カテゴリ	手段	行動	結果・効果・気づき	知見
	情報収集不足	職字教室。「自主運営方式」の職字教室をめざし、住民側からの負担も求め、もともと前向きな回答を出してきた2村を選抜した。2村でも最大の負担となる講師給料と教科書購入が負担できないとのことだったため、この部分があるグループで負担する形で話を進めていたところ、JICA事務所からストップがかかった。JICA事務所の方針は、この部分も村が負担すべきでありできないのなら「自主運営」とは言えず、従って支援経費許可を出せない、ということであった。JICA方針を村に説明したが、結局両村とも負担できないという回答を得た。	実施を断念した。反省点は、職字教室開催についてJICA事務所と綿密な打ち合わせをしないでライティング的に準備を開始してしまったこと、JICA事務所方針(過去の隊員が確立した方式)に対する認識が不十分であったこと、当該地域の職字教室に対する意識調査や現状把握調査が徹底されていなかったこと。	活動をスムーズに進めるには、十分な周辺情報の収集が重要。
	情報伝達不足	マイバッグの配布。当初はスタンプ形式とし、一定量のスタンプがたまると店でマイバッグを無料でもらえる、というシステムであった。しかしスーパーマーケットとの交渉が難航し、実現に至らず。急ぎよ「10ドル以上買い物した人で、かつ、レジ袋を使用しなかった人がマイバッグをもらえらる」という仕組みに変更した。	仕組みが浸透していなかった。ヒアリングの結果、配布方法を把握していないレジスタッフもいた。	末端にまでちゃんと情報が伝わっていないと、想定した効果が生まれない。
	不適切なレベルの作業	学校の授業で実施したワークショップで、無意識のうちに日本の教育カリキュラムを基準にワークショップを作ってしまった。	対象に対する内容が不適で、理解が参加者にとって難しくなってしまうた。	対象のレベルに合っていないものは、受け入れられない。
	規則を定める	観光村で、観光委員会の会則を設定した。	会員同士の連帯感を向上させ、観光村委員会の地域での位置づけを行えた。一方で、会員の活動に対する主体性は育成しきれなかった。	規則だけ整えても十分でない場合がある。
どちらとも言えない	キーパーソンの発掘・活用	生活改善に関して問題を住民に相談すると、特に年配の女性から古くから伝わるアイデアなどを教えてもらった。例えばマリア対策として「蚊帳を張ろう」と啓発活動を行ってきたが、年配の女性から蚊を寄せ付けないためにはお香をたくとよいと教わり、それを住民に訴えた。	住民からは、すぐに実行できて効果的である、と反応が良かった。ただ蚊よけには効果はないことが後でわかった。	地元で尊敬されている人のアイデアは、地元の人に受け入れられやすいが検証が必要。
	当たり前のことを見直す、価値の再発見	女性たちは、自分たちの野菜栽培の方法に自信を持っており、なかなか部外者である自分の指導を聞き入れてくれなかった。	郡内で農業指導を行っている男性を招いて指導をお願いした。	自らは主体とならず、現地の指導者を活用する。
	地元のパワーバランスの尊重	活動終了時に配属先でパワポを使った活動報告を行った。終了後、「わかりやすかった」「これを毎月やってくれたら、もっと君の情報をみんなに共有できたのに」「要点だけなのにわかりやすかった」などと言われた。	他の人のパワポは何の工夫もなく、文章を書き連ねているだけでわかりにくい。もっと早くに自分がプレゼンをしていたら、字を連ねるだけが一ワークセッションではないと気づいたかもしれない。	自分が当たり前に持っている技術が、住民には魅力的な技術である場合がある。
	外部者の補助	学校と契約し、軽食と飲み物を販売した。同時期にA型肝炎が流行り、学校はこのお菓子グループを制限した。お菓子が肝炎の原因になっている可能性は限りなく低く、学校側と喧嘩した。ただ学校に通う子供たちからは、「これ以上もめないでほしい」と言われ、徐々に学校の主張に折れることになった。	外国人ボランティアが声高に不正を訴えると、長く村で暮らしていくグループメンバーの首を絞めることもある。	地元のグループ間には強弱があり、たとえ弱いグループが正論を持ってても、通用しないこともある。正論を押しすぎると関係が壊れる。
		販売の開拓と確保に關し、店主などと交渉することが難しいと感じている女性グループのメンバーがおり、またJOCV隊員がやってくれるだろうという依存心などから停滞している可能性があるため、営業ツールなどを作成し、最初はJOCV隊員が同行し補助する形で支援した。		—

カテゴリ	手段	行動	結果・効果・気づき	知見
<b>III. 参加型・合意形成</b>				
カテゴリー	カテゴリー	行動	結果・効果・気づき	
プラスの効果	初期段階からの巻き込み	<p>体育授業への教員の参加が態度・行動共に少ないことの原因を、自らの授業の進め方に原因があると気付いた。体育の授業内容について教員に事前説明をし、教員が自然に授業に参加する役割を設け、なおかつ教員が主となり授業を進めるような授業方法へと変革した。</p> <p>計画段階から、調査の実施、ミーティングの運営、料金徴収、モニタリングといったサイクルに、コミュニティの代表からなる委員会が関与していた。会計担当者のリーダーシップと努力があった。</p>	<p>教員の授業への参画度が格段に上がり、態度が生き生きとし、体操方法に対する質問が出るようになった。教員によっては準備体操と一緒にすることで字ぼつとずる姿勢が生まれた。</p> <p>—</p>	<p>準備段階で巻き込んでおくことと主体性がでてくる。</p> <p>準備段階で巻き込んでおくことと主体性がでてくる。</p>
	視覚化	学校での歯科医師検診に同行し、虫歯データを明確に数字で表した。	医師が学校における歯科検診に積極的になった。	データが明示化されると、モチベーションにつながる。
	適正な活動の規模	2年を通じ、4つの村でグループを組織した。途中3村へと減らした。	成果が本以上に上がったのは1村。青少年グループ組織の目的が「地域の子供の参加の機会を増やす」ということであるなら、対象となる村を選ぶ際に、子供の参加の機会が十分にあるか、それを踏まえて青少年グループが上手に動く可能性がどの程度あるか、ということを考えてきた。そうすれば活動地域をもう少し絞って効果的な活動ができた可能性がある。	活動の対象を適正に絞ると、深い関与ができるようになる。
マイナスの効果	外部者が主体になる	CPと十分な意思疎通をしておらず、講習会に対するCPの認識や目的への理解が不十分のまま、講習会を実施した。	配属先に「ボランティアが勝手にやってくる講習会」という印象を与えた。	外部者が主体になると、地元の人とのモチベーションが損なわれる。
	情報収集不足	もともとCPIによって子供会運営がされており、当初は子供会活動を通して地域の自己解決能力を解決しようと考え、いくつかイベントを実施した。	最近の子供は忙しく、塾や習い事等で子供会に割ける時間が少なく、また保護者の関心もテストで良い成績をとり良い就職先を見つけていることなどで、子供を地域活動に参加させることには関心が薄い。このため大きな成果は挙げられなかった。	参加を促すプロジェクトのはずだったが、参加の動機がもともと薄いので、成果につながらなかった。
	巻き込み不十分	<p>村の成り立ちや置かれた環境により、グループ(村)によって活動に参加している人々の動機(他の村への対抗意識であったり、グループ責任者への義理であったり、現金収入の向上そのものであったり)が様々に異なっていることを任期後半に理解した。</p> <p>ストリートチルドレン対象の運動会を開催した。配属先スタッフへ事前に競技内容、ルール等の説明は行っていたが、巻き込みが不十分だった。</p>	<p>この点を踏まえて会議の開催方法、参加者へのインセンティブの示し方、活動目標の設定等で、もつと住民と突っ込んで話し合いを行い、工夫することができていれば、参加者の熱意と成果をより高められたと感じる。</p> <p>当日、配属スタッフは子供たちと同じ参加者となってしまった。次回につなげるためにはもっと巻き込んで主体的に参加してもらうべきだった。</p>	<p>活動の初期に、住民を取り巻き環境を十分に理解しておくことが重要。</p> <p>十分に関与しないと、主体性が生まれにくい。</p>
どちらとも言えない	上から物を言う、信頼低下	エイズ啓発の一環で啓発劇を行った。観客確保のために、教師に対して対象学年に教室で事前連絡するように依頼しており「私たちがする」という言葉も聞いたが、前日の夕方になって、その連絡がなされていないことが分かった。	教師たちの言葉を信用したのが失敗だった。当日は、対象学年ではないが、おちおちと補講を終わった生徒をそのまま引き止め、観客としてりして観客を確保した。	十分に関与しないと、主体性が生まれにくい。
		地元職人に対して出荷に間に合うように急かしたり、商品が規格に沿うように頭ごなしに言っていた。	関係がぎくしゃくしてしまった。怒るのではなく彼らの立場を理解して感謝し褒めて伸ばすことが大事だと理解した。	時間や商品の質について頭ごなしに言うこと、関係が損なわれる。

カテゴリ	手 段	行 動	結 果・効 果・気 づ き	知 見
	適正なグループ形成	グループや組織で活動することを前提に、その運営改善に努めた。	結果的には、個人対個人で活動を進めた方が問題解決が早く、負担も軽かった。グループに拘るよりも、やる気がある人が信頼できる個人を相手に、まず活動を進め、その様子を他の人に見てもらいながら浸透を図っていく方が、責任意識が希薄にならず、意思の疎通も十分に行えることから、成果はあがりやすかった。ただ、個人の力には限界があり、組織化による協働の意味は大きい。	グループよりも、個人で行う活動の方が成果があがりやすいこともある。
	利益発現	各期の野菜作りにおいては、予め女性たちに、販売・費用・利益の計画を説明し理解を求めてきた。	多くの女性たちは売り上げがいくらか上がったかという結果のみに興味がいき、実績と計画との間の因果関係の分析や、これに基づき活動方法の修正といったことには関心が向かなかった。	販売活動では、主な関心は売り上げ額で、要因分析にまではなかなか意識がない。

#### IV. 持続性

	行 動	結 果・効 果・気 づ き
プラスの効 果	JOCV隊員が、現地活動員にデモンストレーションを行ったうえで、彼らが直接村人に語りかける役割を担ってもらった。	現地活動員が人前で話すときの「技法」や「自信」を習得させるとともに、彼らに対する村人の「信頼」を高めて今後の活動の持続性を高めた。
自主性の尊重	同様の数人にPCの操作を教えた。その他のスタッフがPC操作に関して何か疑問を持ってJOCV隊員のところに来た際も、既に教えたスタッフに回答してもらい、JOCV隊員が直接教えることはなるべく避けた。 Webサイト作成を頼まれ、必然的にPCのモニターやLAN構築なども行った。その際2年以上もインターネットに接続されていなかったPCをLANに組み込む、ウイルス対策の強化、システムの安定化などについて、その工程を説明し今後各自でできるように指導した。	今後JOCV隊員がいなくなっても、知識を得たスタッフがPCアドバイザーとして活躍できる見込みがある。
	ライフスキル教育を、小学校15校と職業訓練センター3校を巡回して実施。青少年ボランティアと協力して、一緒に授業を行った。	技術を残すことで、活動が継続される。
	最初はコンポストなどの普及数の方に焦点を当てていた。途中で、自分がいなくなったら終わってしまう活動ではないと気づき、コンポストなどに興味を持つ大学生に常に同行してもらい知識を深めてもらった。	地元の人材を活かすと、活動が継続する。
	スポーツ担当に卓球の指導をしてほしいと言われ実行してみたが、自分がいなければ道具を使えない状況であった(誰かが盗っていく)。スポーツ担当に相談したら1人の青年を連れて来てくれ、彼が道具の管理をすることになった。	地元の人材を活かすと、活動が継続する。
	養蜂講習会を開催し、参加者へ蜂の巣箱を貸与した。日が落ち、蜂が巣箱に収まるのを待ち、巣箱を運び梱包して、CP自らが巣箱を手渡すようにした。	地元の人材を活かすと、活動が継続する。 参加者が各家庭で蜂の世話をし、CPは定期的な巡回指導を進めて行くようになった。

カテゴリ	手 段	行 動	結 果・効 果・気 づ き	知 見
		村落部での啓発活動に関しては、自分一人が村に出向き啓発活動を行うことには限界があり持続性を見いだせなかったために、すでに啓発を受けている保健委員や村のリーダーを再度啓発し、彼らから住民に啓発を行える場所づくりや彼らのモチベーション向上に活動の重点を置いた。日本人ボランティアやプロジェクトが入っていた村の住民は理解力が高く、行動姿勢が顕著に見られることもあったため、このような村の住民を他の村に同行し、住民同士での話し合いの場を設け、自分は調整役に徹した。	—	地元の人材を活かすと、活動が継続する。
	外部者が黒子になる	保健事業を実施するのに自分が中心となっていたことを反省し、保健マニュアル導入後は自ら事業を実施することは止め、教師が効果的にマニュアルを使用しているかを見る巡回フォローに徹した。	教師が主体となる保健授業が徐々に行われるようになった。ただJOCVが巡回に来ない時は実施していないと思う。	自分が巡回に徹することで、地元の人主体性が促される。
		養蜂講習会の開催。事前に村の関係者やCPと数度に亘る協議を行い確認作業を行った。	講習会当日は、最初の挨拶と記録、途中休憩の飲料水を準備する等の裏方に徹することができた。そのため現地主導で実施できた。	外部者が黒子に徹すると、地元の人主体性が促される。
		小学校で合計20回環境教育プログラムをおこなった。首都内は全て市役所の同僚と共に実施し、プログラム実施の主体は市であるスタンスを貫いた。	環境教育ができる人材が数名育った。	外部者は黒子になることで、地元の人主体性が促される。
	外部からの資金支援がない状況に置く	加工販売用小袋に対しては一切支援しない方針を貫いた。小袋は加工販売を続けるための必要最低条件であり、グループ自身が購入し続けなければならぬいから。	JICA事業で3コミュニケーションに乾燥庫・皮むき器が提供された。修理のための基金をグループ内から集めるシステムが作られたが、JOCVが入ったグループのみで修理代を自分たちで負担することができた。	金銭的な支援がないと自覚したら、自らやりくりするようになる。
	お金をかけずに質を改善	心がけたのは、他者依存の姿勢の受益者に満足せず、自立心を持って自発的な姿勢でそれぞれの活動に励んでもらえるようになること。無料では提供せず、貸付して返済してもらったり、グループならばメンバーが金を出し合って活動につなげてもらええるように促した。	住民の自立心や自発性を感じるようになった。例えば長靴や手袋が必要なら、毎週小額をカンパして購入につなげたり、プロジェクトが中断した養鶏グループは、自分たちで短期の仕事を見つけて少額ながら返済を続けたりしていた。	金銭的な支援がないと自覚したら、自らやりくりするようになる。
	お金をかけずに質を改善	展示物の企画、入れ替え。展示物の作成に携わったことがなかったこと、センター側にお金がなかったことなどから、展示物を新しくすることはできなかった。ただ展示物の説明を詳細にすること、抜けないようにすることなどに力を入れ、こういったお金がかからない部分では貢献した。	当初に比べると説明が細かくなり、大切なポイントなども落とさなくなった	お金をかけなくても質を改善できる余地はあり、さらに持続性は担保できる。
	キーパーソンが発掘・活用	理解者・協力者との良好な関係を築くことを最も大切に考えた。自分の言いたいことを最大限に理解してくれるCPを各活動場所に作り、彼らが中心となって発言しリーダーシップを発揮できるようにサポート役に徹した。彼らの発言は住民への影響力が高く、例えば住民にとって新しく受け入れがたい空芯菜の普及に関しても「美味しい」という住民を見つけて、彼らを中心に料理、試食会をおこなった。	試食会は好評を得て持続性を見い出した。	キーパーソンに味方になってもらうと、効果がやすい。
	成功体験	バイオガスダイジェスターを、2年間で8件新設設置し、修理や修復を多執行した。設置経験を積んだ後半は、さらなる利便性を考えて改良型、新型を作り運用を試みた。	現在上手く利用されている。	効果があると思われる機材は、使用され改良され続ける。
	当事者の強い意志	養蜂組合を選定する際に重視したポイントは 1) 組織のまとまり、2) メンバーのやる気、3) 自発性と自立心。	これを体現した組合は、資金がなく技術は高いとは言えないが、養蜂活動の成功に対する強い意志があり、メンバーから少しずつ集めた資金で養蜂箱を自分たちで11個制作した。伝えたことは必ず行い、継続的な努力を払える組合であった。	今は技術が低くても、強い意志があれば、持続性する。

カテゴリ	手段	行動	結果・効果・気づき	知見
どちらとも言えない	定期的・継続的な働きかけ	前任者と合わせて自分は3代目。JOCVが入るまでは町の衛生状態は非常に悪かった。成果を少しずつ積み重ねた。2年間、各家庭でのプラスチックの分別・回収作業の取り組みを続け、現在は地域で定着した。	現在では環境モデル市のようになっている。	継続することで、町が変わる。
	身近な物の利用	紙すきワークショップ。紙がどうやってできるか、この国がどれほど輸入に頼っているか、など、身近にある紙について楽しみながら学べる。	学校の課外授業にも取り入れられた。このワークショップは同僚に引き継がれた。	身近なものを材料にした取り組みは継続しやすい。
	利益の発現	当初、配属先は組織として機能しておらず、商品である石鹸の質も悪く売り上げがなかった。石鹸のレシピを変更し、細織づくりを行い、販売相手をローカルマーケットから観光客に変更し、首都のお土産屋やレストランで置いてもらうようになった。売り上げが上がった。	メンバーのやる気が出て、JOCV帰国後も自分たちだけで仕事ができるようになった。	売り上げが上がると意欲につながる。
	事前の準備	自分が先頭に立たないよう、上司に自分の考えや方法などを伝え、各学校にアンケート調査依頼をしに行くとき、必ず毎回上司についてきてもらって、上司からその目的や方法を学校の責任者に説明してもらおうと考えた。	アンケート調査は許可が下りずできなかった。	持続性は考慮したが準備不足であった。

## V. JOCV自身の自己変革につながった行動

カテゴリ	手段	行動	結果・効果・気づき	知見
プラスの効果	戸別訪問	プロジェクトの活動内容や配属先との連携を知るために巡回をおこなった。郡病院やユニオン評議会メンバーとのつながりも母性保護啓発のために重要であることを認識し、他の関係各所へもできるだけ多く足を運ぶようになった。	サービスマネージャーと受益者双方から問題を聞きやすくなり、地域全体が母子健康に関心を持つようになった。	戸別訪問することにより信頼と情報を得られる。
		共同出荷ができるようになるために協同組合の設置を目指した。農家を1軒1軒バイクで回り、必要性を説いた。	初めのうちは「なんだこの外国人」と言う目で見られたが、何度も顔を合わせ話し合うことで少しずつ関係ができていった。組合設立への理解も深まり、人民委員会の許可がおりた。	戸別訪問することにより、信頼と情報を得られる。
		グループ立上げの日の1週間ほど前に村を訪れ、近所の家を1軒ずつ訪れて思春期層の青年とその父母に青少年グループの意図と説明を回った。	一軒一軒訪れることで、父母にも意図を説明でき、こちら側の人間性も知ってもらえた。父母の理解を得ることができた点で有益であった。グループ活動当日は訪問し招待した青少年のほぼ全員の15名が集まった。	戸別訪問することにより、信頼と情報を得られる。
		赴任当初から信頼をおいていた青少年グループのメンバーを捕まえて、地区の巡回に同行してもらい、若者たちから直接話を聞いた。	一緒に足を運ぶことで信頼が得られ、自然と本当のことを言ってくれるようになった。それからは活動のアイデアがどんどん浮かんでくるようになった。	住民と一緒に巡回することにより、信頼と情報を得られる。

低体重児の家庭訪問。村では毎月1回子供の体重測定が行われる。本来はその場で栄養不良児などが発見され栄養指導などが行われなければならないが、測定することだけにとどまっていた。実際のところ女児の低体重児が多かったり、6か月後から低体重児が増加することがわかった。こうした現状を踏まえ、各体重測定所の記録を見て、低体重の状態が続いている子供の家庭訪問・調査を実施した。おしゃべりしながら家庭環境、健康状態などを聞き、原因を一緒に考えた。

カテゴリ	手段	行動	結果・効果・気づき	知見
	自己説明	多くの受益者にはボランティアという概念がないため、JOCV隊員の行動に対して「何でそこまでやるの？何か裏にあるのではないか？」と感じる人も多く、自分のビジョンや活動目的とそのためのプロセス、自分がどういう人間であるかを日常的に理解してもらった。	ボランティアをしていくうえでは、信頼関係が鍵である。信頼関係の構築によって受益者がついてくるようになった。	自分のことをきちんと説明することにより、信頼が得られる。
		ボランティア活動の中間報告を実施した。	同僚がボランティアの活動に関心を持ち始め、配属先のプログラムにもボランティアを組み込みともに活動しようとする様子が戻られた。それまでは配属先はボランティアをどう扱えばいいのか持て余していたようだ。	自分の活動を公式な場で説明すると、理解を得られやすい。
		受入側が隊員の派遣目的を十分理解していなかったため、細かい活動計画を立て、教師との協力の下に環境教育の授業を充実させるために派遣されていることを繰り返し説明した。	当初は物資援助の仲介者のように見られた。「環境教育」としては清掃と庭造りが派遣目的と言われた。説明を繰り返し結果、環境教育授業の臨時講師として扱われるようになった。	自分のことをきちんと説明したら、理解を得られる
	地元の人と一緒に行動	村の巡回で、村の人と一緒に働いた。	村の人からの日本人に対する警戒心が落けた。	地元の人と一緒に行動することで、信頼を得られる。
		前半はJOCVと診療所だけで話し合いをしていたが、後半はCPと連携を強化した。	計画と実施が充実し結果が出始めた。	地元の人と一緒に行動することで、効果がやすくなる。
		事務所内に座っていても仕方がないので、CPが経営するファームに通った。	ファームのメンバーと共に毎日畑を耕し、メイズや野菜を収穫し、ヒヨコを食べ、お茶を飲みながら、メンバーの生活の様子、家族構成、この国の文化を自然と知ることができた。	地元の人と同じ活動をすることによって、情報と信頼を得られる。
	積極的・定期的なコミュニケーション	日ごろの付き合いを面倒くさくならず、些細な世間話を通じて同僚のことを知り、心を掛けた。	配属先が行政組織の末端の群役所であり、通常予算がない活動のため、同僚に規定外の仕事に協力してもらうのは難しいが、人間関係を十分に築くことで同僚達から協力を得られた。	人間関係を築くと、協力が得られやすい。
		CPとの仕事を主にして活動した。意見交換したり、彼をサポートする姿勢を示し、休日はお宅に泊まらせてもらった。	信頼関係が築けた。	意見交換や、サポートする姿勢を示すことで、信頼を得られる。
		当初JOCVを理解してもらえなかった。半年後からJOCVとCPの話し合いの場を1週間に1度設けた。	JOCVの活動が理解され協力を受けやすくなった。イベントなどの情報も回ってくるようになった。	定期的に話し合いを持つことにより、理解を得られる。
	まず相手を理解	自分自身を理解してもらおうと考えているときは何事もうまくいかなかったが、相手の文化や価値観をまず理解しようとした。	相手と良い関係が築けた。	相手を理解しようとする姿勢を示すことにより、理解を得られる。
		肩肘を張って一方的に働きかけるだけでなく、共に過ごす人々と同じ目線に立ち、同じ方向を向いてスピードを合わせた。	地域の人々に受け入れられてもらえるようになり、JOCV隊員が今まで気づかなかった点にも気づくことができた。	相手を理解しようとする姿勢を示すことにより、理解を得られる。
	初期段階での情報収集	時間は掛かったが、いきなり自分から発信するのではなく、情報を集めた上で動いた。	ゴミに関する法律があることを掘り出し、復旧活動を軌道に乗せた。	まずは情報収集することで、のちの活動に有益な情報を得られる。

カテゴリ	手段	行動	結果・効果・気づき	知見
		活動を行う前に、自分と関わる人たちの子供たちに対する想いと、組織や職場での人間関係を把握することを心掛けた。活動を計画して実行する場合に、協会と施設長の賛同を得やすくし、協会と施設の考えを把握した上で、JOCV隊員が企画する活動内容を摺合せ易いようにした。	—	—
		そのまま前任者の仕事を始めるのではなく、自分が何ができるのか調査を行った。周辺の小学校の授業参観、校長先生との面談などを行った。	—	—
		主に技術者と一緒に現場に赴き、地権者が追っている地図と現実の境界との確認を手伝った。特に都市計画区内に置いては都市化が進んでおり、水道・電気・電話が整備されているため、「村落」としての開発を行う余地はあまりないように感じられた。	—	—
視覚化		語学能力の不足の為、専門的な内容や、詳しく伝えたい内容を伝えきれなかったり誤解を生むことがあったため、ポケットサイズのノートを持ち歩き、絵や図で説明するようにした。	生徒たちやOPが隊員の絵を理解しようと努力するようになり、わからなければ質問が出るようになった。また、現地側も絵や図をコミュニケーションツールとして使うようになった。	視覚化すると、興味を持ってもらいやすい。
周囲に相談		対象学校へのアンケート調査ができないうことを知り合いに相談した。	相談した相手は私立の学校で体育の授業を受け持っており、JOCVの活動のためにその時間を使わせてくれるようになった。	周囲に相談することによって、道が開ける。
上層部とつながる		配属先のインターネットセンターでは、JOCVはセンタースタッフのアシスタントだと考えられ、意見も聞いてもらえなかったが、直接省庁に出向き、話し合いをし、ネットワークを作った。相談があるときは配属先センターではなく省庁のスタッフにするようにした。	センターの同僚がJOCVの話を傾けるようになった。	上層部とコミュニケーションを持つと、下層部の人が話をきいてくれるようになる。
定期的・継続的な動きかけ		1年目に15校、2年目に8校を巡回訪問した。	先生たちとの協力的な関係が築けた。	巡回することで、協力的な関係が築ける。
適正な活動の規模		当初は活動範囲が定まらず、いろいろな場所に顔を出して可能性を探った。最終的に一校に絞り、その中でも特定の青少年に絞った。	活動がスムーズになり、青少年たちとの関係が深くなった。	活動の範囲と対照を絞ったら、スムーズになった。
とりあえず行動してみる		自分一人で進めないよう、常に配属先の意見を求めて今後の活動内容を決めようとしたが、いつまでも協力が得られず計画が立てられなかった。反省して、一人で活動してみても、それを配属先に紹介してみた。	配属先の協力が得られるようになった。何か動いてみたのがよかった。	自分だけで思い切って行動したら、協力が得られるようになった。
目線の高さを同じにする		対象の青少年たちに対して、どうしたらうまく指導できるか、という視点をやめて、一緒に楽しく活動できる仲間という見方を始めた。	物事がうまく回りだした。青少年活動は、青少年たちの中に入ってからがキ大将のように振る舞うのがいい、と誰かが言ったがその通りかもしれない。	目線を同じ高さにしたら、仲間として受け入れられる。
希望を伝える		前任者の反省を踏まえ、教育委員長には、日本の体育の授業に興味のある先生や、体育の先生を必要とし一緒に授業をする教員のクラスで授業を行いたい旨を伝えた。	—	—
継続的な情報収集		2つの高校でリプロダクティブ・ライツをテーマとしたワークショップを開始し、全6回開催した。毎回ワークショップの後にアンケートを実施した。	高校生のコメントや質問から、このテーマに対する関心の高さがわかった。同時に正確な情報を得る場所や機会がないこともわかった。	継続的にアンケートで情報収集することは有益である。



カテゴリ	手段	行動	結果・効果・気づき	知見
マイナスの 効果	独りよがり	当初は、活動を見いだせない焦りから、独りよがりなやり方に走ってしまった。	活動を見いだせないばかりか孤立した。文化や習慣、考え方の違う人々(環境)の中で、独りよがりな活動になると、「文化が違うからね」と一蹴されてしまう。こちらが一方的に動きかけて変化させることばかりが「活動」ではないということを学んだ。	活動書記は独りよがりな活動に陥りがちである。
	他人の批判	派遣先の同僚が忙しく、JOCVの負担が重くなったため不満を上司に直接相談していたことが、同僚を理解しようせず軽率な行動となってしまった。	同僚は密告されたかのような不信感を持ってしまい、プライドを傷つけてしまった。関係修復に長期を要した。	他人への批判を口にすると、その人から不信感が持たれる。
どちらとも言えない	活動できない状況への対処	配属先が授業の時間割などもまともにもできないという状況だったため、活動ができなかった。JOCV調整員に相談し、配属先の業務姿勢、後任要請の意思などについて、再度配属先に確認することになった。	配属先からはマネージャーとヘッドティーチャーが参加したが、この時ヘッドティーチャーとJICA側に紹介された人物は実際の人物とは異なり、場当たり的な対応を行う配属先に失望した。同時に自分の稚拙な行為を恥ずかしく思った。しかしこの時の話し合いが効果があったのか、その後時間割についての話し合いが行われ、完成までこぎつけた。この時間割が実行されるかどうかは不明。	問題に対処しようとして動いてみたら、多少風穴があく。

## VI. その他

カテゴリ	手段	行動	結果・効果・気づき	知見
プラスの 効果	現地で一般的な方法	活動資金を得るため、現地でよく行われるファンドレイジング手法である宝くじを開催した(25セントの参加料で景品が当たる)。 活動資金を得るため、ダンスショーを開催した。入場料25セントで、ダンスの得意な青少年がダンスを披露する。 活動資金を得るため、ディスコを開催した。	—  一度のダンスショーで約20ドルの収益金を得た。	現地の方法は取り入れやすい。  現地の方法は取り入れやすい。
	インセンティブ	識字教室の先生たちに、遅刻・欠席・レポート未提出、ミーティング不参加などの怠慢が見られた。そのため月1回のミーティングを開催し、遅刻欠席が多い場合、レポート未提出の場合は給料を払わないとし、怠慢な先生はやる気のある先生に交代させた。  グループメンバー20人のうち、実質活動者が5人前後であった。活動利益をそのまま女性グループ会計に入れると利益還元が不公平になる。そのため欠席者には欠席料を課すことになった。	収益金(=入場料)の大半をディスコ業者に支払う必要があるのでは、ジュースやお菓子の販売で収益金を増やした。  給与を支払わないという方法は効果的だった。	現地の方法は取り入れやすいが、効果の検証が必要である。  責任を果たしてもらうために、金銭のインセンティブは効果的である。
人に伝えやすくする		女性たちとの活動を始めるにあたり、最初の頃、独力で活動抽出や活動計画を行った。	—	平等であることがインセンティブになる。
専門家のアドバイス		キコ栽培支援。農民から問題養生の連絡を受けると、その都度JICAのシニアボランティアに支持を仰ぎ、農民に適切な解決策を伝えた。	被害の拡大を最小限に抑えることができた。	活動計画をきちんと具体的に作っておくと、人に伝える際に理解されやすい。  正しい知識を持った人からのアドバイスを活かすことで、正しい行動がとれる。

カテゴリ	手段	行動	結果・効果・気づき	知見
	時には日本人の価値観を提示する	以前は異なる考え方に対して自分の考え方を主張せずに「仕方ない」と諦めている部分があったが、自分自身がおかしいと思うことに対しては意見を言うようになった。例えば必ず出席しなければならぬミーティングに無断欠勤をしても、「お腹が痛かった」「親戚の葬式だった」と言えば「仕方ない」ですませてしまうところも、「ここではそれが通じるかもしれないが、JOCV隊員は日本人だからそんな言い加減なのは好きじゃない」と言ったこともある。異国で活動しているからと言ってすべてをその国の習慣に合わせる必要はなく、時には日本人であることを主張した。	現地の人同士では指摘しあうことのない問題を客観的に知ってもらおう機会を与えた。	相手に合わせるだけがすべてではない。
	反省点を活かす	IDを渡す際には、一人一人と顔突き合わせ、労働契約書を読んでもらい、納得した時にだけ署名してもらい、契約を交わした人だけにIDカードを渡した。これはIDカードももらった遠端にいなくなるという前回の反省点を生かすためである。	—	反省点を活かすことは有益である。
	現地語の活用	指遊びの簡単な歌を現地語に訳して教えた。	現地語だと皆の受けが良かった。	現地に即した形にすると取り入れられやすい。
	楽しくする	当初は盆踊り大会のみを開催しようとしていたが難しかったので、日本語キャンプの中に盆踊りを組み込んだ。また当初は何通りかの踊りを教えようと思ったが、現地の踊りと日本の踊りでは拍子や取り方がかなり異なるため、まず一つしかり覚えてもらおうためドラえもん着頭のみに絞った。参加者は事前に自分たちで作ったドラえもんのお面をかぶり踊った。	総勢200名が参加。学生たちの興味を引き、かなり楽しんでもらった。	楽しめることは参加者の興味をひく。
	日本文化紹介の方法	ミヤマンー移民の子供たちのサマースクールで折り紙を教えた。タイ語で折り鶴の意味、広島・長崎などの被爆地に平和を祈って捧げられている、と説明した。	自分の境遇と重ねてか、よく理解してくれたようだった。	日本文化の紹介の際には、バックグラウンドなども説明すると有益である。
	効果を出すことが信頼につながる	廃棄物処分場で、違法行為(無許可で掘削、16歳未満の少年の立ち入り、飲酒)や交通事故などが発生しないための環境づくりを目指し、まずは管理体制を整えるためにWaste PickerにIDカードを配布することにした。IDカードを欲しい人は取りに来るようにと通知しても誰も来ず、毎日待ち続けたり、ピックアップまで行って人を捕まえないながら歩き廻った。	2か月ほどかけて250名分の情報を入力し、WPのまとめ役からも信頼を得た。	効果を出すことでCPの信頼を得られる。
	その他	クリニックの巡回に付いていった。	外国人が同行していたためか、巡回の宣伝となり、受診者が多くなった。	JOCVは広告塔になりうる。
	情報発信による効果	アンケートをもとに作成した漁民リストを農牧水産局やJICAプロジェクト専門家に共有した。	JOCV離任後も、島内のプロジェクト外の漁民がチャンスをを得る機会ができた。	情報発信により持続発展性を確保できる。
マイナスの効果	その他	CBOの活動資金をJOCV隊員が管理しようとしたが、現地人同僚から「自分たちを信用できないのか」と言われ、やる気も見込んで管理を任せた。	同僚はCBO活動資金を使い込んでしまった。現地の人たちのより良い生活のために努めてきたつもりだが、かえって彼らを誘惑したり、お互いの仲をおとしめたりする原因になり、貧乏だが平凡で幸せな彼らの毎日を引っ掻き回したたけなのかもしれないと悩んだ。	お金に関しては、地元の人だからといって簡単には信用してはいけない。
どちらとも言えない	その他	薬物対策に関し、任地のみでなく州の全ての小学校・コミュニティに活動の対象が向けられ、多くの村落部の子供たちを含む人々に関わる活動ができて有意義であった。	—	—

カテゴリ	手段	行動	結果・効果・気づき	知見
	情報発信方法	レジ袋削減キャンペーンの一環としてマイバッグ・デザイン・コンテストを開催し、募集のためのリーフレットを作成した。募集するデザインのサイズや色等の規定を示した。	リーフレットの情報が明確でなかったためか、「デザイン」の募集をしたものにもかかわらず、バッグそのものを作成して送付してくる生徒、学校もいた。	説明書が十分でない、期待していた効果が得られない。
	その他	会計がうまくいかない： (原因1)製造販売する石鹸の大きさが非統一のため値段がバラバラ。 (原因2)掛売りをしたが、誰が未払いかわからなくなった。	不明になった分を女性グループ代表が個人負担した。	販売方法等は最初から検討していた方がトラブルが未然に防げる。

(注1) 世銀では「Participatory Budgeting」が地域住民を巻き込むのに有効であるとしている。  
<http://web.worldbank.org/WBSITE/EXTERNAL/TOPICS/EXTSOCIALDEVELOPMENT/EXTPCENG/0,,contentMIDK:20509380-pagePK:148956-pPK:216618-theSitePK:410306,00.html>>参照

添付資料 7 : 日本の地域活性化に役立つJOCVの  
経験・知見

## 添付資料7 日本の地域活性化に役立つJOCVの経験・知見

表題について、ここでは以下のカテゴリで分類した。

- I. 地元の人々が主体的に取り組む
- II. 地元にある物を活かす
- III. グループ間、組織間をつなぐ
- IV. 外部リソースの活用
- V. 地域を外部にアピール
- VI. 外部者として、住民との信頼構築

### I. 地元の人々が主体的に取り組む

カテゴリ	手続・過程	行動	結果・効果・気づき	知見
プラスの効果	実際に見る、体験する	ピアノでの音楽教室や、絵の具・折り紙・廃材を使った図工などを行った。授業を行う際は必ずそのクラスの担当にも付き添ってもらい、授業で何を行っているかを見てもらうようにした。 環境啓発活動を、学校、特定の海岸などにある、目に見える範囲を対象として計画的に行った。 当初はボランティアが授業を行っているも、その教室を担当する先生は授業を見ず外で休憩しているなど、学ぶ意識は低かった。それに対し、教諭に授業内容を説明し、教諭自身に授業を実施してもらい、情報教育指導書に基づき現職参加教員研修会や現地の教員養成校で授業紹介を行ったりした。	先生たちが徐々にボランティアが何をしているかに興味を持ち始め、ピアノを教えてほしい、教材の作り方を教えてほしい、などの要望がでてきた。 成果が目に見えるので、対象者の達成感につながり効果的だった。 情報教育の重要性に理解のある教諭が増えてきた。	知見 活動をj見ることjで、興味を促せる。 成果が目j見やすいjと、達成感につながる。 見るjだけでなくjやってみるjことjによって、自主性を引き出せる。
効果的な情報提供、問題、課題の具体的な理解		店舗との交渉等、村外販路開拓の実際的な仕事をJOCVが代行していたが、村でのんびりした時間j流れるjにjるメンバーは、今一つ村外販売に際しての意識が低く、期日厳守、注文厳守、梱包等、基本的なことを守れず、クレームも受けたが改善されなかった。このためメンバーの一人をつれて県庁所在地へ出かけ、商品が売られている店舗の見学や、飛び込み営業活動を行った。 廃棄物排出状況調査、生活実態調査、住民意識調査、住民意識調査を行った。調査結果はワークショップやニュースレターを通じて住民に伝えた。	コネクションのない店舗では冷たい対応で販路開拓はできず営業成績は出なかったが、同行したメンバーが、村外販売は村内販売のようにのんびり構えてはいけない、基準も高く厳しいものだとして認識をもった発言をしていてるのを見て教わられた。 システムの実現可能性と妥当性を担保し、委員会の活動に対するモチベーション向上につながった。住民が自分たちの住む地域の科学的データを知ることとなり、意識向上につながった。 住民が自分たちの抱える問題を分析し、村落開発委員会などの政府事務所に声を届けるための一歩となった	困難なことをj実体験すると、危機意識が芽生える。 自分たちの村の情報が数値化されると、住民の意識向上につながる。 問題の分析力を身に付けることjによって、住民が役所に主張できるよjうになる。
		水道プロジェクトと一緒に調査をし、何度も会議を持った。彼らは市役所に「水道プロジェクトをしてほしい」と訴えていただけで、なぜ水道が必要なのか、どういjう問題があるのか、水道があれば何j解決されるのか、といった内容を伝えていなかった。JOCV隊員が、彼らと共に基礎調査、問題分析、目的分析の方法を伝えた。プロジェクトの必要性を外部に伝える情報を収集して関係NGOと連絡を取るように取り図らった。	住民は、以前は具体的にjどんな問題があるのか、どうしたいのかjという明確な意識はなかったが、共に作業をしていく中で、自分たちが抱えている問題に気づき、外部からの助言が必要ではあるものの、少しづつそれj対処する術を身に付けていった。プロジェクト実現に向けて何をすればいいのか考えることができるよjうになった。	問題を大枠でなくj具体的にjとらえることjによって、取り組みがより明らかになりj主体的な意識も芽生える。

カテゴリ	手 段・過 程	行 動	結 果・効 果・気 づ き	知 見
		定期的に会合を持ってメンバーに情報提供を行った。収支を全体の数字で説明するのではなく、グループ単位、個人単位に割り付けて説明した。	個人々の責任意識の向上にも役立った。	収支報告を個人単位まで詳細にすること、個人の責任意識向上に役立つ。
	成功体験	受益者の多くは、ほぼ彼らのおかれている状況に慣れている状態に慣れてしまいがち、変化を求めず、受身の人が多い。その中でも積極的で向上心の強い人を支援するために、受益者が来なくても諦めることなく定期的にミーティングをしてコミュニケーションを図った。	一部の人の変化を見て、周りの人が真似をするようになり、プロジェクトが良い方向に進んだ。	成功例を見て、それまでやる気のなかった人が真似をするようになつた。
		計画していたトイレ建設や市営墓地再整備が実施不可能になり、市役所、ボランティア、CPIは不信を買った。「責められるのは自分」とCPIは意欲消沈していたが、別活動である市民一斉道路清掃奉仕活動を実施したところ、なんでも行政任せで自分の家の前の道路の掃除もせず市役所労働者に掃除させている住民が、奉仕作業に参加し、成功を収めた。	CPIは市民からの信頼を取り戻し、市長から一定の評価を得た。CPIの意識が変わった。	成功体験をすることにより、前向きになる。
		ハイオガスタデザインスターを、2年間で8件新規設置し、修理や修復を多数行った。設置経験を積んだ後半は、さらなる利便性を考えて改良型、新型を作り運用を試みた。	現在上手く利用されている。	効果があると思われる機材は、使用され改良され続ける。
	異なるグループが定期的・継続的に会合場を設ける	人々が新しく移り住んだ移転サイトで子ども会を立ち上げ、定期的に子どもたちを集めて活動を実施した。	継続することで、子供たちが率先して組織を継ぐ様子が見られるようになり、さらに保護者達が子供連の活動を通して親同士の交流が生まれ、住民間の連帯構築とコミュニティへの帰属意識形成へとつながった。	定期的・継続的な活動により子供達が組織をまとめる力が身についた。さらに親同士の交流が生まれ続けた。
	定期的・継続的な働きかけ	2年間、学校を巡回し環境教育に努めた。	3RIについて学んだことを、先生の指導の下にポスターを作ったり、リサイクルのためのペットボトル入れを配置した学校ができた。	定期的なコミュニケーションを持つことで、自主的な活動が促される。
		前任者と合わせて自分は3代目。JOCVが入るまでは町の衛生状態は非常に悪かった。成果を少しずつ積み重ねた。2年間、各家庭でのプラスチックの分別・回収作業の取り組みを続け、現在は地域で定着した。	現在では環境モデル市のようになっている。	継続することで、町が変わる。
	役割を与える	2人いた同僚の1人が辞め、相談相手が1人だけになった。JOCVは「任期があと半年しかない」と強く訴えた。	残ったCPが、相談相手が自分だけになったと自覚し始め、JOCVの任期があと半年になったこともあって、モチベーションが上がったり、積極的に質問してくるようになった。	自分以外に誰もいないという状況になると、責任感が芽生える。
		トップダウンの国柄。料金徴収のシステムは政府がある程度枠組みを決め、徴収そのものはコミュニティ自身が行った。	当初の予想を超える金額を徴収することができた。	役割を与えられると、責任を果たす。
	ステージに立つ	栄養に関する人形劇を実施した。当初は問題を投げかけたところで終わり、その後の問題分析や解決については人形劇終了後に話し合う、という設定にしていたが、Community mobilizerたちが「自分たちが話を完結させたい」と提案があり、2日かけて彼女たちが完成させた。	ストーリーを考える、録音する、役になりきるなどの過程を通じて意欲と自信が満ちてきた。	人前で発表する場を与えると、よりよいものにするために創造力を発揮し自主的に行動する。
		シニアボランティアの力添えを得て、村外の高級レストランのコーヒーや紅茶にクッキーを添えてもらうことをお願いし、試食を出すことを許可してもらった。また、レストランオーナーが経営する夏の保養所への納品も数度許可してもらった。	高級レストランに受け入れられたことが、メンバーの自信につながった。	作品がレベルの高い場所に採用されることでモチベーションが上がれる。
	キーパーソンの発掘・活用	村のグループの青年に、合唱の仕方、曲の意味、日本の挨拶の方法をまず説明し、その青年が子供たちと一緒にソマリ語、フランス語で説明する、という形をとった。	青年の存在価値が上がると、子供たちも音楽活動を十分に味わうことができた。この青年はこの地域でも一目置かれる存在なので、周囲の青少年への影響が大きい。他の青少年もコミュニケーションセンターに興味を持ち足を運ぶことが多くなった。	何かを伝えるときには、地元の人から地元の言葉を使って伝える方が効果的。
		自分の現地語能力の低さ、見識の低さを自覚し、その道に明るい現地の人に協力を仰いだ。	活動が上手くいくだけでなく、その協力者への啓発にもなり、絆も生まれた。小学校授業では、言葉足らずになったものの、担当がボランティアの言うことを汲み取り、さらに自分の考えを交えて生徒に説明してくれた。	その道の協力者を得ることで、活動がスムーズにいく。

カテゴリ	手段・過程	行動	結果・効果・気づき	知見
	定期的な振り返り	定期的に、活動の振り返りと、活動の再開のための改善事項を各グループで話し合った。 最初の頃は、CPIはトレーニングなどの数をこなすことが目的となっていた。トレーニングや会議の後、内容を中心に振り返りを重ね、トレーニングに関しても住民の役に立つものにこだわって開催するようになった。	石鹸を作る分量と完成品にばらつきがなくなり、常に同じ要領で同じ分量の完成品が生成できるようになった。 以前に比べて、CPがトレーニングの内容をより意識して計画・実行するようになった。	定期的に活動の振り返りを行うことで、質が向上する。 振り返りを重ねることで、質を意識するようになる。
	外部者黒子	JOCVの役割は今までなかったネットワークを開拓して新しいつながりをつくること、自分は裏方にまわり現地スタッフをエンパワメントすることだと認識し、活動ではサブファシリテーターとして現地スタッフのサポートに回った。	サポートした現地スタッフは初めの頃は自信なさげであったが、二度目では自信を持って生き生きと活動した。 講習会当日は、最初の挨拶と記録、途中休憩の飲料水を準備する等の裏方に徹することができた。そのため現地主導で実施できた。	JOCVが裏方に徹することで、現地の人々の主体性を促した。 外部者が黒子に徹すると、地元の人々の主体性が促される。
	活動サイクルの形成	刺繍製品の販売支援。徹底的に市場調査し、オリジナル製品を制作し、付加価値をつけ、女性たちへの支払いを着実に増やし、銀行口座を開設した。アソシエーションの運営を女性たち自身でできるようにルールを徹底し、システム化した。販路開拓も試みたが、安定したルートは確立できなかった。	アソシエーションのメンバーが10人から50人になった。	活動のサイクルが安定すると、参加者が増える。
	関連団体とつなげる	共同性や自主性、問題解決を図ろうとする意志が生まれてきてきている住民に対し、関係政府機関や関連するNGOを紹介し、協力を得られるように支援した。	住民組織が安定してきているところでは、必要な時にNGOを訪問する、警察の力を借りるなど、住民自身で支援を求めに行けるようになった。	関係団体を紹介することにより、住民が自分たちで問題解決に動くようになった。
	競争	防護柵作りをコンクールという形にして、村人に頭をひねってもらった。	賞品つきで村人の競争意識を高めることができた。各人が試行錯誤しながら柵を作り、他の出来のいい柵を見ると作り直したり、改良したりしていた。	コンクールを開くことで、競争意識が芽生え、改良に向けた動きにもつながる。
	金銭的イニシアティブ	活動を定期的に振り返り、再度目標を立て、その後の見直しを立てた。	石鹸作りで利益を増やし、その利益をもとに果樹の苗木を購入し育てる活動について女性たちのやる気が委まずに済んだ。	利益を出すことによって、やる気が継続する。
	スムーズなコミュニケーション	途中CPが替わり、新米の行政官と働くことになった。良い軋機となり、お互いの足りない部分をフォローしあいながらプロジェクトを進めて行けるようになった。毎日行動を共にし、小さなことでも常に意見交換を行った。良い部分は褒めたり、首都の会議など他の場所で彼の仕事を紹介したりした。	一人だと思いつかないようなアイデアが生まれた。CPのモチベーション維持に役立った。	何でも言い合える環境では、一人で思いつかないアイデアがでる。
	褒める	配属された地域での「称賛されるべき事例(スタッフ、会議、スキームの実施についてなど様々)」は全て、時には大げさにプロジェクト上層部へ伝えることを意識していた。	視察等のお客が増え、仕地の士気も上がる良い傾向ができた。	大げさに褒めることでやる気を促した。
	書面化	外務省草の根資金協力のプロポザルを提出したが、見送りになってしまった。	同僚が今回の反省点を活かして次回のプロポザルには改善の余地があることを認識してくれた。今回の応募に際して、コミュニティでの井戸の必要性が同僚の目に止まったことをきっかけに今後の配属先の活動において該当コミュニティが重視される可能性が高まった。	書面化することで、理解を得やすい。
	視覚化	学校での歯科医師検診に同行し、虫歯データを明確に数字で表した。	医師が学校における歯科検診に積極的に関わった。	データが明示化されると、モチベーションにつながる。
	初期段階からの巻き込み	体育授業への教員の参加が態度・行動共に少ないことの原因を、自らの授業の進め方に原因があると考えた。体育の授業内容について教員に事前説明をし、教員が自然に授業に参加する役割を設け、なおかつ教員が主となり授業を進めるような授業方法へと変革した。	教員の授業への参画度が格段に上がり、態度が生き生きとし、体操方法に対する質問が出るようになった。教員によっては準備体操と一緒にすることで学ぼうとする姿勢が生まれた。	準備段階で巻き込んでおくことで主体性がでてくる。
	お金をかけずに質の改善	展示物の企画、入れ替え、展示物の作成に携わったことがなかったこと、センター側にお金がかかったことなどから、展示物を新しくすることはできなかった。ただ展示物の説明を詳細にすること、抜けがないようにすることなどに力を入れ、こういったお金がかからない部分では貢献した。	当初に比べると説明が細かくなり、大切なポイントなども落とさなくなってきた	お金をかけなくても質を改善できる余地はあり、さらに続けられるというメリットがある。

カテゴリ	手段・過程	行動	結果・効果・気づき	知見
マイナス効果あるいは目的不達成	強い意志	養蜂組合を選定する際に重視したポイントは 1) 組織のまとまり、2) メンバーのやる気、3) 自発性と自立心。	これを体現した組合は、資金がなくて技術は高いとは言えないが、養蜂活動の成功に対する強い意志があり、メンバーから少しずつ集めた資金で、11個の養蜂箱を自分たちで制作した。伝えたいことは必ず行い、継続的な努力を払える組合である。	今は技術が低くても、強い意志があれば、持続性につながる。
	身近な物利用	紙すきワークショップ。紙がどうやうやうできるか、この国がどれほど輸入に頼っているか、など、身近にある紙について楽しみながら学べる。	学校の課外授業にも取り入れられた。このワークショップは同僚に引き継がれた。	身近なものを材料にした取り組みは継続しやすい。
	利益の発現	当初、配属先は組織として機能しておらず、商品である石鹸の質も悪く売り上げがなかった。石鹸のレシピを変更し、組織づくりを行い、販売相手をローカルマーケットから観光客に変更し、首都のお土産屋やレストランにおいても行うようにしたところ、売り上げがあった。	メンバーの意欲が出て、JOCV帰国後も自分たちだけで仕事ができるようになった。	売り上げが上がると意欲につながる。
	自主性の尊重	養蜂講習会を開催し、参加者へ蜂の巣箱を貸与した。日が落ち、蜂が巣箱に収まるのを待ち、巣箱を塞ぎ梱包して、CP自らが巣箱を手渡すようにした。	参加者が各家庭で蜂の世話を行い、CPは定期的な巡回指導を進めて行くようになった。	地元の人材を活かすと活動が継続する。
	外部者が主体的になる	隊員連絡所での販売会を2年間続けた。	自分の達成感はあるが、住民の日本人に対する依存心が高まった気がする。	外部リソースに頼りすぎると持続性が困難になる。
		女性手工芸グループへの支援は隊員3代目。意識向上のためにJOCVが去ったらどうするのかわからず日々尋ね続けた。最後に尋ねた時は「この人に連絡する」とJICA事務所のナンショナルスタッフの名刺を出してきた。	日本人への依存心を上げてしまった。	外部リソースに頼りすぎると持続性が困難になる。
		プログラムを企画したのがJOCV隊員であったため、プロジェクトスタッフが主体的に行動せず、プログラムの予算申請プロセスを現地住人と共有しなかった。	現地の人が主体性を持って取り組む機会を阻んだ。途中からJOCV隊員が調整を行わず、直接現地の者がやり取りをするようになった(注)。	外部者が主体になりすぎると、地域の人の主体性を阻害する。
		継続の商品開発や販売に関わる活動を主に行った。	ボランティアはそういうことをする人だと思われた。もっと女性の意識向上や生活改善に関われればよかった	自らが主体になると、住民の主体性が弱まる。
		JOCVが市場での販売のデモストレーションを見せるつもりが、日本人であるJOCVが売ることでも人々が珍しがって商品を買っていった。	本来販売するべき現地の人が販売に消極的になってしまった。	自らが主体になると、住民の主体性が弱まる。
		CPと十分な意思疎通をしておらず、講習会に対するCPの認識や目的への理解が不十分のまま、講習会を実施した。	配属先に「ボランティアが勝手にやっていると講習会」という印象を与えた。	外部者が主体になると、地元の人々のモチベーションが損なわれる。
	受益者である女性たちによかれと思っでミーティングやプロジェクトを提案したり、英語を教えようと考えたりした。	実際には人が集まらなかった。現地の女性たちの生活の中で何を最も求めているのかを知らないということに気付いた。そこから相手の目線に立つことが必要だと考え、ホームスティや家庭訪問を頻繁にした。	状況を理解しないと、必要のないものを提供してしまう。	
	情報収集不足	もともとCPによって子供会運営がされており、当初は子供会を通して地域の自己解決能力を解決しようと考え、いくつかイベントを実施した。	最近の子供は忙しく、塾や習い事等で子供会に割ける時間が少なく、また保護者の関心もテストで良い成績をとりたい就職先を見つけてのことなので、子供を地域活動に参加させることには関心が薄い。このため大きな成果は挙げられなかった。	参加を促すプロジェクトのほずだったが、参加の動機がほとんど薄いので、成果につながらなかった。
	地元の人との関与が不十分	ストリートチルドレン対象の運動会開催に、配属先スタッフには事前に競技内容、ルール等の説明は行っていたが、巻き込みが不十分だった。	当日、配属先スタッフは子供たちと同じ参加者となってしまった。次回につなげるためにはもっと巻き込んで主体的に参加してもらいたい。	十分に関与させないと、主体性が生まれにくい。



カテゴリ	手 段・過 程	行 動	結 果・効 果・気 づ き	知 見
	適正なグループ形成	グループや組織で活動することを前提に、その運営改善に努めた。	結果的には、個人対個人で活動を進めた方が問題解決が早く、負担も軽かった。グループに拘るよりも、意欲があった信頼できる個人を相手にまず活動を進め、その様子を他の人に見てもらい形で浸透を図っていく方が、責任意識が希薄にならず、意思の疎通も十分に行えることから、成果は上がりやすかった。ただ、個人の力には限界があり、組織化による協働の意味は大きい。	グループよりも、個人で行う活動の方が成果が上がりやすいこともある。
どちらとも言えない	楽しいことを少し先に据える	識字教室に行くことに生徒のモチベーションが低かった。そこでアンケートを行い「識字教室に参加した理由」「卒業したら何をしたいか」「読み書きでどんな知識・能力を身に付けたいか」を問うたところ、回答は、読み書き計算の上達、ビジネスを始めると、英語やビジネススキルやお金の計算などの習得、というものであった。そこで図書館を配置し、本の貸し出しを開始した。またビジネススキルや支出の計算などのプログラムを考えた。	ビジネススキルなどの新たなプログラムは時間がなく開始できず。	近い将来になりたいという自分を描いてもらったら、目の前の勉強のモチベーションが上がる。
	意識の低さ	村落開発委員会立ち上げに向けた住民集会の開催。村落開発委員会は、自ら村の問題点を定義し解決方法を考え、村人全体を巻き込んだプログラムの立案と実施をする組織形成が期待されていた。援助側が常にアクションを起こすと継続性に問題が残るので、村人自身が主体となる村落開発を行うために委員会が必要であることを各村に提案した。しかし住民集会は集まりが悪く、村長自身が村の問題を改善する意識が低く、実現不可能なアクションプランを出してくる、など、村人からの意欲が感じられないという問題が生じた。こちらが無理やり委員会設置を押ししている雰囲気があった。	村落開発委員会立ち上げは一時中断することにした。	問題改善意識が低いと、具体的に実質的な活動には結びつかない。
	適正な活動の規模	2年を通じ、4つの村でグループを組織した。途中3村へと減らした。	成果が本当に上がったのは1村。青少年グループ組織の目的が「地域の子供の参加の機会を増やす」ということであるなら、対象となる村を選ぶ際に、子供の参加の機会が十分にあるか、それを踏まえて青少年グループが上手に動く可能性がどの程度あるか、ということを考慮すべきだった。そうすれば活動地域をもう少し絞って効果的な活動ができたかも。	活動の対象を広げすぎると、深い関与ができにくくなる。
	利益発現	各期の野菜作りにおいては、予め女性たちに、販売・費用・利益の計画を説明し理解を求めてきた。	多くの女性たちは売り上げがいくら上がったかという結果のみに興味がいき、実績と計画とのかい離要因の分析や、これに基づく活動方法の修正といったことには関心が向かなかった。	販売活動では、主な関心は売り上げ額で、要因分析にまではなかなか意識がいかない。

## II. 地元にある物を活かす

カテゴリ	手 段・過 程	行 動	結 果・効 果・気 づ き	知 見
プラスの効果	身近にある物の活用	モンゴルの旧正月に欠かせない飾り菓子「イェーウェン」を、計画的に製造し、イェーウェン用の包装を準備し、1月から2月上旬にかけて集中的に販売した。	用意した40セットすべて売り切り、それ以外の問い合わせもあつた。	地元の行事に合わせると、商品が売りやすい。
		道路整備。地域で入手できる素材を用い、簡単にできる側道補修を行った。	住民が自分たちで道路を維持管理する意識が生まれ、水たまりを埋めたり周囲(街路樹等)を整備するようになった。	地域で容易に入手できる素材があれば、自主的に管理しようとする意識が生まれ実施に結びつく。
		石鹼作りを伝えた。	自宅で作れる、経済的、との理由で興味を示す人が多かった。	容易に手に入れる材料で作るものには、興味が示されやすい。
	ステージに立つ	村を歩くこと、人々と少しでも多くの時間を過ごすこと、状況を教えてもらうこと、で少しずつ活動の糸口を見つけた。具体的には、女性グループ・青年グループを組織化し、組織の機能と効率化を活かし、環境教育、ゴミ問題や民芸品開発に注力した。女性グループとは生活改善の一環として生活衛生や栄養といったテーマで研修と実践を繰り返し直接的な問題に取り組んだ。	村人たちが観光客を受け入れる際のエコツーリズムに対し意識を持ち始めた他、子供たちをはじめゴミ削減に興味を持ち始め、さらに民芸品開発が少し定着した。	観光客を受け入れようとする、環境に目覚めたり、村の特産について考えられるようになる。
		青少年の環境グループがエコガイドとして活動に参加した。	首都から訪れる観光客に対し自分たちの村の村の紹介をすることで村の自然の豊かさを見守るようになった。	観光客がくると自分たちの地域の意識するようになる。

カテゴリ	手 段・過 程	行 動	結 果・効 果・気 づ き	知 見
	適正なレベルの作業	クラフトクラスになかなか関われなかった。最終的にはクラフトインストラクターの得意分野とは違う分野(リサイクルクラフト)でアプローチしてみたら受け入れられた。	アイデアは難易度が低く、基本動作を繰り返すものが多い。繰り返すことによってクライアントの基礎技術向上にもつながったと思う。	簡単な作業はハードルが低く取り組まれやすい。
	意見を聞く	住民目線で活動を行うことを心掛け、住民に対する観光意識調査、村の伝統価値・魅力を認識するワークショップを何度が実施した。	村の住民の意識向上につながった。	住民の意識調査やワークショップは、住民の意識向上につながる。
		この国の「毎日10時にお茶を飲み、パンを食べる」という習慣に目をつけて、ジャム作りを提案した。料理本片手にマーマレードを作って見せ、お茶の時間にみんなで作って試食した。	2回目を作る時はみんな改善点を言い合い、さらに良いものが出てきた。最初ジャム作りに興味を示さなかった人も、予想以上に簡単に、しかもたくさん作れることを知って、作業過程を見にきたり手伝ってくれた。その後突然の砂糖不足になりジャム作りは断念。	地元の習慣に沿った提案は関心をひきやすい。

### III. グループ間、組織間をつなぐ

カテゴリ	手 段・過 程	行 動	結 果・効 果・気 づ き	知 見
プラスの効果	グループ間が定期的・継続的に会う場を設ける	エコツーリズム立上げのため、配属先と農家、市役所の三者でツーリズムに関する会議を重ねた。  青少年グループと、同僚の母親らの間で対立が生じた時、JOCVが仲介役になり、グループに配属先の教育局まで出向いてもらったりした。  野菜生活協同組合で毎週のミーティングを習慣化した。組合員は45名が登録していたが、実際に活動するのは20名前後であった。5-6名は最もアクティブであった。	農家と市役所の観光課につながりができた。また、会議で活発な意見交換が得られ、ツーリズムに興味のある農家各自工夫を凝らすようになった。  教育局に一般の若者がよく出入りするようになった。  皆が少しずつ農場に来る機会が増え、組合員同士のコミュニケーションも増えた。	目的のために民間と役所が会う場を設けることにより、活発な意見交換に発展し、民間の自助努力がさらに促進された。  2つの対立するグループに、頻繁に会うように働きかけたところ、自主的な行き来につながった。  会合を習慣化することで、メンバーのコミュニケーションが増える。
		(プロジェクト)対象サイト(移転先)の住民と、その地に元から住む地元住民との仲が悪かった。仲良く করতে、毎日一緒にカードゲームに興じたり、薬物の売買をしたりするようになった。これには、移転先地区がそもそも評判の悪い地区であったことにも起因している。状況の改善のため、警察、役所など多くの関係者に一同に会してもらい、住民に対し、宗教の大切さや子供たちの将来について、対象サイトの住民に伝えてもらった。	新年会を行ったら、お互いの交流が出てきた。ただ仲良くなりすぎて、毎日一緒にカードゲームに興じたり、薬物の売買をしたりするようになった。これには、移転先地区がそもそも評判の悪い地区であったことにも起因している。状況の改善のため、警察、役所など多くの関係者に一同に会してもらい、住民に対し、宗教の大切さや子供たちの将来について、対象サイトの住民に伝えてもらった。	対立するグループ間を話し食事を開いたら、仲良くなった。
	関係団体に働き掛ける	レジ袋削減キャンペーンへの参加を、大手スーパーマーケット、教育省、自治体、企業、関係NGOといった関係主体にプロポーザルを送付して呼び掛けた。  JOCVの活動がきっかけで他団体と関係が築かれた。	約10団体がキャンペーンに賛同した。交渉は難航したが最終的にフィンジー最大手のスーパーマーケットの賛同を得た。	関係団体に協力を呼び掛けて、賛同を得た。
		主催者との交渉の際は、人脈のある友人に常に入ってもらった。	配属先の活動の幅が広がった。一度研修で呼んだ講師が、任地の青少年を研修生として招いてくれるようになった。	他団体に講師を頼んだら、以降も交流が続いた。
		EM技術により養豚の質が高まる。日本では高品質の豚とされ、他の豚肉よりも高値で取引されていると伝え続けた。	その友人の子供団体と共に参加することができ、終了後も友人が活動を提案するようになり、協力して啓発活動を行えた。	キーパーソンを仲介したら、その人が持っているネットワークともつながり、活動が広がった。
同じ状況の共有			村人の間では、「高値を維持するためにキロ当たり単価の最低額を設定し、それ以下では販売しないようにしよう」という会話がなされた。	同じ技術を使う村人の中で交流が生まれ、商品価値の維持に発展する可能性が生まれた。

カテゴリ	手段・過程	行動	結果・効果・気づき	知見
		EM技術を伝えた。	養鶏や養豚の悪臭が軽減されるなどの効果があった。またEM技術の情報が村人の間で行われるようになり、そのついでに市場での販売価格などについても会話をし、というように、村の人たちの情報交換が促進された。	1つの農業技術を習得した村で、村民の間で商品情報についての情報交換が盛んになった。
	成功体験	成功しているグループの経営方法などをマニュアル化して配布し、実際にグループの代表の人にほかのグループを訪問してもらい、経営に関して良い例や悪い例などを具体的に話してもらった。	徐々に経営状態が改善されているグループも見られた。	成功例を知ること、自分たちのグループの改善につながった。
		トモモロコシ栽培育成トレーニングプログラムで、前々回の参加者に、指導者のサポートしてもらった。	人に教えることで知識が深まり、参加者側も身近な農民が指導者側について、成果を体現しているのを見て、モチベーションが上がった。	成功例を見るとモチベーションが上がる。
	リーダーシップ	環境活動の一環で、ゴミ拾いを行った。校長は計画・準備の段階から熱心に参加してくれた。	行進は予想以上に盛り上がり、子供たちが多く参加し、スローガンを自ら歌いだした。ゴミ拾いをしながら前に進み、その姿を見た住民に、ゴミをどこにでも捨てないこと、通りをきれいにすることをアピールできた。残念なのは教師の参加が少なかったことであつた。	トップがリーダーシップを発揮し学習を与える規模の活動ができる。
		子供たちによる、村内一斉清掃を実施。子供から大人に呼びかけるもので、家の周りのごみを片づけることを拡声器を使って休日に回った。	多くの人が家から出てきて近所の清掃を行った。一斉清掃の日には、役場からもごみ収集車のガリソン代が支援され、町の長からも役場や銀行などに清掃活動に協力するように文書を発行してもらった。収集車も活躍し、終了後に村には見違えるほどきれいになった。	トップがリーダーシップを発揮し学校全体行事になると、町全体に影響を与えられる規模の活動ができる。
	具体的な説明・報告	配属先に活動報告をする際に、実際に学校名を上げて活動内容や教員の反応などを伝えた。	(JOCV)が目が行き届かない村と(行政と)のハンコ役)になったと思ふ。	報告する際は、なるべく具体的に説明することによって、両者間を取り持てる。
	主体性のあるグループを見つめる	女性グループへの巡回活動を通じて、意欲はあるが問題に遭遇した際に解決するための情報が少ないと感じた。そこで複数の女性グループを紹介しあって情報交換をできるようにした。その結果、町で石鹸作りを通して女性グループの支援をしているNGOのスタッフとつながった。	地域で毎月1回開かれる市に、女性グループが共同で出店するようになった。また他のグループの真似をして広告を取り入れた。	意欲のあるグループの交流を促進することにより、主体的に学ぶ姿勢が引き出された。
	関係団体に働き掛ける	住民の厚識のなさという背景に加え、行政サービスが移転先の新サイト(地域)を認識していなかった。住民が市役所での手続き方法が分からない、その結果郵便が届かない、等の問題があった。住民の生活に関わる各機関の代表に、現地(移転先)に来てもらって住民とのミーティングを実施した。	子どもを登録できるようにしたこと、定期的巡回員が住民の様子を伺いに来るなど、住民へ行政サービスが行き渡るようになった。	行政サービスが届いていない地域について、行政に働きかけ、その後行き届くようになった。
	実際に見る、体験する	3つの地区でCAP(Community Action Planning)ワークショップを実施した。うち1地区では排水溝の設置が最重要課題として上がり、住宅省の予算を使い約80mの排水溝を設置した。別地区では家庭から排出されるごみ量を軽減すべし、という課題が出て、すでに進んでいたコンポスト・ハレル配布事業と合わせ、コンポスト作りの説明会を実施し、50戸にハレルを配布した。	提起された課題に対して、住民の目に見える形でアクションがとられたので、「地域社会が抱えている共通問題」に対して取り組む住民の参加意識が高まった。現在この2地区では定期的に住民集金が開催され、市役所との活発な協議が展開されている。	要望が目に見える形で実現されると、参加意識が高まる。
	商品の差別化、営業活動	メンバーとボランティアが、少しずつだが友人知人に美味しいお菓子の味見をさせた。またメンバーの食室にお菓子の陳列棚を設置した。	村で一般によく売っていたのは、味は悪いが安いお菓子。グループの作るお菓子は卵やバターを使うため、味は良いが高額であるという理由で売れ行きが悪かった。しかし、口コミのお陰でグループのお菓子が任期終盤に急に売れるようになった。	他よりも良い質の物を作って、口コミが機能すれば、商品は売れる。
	組織内部規律	裁縫教室グループを結成。地域のリソースを活用しようと、地域から先生を選出したが、責任感が無いボランティア講師では運営が継続できなかった。そのため、次は外部から指導者を探し、またコミュニケーションの調和を図るため、生徒は1つのコミュニケーションを求めた。	裁縫教室は順調に運営されている。	やる気のない人には去ってもらう、またグループを平等に扱うことで、運営が順調になる。
	戸別訪問	プロジェクトの活動内容や配属先との連携を知るために巡回をおこなった。郡病院やユニオン評議会メンバーとのつながりも母性保護啓発のために重要であることを認識し、他の関係各所へもできるだけ多く足を運ぶようになった。	サービス提供者と享受者双方から問題を聞きやすくなり、地域全体が母子保健へ関心を持つようになった。	戸別訪問することにより信頼と情報を得られる。

カテゴリ	手 段・過 程	行 動	結 果・効 果・気 づ き	知 見
どちらとも 言えない	その他	総合地域開発を担っている配属先は、直接的に村や村人たちにアプローチする機会があまりない組織であったが、JOCVI隊員は直接に学校、村のリーダー、市役所関係者と連絡をとった。	配属先と村の関係近づけた。JOCVI隊員が行った具体的な研修内容やアプローチ方法が地域開発には不可欠であるとの認識を配属先から得た。各村や学校では新しい影響や刺激を残せた。	配属先と関係者との関係を近づけることにより、相互に活動が活性化する。
	その他	コミュニティとの信頼関係構築や、プロジェクトと市役所の橋渡しをした。	CPIに評価された。後任の要請につながった	信頼と評価はJOCVIにとって重要な指標である。
	コネクションの活用	お菓子の販路を県庁所在地にもとめ、あらゆるコネクションを使って数件の店舗に交渉、販売許可証を取得した。	10日間の試験販売期間を経て、3店舗中2店舗で販売がなされることになった。	コネクションはマーケティングに有用であり、販路拡大につながる。
	自主性の尊重	村落部での啓発活動に関しては、自分一人が村に出向き啓発活動を行うことには限界があり持続性を買いたせなかったために、すでに啓発を受けている保健委員や村のリーダーを再度啓発し、彼らから住民に啓発を行える場所づくりや彼らのモチベーション向上に活動の重点を置いた。日本人ボランティアやプロジェクトが入っていた村の住民は理解力が高く、行動変容が顕著に見られることもあったため、このような村の住民を他の村に同行し、住民同士での話し合いの場を設け、自分は調整役に徹した。	-	地元の人材を活かすと、活動が継続する。
	対立するグループの 仲介	過去にJICAが介入し、コーヒー事業を営むグループ間に対立が生まれた。その回復のために幹部に同じテーブルについてもらおうと努力した	結局、同じテーブルに着くことはなかった。	対立するグループに同じテーブルについてもらおうと思ったが実現しなかった。

#### IV. 外部リソースの活用

カテゴリ	手 段・過 程	行 動	結 果・効 果・気 づ き	知 見
プラスの効果 ある	関係団体に働き掛け る	各家庭を巡回し、妊婦とその家族に対して妊娠中の注意事項、妊娠中毒症などの意識向上の啓発活動を行った。他団体であるCARE等のNGOと、政府職員の活動と連携した。	政府職員の活動と連携した効果などうかかわからなかったが、少しずつ意識向上が進んだ。当初は妊婦健診の必要性を知らないため、ほとんどの妊婦が検診を受けなかったが、（啓発活動の結果）自分の体を意識する妊婦が増えた。裕福でない人もCommunity support systemを活用しての搬送が可能になり、住民と医療施設のリンクができた。	他団体と連携し啓発活動をしたら、より効果が生まれる。
		子ども会の立上りや活動など、現地の人々だけでは思い浮かばないアイデアを外国人であるJOCVIが提供したり、ドナーとの連携をうながした。	より大きな規模でのプログラムを実施することができた。	外部リソースを活用することにより、大きな規模の活動になった。
		赤十字と協働した。	縦割り強いこの国で、横のつながりができた	外部団体との横の関係を作った。
		津波被害者のコミュニケーション調和を保つためスポーツクラブを結成した。	大使館婦人部の支援を得てスポーツ用品が贈呈された。	外部リソースを呼び込んだ。
	役割を与える	水ラインを供給するプロジェクトで7つの機関が関わった。資金集めの過程において自治会にいくつもの問題が降りかかってきたが、JOCVIはあえて手を出さず見守った（カウンタートパーには随時状況を報告した）。	事業終了後、自治会は村の信頼を得ると共に、自治会のメンバーも自信をつけた。	問題が降りかかっても、自力で解決する環境に置かれれば、自助努力をする。周囲はそれを見て信頼するようになる。
	自ら見る、体験する	最初はボランティアに対する関心は低かった。他のNGOと活動し始め協力者を得て範囲を広げていくと、任地でのJOCVIに対する認知度が高まった。	配属先のJOCVIに対する関心が高まり、活動1年後には活動のための交通費や講義の材料費を配属先が全面的に負担してくれるようになった。	活動を見せることによって、理解につながる。

カテゴリ	手段・過程	行動	結果・効果・気づき	知見
	モチベーション向上	JICA専門家を任地に招いて、組織化やモチベーションアップの研修会を実施した。	村の課題を解決するための話し合いの場を持ち、市長と話す機会も得て、次年度、住民から要望のあったプロジェクトを市役所が実施することになった(具体的に何かは不明)。	問題解決のモチベーションが上がると、住民が自主的に政府に働きかけることにつながる。
	ロゴの活用	同期の隊員に、グループのためにロゴを作りをお願いし、おばあちゃんが飛び出す可愛いロゴが出来上がった。	メンバーは大喜びで、自分がモデルに選ばないと盛り上がった。	自分たちの気持ちが明るくなるロゴが使われるとモチベーションが上がる。
	当たり前のことを見直す、価値の再発見	活動終了時に配属先でバワボを使った活動報告を行った。終了後、「わかりやすかった」「これを毎月やってくれたら、もっと君の情報をみんなに共有できたのに」「要点だけなのにわかりやすかった」と言われた。	他の人のバワボは何の工夫もなく、文章を書き運らねているだけでわかりにくい。もっと早くに自分がプレゼンをしていたら、字を連ねるだけがプレゼンではないと気づいたかもしれない。	自分が当たり前持っている技術が、住民には魅力的な技術かも知れない。
	販売促進	展示即売会に、試験的に1グループからのみではあるが、ベナン人の生産者に来てもらい、JOCV隊員に対する直接販売に関わってもらった。	一村一品運動は、商品のマーケティングもかなり意識した運動なので、隊員という「外国人」の反応を直接感じてもらうのには意義があった。	特産品づくりに、現地の生産者の参加が効果的である。
	その他	キノコ栽培支援。農民から問題発生との連絡を受けると、その都度JICAのシニアボランティアにサポート仰ぎ、農民に適切な解決策を伝えた。	被害の拡大を最小限に抑えることができた。	正しい知識を持った人からのアドバイスを活かすことで、正しい行動がとれる。

## V. 地域を外部にアピール

カテゴリ	手段・過程	行動	結果・効果・気づき	知見
	プラスの効果 外部リソースの活用	関係のありそうな事務所、個人を訪ねたり、配属先の受け持つラジオ番組に出演してもらった。	今までに関係のなかった方面の人々と配属先をつなぐことができた。	外部組織とのつながりを作った。
	外部へ発信	ラジオに3回出演、写真付きで新聞に1度掲載された。	ラジオを聞いて別団体が訪ねてきた。	外部に活動を発信することにより、別団体とのつながりができた。

## VI. 外部者として、住民との信頼構築

カテゴリ	手段・過程	行動	結果・効果・気づき	知見
	プラスの効果 戸別訪問	共同出荷ができるようになるために協同組合の設置を目指した。農家を1軒1軒バイクで回り、必要性を説いた。	初めのうちは「なんだこの外国人」と言う目で見られたが、何度も顔を合わせ話し合うことで少しずつ関係ができていった。組合設立への理解も深まり、人民委員会の許可がおりた。	戸別訪問することにより、信頼と情報を得られる。
		グループ立上げの日の1週間ほど前に村を訪れ、近所の家を1軒ずつ訪れて思春期層の青年とその父母に青少年グループの意図を説明して回った。	一軒一軒訪れることで、父母にも意図を説明でき、こちら側の人間性も知ってもらえた。父母の理解を得るということができた点で有益であった。グループ活動当日は訪問し招待した青少年のほぼ全員の15名が集まった。	戸別訪問することにより、信頼と情報を得られる。
		赴任当初から信頼をおいていた青少年グループのメンバーを捕まえて、地区の巡回に同行してもらい、若者たちから直接話を聞いた。	一緒に足を運ぶことで信頼が得られ、自然と本当のことを言ってくれるようになった。それからは活動のアイデアがどんどん浮かんでくるようになった。	戸別訪問することにより、信頼と情報を得られる。

カテゴリ	手 段・過 程	行 動	結 果・効 果・気 づ き	知 見
		<p>低体重児の家庭訪問。村では毎月1回子供低体重測定が行われる。本来はその場で栄養不良児などが発見され栄養指導などが行われなければならないが、測定することだけにとどまっていた。実際のところ女児の低体重児が多かったり、6か月後から低体重児が増加することがわかった。こうした現状を踏まえ、各体重測定所の記録を見て、低体重の状態が続いている子供の家庭訪問・調査を実施した。おしゃべりしながら家庭環境、健康状態などを聞き、原因を一緒に考えた。</p>	<p>測定所よりも、家庭を訪問した方が、お母さんともよく話ができ、家族とも会えて家庭環境・住環境などが知ることができ、兄弟姉妹の発育状態も知ることができた。</p>	<p>戸別訪問することにより、信頼と情報を得られる。</p>
自己説明		<p>多くの受益者にはボランティアという概念がないため、JOCV隊員の行動に対して「何でそこまでするの？何か裏にあるのではないか？」と感じる人も多く、自分のビジョンや活動目的とそのためプロセス、自分がどういう人間であるかを日常的に理解してもらった。</p>	<p>ボランティアをしていくうえで、信頼関係が鍵である。信頼関係の構築によって受益者がついてくるようになった。</p>	<p>自分のことをきちんと説明することにより、信頼が得られる。</p>
		<p>ボランティア活動の中間報告会を実施した。</p>	<p>同僚がボランティアの活動に関心を持ち始め、配属先のプログラムにもボランティアを組み込みともに活動しようとする様子が見られた。それまでは配属先はボランティアをどう扱えばいいのか持たずにいたようだ。</p>	<p>自分の活動を公式な場で説明すると、理解を得られやすい。</p>
		<p>受入側が隊員の派遣目的を十分理解していなかったため、細かい活動計画を立て、教師との協力の下に環境教育の授業を充実させるために派遣されていることを繰り返し説明した。</p>	<p>当初は物資援助の仲介者のように見られた。「環境教育」としては清掃と庭造りが派遣目的と言われた。説明を繰り返した結果、環境教育授業の臨時講師として扱われるようになった。</p>	<p>自分のことをきちんと説明したら、理解を得られる</p>
キーパーソン	キーパーソン	<p>EM技術を村に紹介した。南部では稲作、野菜、ライチ、家畜飼育という農業が大半であり、各集落の中心人物がよき理解者となった。赴任前の技術補完研修のとき「キーパーソンを見つけておくことが重要」と言われた。リーダーやキーパーソンは何らかの役職になっていることが多く、見つけるのは難しくない。</p>	<p>村の他地域よりも、ボランティアが入った南部が一番盛り上がった。</p>	<p>キーパーソンを仲介者にしたから、活動がスムーズにいく。</p>
		<p>理解者・協力者との良好な関係を築くことを一番大切に考えた。自分の言いたいことを最大限に理解してくれるCPを各活動場所に作り、彼らが中心となって発言しリーダーシップを発揮できるようにサポート役に徹した。彼らの発言は住民への影響力が高く、例えば住民にとって新しく受け入れがたい空芯菜の普及に関しても「美味しい」という住民を見つけ、彼らを中心に料理、試食会をおこなった。</p>	<p>試食会は好評を得て持続性を見いだせた。</p>	<p>キーパーソンに味方になってもらうと、効果がやすい。</p>
		<p>村の巡回で、村の人と一緒に働いた。</p>	<p>村の人からの日本人に対する警戒心が解けた。</p>	<p>地元の人と一緒に行動することで、信頼を得られる。</p>
		<p>前半はJOCVと診療所だけで話し合いをしていたが、後半はCPと連携を強化した。</p>	<p>計画と実施が充実し結果が出始めた。</p>	<p>地元の人と一緒に行動することで、効果がやすい。</p>
積極的・定期的なコミュニケーション		<p>日ごろの付き合いを面倒くさがらず、些細な世間話を通じて同僚のことを知ることを心掛けた。</p>	<p>配属先が行政組織の末端の群役所であり、通常予算がない活動に規定外の仕事に協力してくれるのは難しいが、人間関係を十分に築くことで同僚たちから協力を得られた。</p>	<p>人間関係を築くと、協力が得られやすい。</p>
		<p>CPとの仕事を主において活動した。意見交換したり、彼をサポートする姿勢を示し、休日はお宅に泊まらせてもらった。</p>	<p>信頼関係が築けた。</p>	<p>意見交換や、サポートする姿勢を示すことで、信頼を得る。</p>
		<p>当初JOCVを理解してもらえなかった。半年後からJOCVとCPの話し合いの場を1週間に1度設けた。</p>	<p>JOCVの活動が理解され協力を受けやすくなった。イベントなどの情報も回ってくるようになった。</p>	<p>定期的に話し合いを持つことにより、理解を得られる。</p>
まず相手を理解		<p>自分自身を理解してもらおうと考えているときは何事もうまくいかなかったが、相手の文化や価値観をまず理解しようと努めた。</p>	<p>相手と良い関係が築けた。</p>	<p>相手を理解しようと努めると、よい関係が築ける。</p>

カテゴリ	手段・過程	行動	結果・効果・気づき	知見
	初期段階での情報収集	肩肘を張って一方的に働きかけるのではなく、共に過ごす人々と同じ目線に立ち、同じ方向を向いてスピードを合わせた。	地域の人々に受け入れられてもらえるようになり、JOCV隊員が今まで気づけなかった点にも気づくことができた。	相手を理解しようとする努力と、よい関係が築ける。
	定期的・継続的な働きかけ	時間を掛かったが、いきなり自分から発信するのではなく、情報を集めた上で動いた。	ゴミに関する法律があることを掘り出し、復旧活動を軌道に乗せた。	まずは情報収集することで、のちの活動に有益な情報を得られる。
	定期的・継続的な働きかけ	活動を行う前に、自分と関わる人たちの子供たちに対する想いと、組織や職場での人間関係を把握することを心掛けた。活動を計画して実行する場面に、協会と施設長の賛同を得やすくし、協会と施設の考えを把握した上で、JOCV隊員が企画する活動内容を稽合せ易いようにした。	—	—
	定期的・継続的な働きかけ	そのまま前任者の仕事を始めるのではなく、自分が何ができるのか調査を行った。周辺の小学校の授業参観、校長先生との面談などを行った。	—	—
	定期的・継続的な働きかけ	青少年がたむろしている商店があり、そこからは我々の行動が良く見えるため、私たちが頻りにからかっていた。そこでその青少年たちのところに行き、毎朝・毎昼、コーンを飲みながら仕事や日本の話をした。	日本語の挨拶を教えてほしい、という態度に変わり、コミュニケーションセンターに日本語を学びに来る青年も出てきた。	交流が生まれると、興味をもってもらえる。
	定期的・継続的な働きかけ	地域の女性たちのする従来方法と自分が推奨する方法を同時並行で進めた(例えば、有機肥料を用いた玉ねぎの苗床作りや稲の植え替え方法など)。	実際に目で見てどういう改善が必要かを理解してもらった。実際にCPからある日「自分の授業が良くなった、あなたの協力のおかげ」と言われた。振り返りは講座直後にこだわらなくてもいい。	2つのやり方を目に見えて比較できるようにすると、理解してもらいやすい。
	定期的・継続的な働きかけ	学校の講座後、業務が終わるとCPは「振り返りをせずに終わっていた。講座直後に振り返りを持ちかけると「疲れているからまた今度」と言われケンカになった。翌日CPが暇そうな時をねらってもう一度話をもち掛けたところ、議論ができた。	活動に必要な物品については予算上保留になったが、活動については理解を示してもらえた。	振り返りをする事によって、質が向上する。
	適正な活動の規模	1年目に15校、2年目に8校を巡回訪問した。	先生たちとの協力的な関係が築けた。	巡回することで、協力的な関係が築ける。
	適正な活動の規模	当初は活動範囲が定まらず、いろいろな場所に顔を出して可能性を探った。最終的に一校に絞り、その中でも特定の青少年に絞った。	活動がスムーズになり、青少年たちとの関係が深くなった。	活動の範囲と対照を絞ったら、スムーズになった。
	地元の人と一緒に活動	対象の青少年たちに対して、どうしたらうまく指導できるか、という視点をやめて、一緒に楽しく活動できる仲間という見方を始めた。	物事がうまく回り出した。青少年活動は、青少年たちの中に入り込んでガキ大将のように振る舞うのがいい、と誰かが言ってたがその通りかもしれない。	目線を同じ高さにしたら、仲間として受け入れられる。
	周囲に相談	事務所内に座っていても仕方がないので、CPが経営するファームに通った。	ファームのメンバーと共に毎日畑を耕し、メイズや野菜を収穫し、ヒヨコを食べ、お茶を飲みしているうちに、メンバーの生活の様子、家族構成、この国の文化を自然と知ることができた。	地元の人と同じ活動をすることによって、情報と信頼を得られる。
	上層部とつながる	対象学校へのアンケート調査ができなかったことを知り合いに相談した。	相談した相手は私立の学校で体育の授業を受け持っており、JOCVの活動のためにその時間を借らせてくれたことになった。	周囲に相談することによって、道が開ける。
	上層部とつながる	配属先のインターネットセンターでは、JOCVはセンタースタッフのアシスタントだと考えられ、意見も聞かなくてもいいが、直接省庁に出向き、話し合いをし、ネットワークを作った。相談があるときは配属先センターではなく省庁のスタッフにするようにした。	センターの同僚がJOCVの話に耳を傾けるようになった。	上層部とコミュニケーションを持つと、下層部の人が話を聞いてくれるようになる。

カテゴリ	手段・過程	行動	結果・効果・気づき	知見
マイナス効果あるいは目的不達成	キーパーソンへの発掘・活用	調理講習をCPに引き継ぐため調理を教えた。行政官以外の人間に技術移転することも考えたが、「現地の人は手当てが出ない限り誰も何もやらない」という上司のアドバイスの前にたじろいでしまった。	スキルトレーニングの場が単なる会食の場となってしまう失敗に終わった。	実力者がネガティブな発言をする と、他の人もひっぱられてしまう。
	上から物を言う、信頼低下	地元職人に対して出荷に間に合うように急かしたり、商品が規格に合うように頭ごなしに言っていた。	関係がざくざくしてしまった。怒るのではなく彼らの立場を理解して感謝し褒めて伸ばすことが大事だと理解した。	時間や商品の質について頭ごなしに言う と、関係が損なわれる。
どちらとも言えない	他人の批判	派遣先の同僚が忙しく、JOCVの負担が重くなったため不満を上司に直接相談していたことが、同僚を理解しようとせず軽率な行動となってしまった。	同僚は密告されたかのような不信感を持ってしまい、プライドを傷つけてしまった。関係修復に長期を要した。	他人への批判を口にすると、その人から不信感が持たれる。
	地域理解不十分	野菜栽培に関しては、スケジュールの遅れが、収穫量や販売価格に直接影響するため、週間・月間の予定を話し合い、女性たちに理解を求めめる努力を行った。	女性メンバーたちはそれぞれ家事や育児等を抱えていることもあり、なかなか思うようには改善されなかつた。	多忙な状況を理解しないまま、新たな活動を促すのは難しい。
情報収集不足	地元のパワーバランスの尊重	IGA活動の準備をした。	実現しなかつた。IGA活動の開始時期が畑の収穫時期と重なり女性が集まらなかつた。	多忙な状況を理解しないまま、新たな活動を促すのは難しい。
	情報収集不足	学校と契約し、軽食と飲み物を販売した。同時期にA型肝炎が流行り、学校はこのお菓子グループを糾弾した。お菓子が肝炎の原因になっている可能性は限りなく低く、学校側と噂した。ただ学校に通う子供たちからは、「これ以上もめないでほしい」と言われ、洪々学校の主張に折れることになった	外国人ボランティアが声高に不正を訴えると、長く村で暮らしていくグループメンバーの首を絞めることもある。	地元のグループ間には強弱があり、たとえ弱いグループが正論を持ってても、通用しないこともある。正論を押しすぎると関係が壊れる。
	情報収集不足	村の成り立ちや置かれた環境により、グループ（村）によって活動に参加している人々の動機（他の村のへの対抗意識であったり、グループ責任者への義理であったり、現金収入の向上そのものであったり）が様々に異なっていることを任期後半に理解した。	この点を踏まえて会議の開催方法、参加者へのインセンティブの示し方、活動目標の設定等で、もつと住民と突っ込んだ話し合いを行い、工夫することができていれば、参加者の熱意と成果をより高められたと感じる。	活動の初期に、住民を取り巻く環境を十分に理解しておくことが重要。
	時には日本人の価値観を提示する	以前は異なる考え方に対して自分の考え方を主張せずに「仕方ない」と諦めている部分があったが、自分自身がおかしいと思うことに対しては意見を言うようにした。例えば必ず出席しなければならぬミーティングに無断欠席をしても、「お腹が痛かった」「親戚の葬式だった」と言えば「仕方ない」ですませてしまうところも、「ここではそれが通じるかもしれない」、JOCV隊員は日本人だからそんないい加減なのは好きじゃない」と言ったこともある。異国で活動しているからと言ってすべてをその国の習慣に合わせる必要はなく、時には日本人であることを主張した。	現地の人同士では指摘しあうことのない問題を客観的に知ってもらう機会を与えた。	相手に合わせるだけではない。

(注1) 世報では「Participatory Budgeting」が地域住民を巻き込むのに有効であるとされている。  
 <<http://web.worldbank.org/WBSITE/EXTERNAL/TOPICS/EXTSOCIALDEVELOPMENT/EXTPOENG/0,contntMDK:20509380~pagePK:148956~piPK:216618~theSitePK:410306,00.html>>参照



添付資料 8 : JICA ボランティア経験者への  
アンケート

## アンケートについて

2003年以降に派遣され帰国した中国地方、四国地方、九州地方出身者の JOCV 経験者のうち「コミュニティ開発」と「青少年活動」、「環境教育」の3職種であった者を対象にアンケート調査を実施した。調査対象者については、報告書本文のアンケート調査概要に詳細を記している。アンケートでは、JOCV として途上国で活動したことによって身につけた技量・力、自分自身の変化について、帰国後の日本の地域活動について、発展途上国での活動等について調査した。合計回答数は42であった。

\*\*\*\*\*

### アンケート（結果）

1. JOCV での職種は何ですか

<input type="checkbox"/> 村落開発普及員	26	<input type="checkbox"/> 青少年活動	7	<input type="checkbox"/> 環境教育	9	<input type="checkbox"/> その他	0
----------------------------------	----	--------------------------------	---	-------------------------------	---	------------------------------	---

2. JOCV 派遣前の就業状況について教えてください。

<input type="checkbox"/> 会社員	22	<input type="checkbox"/> 団体職員	2	<input type="checkbox"/> 公務員	1
<input type="checkbox"/> 自営業	0	<input type="checkbox"/> 教職員	2	<input type="checkbox"/> パート・アルバイト	1
<input type="checkbox"/> 学生・新卒	9	<input type="checkbox"/> 無職・休職中	2	<input type="checkbox"/> 就職活動中	0
<input type="checkbox"/> 専業主婦・主夫	0	<input type="checkbox"/> その他) 中学校常勤講師、嘱託職員			1

3. 帰国後（現在）の就業・活動状況について教えてください。

<input type="checkbox"/> 会社員	11	<input type="checkbox"/> 団体職員	4	<input type="checkbox"/> 公務員	6
<input type="checkbox"/> 自営業	3	<input type="checkbox"/> 教職員	2	<input type="checkbox"/> パート・アルバイト	4
<input type="checkbox"/> 学生	5	<input type="checkbox"/> 無職・休職中	0	<input type="checkbox"/> 就職活動中	2
<input type="checkbox"/> 専業主婦・主夫	1	<input type="checkbox"/> その他) 地域おこし協力隊、JOCA 等の事務所で地域活動専門員、JICA 国際協力推進員 北九州			4

4. JOCV として途上国で活動したことによって、身につけた技量・力、自分自身の変化などについて教えてください。主観で結構です。

1) 現地語についてお伺いします。(現地語とは、活動に必須だった言語です)

① 最も習得された言語は何ですか？

アムハラ語、アラビア語、インドネシア語、ウオロフ語、英語、ザルマ語、シンハラ語、スペイン語、スワヒリ語、チェワ語、ダバニ語、ニャンジャ語、ネパール語、ピジン語、フォン語、フラフラ語、フランス語、ベトナム語、ベンガル語、ポルトガル語、マダガスカル語、マレー語（五十音順）
----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

② どの程度習得されましたか。自己評価で結構です。

<input type="checkbox"/> 5. 先方政府との協議・議論も可能	6	<input type="checkbox"/> 4. 住民との協議・議論が可能	23
<input type="checkbox"/> 3. 日常生活に支障がない程度	11	<input type="checkbox"/> 2. 簡単な会話程度	1
<input type="checkbox"/> 1. 挨拶程度	1	<input type="checkbox"/> 0. その他	0

2) 以下について、5段階で回答ください。

	5.かなり そう 思う	4.ある 程度そ う思う	3.どち らでも ない	2.あま り思わ ない	1.思わ ない
1) 指導的立場に立ち、他人に知識を伝えることについて得意になった	2	18	15	6	1
2) 地域を理解できるようになった	12	25	4	0	1
3) 地域の課題を発見できるようになった	9	24	8	1	0
4) 発見した課題を解決するための計画を作れるようになった	7	21	11	2	1
5) キーパーソンを見つけることができるようになった	16	19	5	1	1
6) キーパーソンと上手につきあえるようになった	13	22	5	2	0
7) 村や周囲の人たちと対話できるようになった	15	21	5	1	0
8) 自分と異なる意見を受け入れられるようになった	15	22	4	1	0
9) 様々な意見を調整できるようになった	5	22	10	5	0
10) 活動の為に人々を動かせる(ファシリテート)ようになった	6	21	12	2	1
11) 活動の為にネットワークを作ることができるようになった	12	18	10	1	1
12) 知らない人に話しかけるのに、抵抗が少なくなった	18	18	6	0	0
13) 新しい環境に飛び込むことに抵抗がなくなった	24	14	4	0	0
14) 新しい環境に馴染みやすくなった	17	18	7	0	0
15) 組織を支援できるようになった	3	18	14	5	1
16) 組織を運営できるようになった	3	15	13	7	4
17) 人々の先頭に立って行動できるようになった	3	20	14	4	0
18) 無いものではなくあるもの(短所でなく長所)を見つけられるようになった	11	22	6	1	0
19) 行政の立場から考えるようになった	5	16	11	9	1
20) 活動のために既存の制度を見つけて活用しようと考えようになった	7	22	10	3	0
21) 活動のために複数の関係機関の情報等を集められるようになった	11	20	9	2	0
22) 自分以外の人や組織を動かすコツがわかった	3	14	17	6	2
23) 自分が前に出ず黒子に徹することができるようになった	9	21	9	3	0
24) 個人として精神的に自立度が高まった	15	20	6	0	1
25) 活動のための予算計画が立てられるようになった	7	15	14	4	2
26) 活動予算管理ができるようになった	8	12	17	1	4
27) お金がなくてもできることを見つけられるようになった	15	21	6	0	0
28) 外部から活動資金を探せるようになった	5	13	10	8	6
29) プレゼンテーション力が向上した	5	21	12	4	0
30) 情報発信ができるようになった	6	24	8	3	1
31) 日本について知りたいと考えるようになった	27	9	5	1	0
32) 忍耐力が増した	22	17	3	0	0
<input type="checkbox"/> その他(具体的に) ・ 厳しいことを言われてもくじけなくなった。 ・ コミュニティ自身が主体的、自立的に活動できる人材と環境の整備が重要であることを知った。 ・ チームで活動していたため、チーム内での自分の役割が明確になった。 ・ インドネシアの人々の懐の深さを実感した。 ・ 活動地域(アフリカ)が身近な存在になった。					

## 5. 帰国後に日本の地域に関わる活動を行うことを考えましたか。

<input type="checkbox"/> 派遣前から考えていた	20	<input type="checkbox"/> 派遣中に考えるようになった	13
<input type="checkbox"/> 派遣後に考えるようになった	6	<input type="checkbox"/> 考えたことはない	2

## 6. 帰国後、国内で地域に関わる活動（職業としてではなく）を行っていますか。あるいは行っていましたが（国際交流や国際協力と関係のない分野でも可）（複数回答可）

<input type="checkbox"/> 地域の国際交流などの活動	16	<input type="checkbox"/> 学校などでの出前講座での講演協力	23
<input type="checkbox"/> 地域でのボランティア活動	16	<input type="checkbox"/> その他の地域活動(サッカーチーム等含む)	7
<input type="checkbox"/> 地域での活動はしていない	8		

## 7. 過去に国内の地域活動を行っていたものの、現在はされていない方、また国内の地域活動に関わることを考えたことはあるがこれまで活動されていない方は、その理由を教えてください。

- ・ 以前と違って、わだかまりがあると感じているため
- ・ 就職前は数回地元で体験談の公演を行ったが就職後は忙しさと地元からの距離でできていない
- ・ 現在、仕事が忙しく、時間がとれない
- ・ 帰国後すぐにタイで仕事をするようになったため
- ・ 業務の一環として地域に関わっているから
- ・ 大学院在学中は国内地域活動を行っていたものの、国内の地域との接点を持たなくなって以降、積極的に地域と交流する機会がなくなったため。
- ・ JOCV としての派遣を機にその活動から離れたから

## 8. 帰国後、国内で地域に関わる活動（職業として）に従事されていますか。

<input type="checkbox"/> 従事している	16	<input type="checkbox"/> 従事していない	24
---------------------------------	----	----------------------------------	----

→従事していらっしゃる方は質問 9 へ

→従事していらっしゃらない方は質問 13 へ

## 9. どのような活動に従事されていますか。

- ・ 国際協力推進員（2）
- ・ JICA 東北の事業で、宮城県東松島市で震災復興における推進員役として活動している。
- ・ 農協
- ・ ホテル勤務
- ・ 小学校勤務
- ・ 学校教員
- ・ 東北震災支援
- ・ 市役所勤務
- ・ 県職員
- ・ 地方公務員の土木技術者
- ・ JOCA で少し働いた
- ・ 過疎化が進む村で、地域おこし協力隊として村の課題に向き合っている
- ・ 過疎地の課題解決につながる活動（イベント企画、広報誌発行、空き家対策等）
- ・ 地域での伝統文化保存事業への参加
- ・ まちづくり事業として商業施設を開発・運営しその中で地域イベントや地域交流なども行っている
- ・ 河川清掃、郷土芸能、お祭り、ほたるの観察会、裸参り、町民スポーツ大会など、何でも

10. JOCV の経験は国内の地域に関わる活動に携わるきっかけとなりましたか。

<input type="checkbox"/> 5. かなりそう思う	11	<input type="checkbox"/> 4. ある程度そう思う	7
<input type="checkbox"/> 3. どちらでもない	1	<input type="checkbox"/> 2. あまり思わない	0
<input type="checkbox"/> 1. 思わない	0		

その理由を教えてください。

- ・海外での活動を通して、さらに日本のことを知ろうと思うから
- ・日本の問題も見つけることができたから
- ・日本のことをもっと知ろうと思うから
- ・なかなか海外に行くことが困難であっても、日本でもできることは多くあると考えるようになったため
- ・JOCV として活動するまでは、自分が住んでいる地域以外のことは考えたことがなかったが、考えるようになり、実際に村に身を置き、協力隊として活動することになったから
- ・地域の問題を地域の住民で見つけ、主体的に解決する過程の重要性を知ったから
- ・現地での経験を教員になって還元したいという思いが強かったから
- ・協力隊参加以前より、地域の活動に関わっていたため、あまり意識に変化は起こらなかった
- ・入社の際に JOCV での経験を高く評価してくれたと感じたため
- ・途上国の人よりも日本人をなんとかしなきゃと強く思い、そして素晴らしい2年間を過ごさせてもらった今、これまでの経験を社会還元したいと思ったから

11. JOCV の経験が国内の活動で活かされている点がありますか。または、活かされる可能性があると思いますか。

<input type="checkbox"/> 5. かなりそう思う	13	<input type="checkbox"/> 4. ある程度そう思う	6
<input type="checkbox"/> 3. どちらでもない	1	<input type="checkbox"/> 2. あまり思わない	0
<input type="checkbox"/> 1. 思わない	0		

その理由を教えてください。

【経験】

- ・自分から動かないと、活動ができないことを知るから。
- ・人の話を最後まで聞くことができるようになった。
- ・国、言葉、文化などは違えど同じ人間、2年間の活動で多くの人と関わり、ニーズ調査、PDCA の繰り返しはどこに行っても活用できる経験値だと思います。
- ・計画的に筋道を立てて実践に結びつけようと努力しようと心得ている。
- ・言われたことをこなすだけでなく、自ら問題点を探し改善するという考え方が身についた。
- ・新しい地域、文化、人と向き合い生じる課題は、JOCV の経験を基に解決できることがある。
- ・地域や内容が違うというだけで、すべきことの中身は同じだと思うから。
- ・JOCV の経験から日本の課題に興味を持つ可能性は大きいと考えるから。
- ・国際理解教育などの実践で活かされている。
- ・異文化への適応、人間関係構築、調査・活動の企画・遂行等のプロセスや考え方は、日本の地域で活動する上でそのまま当てはまると思います。
- ・地域に入り込んで住民と共に課題や潜在資源を発掘し、解決策や企画案を作り上げていくことは、国内での地域の活動だけでなくビジネスの根本でもあるため、非常に有意な経験だと感じる。

【還元】

- ・海外の経験を日本の人々に還元することは大事な役目。
- ・推進員として、「国際協力」を地域おこしにも役立てられないか考えている。

## 12. 開発途上国と日本の地域での活動では、どんな共通点や類似点がありますか。

- ・日本であろうと、海外であろうと、その地域独自の習慣、時間に対する感覚を持っていること。
- ・とにかく話を聞くこと。
- ・いずれも政府、政策に頼り、「自分が何かをしよう！」という人は少ない。特に田舎では。
- ・計画的に実施すること。子供の笑顔が素敵である。
- ・問題点を地域の人と考え、答えを出していくことは同じことだと考えている。
- ・「郷に入っては郷に従え」これはどこにいても大事なことであると思う。
- ・あるものをどう活かすかという視点の大切さ。
- ・その地域の人が考えている以上に、持っているもの残っているもの、資源や財産があること。
- ・共通点としては、支援という一方通行の考え方ではなく、協力という相互的な考え方で活動する必要性があること。また自立的で自発的、多くの住民を巻き込んだ形にしないと継続は難しいと思われること。
- ・その地域の文化や特徴に即した活動内容や実行過程が求められること。
- ・問題点を探りだし、限られた資源の中で解決の方法を見つける。
- ・資金が得られなくとも、基本的に人々の理解を得れば、活動は改良を加えながら続けられる。
- ・類似活動として、根本的な生活環境が違えど、対人関係を気づく事で問題解決の糸口が見つかる点。
- ・ことばや文化の違いはあるが、住民に対する基本的なアプローチ方法は同じだと感じる。
- ・どんな活動の土台にも、良好な人間関係を築くという点では共通している。
- ・やってくれる人がいると思われたら、主体的にはやろうとしないところ。あくまでも当人に主導権を握ってもらうことが大事。

## 13. 開発途上国での活動についてお伺いします。

1) 活動はどのようなものでしたか。あてはまるもの全てにチェックしてください。

<input type="checkbox"/> 生活改善	24	<input type="checkbox"/> 農業	14	<input type="checkbox"/> 生計向上	17	<input type="checkbox"/> 防災教育	1
<input type="checkbox"/> 文化財	0	<input type="checkbox"/> 観光	5	<input type="checkbox"/> 一村一品	6	<input type="checkbox"/> 女性支援	14
<input type="checkbox"/> 零細企業支援	1	<input type="checkbox"/> 障害者支援	0	<input type="checkbox"/> 環境改善	6	<input type="checkbox"/> 保健衛生啓発	13
<input type="checkbox"/> 栄養改善	4	<input type="checkbox"/> コミュニティ 基盤整備	6	<input type="checkbox"/> 地域組織強化	7	<input type="checkbox"/> 学校環境改善	8
<input type="checkbox"/> 商品開拓	9	<input type="checkbox"/> 販路開拓	5	<input type="checkbox"/> 情報教育	1	<input type="checkbox"/> 社会的弱者自立支援	4
<input type="checkbox"/> スポーツ文化活動指導	7	<input type="checkbox"/> 衛生教育	5	<input type="checkbox"/> 学校運営支援	2	<input type="checkbox"/> 日本語教室	7
<input type="checkbox"/> 日本文化紹介・交流	15	<input type="checkbox"/> 課外活動	3	<input type="checkbox"/> 学習環境整備	2	<input type="checkbox"/> 学校給食	0
<input type="checkbox"/> 性教育	3	<input type="checkbox"/> 教師研修	3	<input type="checkbox"/> 環境教育	9	<input type="checkbox"/> リサイクルシステム構築	1
<input type="checkbox"/> 植林活動	2	<input type="checkbox"/> その他	1				

2) 主に何を行いましたか。

例) ミーティング、個別訪問、デモンストレーションとして何かをやってみる等

**【村落普及員】**

- ・オフィスで同僚と毎日の清掃について話すのが活動でした。
- ・養蜂指導、研修
- ・配属先の業務補佐、助成金プロポーザル作成等
- ・お土産作り、イベント企画
- ・地域識字教育センターの巡回、教材開発、地域開発の授業、教員への PC 指導
- ・1カ国目：野菜栽培、植樹、蚊駆除薬作成、2カ国目：日本語教室、裁縫教室
- ・販路開拓の方法を伝える。
- ・小学校に入り、保健授業の強化を先生たちに促し、実際に授業を行うこともあった。村では生活改善の案（改良水瓶の普及、栄養価の高い野菜の普及）などを行った。
- ・プロモーション活動、学校巡回、ジャパンフェスティバルなど
- ・農業支援、女性グループ商品開発、教育啓発
- ・自治会の活性化
- ・女性グループでの生活改善ファシリテーション
- ・女性グループ訪問、ミーティング、商品販売、売り込み
- ・副収入源活動の開拓
- ・かまど作り講習会、料理教室、農民組合の畑のお手伝い、観光客へのアンケート調査など
- ・ミーティング、個別訪問、デモンストレーション等
- ・住民集会の実施、啓蒙活動、技術紹介・実践のための研修実施
- ・巡回による集会、講習会、共同作業、販路開拓訪問、政府機関との調整、顧客招聘等
- ・村落会議、住民向けの講習会の開催
- ・現状調査、手洗い啓発イベント、社会見学推進、身体測定推進
- ・きのこ栽培の実践トレーニング
- ・戸別訪問、ステーキホルダー間の会議、調査・分析、プレゼンテーション
- ・かごバスケットの生産管理(・NGOの組織作り(役割分担・ルール作り)、・品質管理のための個別訪問、ワークショップ企画、・販路拡大のための顧客開拓、トレードフェアへの出展、イギリスでの出張販売)、・かご編み職人感謝祭の実施(職人認定証の贈呈・かご編みのコンペティション・商品開発ワークショップ・村の観光モニターツアー))
- ・衛生、栄養状態改善のための啓発活動、現地食材加工を通じた所得創出に係る活動等

**【青少年活動】**

- ・ミーティング、スポーツ・レク、エイズ予防啓発、ストリートチルドレン支援等
- ・学校で授業を実施
- ・ミーティング、調査、NGO 連携機関（施設）訪問&指導、イベント参加
- ・学校を巡回しての衛生啓発活動・日本文化活動、村の女性を対象にした識字教室、一村一品商品開発
- ・スポーツ教室、運動会、工作活動、キャンプ、スポーツ道具の制作
- ・学校での課外活動としてのワークショップ・セミナーなどの企画・運営、カリキュラム内での通常授業

**【環境教育】**

- ・小学校への巡回授業
- ・教育局管轄の各学校を巡回授業、環境クラブ顧問との活動計画および活動実施
- ・環境教育、ごみのポイ捨て予防啓蒙活動、チラシの作成・配布、小学校での環境教育講座、孤児院の遊具建設手伝い、無料放課後教室の教室建設手伝い等
- ・移動教室、エコツーリズム等
- ・町のロゴ・スローガンづくり、学校でのプログラム企画・運営、イベントにおける環境取り組み
- ・市役所の廃棄物行政を担当するほか、小中学校及び高校での環境教育、市民や女性団体等の NPO と一緒にごみ分別工場の立上、ごみ減量の普及活動などを実施
- ・分別回収システム作り、地域の関係者同士のネットワーク化、3R 広報、コンポスト等
- ・女性グループへの講義。高床式コンポスト普及。学校での環境授業
- ・啓発活動、情報発信

## 3) 以下について、5段階でご回答ください

	5.かなり 思う	4.ある 程度そ う思う	3.どち らでも ない	2.あま り思わ ない	1.思わ ない
1) 計画した活動はうまく実施できましたか。	2	25	5	8	2
2) 活動したコミュニティでは、活動により住民のきずな・信頼関係が強化されたと思いますか	5	13	13	7	4
3) 別のコミュニティや行政とのネットワークが強化されたと思いますか	3	13	11	10	4
4) 住民同士の合意形成が進んだと思いますか	2	16	13	7	4
5) 住民同士が協力するような動きが強化されたと思いますか	4	15	14	5	4
6) 住民の自主的な動きが強化されましたか	7	15	9	7	4
7) 住民が自身でニーズや問題点を認識するような状況が強化されましたか	3	13	17	5	4
8) ミーティング等で発言する人が増えましたか	4	9	15	6	6

14. 派遣時あるいは帰国時に、地元自治体、あるいは支援を受けたロータリークラブなどに報告をしましたか。派遣前・中・後、地元自治体や支援団体と連絡することはありましたか。

<input type="checkbox"/> 報告・連絡をした	26	<input type="checkbox"/> 報告・連絡はしなかった	16
-----------------------------------	----	--------------------------------------	----

15. 地元自治体や支援団体から何か「こういうことを期待する」というようなコメントがありましたか。もしくは、何か期待されていると考えていましたか。

<input type="checkbox"/> コメントがあった	11	<input type="checkbox"/> コメントがあった	29
<p>期待されていた・されていると考えていたことがあればその内容を記載ください。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・活動以外にも世界を感じ、帰国後に日本に還元、共有することを期待されていたと思います。</li> <li>・日本の地域で活躍すること（広島県知事との対談の際に言われた）。</li> <li>・青年海外協力隊の経験を、日本又は地域での国際協力及び環境保全に活かしてほしい。</li> <li>・今後も継続して協力してほしい。</li> </ul>			



16. 派遣中の現地活動のヒントになったものの中に、日本の生活改善・地域活性化・地域おこしなどの例がありましたか。それは役に立ちましたか。(例：生活改善普及員、一村一品、母子手帳、他)

<input type="checkbox"/> 5. かなりなった	8	<input type="checkbox"/> 4. ある程度なった	16
<input type="checkbox"/> 3. どちらともいえない	10	<input type="checkbox"/> 2. あまりならなかった	5
<input type="checkbox"/> 1. ならなかった	1	<input type="checkbox"/> 0. ヒントになった日本の例はなかった	1

ヒントとなった方に伺います。日本のどのような知識が役に立ちましたか

- ・一村一品 (4)。無印のフェアトレードで任地のものを売ったが、日本の規格があまりにもケニア人には厳しすぎて最後の方はなあなあだった。でも、ケニア人にはいい勉強になったと思う。
- ・生活改善普及員の活動 (3)
- ・生活改善普及員の巡回指導についてや、日本の一村一品運動の成功事例が役に立った。
- ・公民館や寺子屋といったコミュニティが主体となって教育を整えた歴史、生活改良普及員や一村一品を紹介するDVD。
- ・日本の生活改善普及員の活動内容など。専門家のかまどの作り方資料など。
- ・JICA の環境教育教材。事前研修の際に頂いた日本の取り組みデータ (英語版)。現地の同僚に対し勉強会を開催でき、過去の日本の校外問題、ゴミ問題、衛生問題について映像を活用し伝えることができた。
- ・任地にあるものを利用して何かを作る際、ジャム作り・石鹸作り、ねずみ殺しの作り方などが参考になった。
- ・教材づくり等に日本の遊びや文化を取り入れた。
- ・クロスロード 2012 年増刊号が参考になりました。
- ・日本の 3R の取り組み (特に地域特有のもの：北九州市、宇部市等)、日本の伝統 (風呂敷等)。
- ・日本の「いろどり」という徳島の地域活性化の例が現地の人にやる気を起こさせた。
- ・学校教育で取り入れられている身体測定、社会見学。
- ・地域おこしの例として、地元の町歩きイベントの立ち上げに携わっていたが、そのことが村の観光化の活動につながった。
- ・生活改善の啓発を行う上で、視聴覚に訴える教材を作成する等、どうしたら現地人の興味を引くことができるかを参考にすることができた。

17. JOCV 派遣前の研修で学び、役立った日本の生活改善・地域活性化・地域おこしなどの知識があれば教えてください。

**【技術・知識】**

- ・ファシリテーション技術
- ・PCM 手法
- ・技術補完研修での内容全般 (自然塾寺小屋)
- ・村落開発普及員の実地訓練型の派遣前研修で学んだ地域へのアプローチ方法の知識
- ・WID という組織がまとめた生活改善ガイドブック
- ・村落普及員を対象にした研修で、昔の生活改善普及員の紹介があったことが参考になった。
- ・他の隊員の活動報告書、前任者の活動報告書は大変参考になった。
- ・寄生虫などの衛生に関する授業と、環境を語る時に、人口抑制まで語らないと、本当は解決には向かっていないという話と、その解決法としての女性の高学歴化の話。
- ・日本の戦後復興の中で実践されていた生活改善の事例等は参考になった。

**【姿勢】**

- ・とにかく話を聞くこと。
- ・信頼関係なくして活動はうまくいかない。
- ・特に覚えていないが、日本の生活改善の話聞いて、背伸びすることなく、本当に小さなカイゼンの積み重ねが大事であると感じ気持ちが楽になりました。

18. 現地でのボランティア活動時に「こういうことを派遣前に知っておきたかった」という内容があれば教えてください。

**【現地関連】**

- ・ 現地語
- ・ 自身の配属先のことについて詳細を知りたかった。もし知っていれば、よりよい準備ができたと思う。
- ・ 前任者や、赴任先の地域での OBOG の活動報告書は各在外事務所へ保存されており、それは現状把握や、今までの歴史を知るうえで大変参考になるということ。
- ・ 想像+予定されていた活動とあまりに違い、戸惑いがあった。何ができるのか、あまりにもわからない状況+JOCV の受け入れ態勢なしだった。
- ・ 自分が配属される組織に関わる省庁やその出先機関、国連や NGO 等について知っておけば、日本にいる間に、それに対して日本人としてどう貢献しうるのか考えるための情報収集やネットワークづくりを行うことができたかと思う。
- ・ 誰がどのような経緯でその要請を挙げているのか、というのを知っておけば、最初からもっとフレックスに動けたような気がします。
- ・ 具体的な業務内容。CP より何が求められているのかにつき、詳しく知っていれば国内で教材などをピンポイントで準備し、赴任することができた。(結局現地で購入、ネットで購入した。)
- ・ 現地語。一村一品の参考例など。
- ・ あっても忘れるし、任国によって状況は異なる。2 年間の中で自分で調べればよいと思う。

**【技術・知識】**

- ・ コンポストの手法 (現在は既に事前研修に取り込まれていますが)。(2)
- ・ 予算計画
- ・ 活動計画書の立て方、活用法について
- ・ ファシリテーション、コーチング、会議の纏め方
- ・ 家計簿をつけること (それにより、何に支出が多くかかっているか把握でき、商品開発につながった)
- ・ 予算獲得方法、またそれらに付随する言語 (専門用語) など。同僚は約束だけで予算の確保が自分でできず、お金をかけずにできる活動しかできなかった。バイクのガソリン代は職場から出してくれるはずが全部自腹だった。
- ・ 各分野の専門知識が深ければ、もっと質の高い活動ができたのではないかと思う。
- ・ 当時イラストレーターが使えていたら各種の告知物や販促チラシ等の作成がもっと効果的に行えたと思う。

19. JOCV の経験を活かして日本で地域活性化に取り組める場があれば、今後そのような場で活動したいと思いませんか。

<input type="checkbox"/> 活動したいと思う	39	<input type="checkbox"/> 活動したいと思わない	1
-----------------------------------	----	-------------------------------------	---

20. お知り合いの JOCV 経験者で、中国・四国地方に限らず、国内の地域活性化に関わっている方をご存じであれば、ご紹介いただけないでしょうか。お名前とご連絡先をお願いします。

## 21. あなたについてお知らせください。

JOCV 派遣国	
<input type="checkbox"/> 東南アジア	4
<input type="checkbox"/> 南アジア	5
<input type="checkbox"/> アフリカ	24
<input type="checkbox"/> 中東	1
<input type="checkbox"/> 中南米	8
合計	42

現在の居住県	
<input type="checkbox"/> 鳥取県	0
<input type="checkbox"/> 島根県	0
<input type="checkbox"/> 岡山県	2
<input type="checkbox"/> 広島県	6
<input type="checkbox"/> 山口県	2
<input type="checkbox"/> 徳島県	0
<input type="checkbox"/> 香川県	2
<input type="checkbox"/> 愛媛県	0
<input type="checkbox"/> 高知県	1
<input type="checkbox"/> 福岡県	2
<input type="checkbox"/> 佐賀県	1
<input type="checkbox"/> 長崎県	3
<input type="checkbox"/> 熊本県	2
<input type="checkbox"/> 大分県	0
<input type="checkbox"/> 宮崎県	0
<input type="checkbox"/> 鹿児島県	0
<input type="checkbox"/> その他	19
無回答	2
合計	42

出身県	
<input type="checkbox"/> 鳥取県	0
<input type="checkbox"/> 島根県	2
<input type="checkbox"/> 岡山県	7
<input type="checkbox"/> 広島県	11
<input type="checkbox"/> 山口県	6
<input type="checkbox"/> 徳島県	1
<input type="checkbox"/> 香川県	1
<input type="checkbox"/> 愛媛県	1
<input type="checkbox"/> 高知県	3
<input type="checkbox"/> 福岡県	4
<input type="checkbox"/> 佐賀県	0
<input type="checkbox"/> 長崎県	3
<input type="checkbox"/> 熊本県	2
<input type="checkbox"/> 大分県	0
<input type="checkbox"/> 宮崎県	1
<input type="checkbox"/> 鹿児島県	0
<input type="checkbox"/> その他	0
合計	42

性別	
<input type="checkbox"/> 男性	18
<input type="checkbox"/> 女性	24
合計	42

年齢	
<input type="checkbox"/> 25～29 歳	11
<input type="checkbox"/> 30～34 歳	21
<input type="checkbox"/> 35～39 歳	2
<input type="checkbox"/> 40～44 歳	2
無回答	6
合計	42

派遣時身分	
<input type="checkbox"/> 退職参加	31
<input type="checkbox"/> 現職参加	4
無回答	7
合計	42